茨城県教育財団文化財調査報告第389集

島名熊の山遺跡

島名･福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XX

平 成 26 年 3 月

茨　　城　　県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第389集

島名熊の山遺跡

島名･福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XX

平成26年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では，つくば市を，世界的な科学技術研究の中核都市と位置づけ，さらには，国際交流の拠点にふさわしい都市として整備を進めています。

その一環である「つくばエクスプレス」の整備も平成17年に完了し，沿線開発としての土地区画整理事業が継続して進められています。

しかしながら，この事業地内には，埋蔵文化財包蔵地である島名熊の山遺跡が所在することから，これを記録保存の方法により保護する必要があるため，当財団が茨城県から委託を受け，平成7年4月から平成25年5月までの18年間にわたって開発区域内における埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

その成果については，既に『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』『同第133集』『同第149集』『同第166集』『同第174集』『同第190集』『同第214集』『同第236集』『同第264集』『同第280集』『同第291集』『同第322集』『同第328集』『同第360集』『同第380集』として順次刊行したところです。

本書は，島名熊の山遺跡の平成17・25年度の調査の成果を収録したものです。本書が，学術的な資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして，教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者であります茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対して，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長　鈴木欣一

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）が平成17・25年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市島名に所在する島名熊の山遺跡の一部である15区の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成17年９月１日～12月31日
　　平成25年４月１日～５月31日
整理　平成25年４月１日～11月30日

3　発掘調査は，平成17年度が調査課長川井正一，平成25年度が調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

平成17年度

首席調査員兼班長	吉原　作平	平成17年９月１日～12月31日
首席調査員	横倉　要次	平成17年９月１日～12月31日
主任調査員	後藤　孝行	平成17年９月１日～11月30日
主任調査員	市村　俊英	平成17年10月１日～12月31日
主任調査員	齋藤　貴史	平成17年９月１日～９月30日
副主任調査員	駒澤　悦郎	平成17年９月１日～９月30日
調査員	清水　哲	平成17年９月１日～12月31日
調査員	早川　麗司	平成17年10月１日～10月31日
調査員	小林健太郎	平成17年９月１日～９月30日

平成25年度

首席調査員兼班長	酒井　雄一	平成25年４月１日～５月31日
首席調査員	奥沢　哲也	平成25年４月１日～５月31日
調査員	盛野　浩一	平成25年４月１日～５月31日

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長原信田正夫のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	小林　和彦	平成25年４月１日～10月31日
調査員	近江屋成陽	平成25年４月１日～５月31日

5　本書の執筆分担は，下記のとおりである。

小林　和彦　　第１章～第３章第３節１，第３章第３節３～第３章第４節
近江屋成陽　　第３章第３節１（第2321・2849・2850・2859号竪穴建物跡），第３章第３節２

6　本書で掲載した，第3173～3176号竪穴建物跡，第596号掘立柱建物跡，第7340・7378～7396・7398～7409号土坑，第31号道路跡，第73号ピット群については平成25年度，第220・323・324号溝跡は平成17及び25年度，それ以外の遺構は，すべて平成17年度に調査を実施した。

7　本書の作成に当たり，鉄製品の保存処理については，パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X = + 7,320 m，Y = + 20,200 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2　抄録の北緯及び東経の欄には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付けて併記した。

3　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　P －ピット　PG －ピット群　SB －掘立柱建物跡　SD －溝跡　SE －井戸跡　SF －道路跡
SH －方形竪穴遺構　SI －竪穴建物跡　SK －土坑　UP －地下式坑

遺物　　DP －土製品　M －金属製品　Q －石器・石製品　TP －拓本記録土器

土層　　K －撹乱

※　従来，竪穴住居跡としていた遺構について，平成25年度から竪穴建物跡に名称を変更した。よって，略号SIは竪穴建物跡とする。

4　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩・施釉　　炉・火床面・炭化物・道路跡硬化面

竈部材・粘土範囲・黒色処理　　煤・柱あたり・柱痕跡

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　－－－－硬化面

5　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

6　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

7　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N － 10°－ E）。

8　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下の通りである。

変更　SK5301 →第7号竪穴遺構，SK5303 → SH89，SK5304 →第8号竪穴遺構
SK5320 → SE223，SK5322 → UP81，SK5323 →第9号竪穴遺構

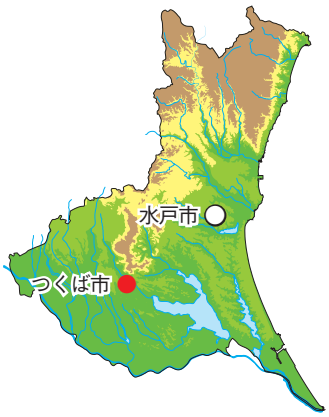
欠番　SK7397

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
概　要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　位置と地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の成果 …… 10
　第１節　調査の概要 …… 10
　第２節　基本層序 …… 10
　第３節　遺構と遺物 …… 12
　　１　古墳時代の遺構と遺物 …… 12
　　(1) 竪穴建物跡 …… 12
　　(2) 掘立柱建物跡 …… 137
　　(3) 竪穴遺構 …… 139
　　２　室町時代の遺構と遺物 …… 143
　　(1) 方形竪穴遺構 …… 143
　　(2) 地下式坑 …… 144
　　(3) 土坑 …… 145
　　(4) 道路跡 …… 149
　　(5) 溝跡 …… 152
　　３　その他の遺構と遺物 …… 158
　　(1) 掘立柱建物跡 …… 158
　　(2) 井戸跡 …… 159
　　(3) 土坑 …… 159
　　(4) ピット群 …… 165
　　(5) 遺構外出土遺物 …… 166
　第４節　まとめ …… 168
写真図版 …… PL 1 ～ PL38
抄　録
付　図

島名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的



島名熊の山遺跡は，つくば市の南西部，谷田川右岸の標高約 13 ～ 24m の台地上から低地にかけて立地しています。当遺跡の調査は土地区画整理事業に伴うもので，茨城県教育財団が平成７年度から本年度まで 18年間にわたり断続的に調査を行っています。今回の調査区域は，平成17・25年度に調査を行った面積4,931㎡で，当遺跡の西部，標高21mほどの台地上にあたります。

調査の内容

今回の調査によって，古墳時代後期（６・７世紀）の竪穴建物跡 38 棟，掘立柱建物跡１棟，竪穴遺構３基などを確認しました。また，室町時代（15・16世紀）の道路跡なども見つかり，長い間人々の営みが継続していたことがわかりました。ここでは古墳時代の様子を中心に紹介します。

古墳時代の竪穴建物跡から出土した土師器

一辺が８ｍを超える大形の竪穴建物跡

出土した玉類（勾玉・管玉・土玉など）

生産に関係する石製の紡錘車や砥石

運ばれてきた他地域産の須恵器

調査の結果

当遺跡は，古墳時代後期になると人々が多く移り住んできて，台地の上に大きな集落が営まれていたことがわかりました。中には大形の竪穴建物跡も数棟見つかり，そこには有力な人々が住んでいたと考えられます。集落の人々は，有力者を中心にいくつかのグループに分かれて農業を行ったり，糸を紡いで布を織ったりと，生産活動を行いながら暮らしていました。また，竪穴建物跡などから他地域産の須恵器が出土しました。東海地方で焼かれた古墳時代の須恵器が，この地に運ばれてきていたと考えられます。多くの荷物を運ぶのには舟が適しています。当時，他地域の人々は海から利根川，牛久沼，谷田川を経て，この島名の地まで来ていたと思われます。

室町時代にも継続して人々の営みが確認でき，近くに妙徳寺が建てられていることから，お寺に関係する施設やお墓などがつくられていきました。

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

平成６年８月 18 日，茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに，島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内（つくば市島名）における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成６年９月 19 ～ 27 日に現地踏査を，平成６年９月 22 日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成７年３月８日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県知事あてに，事業地内に島名熊の山遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

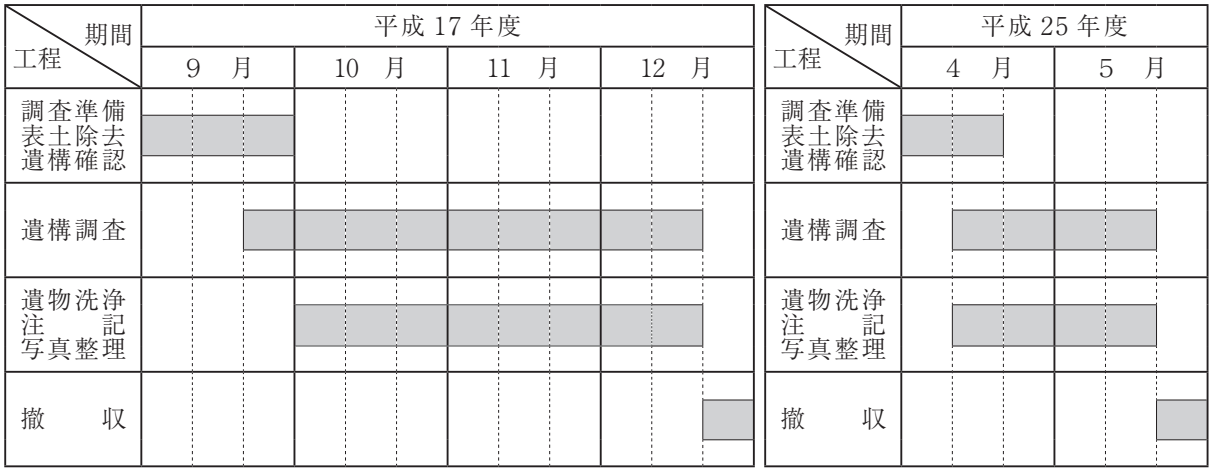
平成７年３月 14 日，茨城県知事は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第 57 条の３第１項（現第 94 条）の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成７年３月 16 日，茨城県知事あてに，工事着工前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成 17 年３月９日，平成 25 年２月 20 日，茨城県知事は，茨城県教育委員会教育長に対して，島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成 17 年３月 15 日，平成 25 年２月 20 日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県知事あてに，島名熊の山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団（現公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け，平成 17 年９月１日から 12 月 31 日までと平成 25 年４月１日から５月 31 日まで，発掘調査を実施した。

第２節　調　査　経　過

島名熊の山遺跡 15 区の調査は，平成 17 年９月１日から 12 月 31 日までと平成 25 年４月１日から５月 31 日までの６か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

今回報告分の島名熊の山遺跡15区は，茨城県つくば市島名字本田1162の1番地ほかに所在している。

つくば市は，筑波山を北端として，その南東側に広がる標高20～25ｍの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，東を霞ヶ浦に流入する桜川，西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には，東から花室川，蓮沼川，小野川，谷田川，西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており，これらの河川によって台地は浅く開析され，谷津や低地が細長く入り込んでいる。台地の地質は，貝化石を産する海成砂層である成田層を基盤として，その上に竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層，常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層，さらに褐色の関東ローム層が連続して堆積し，最上部は腐植土層[1]となっている。

つくば市南西部の島名地区は，谷田川と西谷田川によって開析された，南北方向に挟長な台地の中央部に位置している。標高は13～24ｍで，当遺跡は台地東部の谷田川に面した縁辺部に立地しており，遺跡の範囲は，南北880ｍ，東西560ｍである。標高は，遺跡北東部（11区）と遺跡南西部（16区）が24ｍで最も高く，遺跡南東部（12区）が13ｍで低地部となる。第２図から，当遺跡の地形は，周囲を囲むように谷津が入り込み，その名のように楕円形の島状を呈している。これまでの調査から，台地上に亀裂のように北・東・南から埋没谷が入り込んでいる様子が明らかになっており，起伏に富んだ地形であったことが伺える。

今回報告する15区は，遺跡西部に所在する妙徳寺の北側に位置し，標高21～22ｍのほぼ平坦な台地上に立地している。調査前の現況は畑地である。

第2節　歴　史　的　環　境

島名熊の山遺跡周辺の小貝川や谷田川，西谷田川，蓮沼川流域の台地上には，旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。特に，当遺跡が所在する島名地区は調査事例が多く，各時代の様相をつかみやすい地域でもある。ここでは，谷田川と西谷田川流域に分布する当遺跡周辺の遺跡について述べる。

旧石器時代では，元宮本前山遺跡[2]〈77〉から石器集中地点１か所，下河原崎谷中台遺跡[3]〈75〉から石器集中地点２か所が確認されており，ナイフ形石器，角錐状石器をはじめ石核や剥片なども出土している。また平北田遺跡[4]〈37〉からは石器集中地点１か所が確認され，尖頭器，ナイフ形石器，石核，剥片などが出土している。このほかに当遺跡や島名前野東遺跡[5]〈７〉からナイフ形石器や剥片，面野井北ノ前遺跡〈25〉から荒屋型彫器などが採集されており，当地域における石器製作や狩猟生活を裏付ける貴重な資料となっている。

縄文時代では，西谷田川左岸の下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴，後・晩期集落跡や陥し穴，谷田川右岸の島名境松遺跡[6]〈10〉で中期から後期にかけての集落跡や土器焼成遺構と考えられる土坑が確認されている。また，元宮本前山遺跡では早期後葉の炉穴３基が確認されている。当遺跡では，陥し穴数基や表土中から土器片や石鏃が複数確認されており，当該期における人々の生活の様子を伺うことができる。

弥生時代の遺跡は，後期の遺物が出土した当遺跡や島名一町田遺跡[7]〈９〉などが確認されているだけである。また，当遺跡から出土した土器片には籾痕が認められ，稲作を行っていたことがわかる。

古墳時代になると，前期では，当遺跡のほか島名前野遺跡[8]〈６〉，島名前野東遺跡，島名境松遺跡，島名ツバタ遺跡[9]〈16〉などで集落跡が確認され，谷田川･西谷田川両河川の流域では，遺跡数の増加が顕著となる。島名前野東遺跡では，集落に付随した形で方形周溝墓３基が調査されている。確認されたこれらの集落はいずれも小規模で，谷田川に沿って点在しており，水利を得て稲作に従事していたものと考えられる。また，面野井古墳群[10]〈28〉では平成24年度の調査で，方形周溝墓４基・円墳１基が調査されている。方形周溝墓である第11号墳には主体部が確認されており，貴重な調査事例となっているが，その母体となる集落は見つかっていない。

中期では，谷田川流域の島名関ノ台南Ｂ遺跡[11]〈21〉，島名八幡前遺跡[12]〈３〉のほか，西谷田川流域にも下河原崎谷中台遺跡，元宮本前山遺跡，島名ツバタ遺跡，真瀬三度山遺跡[13]〈58〉，谷田部漆遺跡[14]〈56〉など集落が広がり，規模も拡大する。前期と比べ水田開発が進み，居住域が拡大した結果と考えられる。いくつかの遺跡からは滑石製臼玉や石製模造品が出土している例もあり，集落内での祭祀行為が行われていた可能性が指摘される。中でも下河原崎谷中台遺跡では高坏・壺を土坑に投棄したと思われるものや，同じく土坑から琴柱形石製品が出土しており，注目される。

後期になると，台地の内陸部にまで集落が形成されるようになり，当遺跡でも過去の調査から，６世紀後半になると急速に台地全体に広がり，一挙に規模が拡大している。中期から後期前半にかけて集落の再編が行われ，当遺跡の集落はその過程の中で６世紀後半には地域の拠点的な集落としての地位を確立したものと考えられる。当遺跡周辺では，島名八幡前遺跡，島名前野遺跡，島名前野東遺跡，平北田遺跡などの集落が継続して営まれており，当遺跡の集落は，近接するこれらの遺跡と密接な関係を持ちながら，古墳時代の終わりまで存続したと考えられる。

奈良時代になると，当地区は河内郡嶋名郷に編入される[15]。当遺跡や島名八幡前遺跡は，大形住居跡とそれに付随する掘立柱建物跡が集落の中心で，規模や形状が等質化したその他の竪穴建物跡は，いずれも主軸を真北にして並存するようになる。さらに，当集落にはＬ字状に配置された掘立柱建物群も整備され，郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。一方，７世紀に一旦集落が途絶えた島名前野遺跡や島名前野東遺跡では，８世紀中頃に再び集落が形成される。それは，約半世紀の空間閑地となっていた当地が，律令体制の進展と共に再開発の対象となったためと思われる。しかし，その一方で，これらの遺跡以外に島名地区における該期の集落は認められなくなり，当遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。この様に島名地区は急速に集落の再編が進むようになる。その背景には，律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことが伺える。

平安時代になると，集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡だけとなり，遺跡数はさらに減少する。両遺跡は，鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており，９世紀への集落の継続性を考えたとき，極めて示唆的である。また，８世紀以来の集落が，大規模な集落を残し消滅していく状況は，律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この９世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し，島名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。一方，当遺跡はそれ以降も存続し，11世紀まで継続的に集落が営まれるが，その後の集落の様相は不明瞭になっていく。そのような状況は，竪穴建物から平地建物への転換の時期と重なるためと思われるが，当遺跡の墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており，遺物の面から有力者層の存在を伺うことができる。

中世になると島名前野東遺跡には方一町の堀に囲まれた方形居館が出現しており，居館内に居住する在地有力者が当遺跡の所在する島名地区一帯を治めていったものと思われる。同じく13世紀末頃，当遺跡の南西部

第１図　島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「谷田部」）

表１　島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	42	小白硲民部山遺跡				○			
2	島名薬師遺跡				○				43	小白硲水表遺跡				○			
3	島名八幡前遺跡				○	○	○		44	小白硲海道端遺跡		○				○	○
4	島名本田遺跡				○	○	○	○	45	小白硲海道端塚群						○	○
5	島名中代遺跡				○				46	谷田部カロウド塚古墳				○			
6	島名前野遺跡		○		○	○	○	○	47	谷田部台成井遺跡		○					
7	島名前野東遺跡		○		○	○	○	○	48	谷田部下成井遺跡		○					○
8	島名前野古墳				○				49	谷田部台町古墳群				○			
9	島名一町田遺跡	○		○	○		○	○	50	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
10	島名境松遺跡		○		○				51	谷田部漆出口遺跡		○		○		○	○
11	島名タカドロ遺跡		○		○				52	谷田部福田遺跡		○		○			
12	島名榎内南遺跡	○			○	○			53	谷田部大堀遺跡						○	○
13	島名榎内古墳群				○				54	谷田部山合遺跡		○				○	○
14	島名榎内西古墳群				○				55	谷田部陣馬遺跡		○		○			
15	島名榎内遺跡				○				56	谷田部漆遺跡		○		○	○		
16	島名ツバタ遺跡		○		○		○	○	57	上萱丸古屋敷遺跡				○		○	○
17	島名関の台遺跡				○				58	真瀬三度山遺跡		○		○			○
18	島名関ノ台古墳群				○				59	二本松遺跡		○					
19	島名関ノ台塚						○	○	60	西山遺跡		○				○	○
20	島名関ノ台南A遺跡				○	○			61	苗代山遺跡		○					
21	島名関ノ台南B遺跡	○	○		○	○		○	62	真瀬戸崎遺跡				○		○	○
22	高田和田台遺跡				○				63	真瀬西原遺跡						○	○
23	高田遺跡					○		○	64	真瀬中畑遺跡		○		○			○
24	高田原山遺跡				○	○			65	真瀬新田谷津遺跡		○					
25	面野井北ノ前遺跡				○	○	○	○	66	真瀬新田古墳群				○			
26	面野井西ノ台塚						○	○	67	真瀬堀附南遺跡		○		○			
27	面野井城跡						○		68	真瀬堀附北遺跡				○			
28	面野井古墳群				○				69	真瀬山田遺跡		○		○	○		
29	面野井南遺跡				○	○	○	○	70	真瀬山田北遺跡		○		○			
30	水堀下道遺跡				○	○			71	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
31	水堀遺跡				○				72	下河原崎高山窯跡				○			
32	水堀屋敷添遺跡		○		○				73	下河原崎高山遺跡			○				
33	水堀道後前遺跡					○			74	下河原崎高山古墳群				○			
34	大和田氏屋敷跡						○	○	75	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		
35	柳橋仲畑遺跡				○		○	○	76	下河原崎古墳群			○				
36	柳橋遺跡				○			○	77	元宮本前山遺跡	○	○		○			
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○	78	元中北東藤四郎遺跡				○			
38	平後遺跡				○		○	○	79	元中北鹿島明神古墳				○			
39	大白硲西ノ裏遺跡				○				70	上河原崎本田遺跡				○	○		○
40	大白硲桜下遺跡				○				81	上河原崎小山台古墳				○			
41	大白硲民部山遺跡				○				82	上河原崎八幡脇遺跡				○			

に妙徳寺が開山され，寺域周辺は墓域として利用されていく。また，遺跡中央部では鋳造土坑が確認でき，燈籠の蓮華座や梵鐘の乳，鰐口などの鋳型片が出土している。南西部では15世紀後半から17世紀前半にかけての大規模な堀跡や墓域が確認され，妙徳寺との関連をうかがうことができる。

※　本章は，既刊の「島名熊の山遺跡」を参照し，加筆した。文中の〈　〉内の番号は，第１図及び表１の当該番号と同じである。

註

１）日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質３　関東地方』共立出版　1986年10月

２）高野裕璽「元宮本前山遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集　2006年３月

３）高野裕璽「下河原崎谷中台遺跡・島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３」『茨城県教育財団文化財調査報告』282集　2007年３月

４）舟橋理「平北田遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第336集　2011年３月

５）寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集　2002年３月

６）註５）に同じ

７）鹿島直樹「島名一町田遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第230集　2004年３月

８）稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ　島名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集　2001年３月

９）註３）に同じ

10）公益財団法人茨城県教育財団「面野井古墳群　現地説明会資料」 2012年９月
公益財団法人茨城県教育財団「埋蔵文化財　年報32」 2013年６月

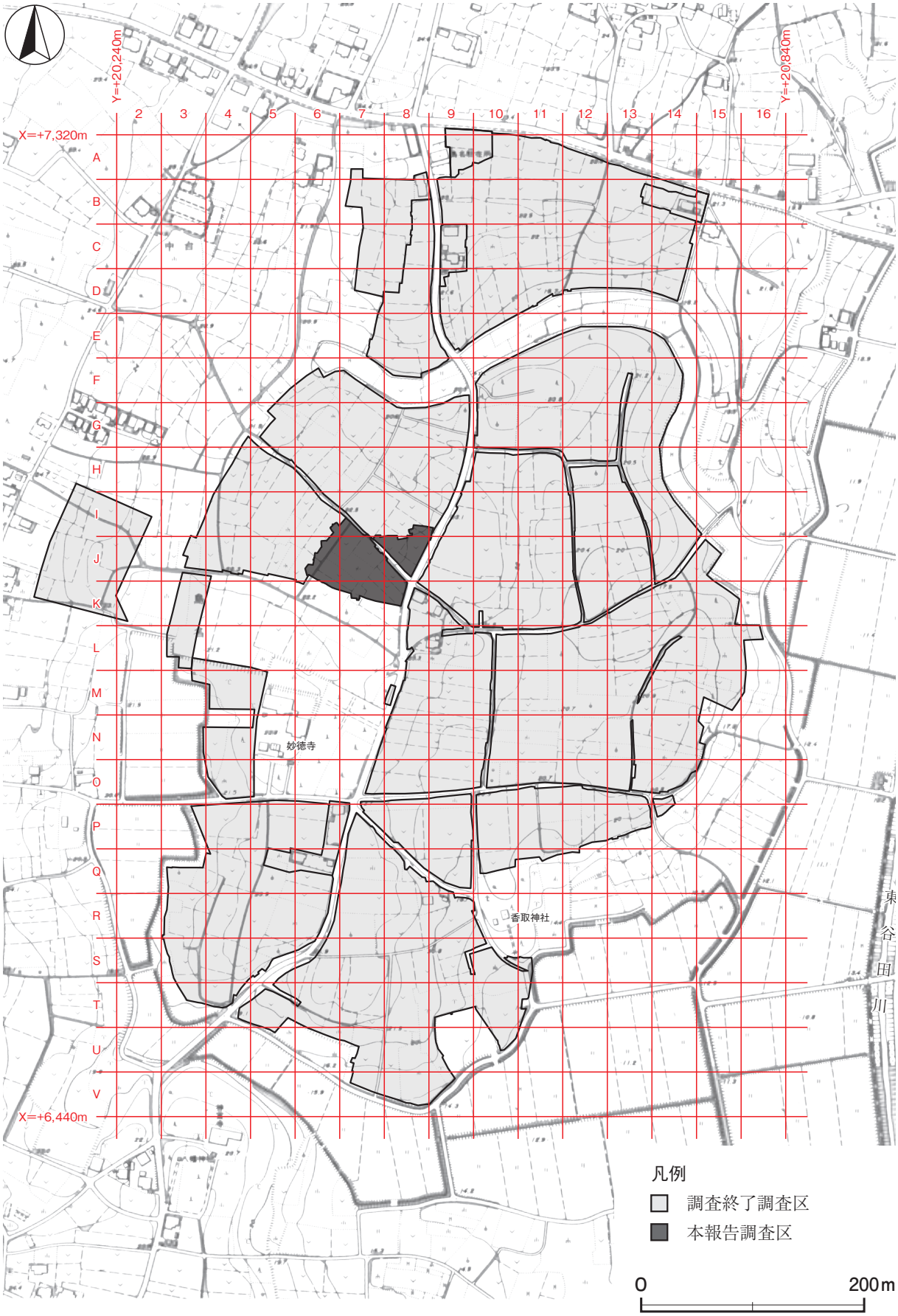
11）鹿島直樹「島名関ノ台南Ｂ遺跡・面野井北ノ前遺跡　常磐新線工事地内埋蔵文化財調査報告書２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第231集　2004年３月

12）吹野富美夫・青木仁昌「島名八幡前遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集　2002年３月

13）白田正子「萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　三度山遺跡・古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集　1998年３月

14）註５）に同じ

15）池邉彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館　1981年２月
中山信名著　栗田寛補訂『新編常陸国誌』崙書房（復刻版） 1978年12月



第２図　島名熊の山遺跡調査区設定図（つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第3章　調 査 の 成 果

第1節 調 査 の 概 要

島名熊の山遺跡は，つくば市西部を平行して南流する谷田川と西谷田川に挟まれた，標高 13 ～ 24 mの台地上から低地にかけて立地している。 調査区は，便宜上１～ 16 区（第４図）に分けている。今回は，遺跡西部に位置する 15 区の平成 17 年度に調査した 4,522㎡と平成 25 年度に調査した 409㎡について報告する。

調査は，平成 17 年度と平成 25 年度の６か月間にわたって実施し，竪穴建物跡 39 棟（古墳時代），掘立柱建物跡２棟（古墳時代･時期不明），竪穴遺構３基（古墳時代）方形竪穴遺構１基（室町時代），地下式坑１基（室町時代），井戸跡１基（時期不明），土坑 55 基（室町時代 12・時期不明 43），道路跡１条（室町時代），溝跡６条（室町時代），ピット群１か所（時期不明）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に 67 箱出土している。主な遺物は，土師器（坏・椀・高坏・鉢・甕・小形甕・甑・手捏土器），須恵器（坏・高坏・蓋・壺・瓶・甕），土師質土器（小皿・内耳鍋・擂鉢），陶器（碗・皿・鉢・擂鉢・瓶・甕・大甕），土製品（勾玉・土玉・管玉・棗玉・支脚・紡錘車・置きカマドｯ），石器・石製品（支脚・砥石・紡錘車・勾玉・小玉・臼玉），鉄器・鉄製品（刀子・鏃・鎌・斧・釘・鉸具・責金具），銅製品（銭貨）などである。

第2節 基　本　層　序

当遺跡は，標高13～24mの台地上から低地にかけて立地しており，既報告の平成18年度調査区の15区南東部（Ｊ６j3 区）に設定したテストピットで基本土層の観察を行った。以下，観察結果から層序について説明する。

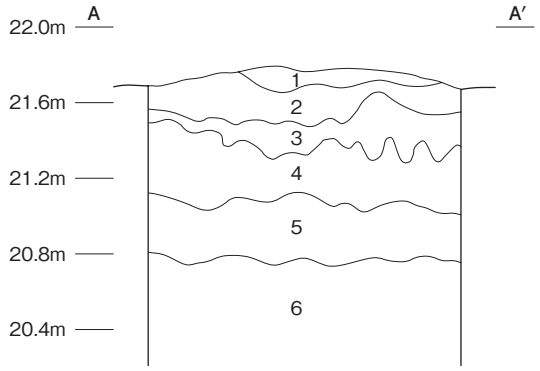
土層は６層に分層でき，第３～６層が関東ローム層である。

第１層は極暗褐色を呈する耕作土層である。ローム粒子を少量，ロームブロック･炭化粒子をわずかに含み，粘性・締まりともに弱く，層厚は５～ 12㎝である。

第２層は，暗褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量，炭化粒子をわずかに含み，粘性は弱く締まりは普通で，層厚は６～ 28㎝である。

第３層は，暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は４～ 36㎝である。

第４層は，暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は９～ 43㎝である。

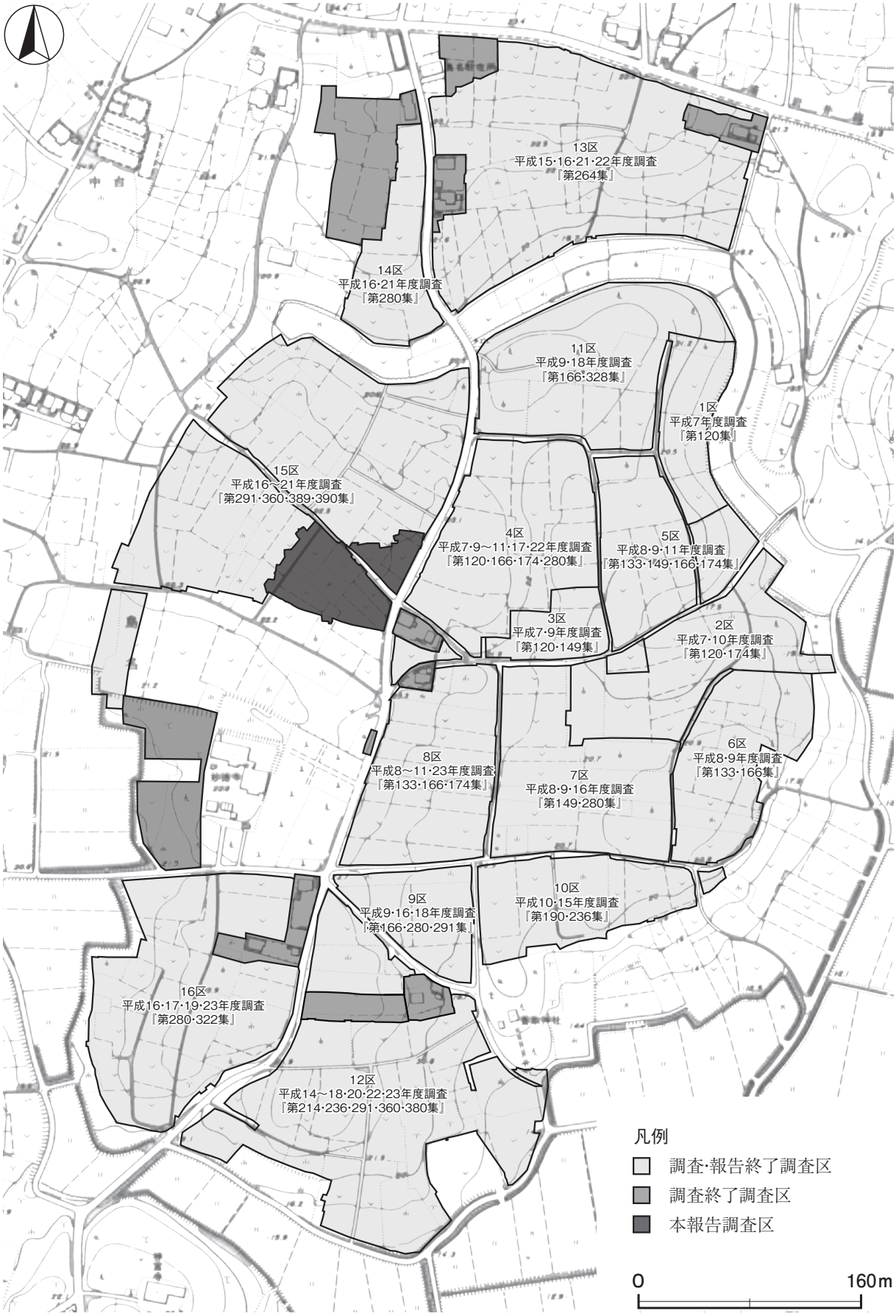


第３図　基本土層図

第５層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 14 ～ 36㎝である。

第６層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。層厚は 60㎝まで確認したが，下層は未掘のため不明である。第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。

なお，竪穴建物跡などの遺構は，第３層の上面で確認した。



第４図　島名熊の山遺跡調査区割図（つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第３節 遺 構 と 遺 物

１　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 39 棟，掘立柱建物跡１棟，竪穴遺構３基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

⑴　竪穴建物跡

第 2320 号竪穴建物跡（第５・６図）

位置　調査区北東部のＩ８j0 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2856 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 5.80 ｍ，短軸 5.52 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 10 ゜－Ｅである。壁高は 22 ～ 27㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，出入り口付近から竈前にかけて踏み固められている。壁下には，幅 17 ～ 20㎝，深さ８～ 12㎝で，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120㎝で，燃焼部幅は 35㎝である。袖部は砂質粘土を含む第９～ 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10㎝掘りくぼめて，第 12 ～ 15 層を埋土して構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 46㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐　　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
3	灰 黄 褐 色	粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	灰　褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5	暗 赤 褐 色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	にぶい橙色	灰中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗 赤 褐 色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
11	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
12	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
13	にぶい赤褐色	灰中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
15	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量

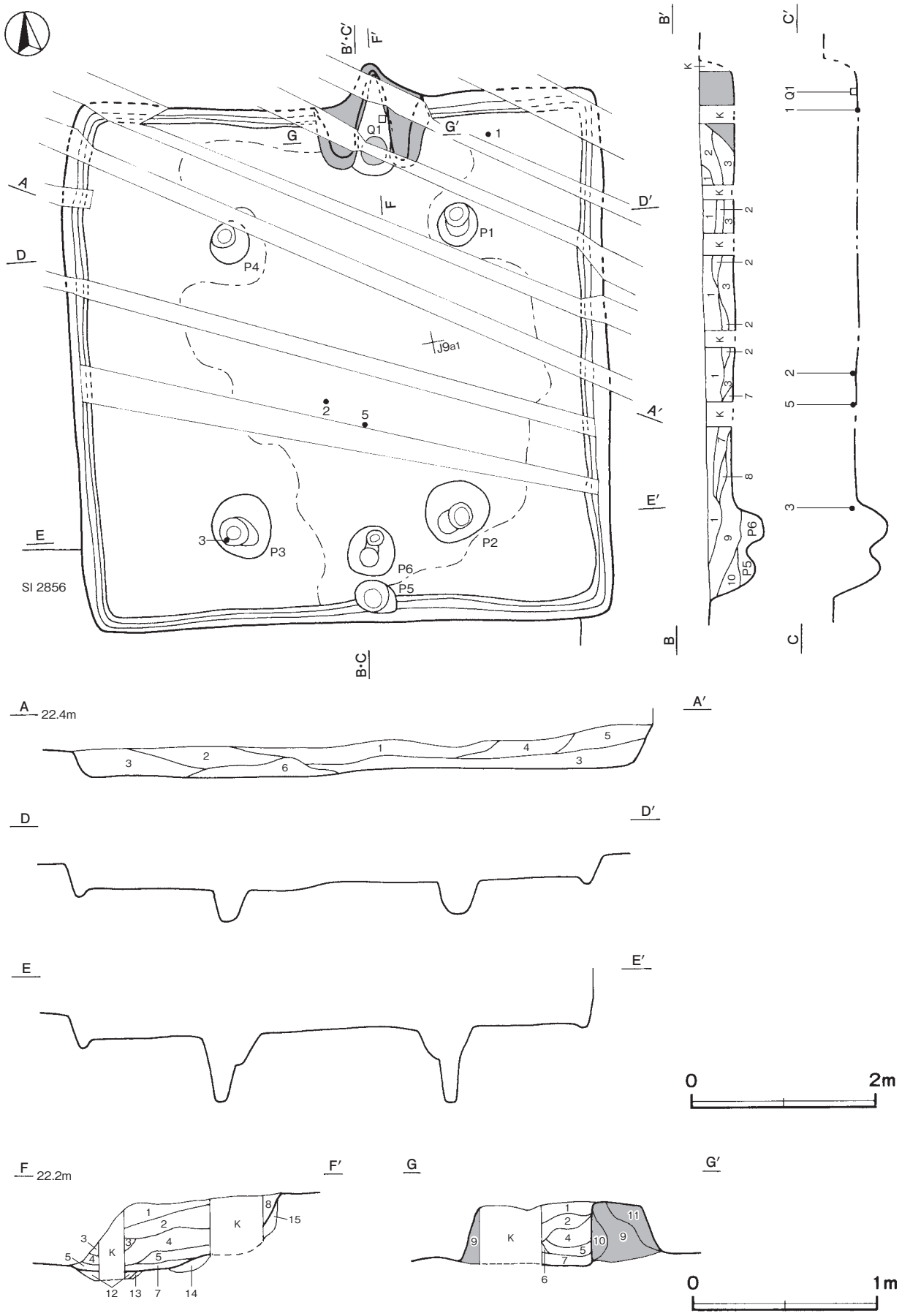
ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 38 ～ 34㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 19㎝・26㎝で，南壁側の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから，自然堆積である。

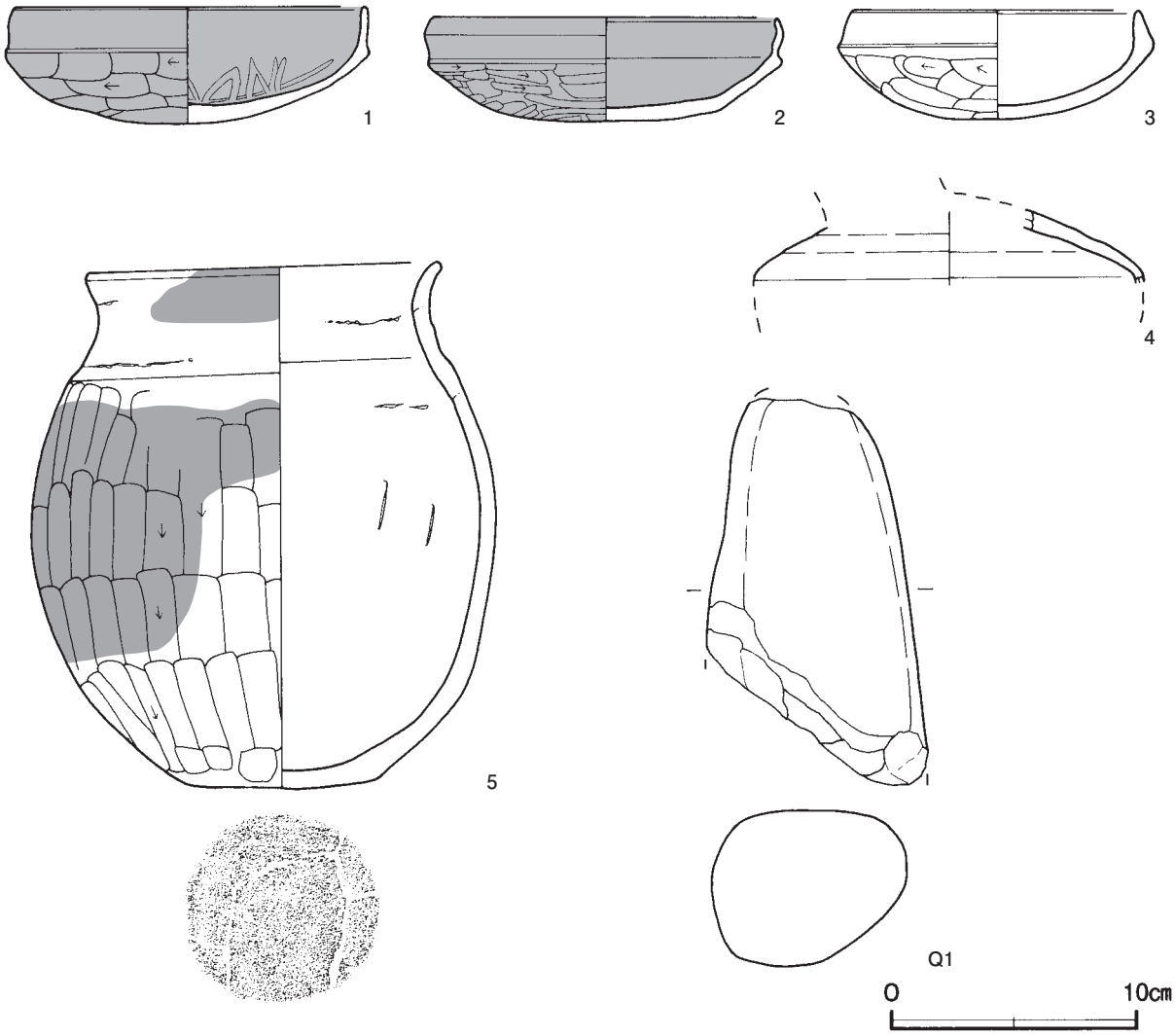
土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	灰　褐　色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒　褐　色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
6	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
8	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
9	暗　褐　色	ローム粒子多量，炭化物・焼土粒子微量
10	褐　　色	ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 261 点（坏 83，高坏２，甕類 175，小形甕１），須恵器片４点（平瓶ヵ１，甕類３），石製品１点（支脚）が出土している。そのほか，流れ込んだ縄文土器片１点（深鉢）も出土している。Ｑ１は火床部右奥から倒れた状態で出土している。１は竈の東側，２･５は中央部の床面からそれぞれ出土している。３はＰ３の覆土上層から出土している。４は南西部の覆土中から出土している。



第５図　第 2320 号竪穴建物跡実測図



第６図　第 2320 号竪穴建物跡出土遺物実測図

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。

第 2320 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第６図）

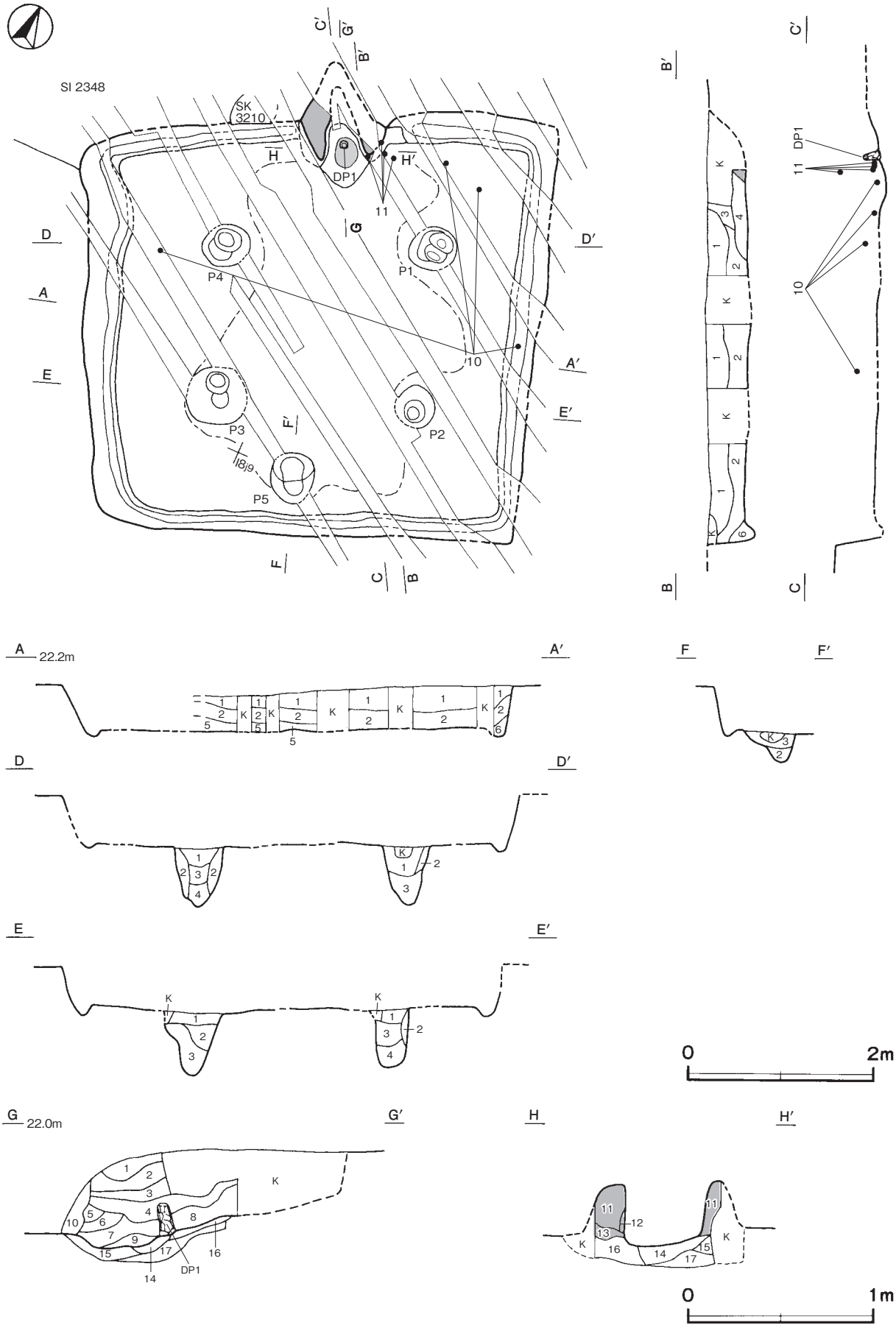
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	14.2	4.7	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り 内面多方向のヘラ磨き	床面	95%　PL23
2	土師器	坏	14.0	4.2	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	床面	90%　PL23
3	土師器	坏	11.5	4.4	－	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ	Ｐ３覆土上層	95%　PL23
4	須恵器	平瓶ヵ	－	(3.0)	－	長石・黒色粒子	灰	良好	ロクロナデ	覆土中	５％
5	土師器	小形甕	14.3	21.4	7.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　外・内面輪積痕	床面	80%　PL23

番号	器　種	長さ	最小径	最大径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｑ１	支脚	(15.8)	4.6	8.9	(1078)	安山岩	断面不整楕円形　被熱痕	火床部	PL37

第 2321 号竪穴建物跡（第７・８図）

位置　調査区北東部のＩ８i8 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2348 号竪穴建物跡を掘り込み，第 3210 号土坑に掘り込まれている。



第７図　第 2321 号竪穴建物跡実測図

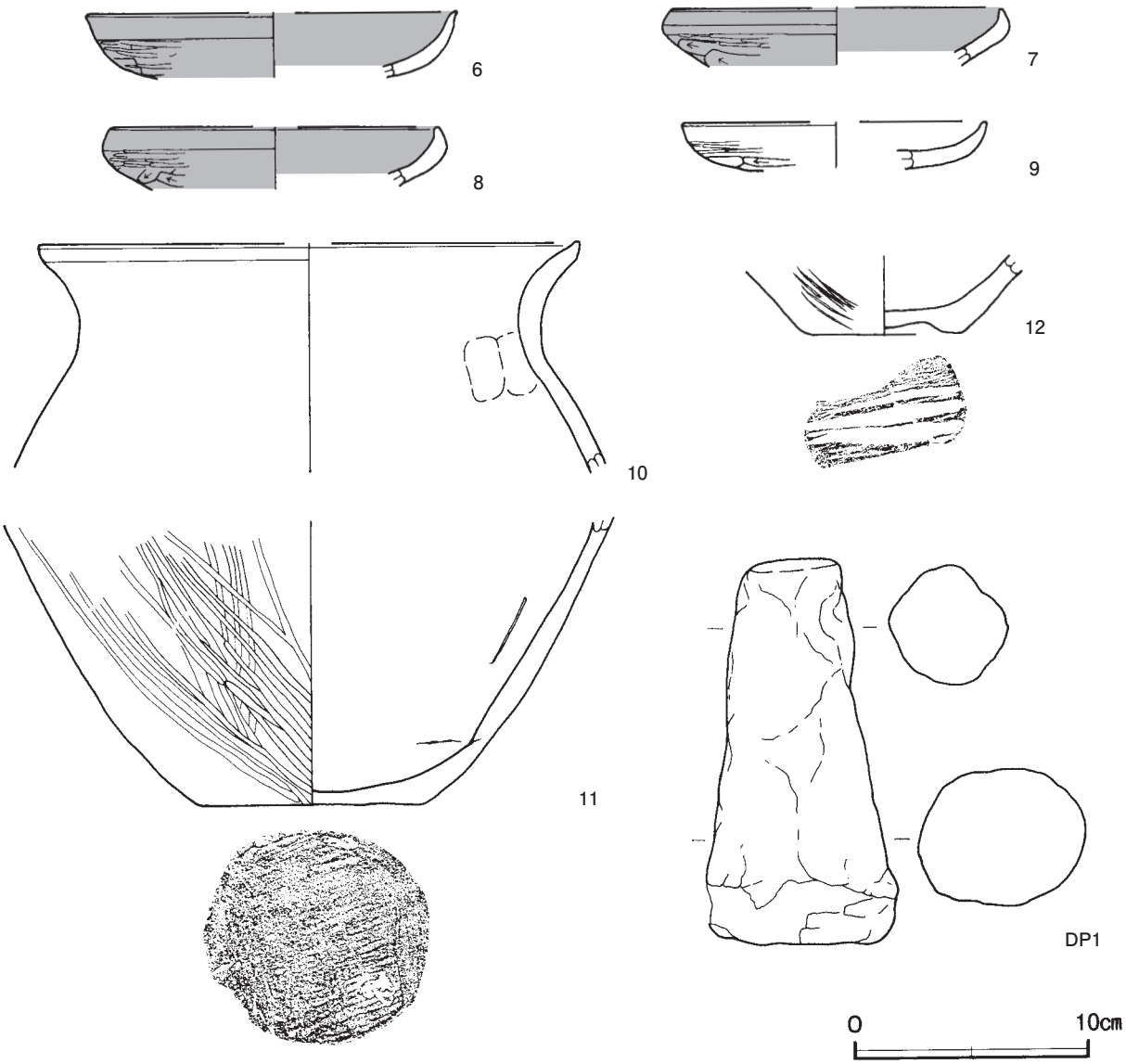
規模と形状　長軸 5.00 m，短軸 4.57 mの方形で，主軸方向はN－25°－Wである。壁高は 38 ～ 46cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，竈の手前からＰ５にかけての中央部が踏み固められている。壁下には，幅 18 ～ 22cm，深さ８～ 12cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。耕作による撹乱を受けており，確認できた規模は焚口部から 64cmしか確認できなかった。燃焼部幅は 42cmである。袖部は，地山を 10cmほど掘りくぼめた後に暗褐色土を埋め戻して基部とし，その上に砂質粘土を主体とした第 11 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 14cmほど掘り込んで構築され，火床面は火熱を受け，赤変硬化している。煙道は撹乱を受け失われている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック･炭化物少量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6　にぶい赤褐色　粘土粒子・焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子・灰少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量
9　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量



第８図　第 2321 号竪穴建物跡出土遺物実測図

10　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
13　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
14　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量
16　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
17　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 62 ～ 72cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ 36cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　６層に分層できる。 各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
4　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 630 点（坏 106，蓋１，甕類 523），須恵器片７点（坏２，甕類５），土製品１点（支脚）が，全域の覆土上層から下層にかけて散在して出土している。10 は北東部，北西部と東部，11 は竈付近の覆土上層から下層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。６・７は北東部，８・12 は北西部，９は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。

第 2321 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第８図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
6	土師器	坏	[15.8]	(2.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中	10%
7	土師器	坏	[14.2]	(2.4)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中	５%
8	土師器	坏	[14.0]	(2.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中	５%
9	土師器	坏	[13.0]	(2.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	覆土中	５%
10	土師器	甕	[23.2]	(9.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　指頭痕	覆土上層～下層	10%
11	土師器	甕	－	(12.1)	9.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ　底部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　内面輪積痕	覆土上層～下層	20%
12	土師器	甕	－	(3.4)	6.7	長石・石英	黄橙	普通	内面ナデ　外面砥石転用　筋状に擦り痕	覆土中	５%

番号	器　種	長さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 1	支脚	16.5	4.4	8.4	687	長石	外面ナデ	火床部	PL36

第 2322 号竪穴建物跡（第９・10 図）

位置　調査区北東部のＩ８j6 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 4.31 m，短軸 3.90 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 105゜－Ｗである。壁高は 34 ～ 45cmで，外傾して立ち上がっている。

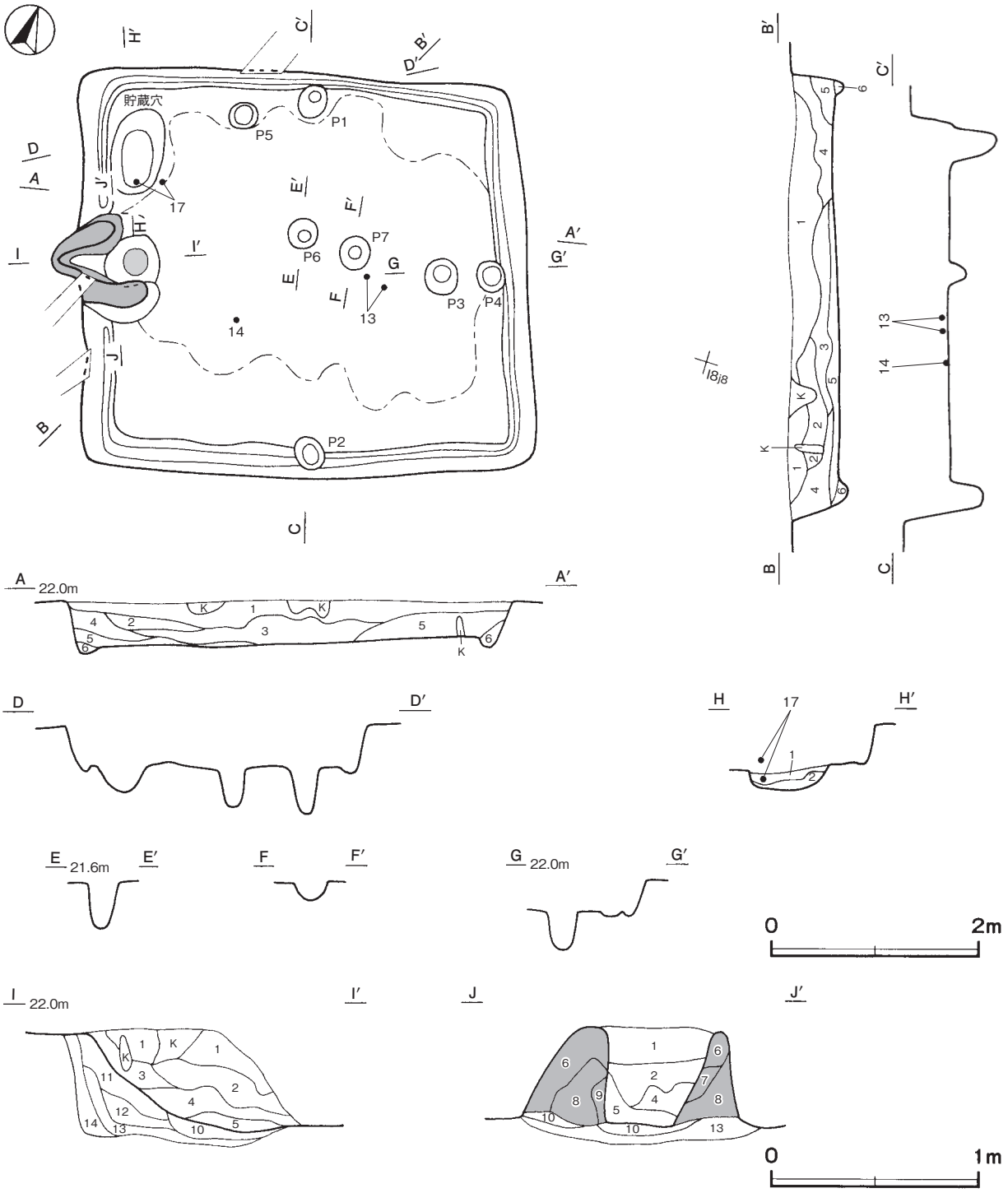
床　平坦で，出入り口付近から竈前にかけて踏み固められている。壁下には，幅７～ 22cm，深さ７～ 13cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 105cmで，燃焼部幅は 43cmである。袖部は床面を 20cm掘くぼめた後に第 10 ～ 14 層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第６～９層を積み上げ

て構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　黒　　色　炭化物中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量
7　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
9　暗　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
12　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量



第９図　第 2322 号竪穴建物跡実測図

ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ46cm・32cmで，北・南壁の中央部壁下に相対して配置されていることから，主柱穴である。Ｐ３・Ｐ４は深さ36cm・10cmで，配置状況から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５～Ｐ７は深さ10～42cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北西コーナー部壁下に位置している。長径86cm，短径50cmの楕円形で，深さは20cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

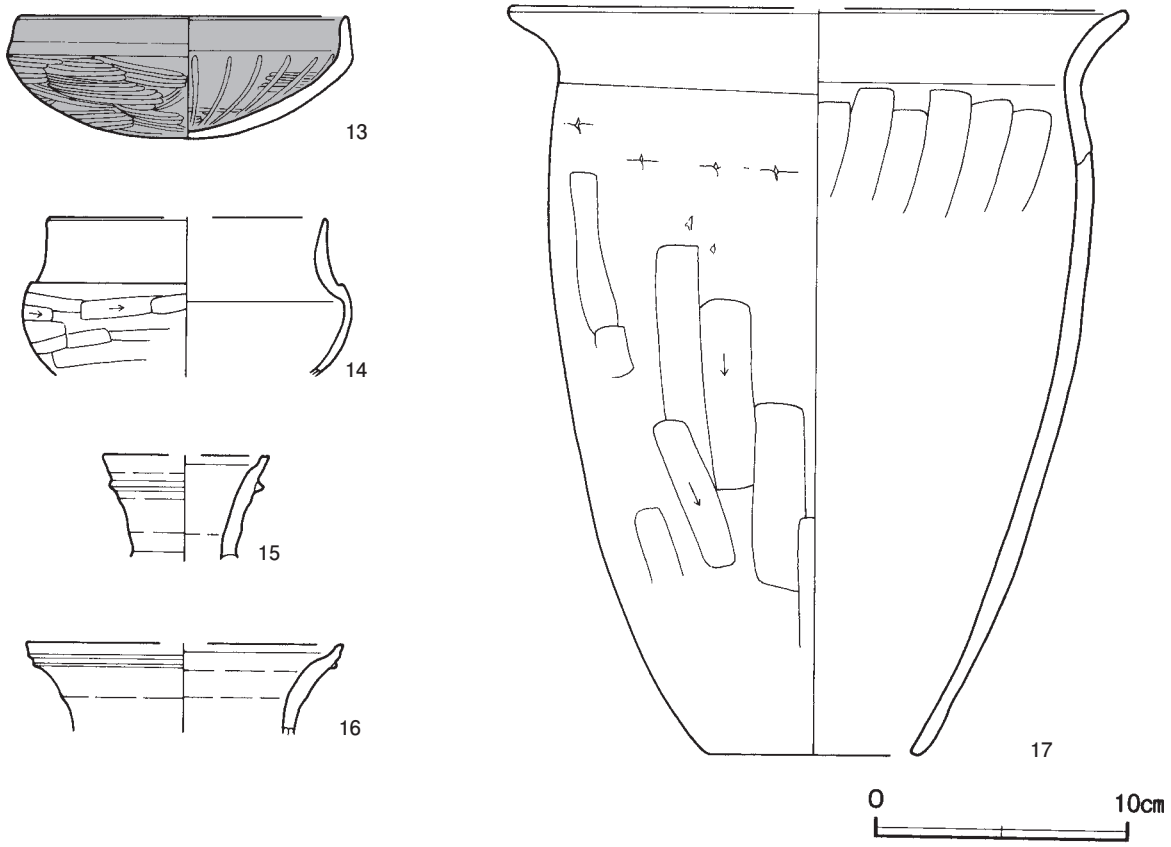
覆土　６層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片299点（坏77，椀１，甕類220，甑１），須恵器片４点（坏，瓶類ヵ，短頸壺ヵ，甕類），種子１点（桃ヵ）が，全域の覆土上層から床面にかけて散在して出土している。14は中央部の床面から，13は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。17は貯蔵穴付近の床面と貯蔵穴内の覆土下層から出土した破片が接合したものである。15・16は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第10図　第2322号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2322号竪穴建物跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
13	土師器	坏	13.0	4.9	－	長石・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ磨き　内面横位後縦位のヘラ磨き	覆土下層	90%　PL23
14	土師器	椀	[11.0]	(6.3)	－	長石・赤色斑点	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ	床面	20%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
15	須恵器	瓶類ヵ	［6.6］	（4.2）	－	長石	灰白	良好	口縁部外・内面ロクロナデ　内面自然釉	覆土中	10%
16	須恵器	短頸壺ヵ	［12.6］	（3.5）	－	長石・石英	灰	良好	口縁部外・内面ロクロナデ	覆土中	5％
17	土師器	甑	24.8	29.5	8.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ　外面輪積痕	覆土下層・貯蔵穴内覆土下層	50%

第 2348 号竪穴建物跡（第 11・12 図）

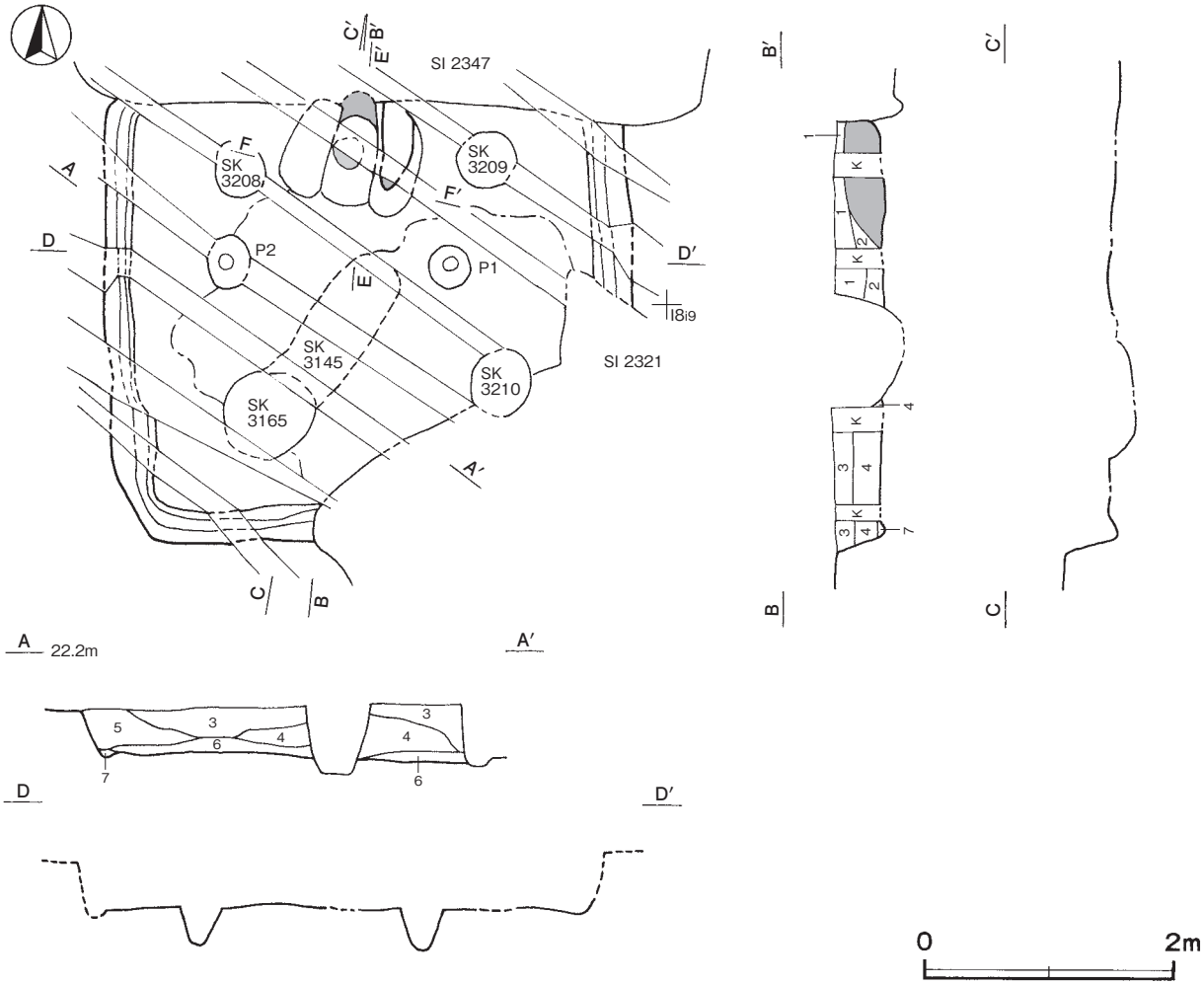
位置　調査区北東部のＩ８h8 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2321・2347 号竪穴建物，第 3145・3165・3208 ～ 3210 号土坑に掘り込まれている。

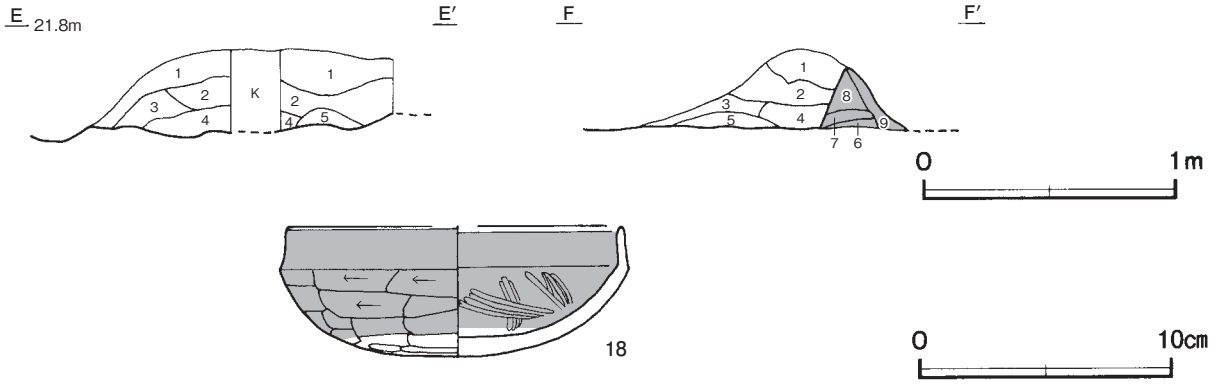
規模と形状　長軸 4.15 ｍ，短軸 3.58 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は 34 ～ 36cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。北壁を除いて壁下には，幅 13 ～ 24cm，深さ６～ 12cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 93cmで，燃焼部幅は 39cmである。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第６～９層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，一部が火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は第 2347 号竪穴建物に掘り込まれているため，確認できない。



第 11 図　第 2348 号竪穴建物跡実測図



第 12 図　第 2348 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子微量
7　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
8　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量
9　明　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 24cm・28cmで，規模と配置から主柱穴である。

覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 291 点（坏 90，甕類 147，甑 54），須恵器片７点（坏３，甕類４）が，全域の覆土上層から床面にかけて散在して出土しており，ほとんどが小片である。18 は東部の覆土中から出土した破片２点が接合したものである。

所見　時期は，出土土器や重複関係から６世紀後葉に比定できる。

第 2348 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
18	土師器	坏	[13.2]	5.1	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	覆土中	70%

第 2830 号竪穴建物跡（第 13・14 図）

位置　調査区南東部部のＫ８d4 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2840 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.77 m，短軸 4.54 mの方形で，主軸方向はＮ－ 18°－Ｗである。壁高は 12 ～ 14cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 77cmで，燃焼部幅は 39cmである。袖部は遺存していない。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 52cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

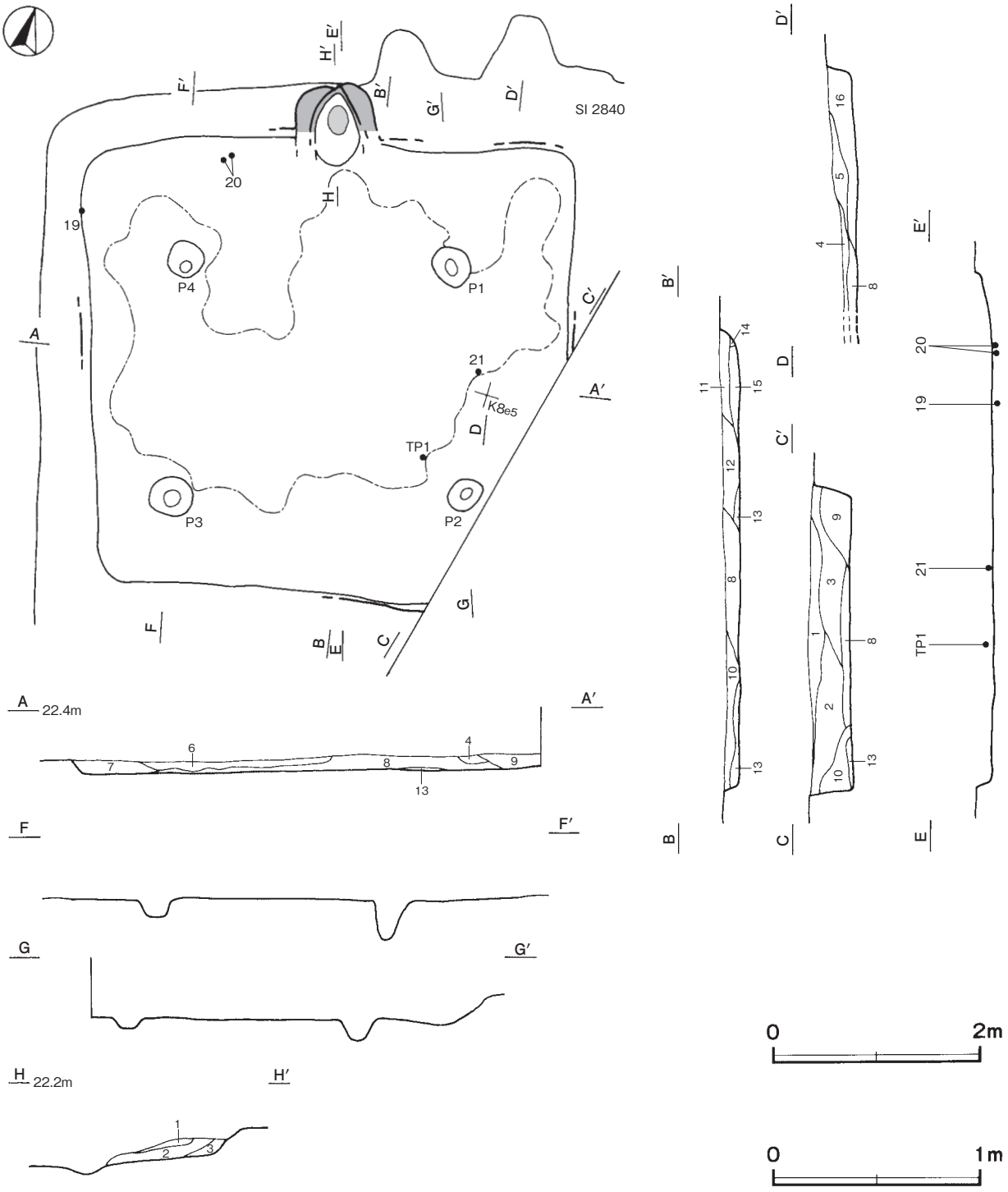
1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　4か所。P 1～P 4は深さ14～38cmで，規模と配置から主柱穴である。

覆土　16層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
5　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量

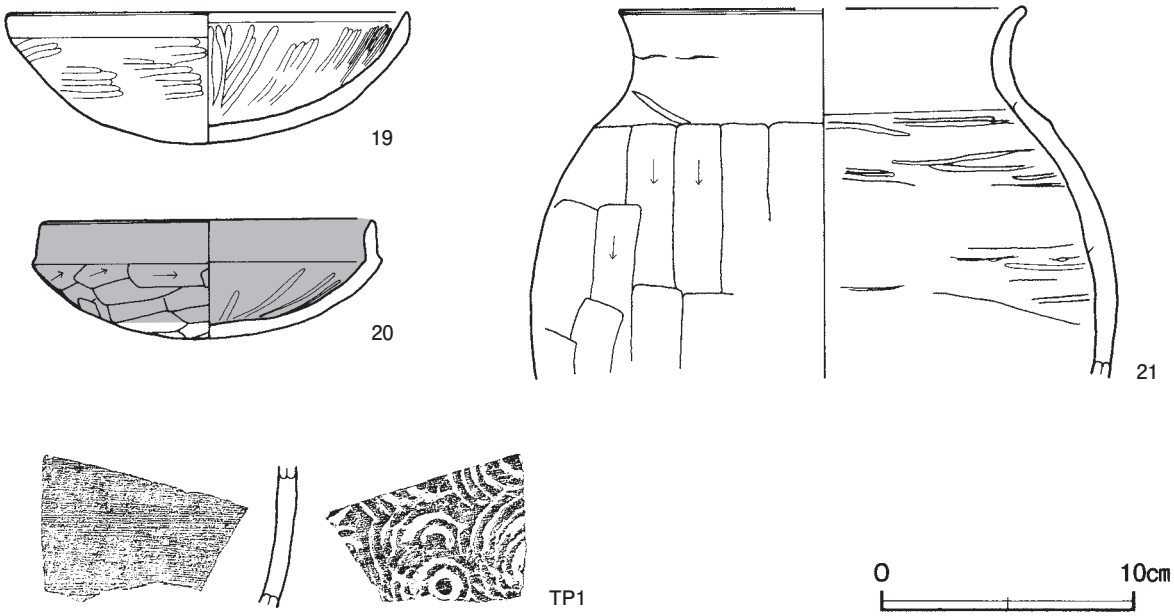


第13図　第2830号竪穴建物跡実測図

6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
8　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15　黒　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
16　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 149 点（坏 62，甕類 87），須恵器片 1 点（甕類），土製品 1 点（支脚）が出土している。19 は西壁際北部の床面から正位の状態で，20 は竈西側の床面からそれぞれ出土している。21・TP 1 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 14 図　第 2830 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2830 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
19	土師器	坏	15.8	5.2	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ヘラ磨き　内面縦位のヘラ磨き	床面	95%　PL23
20	土師器	坏	13.0	4.7	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラ磨き	床面	80%　PL23
21	土師器	甕	［15.9］	（14.6）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き　内面輪積痕	覆土下層	15%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 1	須恵器	甕	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き後横位のカキ目　内面同心円状の当て具痕　SI2839TP 5 と同一個体ヵ	覆土下層	PL33

第 2831 号竪穴建物跡（第 15・16 図）

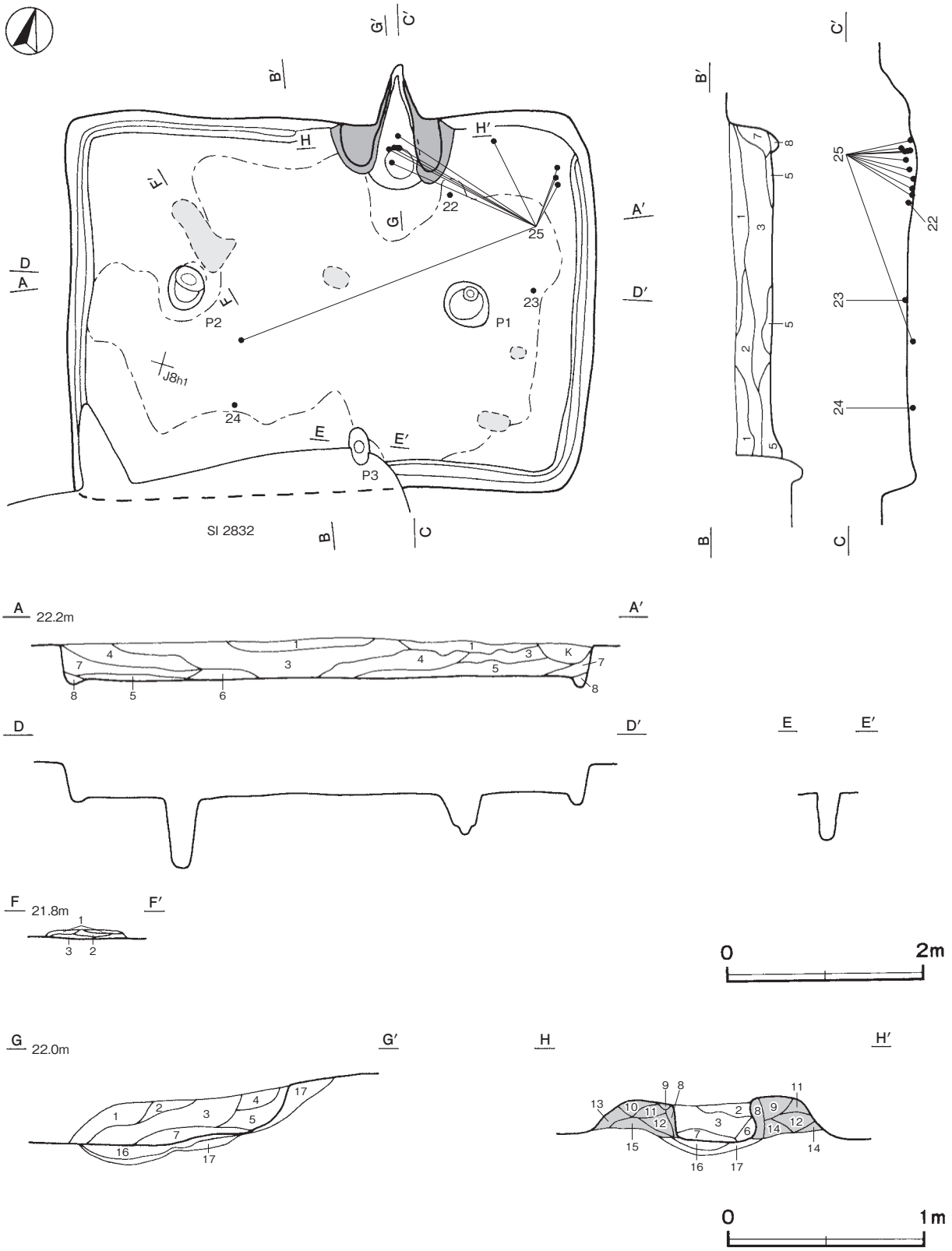
位置　調査区中央部のＪ８g1 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2832 号竪穴建物に掘り込まれている。

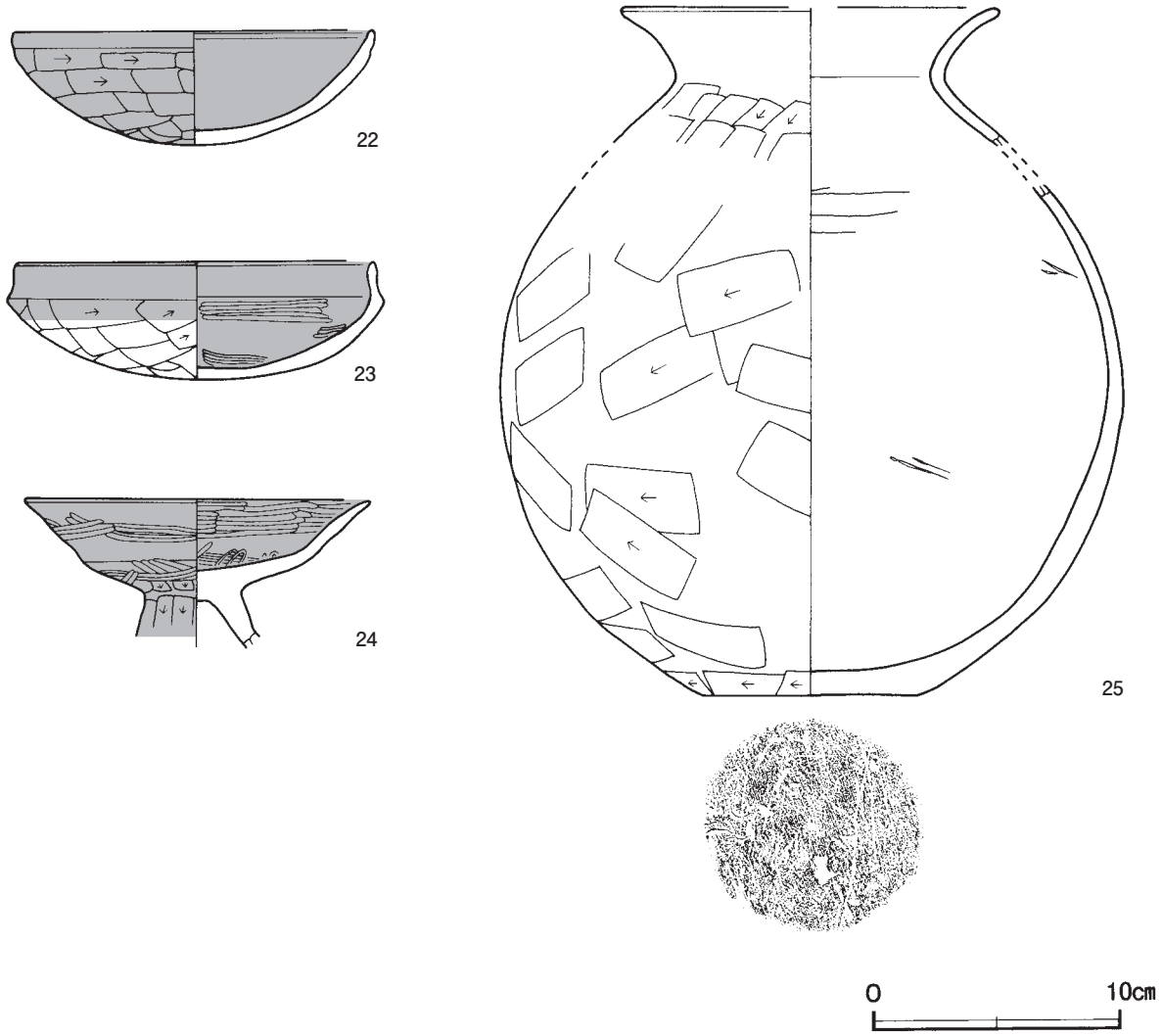
規模と形状　長軸 5.35 m，短軸 3.80 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 22°－Ｗである。壁高は 32 ～ 36cmで，

ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除く壁下には，幅15～22cm，深さ8～16cmで，浅いU字形の壁溝が巡っている。北西から南東部にかけての床面上に4か所の焼土塊を検出した。



第15図　第2831号竪穴建物跡実測図



第 16 図　第 2831 号竪穴建物跡出土遺物実測図

竈　北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 128cmで，燃焼部幅は 45cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を主体とした第８～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cm掘りくぼめた後，第 16・17 層を埋土して構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外へ 58cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，粘土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量
9　にぶい褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
10　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
11　褐　　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
12　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
13　にぶい黄褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
14　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子中量
15　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
16　明 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量
17　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 42cm・67cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ 51cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック中量

焼土塊土層解説

1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 189 点（坏 87，椀 2，高坏 1，甕類 99），須恵器片 2 点（坏）が出土している。25 は竈の覆土中層と北東コーナー部付近の覆土下層及び中央部の床面から出土した破片が接合したものである。23 は東部，24 は南西部の床面からそれぞれ出土している。22 は竈の南東側の覆土下層から出土している。確認した焼土塊は，下の床面が焼けていないことから，建物廃絶の際に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

第 2831 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 16 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
22	土師器	坏	14.6	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	55%　PL23
23	土師器	坏	14.4	4.7	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	床面	55%　PL23
24	土師器	高坏	14.0	(6.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	口縁部外・内面横ナデ後横位のヘラ磨き　坏部外面横位のヘラ削り後横位のヘラ磨き　坏部内面多方向のヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ削り	床面	50%
25	土師器	甕	[15.3]	[27.7]	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上端縦位のヘラ削り　中位斜位のヘラ削り　下端横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	竈覆土中層床面	50%

第 2832 号竪穴建物跡（第 17 ～ 20 図）

位置　調査区中央部のＪ８i1 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2831 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

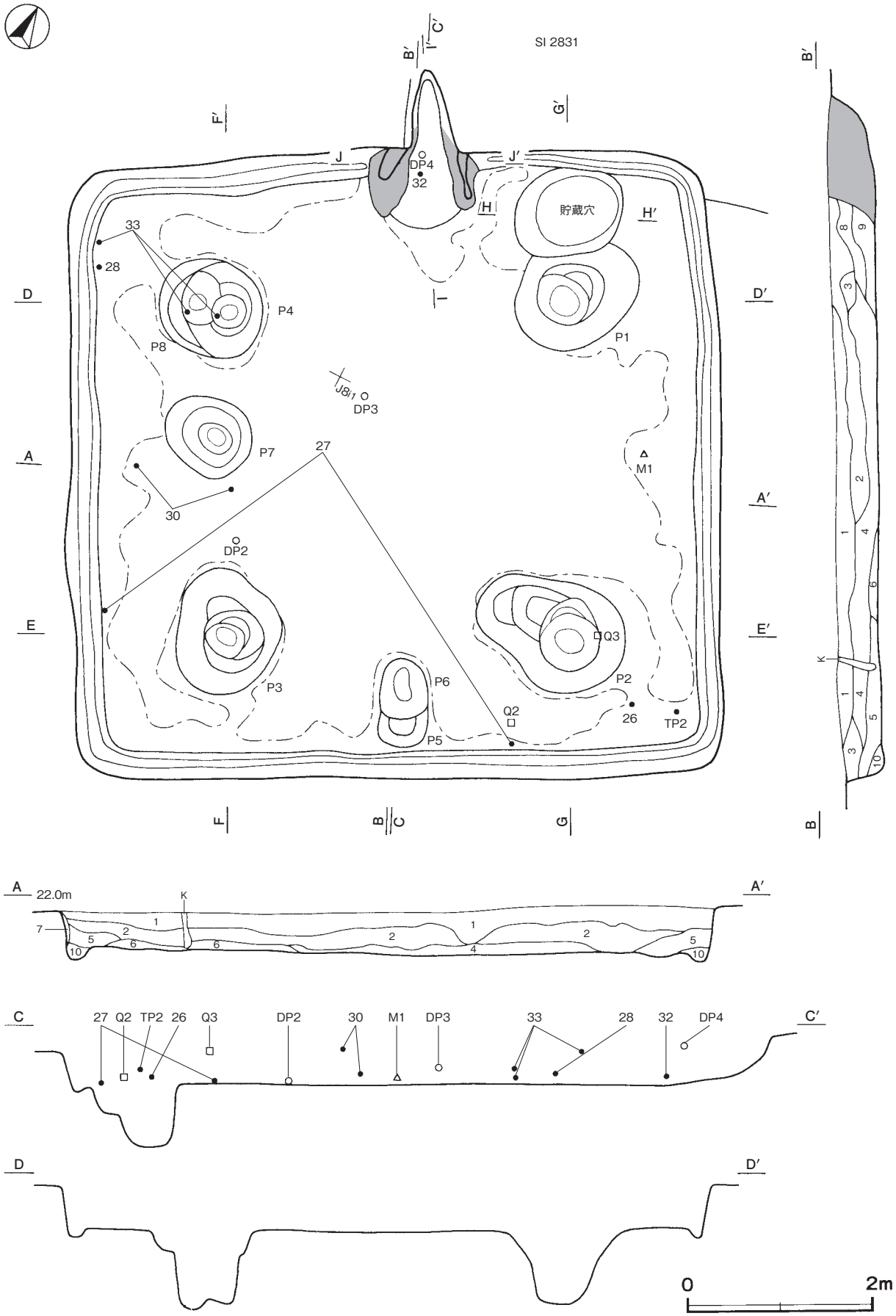
規模と形状　長軸 7.00 m，短軸 6.69 mの方形で，主軸方向はＮ－ 27 °－Ｗである。壁高は 30 ～ 48cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁下を除いて全面が踏み固められている。壁下には，幅 16 ～ 30cm，深さ 9 ～ 14cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 162cmで，燃焼部幅は 50cmである。袖部は床面を 20cm掘りくぼめた後，第 14 ～ 17 層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第 9 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外へ 83cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　にぶい橙色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
14　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
15　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
16　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
17　明　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 17 図　第 2832 号竪穴建物跡実測図 (1)

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ77～93cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ31cm・66cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７は深さ33cmで，Ｐ３とＰ４の間に位置していることから，補助柱穴と考えられる。Ｐ８は深さ85cmで，配置状況からＰ４以前の主柱穴の可能性がある。

貯蔵穴　竈の右側に位置している。長径123cm，短径95cmの楕円形で，深さは29cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

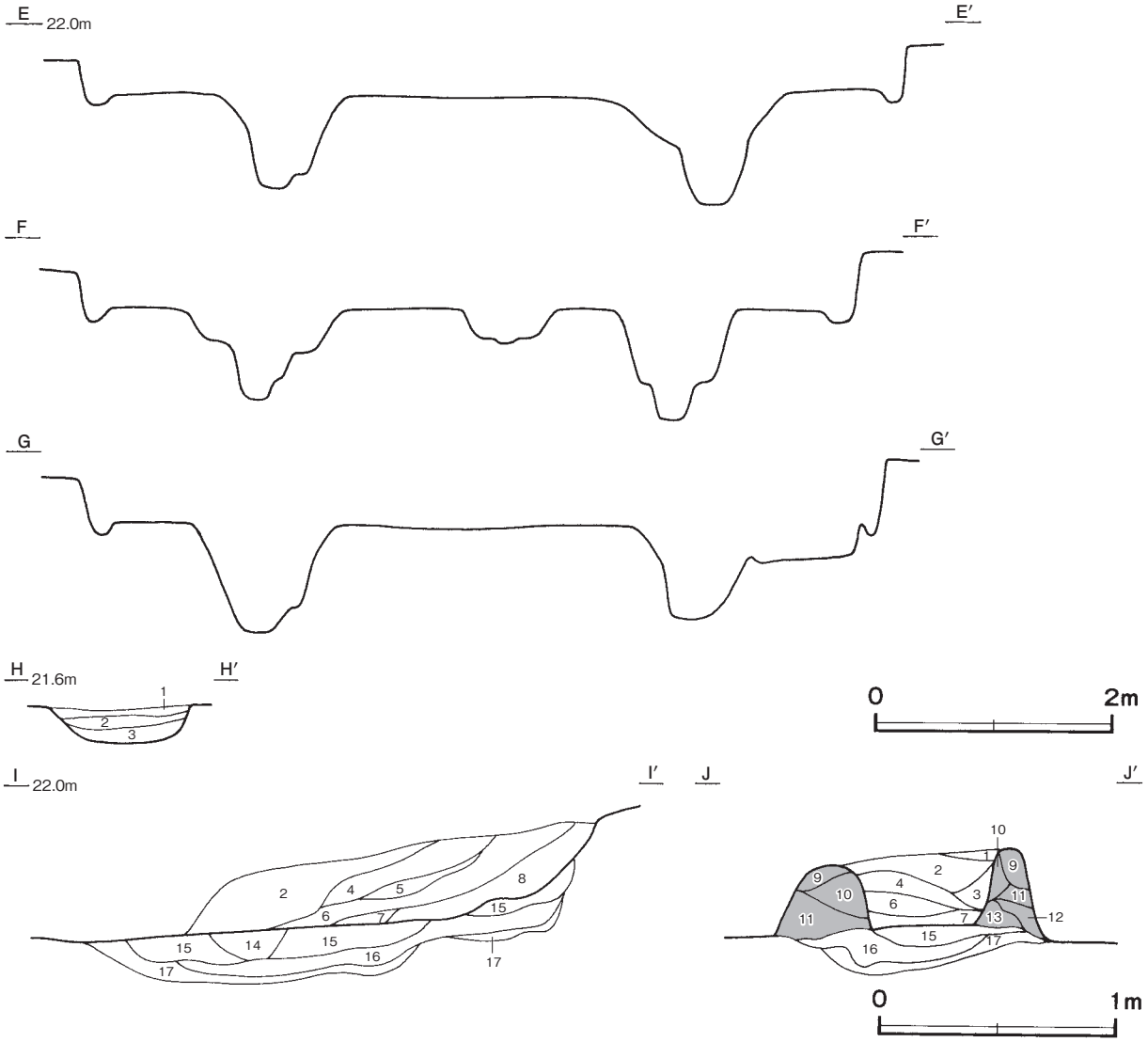
貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

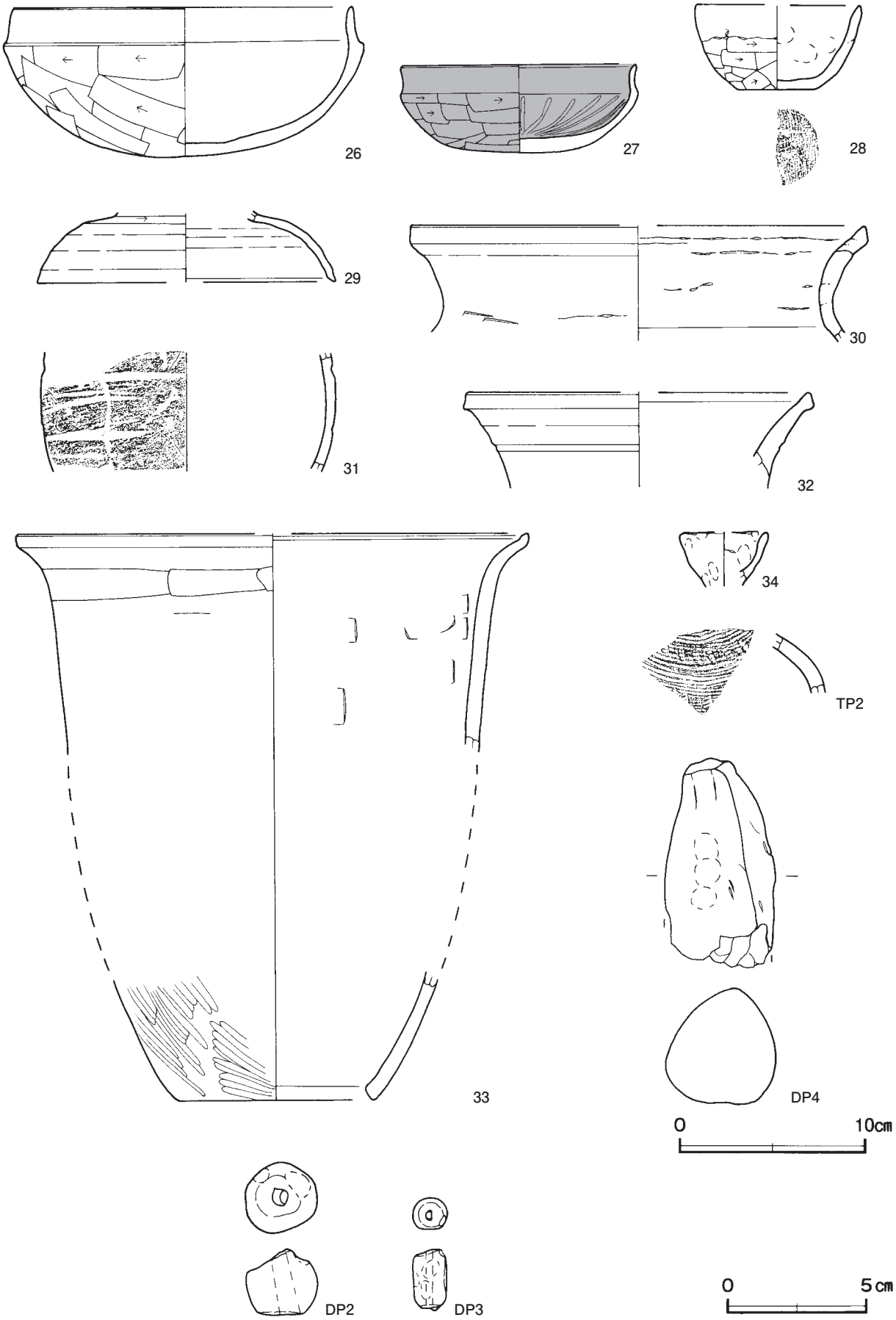
覆土　10層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

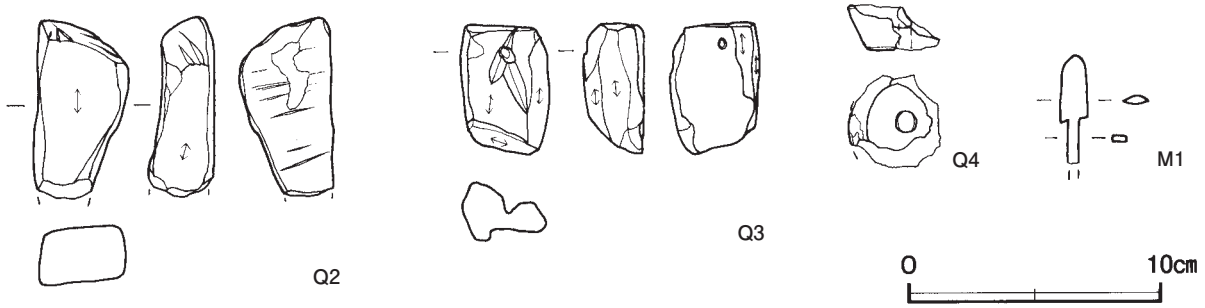
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐色　焼土粒子中量，ロームブロック微量
8　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量



第18図　第2832号竪穴建物跡実測図(2)



第 19 図　第 2832 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 20 図　第 2832 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況　土師器片 1621 点（坏 383，椀１，高坏１，甕類 1232，甑３，手捏土器１），須恵器片 13 点（蓋９，瓶類１，甕類３），土製品９点（土玉１，管玉１，支脚６，不明１），石器３点（紡錘車１，砥石２），鉄製品１点（鏃），鉄滓１点（11 ｇ），種子１点（桃），焼成粘土塊１点が，全域の覆土中層から床面にかけて出土している。32 は竈内の覆土下層，DP ４は竈内の覆土上層からそれぞれ出土している。27 は南西部と南部の壁際の床面から出土した破片２点が接合したものである。DP ２は中央部の床面から出土している。M １は東部，26・Q ２は南東部壁下，28 は北西部壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。DP ３は中央部，30・33 は西部から北西部にかけて，TP ２・Q ３は南東コーナー部付近の覆土中層からそれぞれ出土している。31 は竈，29・34 は南西部，Q ４は南東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。

第 2832 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19・20 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
26	土師器	坏	18.1	8.1	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL24
27	土師器	坏	12.6	4.7	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ヘラナデ　内面放射状のヘラ磨き	床面	60%　PL23
28	土師器	椀	[8.8]	4.6	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　輪積痕　内面横ナデ　指頭痕	覆土下層	40%　PL23
29	須恵器	蓋	[16.1]	(3.7)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
30	土師器	甕	[24.4]	(6.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　輪積痕	覆土中層	10%
31	土師器	甕	－	(6.4)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外面砥石転用筋状に擦り痕	竈覆土中	５%
32	須恵器	甕	[18.4]	(5.1)	－	長石・石英	灰	良好	口縁部外・内面ロクロナデ	竈覆土下層	５%
33	土師器	甑	[27.6]	[30.0]	[10.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部下半斜位のヘラ磨き　内面工具痕	覆土中層	15%
34	土師器	手捏土器	[4.6]	(2.9)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外・内面指頭痕	覆土中	40%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP ２	須恵器	瓶類	長石・石英	黄灰	普通	体部外面カキ目後櫛歯状工具による刺突文　内面ナデ	覆土中層	PL33

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP ２	土玉	2.61	2.32	0.66 ～ 0.83	14.6	長石・石英・雲母	ナデ　端部ヘラ削り　指頭痕　一方向からの穿孔	床面	PL34

番号	器　種	長さ	径	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP ３	管玉	2.13	1.22	0.18 ～ 0.28	3.26	長石・石英	ナデ　指頭痕　一方向からの穿孔	覆土中層	PL34

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP ４	支脚	(11.3)	2.8	5.9	(349.8)	長石・石英・赤色粒子	ナデ　指頭痕　被熱痕	竈覆土上層	PL36

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q２	砥石	(7.1)	3.8	2.6	(80.1)	凝灰岩	断面長方形　砥面４面	覆土下層	PL37
Q３	砥石	5.2	3.6	2.5	(49.4)	凝灰岩	断面不整長方形　砥面６面　２方向からの穿孔痕あり（未貫通）	覆土中層	PL37

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q４	紡錘車	(3.7)	1.8	0.8	(24.5)	安山岩	一部欠損　全面研磨　一方向からの穿孔	覆土中	PL37

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｍ１	鉄鏃	(4.32)	1.16	0.28	(2.70)	鉄	鏃身部先端欠損　長三角形式	覆土下層	PL38

第 2833 号竪穴建物跡（第 21 ～ 23 図）

位置　調査区中央部部のＪ７j8 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 6.03 ｍ，短軸 5.71 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 115゜－Ｗである。壁高は８～ 20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁下を除いてほぼ全面が踏み固められている。壁下には，幅８～ 12cm，深さ６～９cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　西壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 123cmで，燃焼部幅は 48cmである。袖部は床面を 13cm掘りくぼめた後，第 13 ～ 15 層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第８～ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面より７cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がり，奥壁でほぼ直立している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　浅 黄 橙 色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい褐色　灰中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　赤　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
10　にぶい橙色　粘土粒子多量，ローム粒子微量
11　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　赤　褐　色　焼土粒子多量
14　黒 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
15　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

ピット　21 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 56 ～ 69cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 24cmで，南壁側の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ７は深さ 16cm・24cmで，性格は不明である。Ｐ８～Ｐ 21 は深さ９～ 78cmで，竪穴建物跡の周囲に規則的に配置されていることから，屋外柱穴の可能性が考えられる。

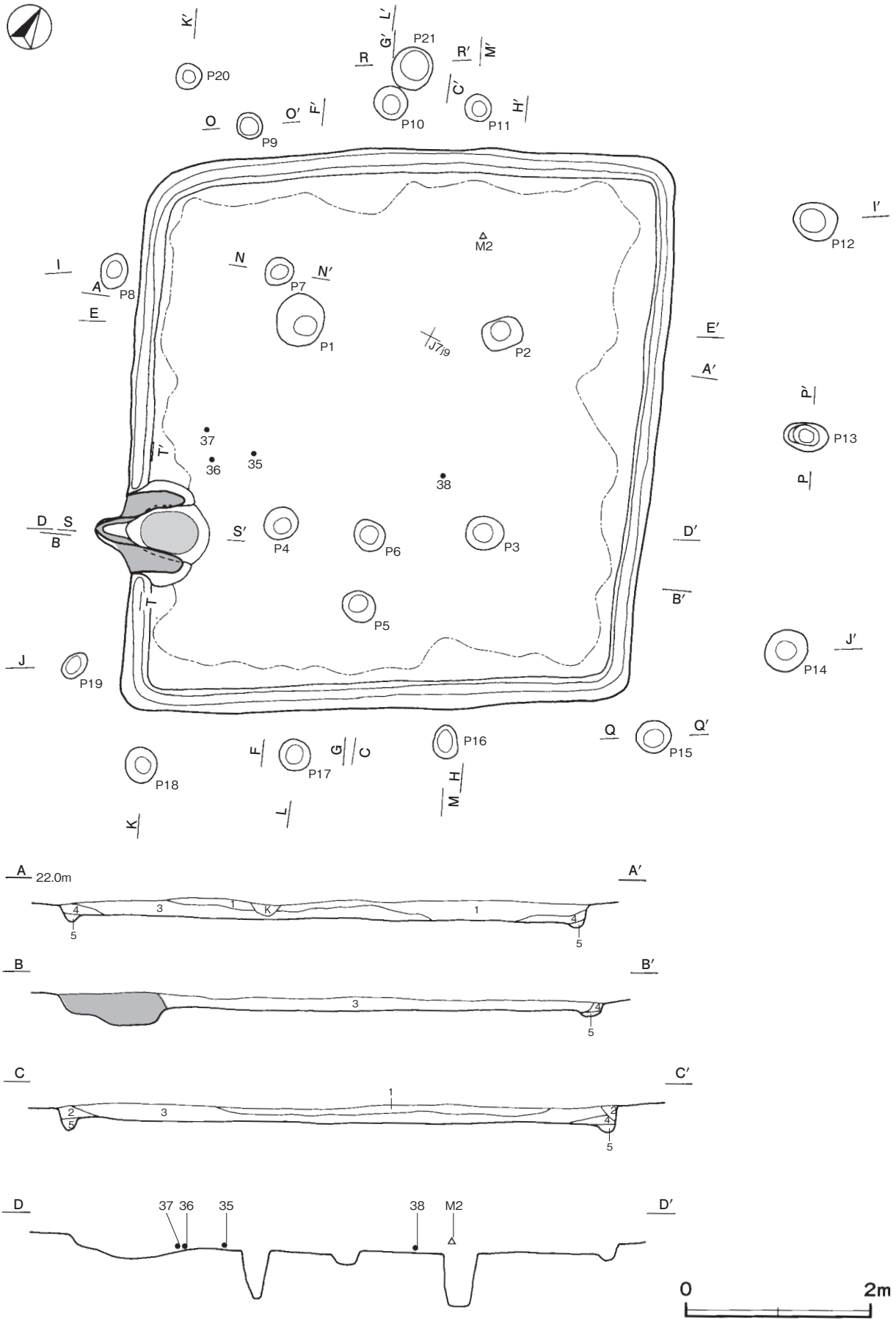
覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

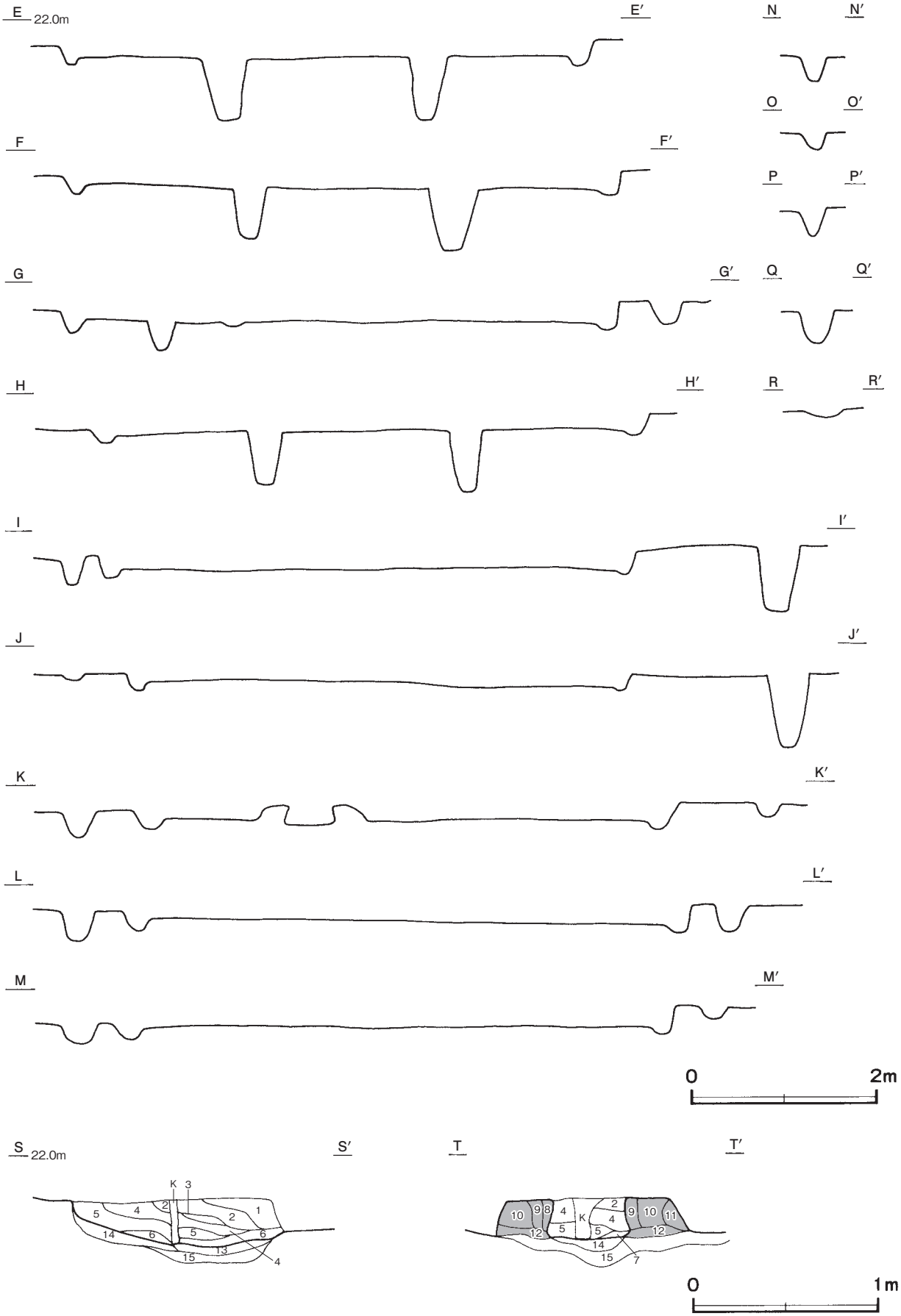
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 422 点（坏 102，椀３，甕類 315，甑２），須恵器片４点（坏１，瓶類１，甕類２），鉄製品１点（責金具），焼成粘土塊１点が，竈前から出入り口付近の覆土下層から床面にかけて出土している。そのほか，混入した縄文土器片１点（深鉢），石器１点（打製石斧）も出土している。35 ～ 37 は竈の北側，38 は中央部，Ｍ２は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。

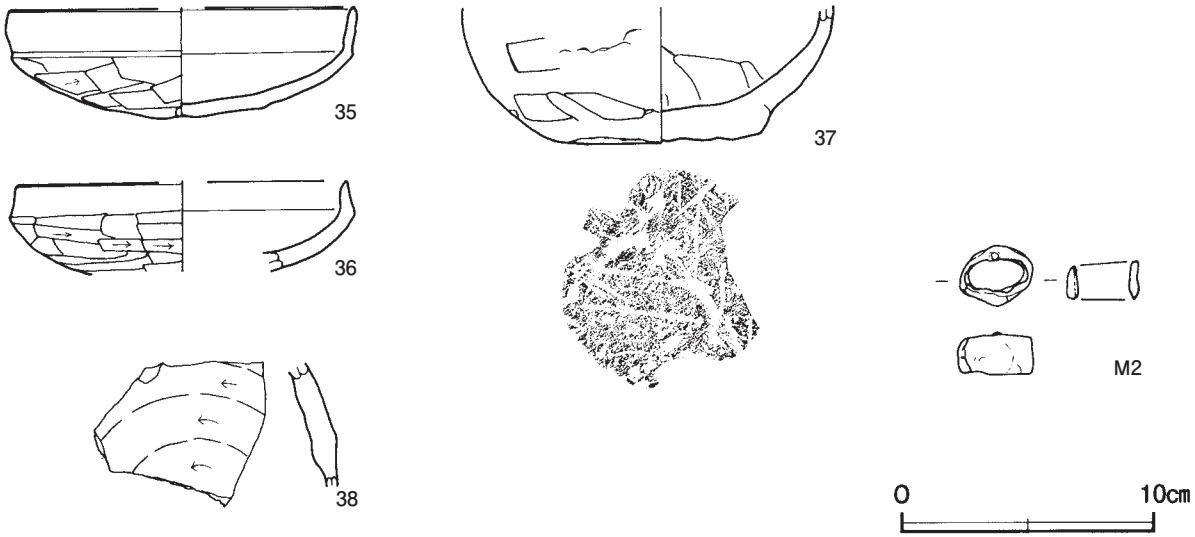
所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 21 図　第 2833 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 22 図　第 2833 号竪穴建物跡実測図 (2)



第 23 図　第 2833 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2833 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 23 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
35	土師器	坏	13.6	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	50%　PL24
36	土師器	坏	［13.0］	(3.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土下層	20%
37	土師器	椀	－	(5.4)	7.9	長石・石英・雲母・籾	にぶい黄橙	普通	体部外面下半ヘラナデ　工具痕　内面ヘラナデ　底部木葉痕　輪積痕	覆土下層	40%
38	須恵器	提瓶ヵ	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	体部外面回転ヘラ削り　内面ロクロナデ　外面自然釉	覆土下層	5％

番号	器　種	径	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 2	責金具	2.97	1.98	0.3	(10.2)	鉄	楕円状　繋ぎ目１か所　断面長方形	覆土下層	PL38

第 2834 号竪穴建物跡（第 24・25 図）

位置　調査区中央部のＫ７a4 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 5319 号土坑に掘り込まれている。

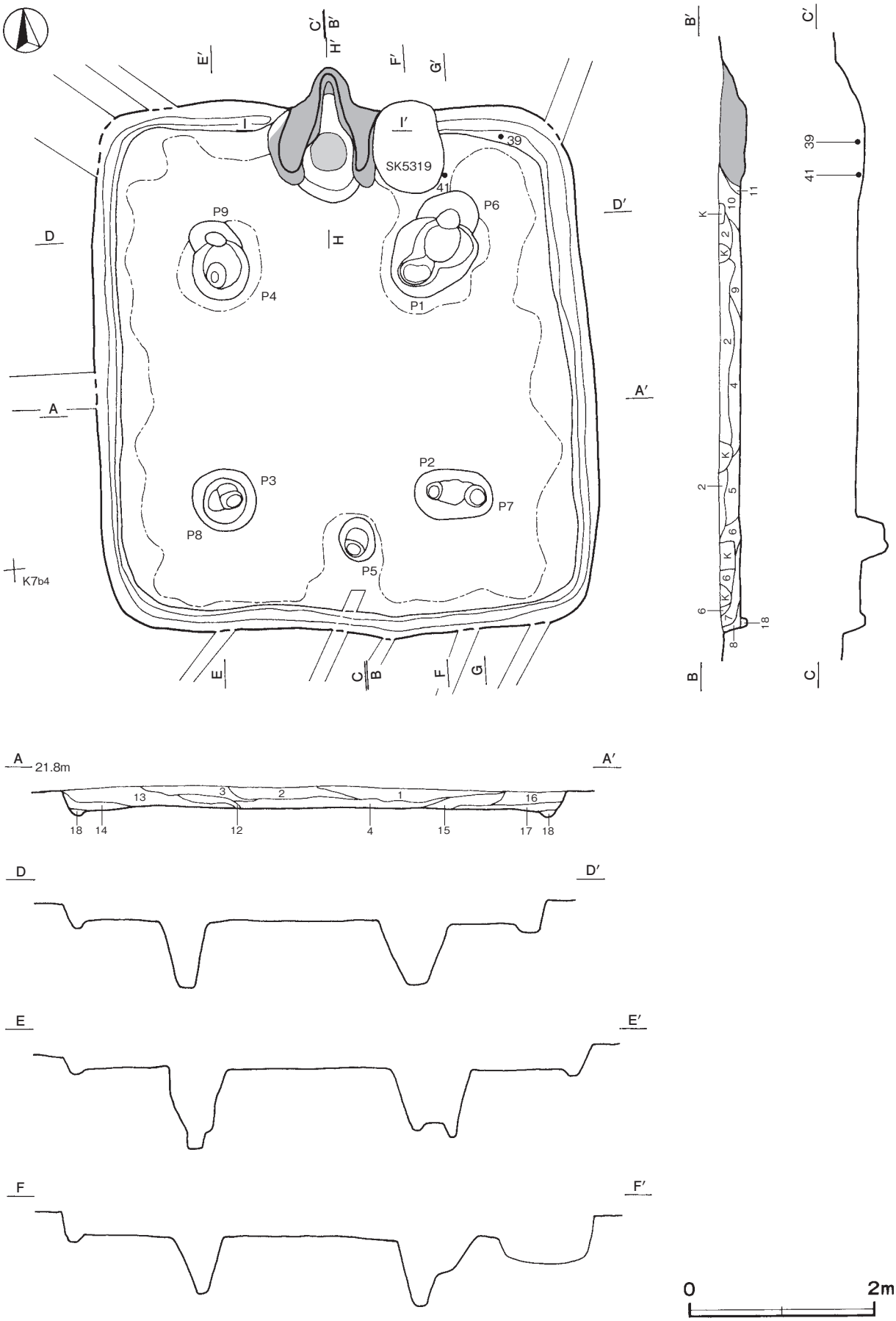
規模と形状　長軸 5.73 ｍ，短軸 5.41 ｍの方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁高は 16 ～ 26cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁下を除いて踏み固められている。壁下には，幅 10 ～ 16cm，深さ９～ 12cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

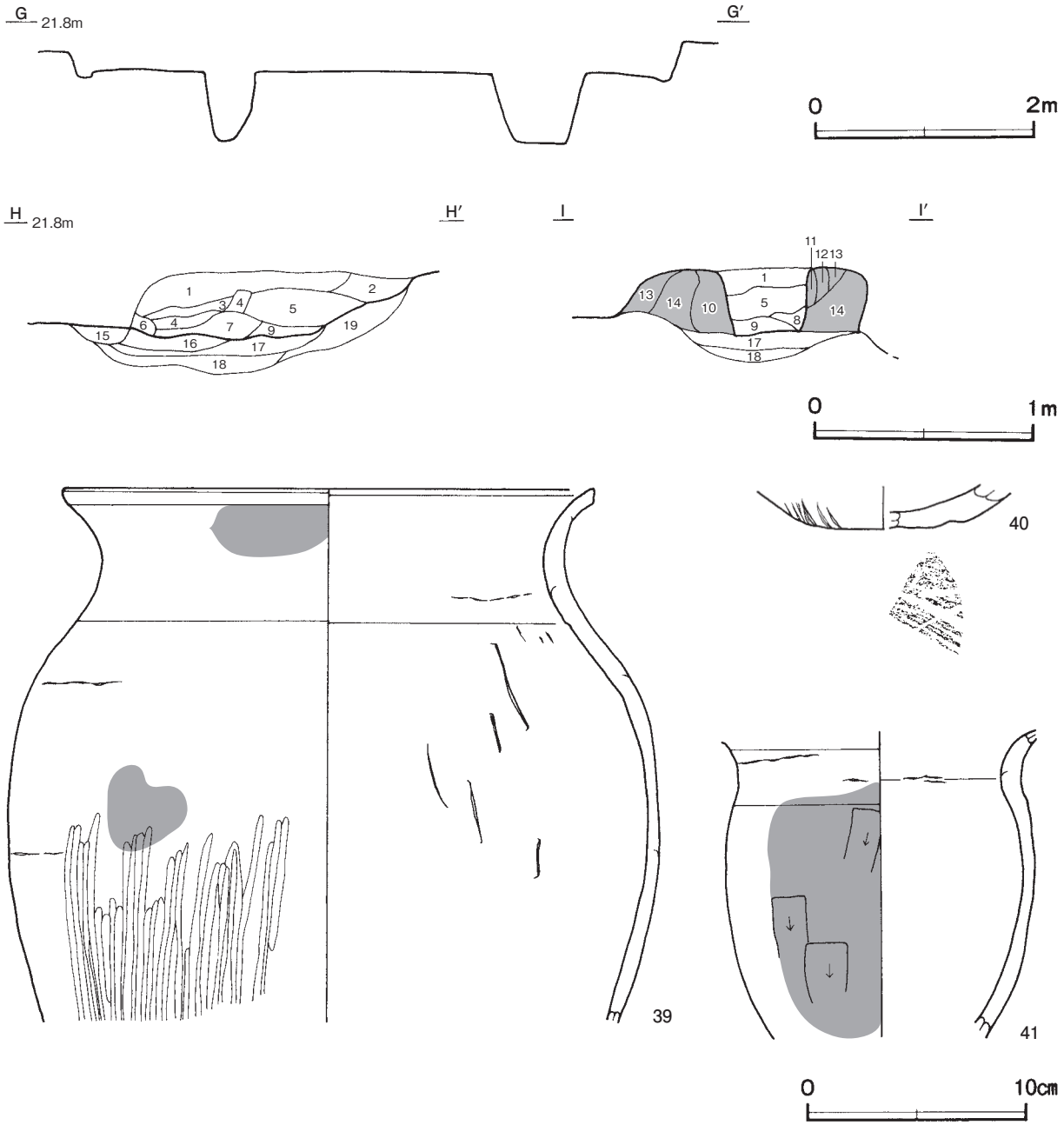
竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 145cmで，燃焼部幅は 55cmである。袖部は床面を 16cm掘りくぼめた後，第 15 ～ 19 層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第 10 ～ 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面より７cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 42cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　粘土粒子中量，焼土ブロック･炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量
4　灰　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
8　灰　褐　色　焼土粒子中量
9　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量



第 24 図　第 2834 号竪穴建物跡実測図



第 25 図　第 2834 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

12　褐　　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
14　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
16　にぶい赤褐色　灰中量，焼土ブロック・炭化物少量
17　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土粒子･炭化粒子少量，ロームブロック微量
18　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
19　極 暗 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 28 ～ 72cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 32cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ９は深さ 63cm～ 76cmである。配置状況から，Ｐ６からＰ１へ，Ｐ７からＰ２へ，Ｐ８からＰ３へ，Ｐ９からＰ４への柱の立て替えが行われた可能性がある。

覆土　18 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・灰少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　灰中量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック少量
9　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
10　灰　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
12　灰　褐　色　ローム粒子少量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
17　黒　褐　色　ロームブロック少量
18　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片 408 点（坏 99，甕類 308，小形甕１），須恵器片４点（坏１，蓋１，甕類２），焼成粘土塊２点が，各壁下の覆土下層から床面にかけて出土している。39・41 は北東部の床面からそれぞれ出土している。40 は，覆土中から出土した小片２点が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。

第 2834 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 25 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
39	土師器	甕	24.2	(24.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	30%
40	土師器	甕	－	(2.0)	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部外面砥石転用　筋状に擦り痕	覆土中	５%
41	土師器	小形甕	－	(13.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	口縁端部磨滅　口縁外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　被熱による劣化顕著　輪積痕	床面	20%

第 2835 号竪穴建物跡（第 26 ～ 32 図）

位置　調査区南部のＫ７d4 区，標高 22 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 81 号地下式坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.40 ｍ，短軸 6.15 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 18°－Ｗである。壁高は 30 ～ 35㎝で，ほぼ直立している。

床　平坦で，出入り口付近から竈前にかけて踏み固められている。壁下には，幅 16 ～ 18㎝，深さ４～６㎝で，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 153㎝で，燃焼部幅は 45㎝である。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第 10 ～ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を８㎝掘りくぼめた後，第 14・15 層を埋土して構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は２か所存在し，ともに火熱を受けて赤変硬化している。縦２口掛けの竈であった可能性がある。煙道部は壁外へ 42㎝掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

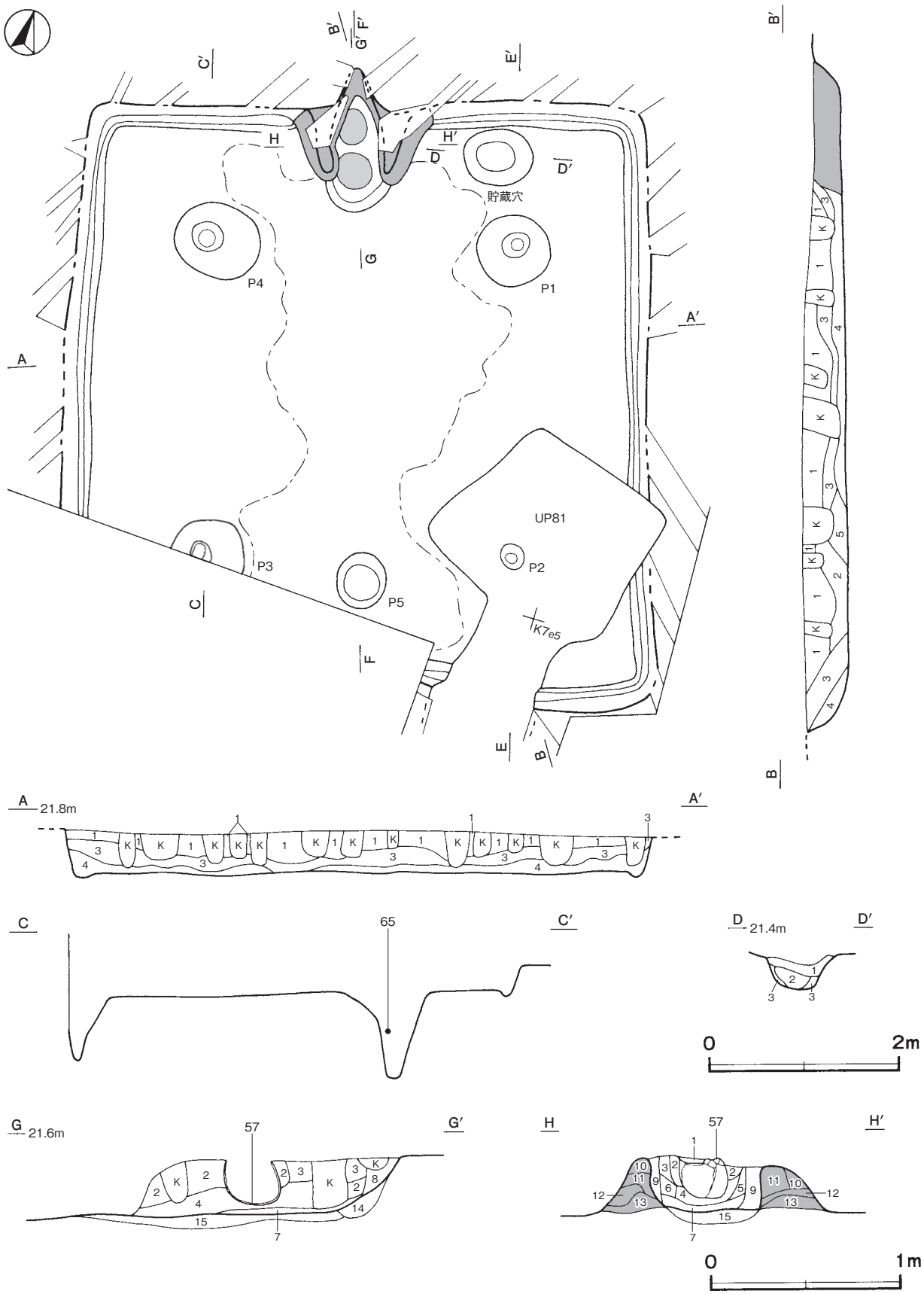
竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
8　明　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
9　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量
10　にぶい褐色　粘土粒子多量
11　にぶい褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，砂質粘土ブロック中量
13　暗　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
15　灰　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

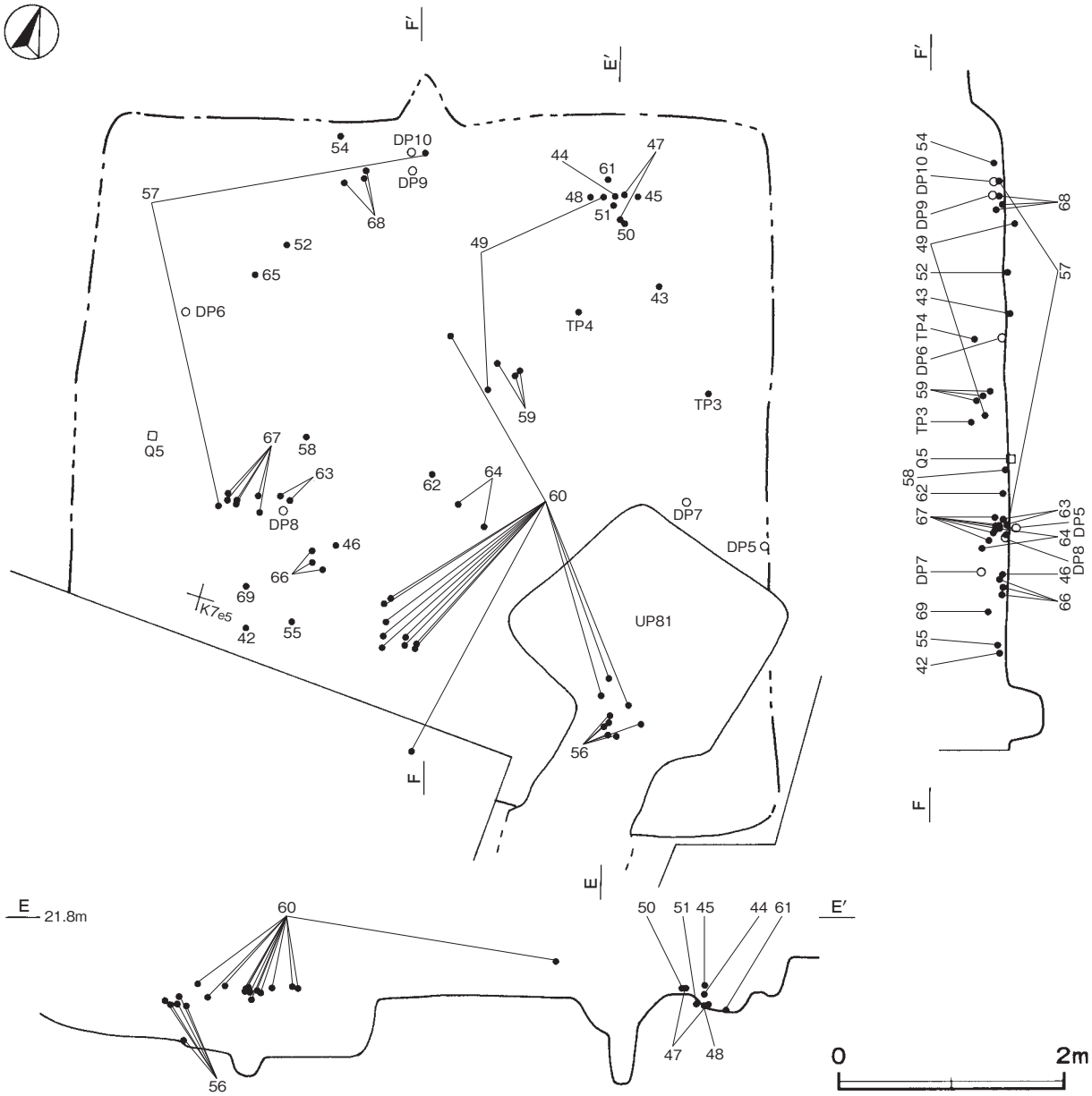
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 70 ～ 87㎝で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 36㎝で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈の右側に位置している。長径 72㎝，短径 58㎝の楕円形で，深さは 20㎝である。底面は平坦で，壁

は外傾して立ち上がっている。



第 26 図　第 2835 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 27 図　第 2835 号竪穴建物跡実測図 (2)

貯蔵穴土層解説

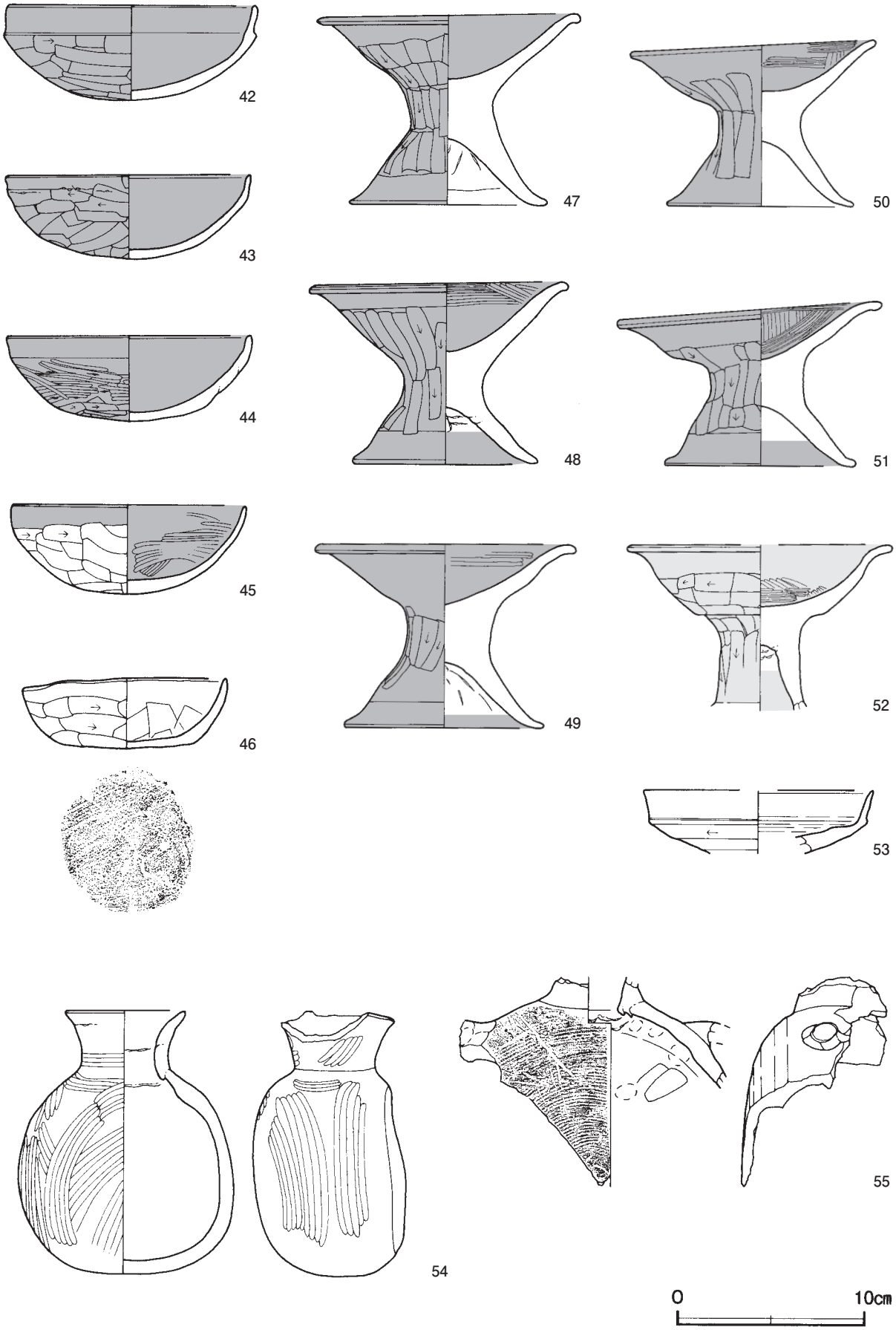
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子微量

覆土　5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

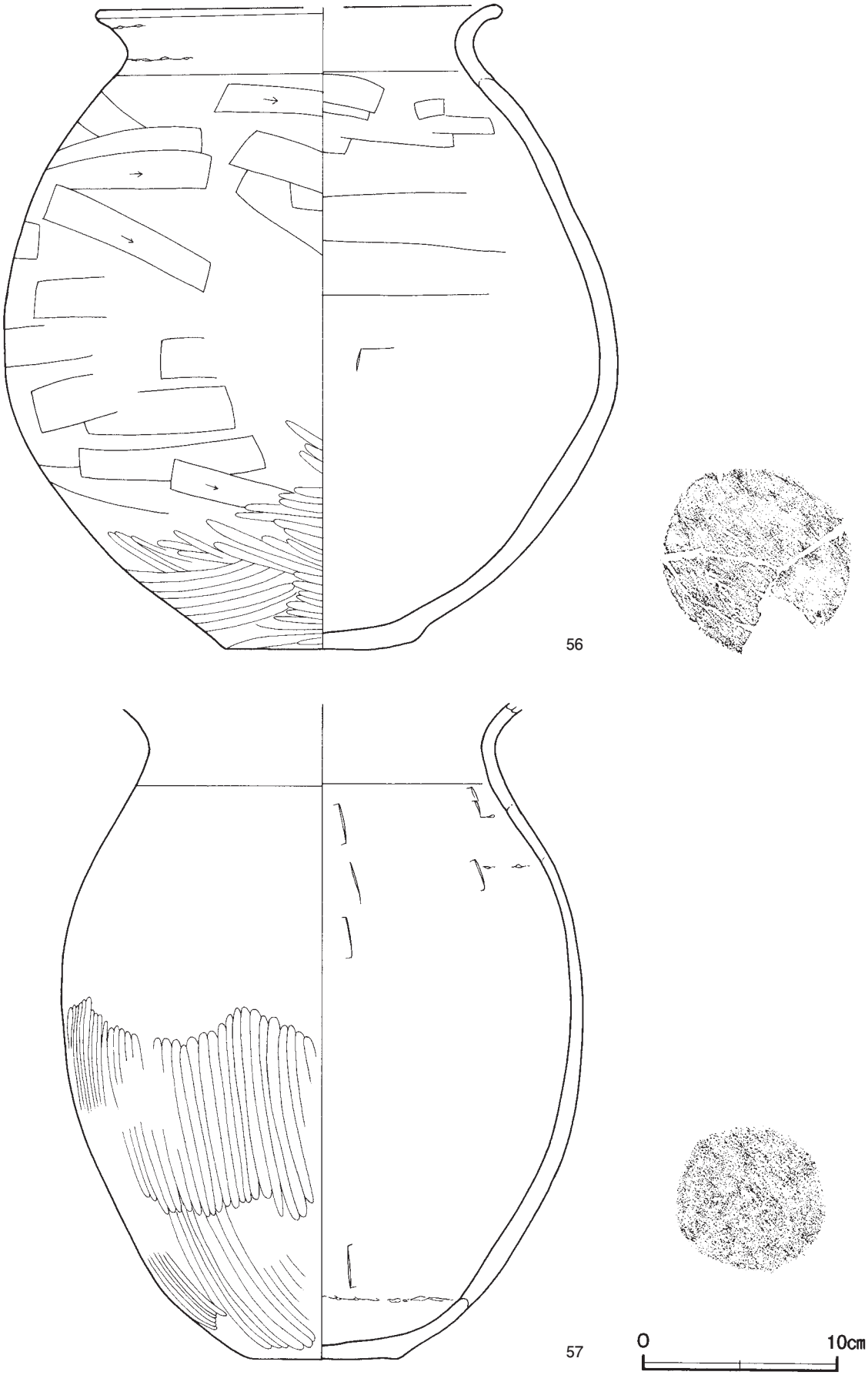
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

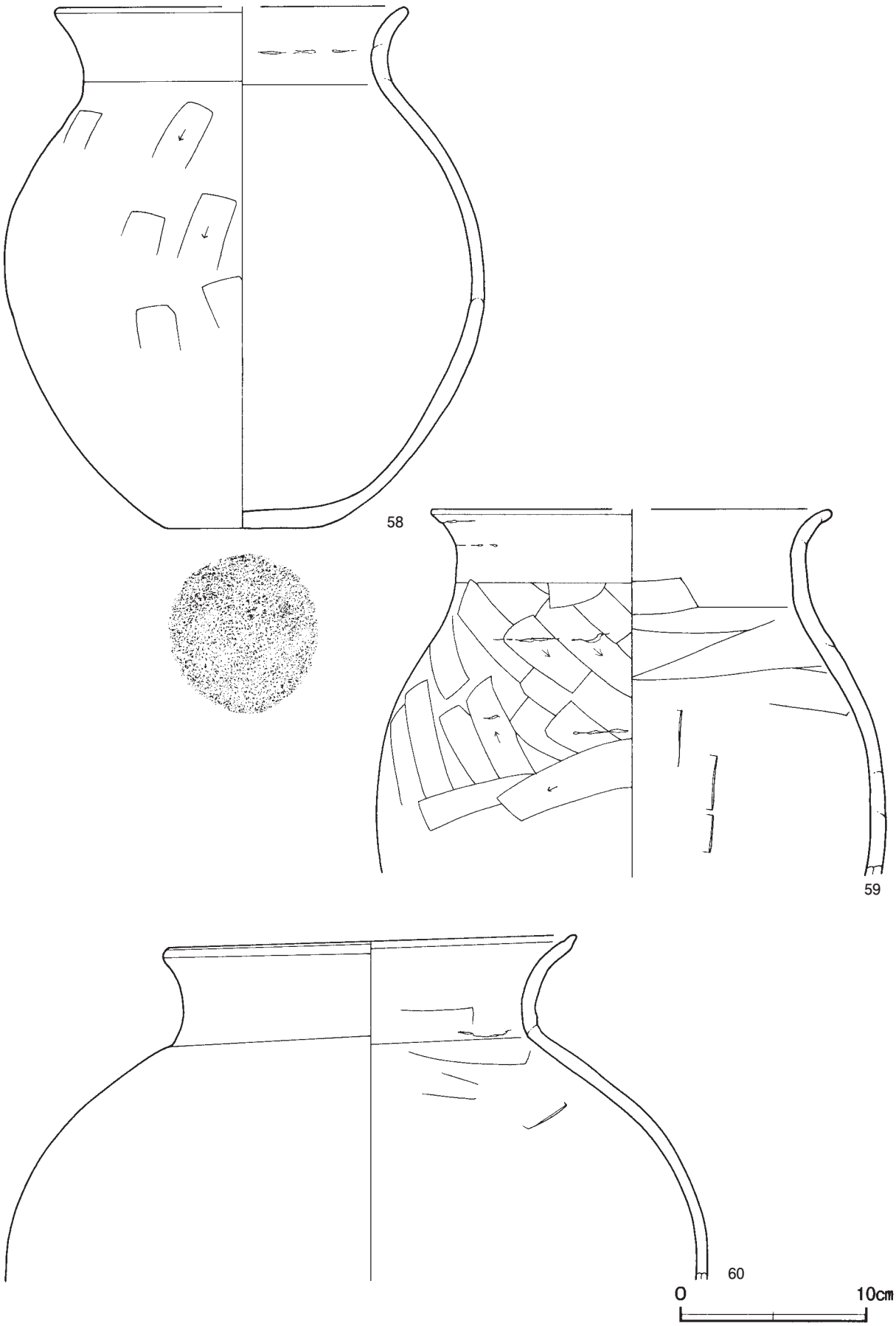
遺物出土状況　土師器片 2863 点（坏 333，椀３，高坏 32，壺１，甕類 2481，小形甕６，甑６，手捏土器１），須恵器片 54 点（坏２，蓋３，高坏３，甕類 39，瓶類７），土製品６点（勾玉３，土玉１，不明２），石器１点（不明），鉄滓２点（25 g）が，竈前から中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。そのほか，混入したナイフ形石器１点も出土している。43 は北東部，DP ７は東部，Q ５は西部，52・DP ６は北西部，DP ８は中央部の床面からそれぞれ出土している。42・46・55・58・62・63・66 は中央部，45・50 は北東部の覆土下



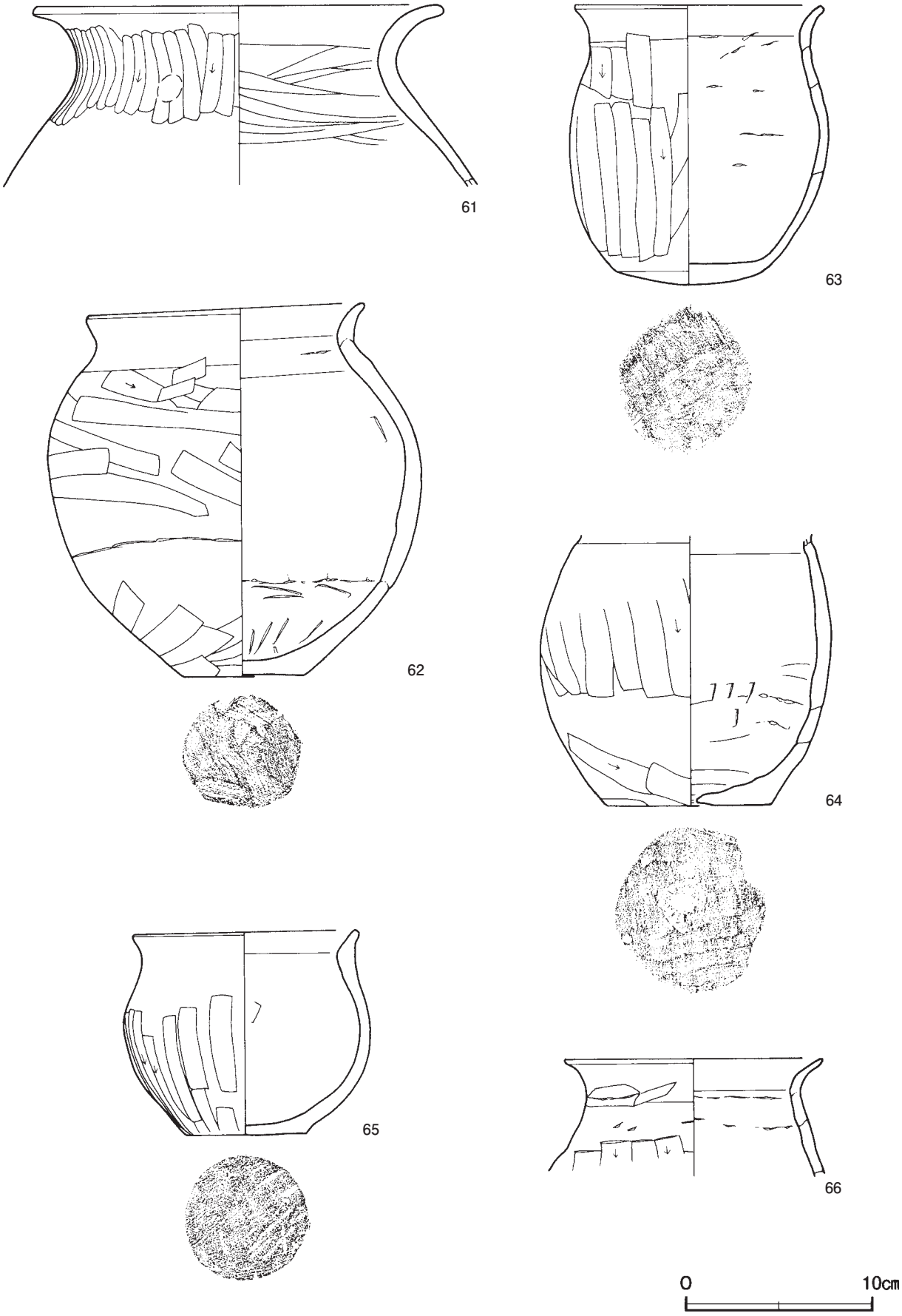
第 28 図　第 2835 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



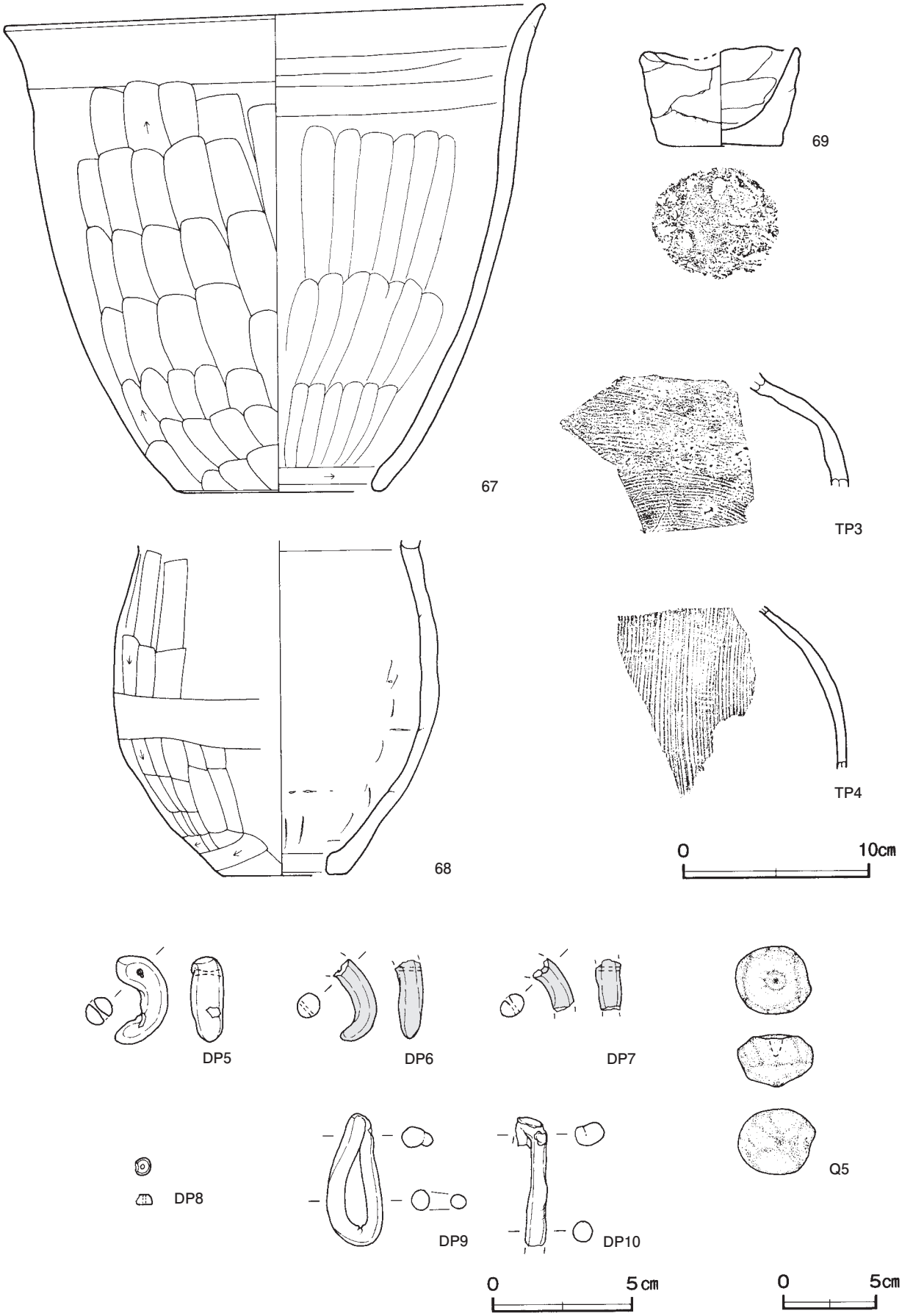
第 29 図　第 2835 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 30 図　第 2835 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 31 図　第 2835 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)



第 32 図　第 2835 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (5)

層からそれぞれ出土している。57 は竈の火床面と西部の床面から出土した破片２点が接合したものである。DP ９・10 は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。54・68 は竈西側の覆土下層からそれぞれ出土している。48・51・61 は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。47 は貯蔵穴の覆土下層と貯蔵穴の南側の覆土下層から出土した破片２点が接合したものである。49 は貯蔵穴の覆土下層と中央部の覆土中層から出土した破片２点が接合したものである。44 は貯蔵穴の覆土上層から出土している。65 はＰ４の覆土中層から出土している。59・64・67・69 は中央部，TP ４は北東部，TP ３・DP ５は東部，56・60 は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。53 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。

第 2835 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 28 ～ 32 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	土師器	坏	13.0	5.1	－	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	70%
43	土師器	坏	13.0	4.5	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL24
44	土師器	坏	13.0	4.5	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後磨き　輪積痕	貯蔵穴覆土上層	95%
45	土師器	坏	12.4	4.8	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	覆土下層	95%　PL24
46	土師器	坏	11.1	3.7	7.7	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　ヘラナデ	覆土下層	80%　PL24
47	土師器	高坏	13.6	10.2	10.4	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面縦位のヘラ削り	貯蔵穴覆土下層 覆土下層	95%　PL24
48	土師器	高坏	13.5	9.8	9.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面縦位のヘラ削り 坏部内面ヘラ磨き	貯蔵穴底面	95%　PL24
49	土師器	高坏	13.3	9.8	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面縦位のヘラ削り 坏部内面ナデ後横位のヘラ磨き	貯蔵穴覆土下層 覆土中層	95%　PL24
50	土師器	高坏	12.8	8.9	［9.8］	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面縦位のヘラ削り 坏部内面ヘラ磨き	覆土下層	50%
51	土師器	高坏	14.0	8.8	10.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　外面縦位のヘラ削り 坏部内面ヘラ磨き	貯蔵穴底面	95%
52	土師器	高坏	［13.8］	（8.8）	－	長石・石英・雲母	赤褐	良好	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面横位のヘラ削り　坏部内面ヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ削り	床面	25%
53	須恵器	高坏	［12.4］	（3.4）	－	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面回転ヘラ削り	覆土中	20%
54	土師器	壺	［6.4］	14.0	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部外面ヘラ磨き　内面横ナデ　体部外面ヘラ磨き　輪積痕　須恵器提瓶模倣	覆土下層	95%　PL25
55	須恵器	提瓶	－	（11.1）	－	長石・石英・雲母	灰	良好	体部外面カキ目　内面ロクロナデ　指頭痕　把手貼り付け	覆土下層	20%　PL24
56	土師器	甕	20.5	33.1	9.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　下端ヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	60%　PL25
57	土師器	甕	－	（33.6）	7.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	火床面・床面	60%
58	土師器	甕	［18.7］	28.0	8.5	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	70%
59	土師器	甕	［21.4］	（19.6）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	25%
60	土師器	甕	21.9	（18.6）	－	長石・石英・雲母	浅黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ　輪積痕　工具痕	覆土中層	30%
61	土師器	甕	21.3	（9.6）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部上端縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　指頭痕	貯蔵穴底面	20%
62	土師器	小形甕	14.6	20.0	6.5	長石・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	70%　PL26
63	土師器	小形甕	13.2	15.0	8.0	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　底部外側からの穿孔痕　甑転用ヵ　輪積痕	覆土下層	70%
64	土師器	小形甕	－	（14.4）	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面中位縦位のヘラ削り　下端斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	50%
65	土師器	小形甕	11.8	10.9	6.6	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後ヘラナデ　内面ナデ	Ｐ４覆土中層	98%　PL25
66	土師器	小形甕	13.9	（6.5）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	20%
67	土師器	甑	28.9	26.2	11.1	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ　輪積痕	覆土中層	90%　PL25
68	土師器	甑	－	（18.0）	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　下半擦痕　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	40%
69	土師器	手捏土器	8.0	5.3	6.6	長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ　輪積痕　内面ナデ	覆土中層	90%　PL25

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP ３	須恵器	横瓶ヵ	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部外面カキ目　内面ナデ　外面自然釉　TP ４と同一個体ヵ	覆土中層	PL33
TP ４	須恵器	横瓶ヵ	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き後カキ目　内面ナデ　指頭痕 外面自然釉　TP ３と同一個体ヵ	覆土中層	PL33

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 5	勾玉	3.17	1.25	0.2	6.76	長石・石英	ナデ　２方向からの穿孔	覆土中層	PL35
DP 6	勾玉	(2.79)	0.90	－	(2.89)	長石・石英・赤色粒子	一部欠損　ナデ　穿孔痕	床面	PL35
DP 7	勾玉	(1.88)	0.86	－	(1.69)	長石・石英・赤色粒子	一部欠損　ナデ　穿孔痕	床面	PL35

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 8	土玉	0.6	0.4	0.2	0.15	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔　外面黒色処理	床面	PL34

番号	器　種	長さ	最小径	最大径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 9	不明	4.8	0.5	0.9	6.04	長石・石英	ナデ　紐状の粘土を折り返して接着	竈覆土下層	PL35
DP10	不明	(4.6)	0.5	0.9	(3.73)	長石・石英	一部欠損　ナデ　紐状の粘土を折り返して接着	竈覆土下層	PL35

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 5	不明	3.9	2.8	1.1	34.8	砂岩	紡錘車未製品ヵ　研磨痕　穿孔痕	床面	PL37

第 2836 号竪穴建物跡（第 33 図）

位置　調査区南部のＫ７c6 区，標高 22 ｍの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 322 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.05 ｍ，短軸 3.95 ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は 35 ～ 45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，竈前が踏み固められている。北壁から東壁にかけての壁下の一部で，幅 10 ～ 18cm，深さ３～５cmで，浅いＵ字形の壁溝を確認した。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 106cmで，燃焼部幅は 40cmである。袖部は床面を５cm掘りくぼめた後，第８・９層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第６・７層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外へ 20cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
6　にぶい橙　粘土粒子中量，焼土粒子微量
7　明　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 37 ～ 63cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 14cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

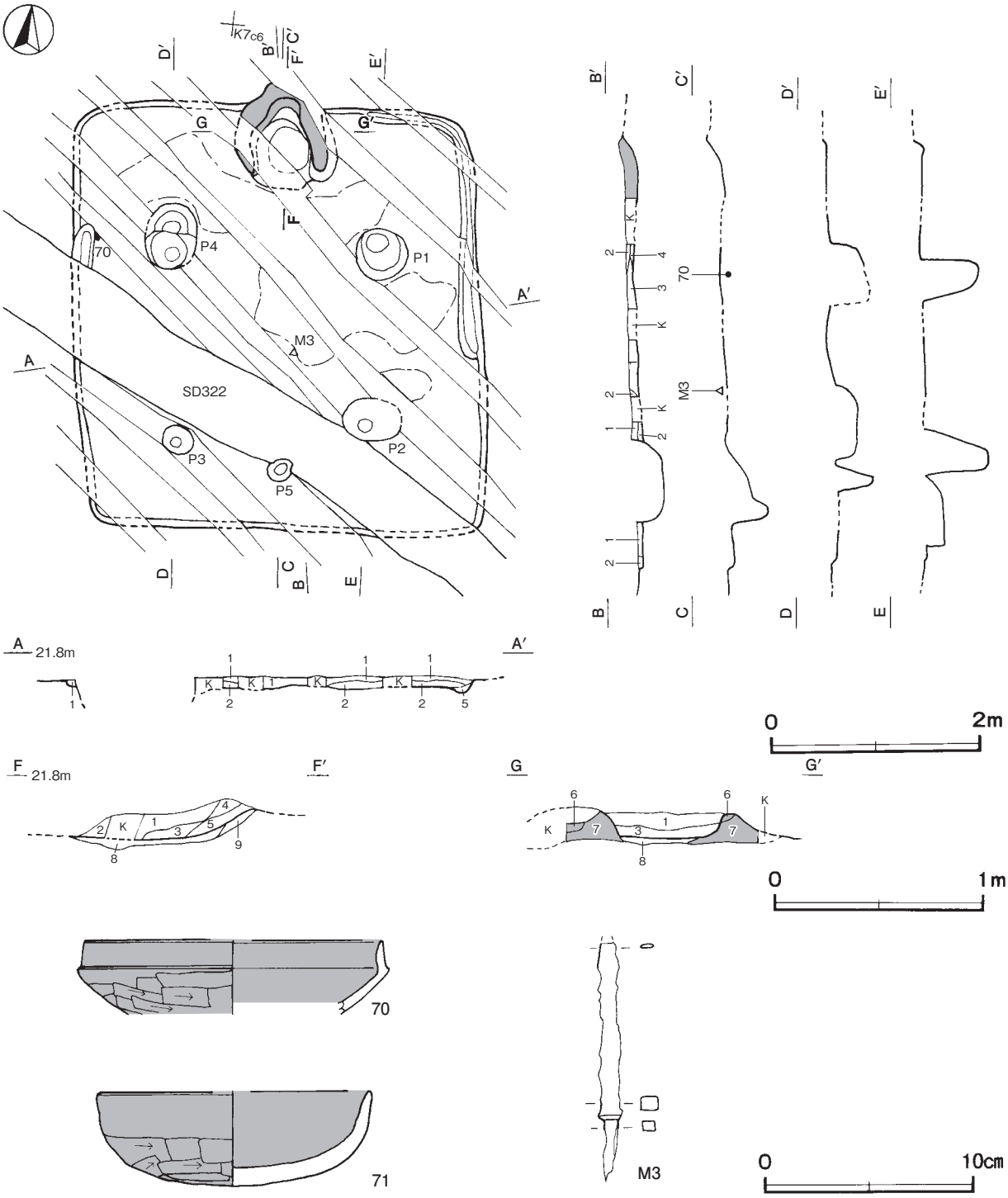
覆土　５層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 129 点（坏 23，甕類 106），須恵器片５点（蓋１，甕類４），鉄製品２点（鏃，釘）が出土している。そのほか，混入した陶器片１点（甕）も出土している。70 は西部の床面から出土している。Ｍ３は中央部の覆土下層から出土している。71 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 33 図　第 2836 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 2836 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 33 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
70	土師器	坏	[14.2]	(3.5)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	10%
71	土師器	坏	[13.0]	4.4	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	60%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M 3	鉄鏃	(11.49)	1.06	0.70	(18.1)	鉄	先端部欠損　三角形式　撫関	覆土下層	PL38

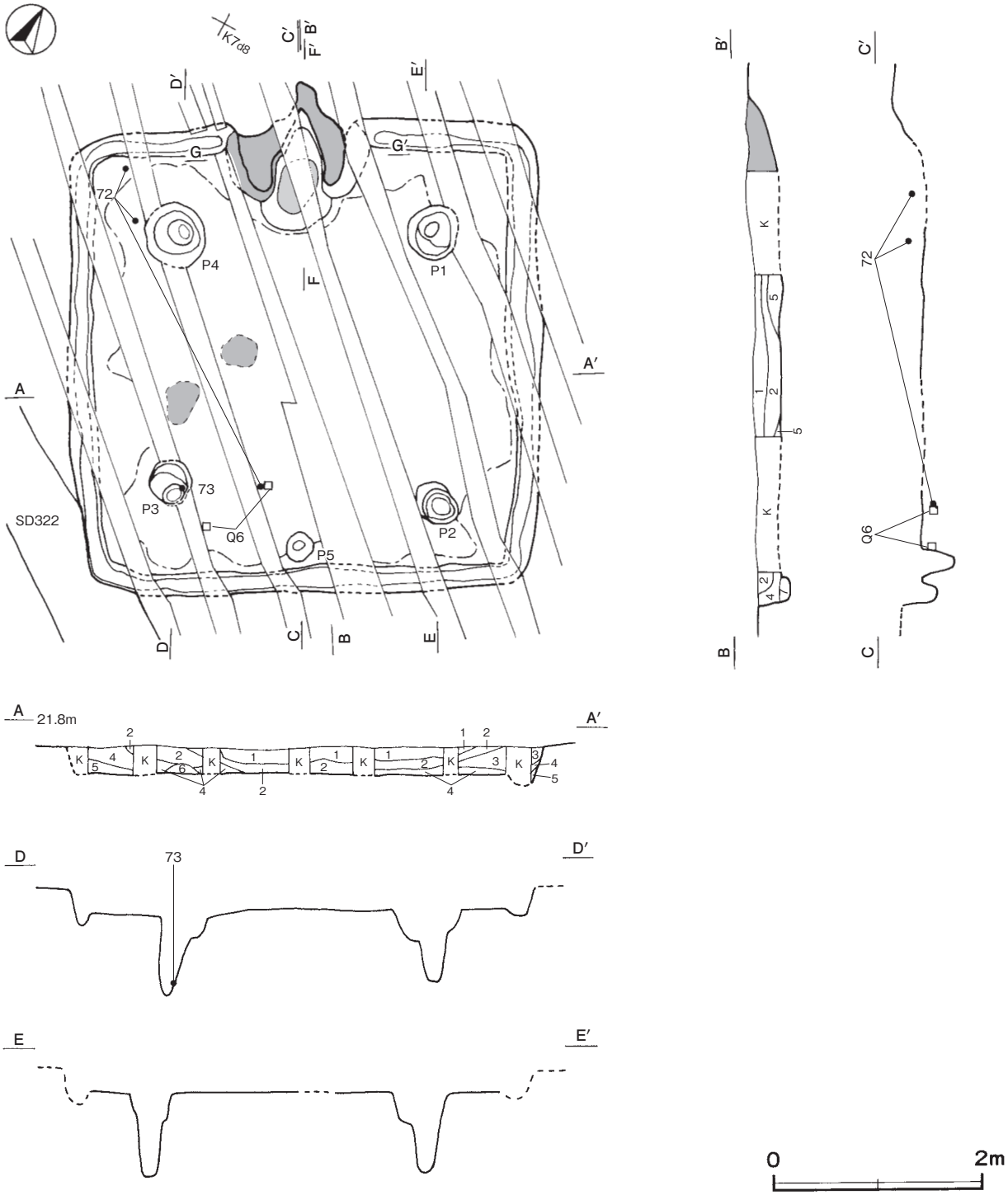
第 2837 号竪穴建物跡（第 34・35 図）

位置　調査区南部のＫ７d8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

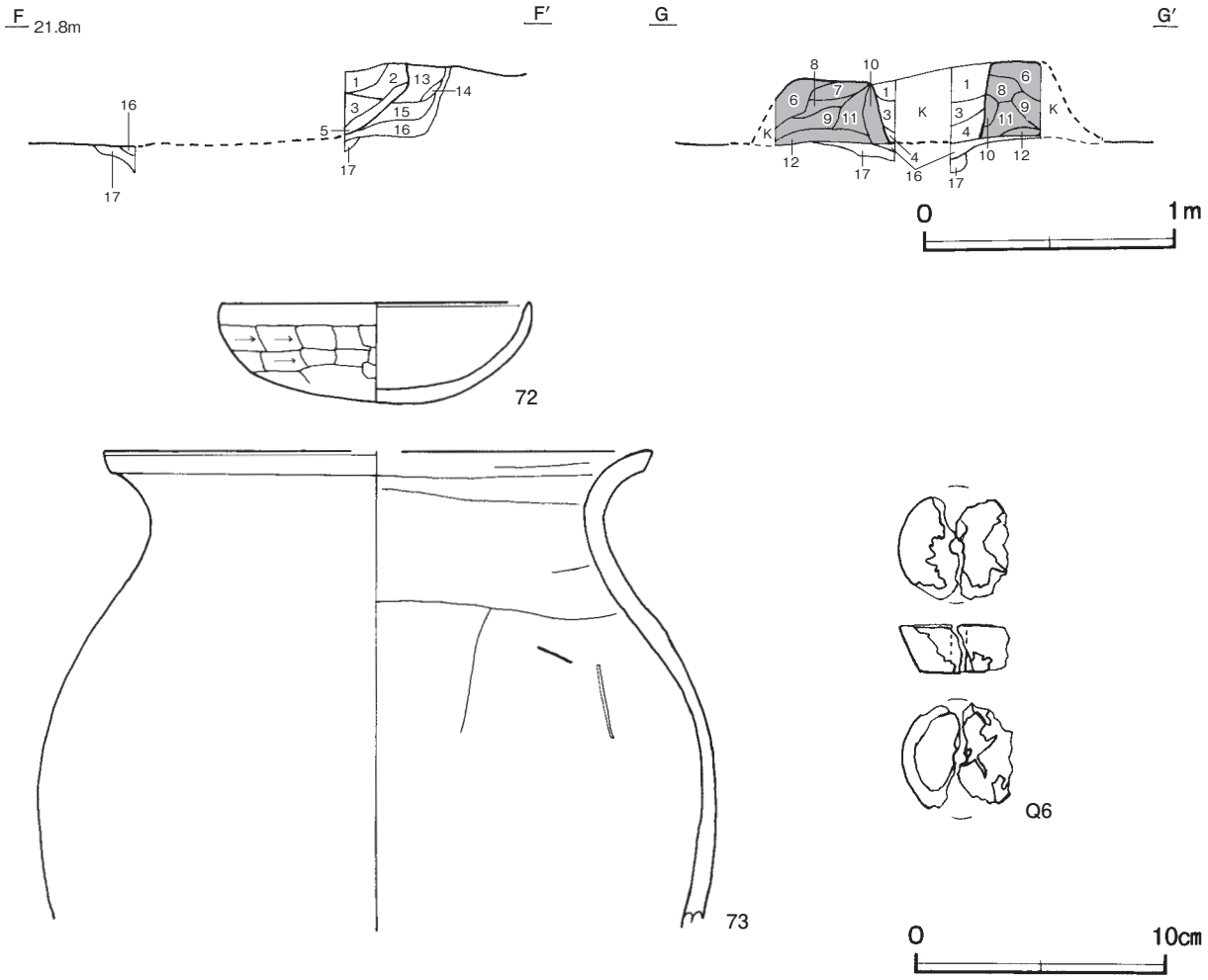
重複関係　第 322 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　一辺が 4.55 mの方形で，主軸方向はＮ－ 29°－Ｗである。壁高は 19 ～ 24cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，壁下までほぼ全面が踏み固められている。壁下には，幅 17 ～ 25cm，深さ５～ 14cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。



第 34 図　第 2837 号竪穴建物跡実測図



第35図　第2837号竪穴建物跡出土遺物・出土遺物実測図

竈　北壁のほぼ中央に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで143cmで，燃焼部幅は45cmである。袖部は床面を8cm掘りくぼめた後，第16・17層を埋土して，砂質粘土を主体とした第6～12層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。奥壁には第13～15層を貼り付けて補強している。

竈土層解説

1	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	暗 赤 褐 色	ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
6	明 赤 褐 色	焼土ブロック多量，粘土粒子中量
7	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
8	褐　　色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
9	褐　　色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
10	灰 黄 褐 色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
11	にぶい黄褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
12	灰　褐　色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子中量
13	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
14	にぶい赤褐色	灰中量，焼土ブロック・炭化物少量
15	黒　褐　色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子･炭化粒子少量，ロームブロック微量
16	暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
17	極 暗 褐 色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量

ピット　5か所。P1～P4は深さ72～81cmで，規模と配置から主柱穴である。P5は深さ38cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
6　にぶい褐色　粘土粒子多量，ロームブロック微量
7　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片265点（坏38，甕類226，甑1），石器1点（紡錘車）が出土している。そのほか，混入した銭貨1点（文久永寶）も出土している。72は南部の床面と北西コーナー部の覆土中層から出土した破片3点が接合したものである。Q6は南部の床面から出土した破片2点が接合したものである。73はP3の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第2837号竪穴建物跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
72	土師器	坏	12.3	4.0	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面 覆土中層	70%　PL26
73	土師器	甕	［22.0］	（19.1）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ	P3覆土下層	10%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q6	紡錘車	［4.7］	1.9	0.6	（36.5）	凝灰岩	欠損　一部剥離　研磨調整　穿孔痕	床面	

第2838号竪穴建物跡（第36～39図）

位置　調査区中央部のJ8d2区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸6.45m，短軸6.25mの方形で，主軸方向はN－21°－Wである。壁高は30～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅16～30cm，深さ5～11cmで，浅いU字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで，燃焼部幅は45cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を主体とした第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面を18cm掘りくぼめた後，焼土・砂質粘土を多量に含んだ第10層を埋土して構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ55cm掘り込まれ，奥壁の下端に段を有し，直立している。第2層は天井部の崩落土である。

竈土層解説

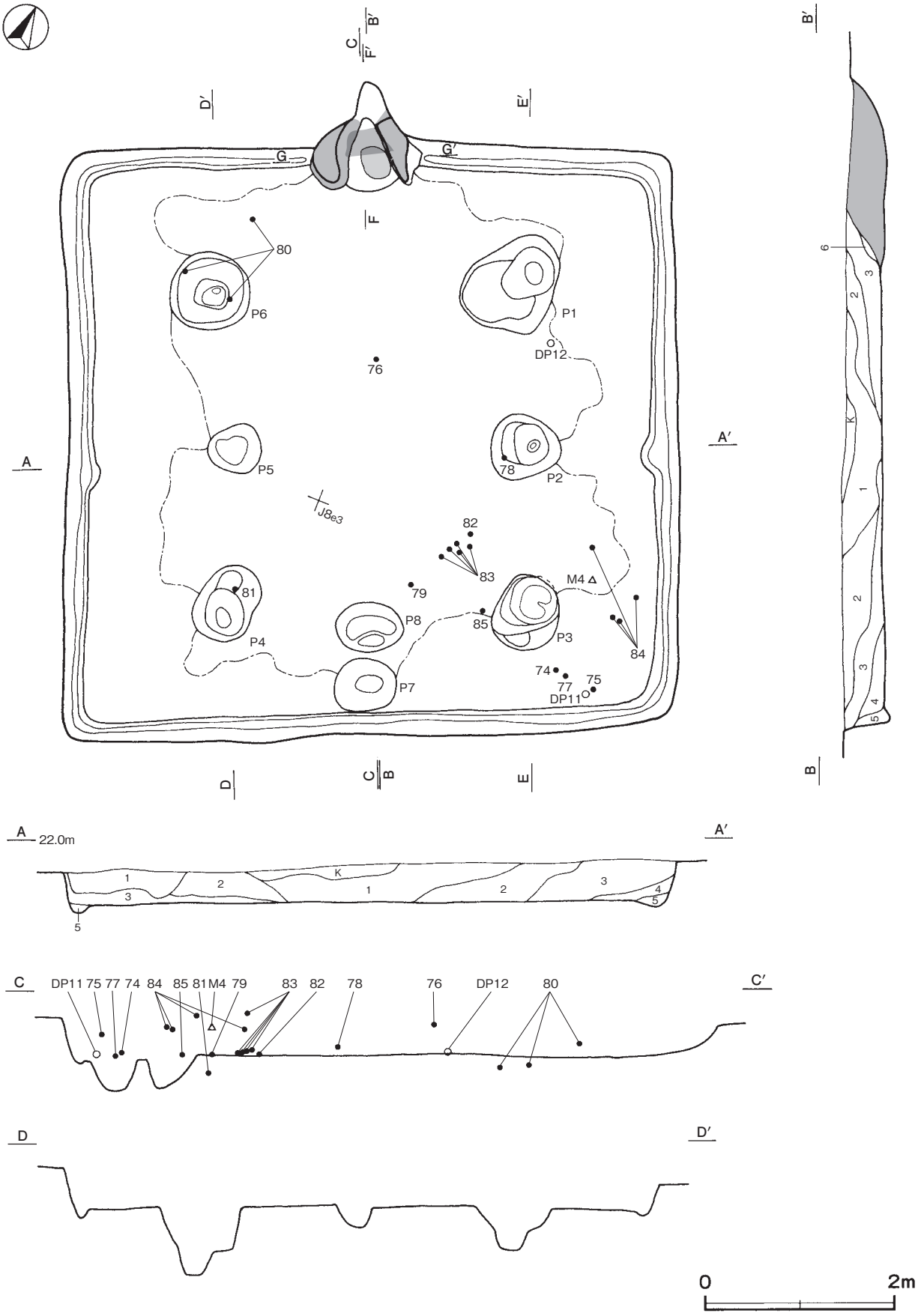
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰　白　色　粘土粒子多量，炭化物・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
5　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
7　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
9　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子微量
10　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子多量，ローム粒子中量

ピット　8か所。P1～P6は深さ22～77cmで，規模と配置から主柱穴である。P7・P8は深さ36cm・35cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

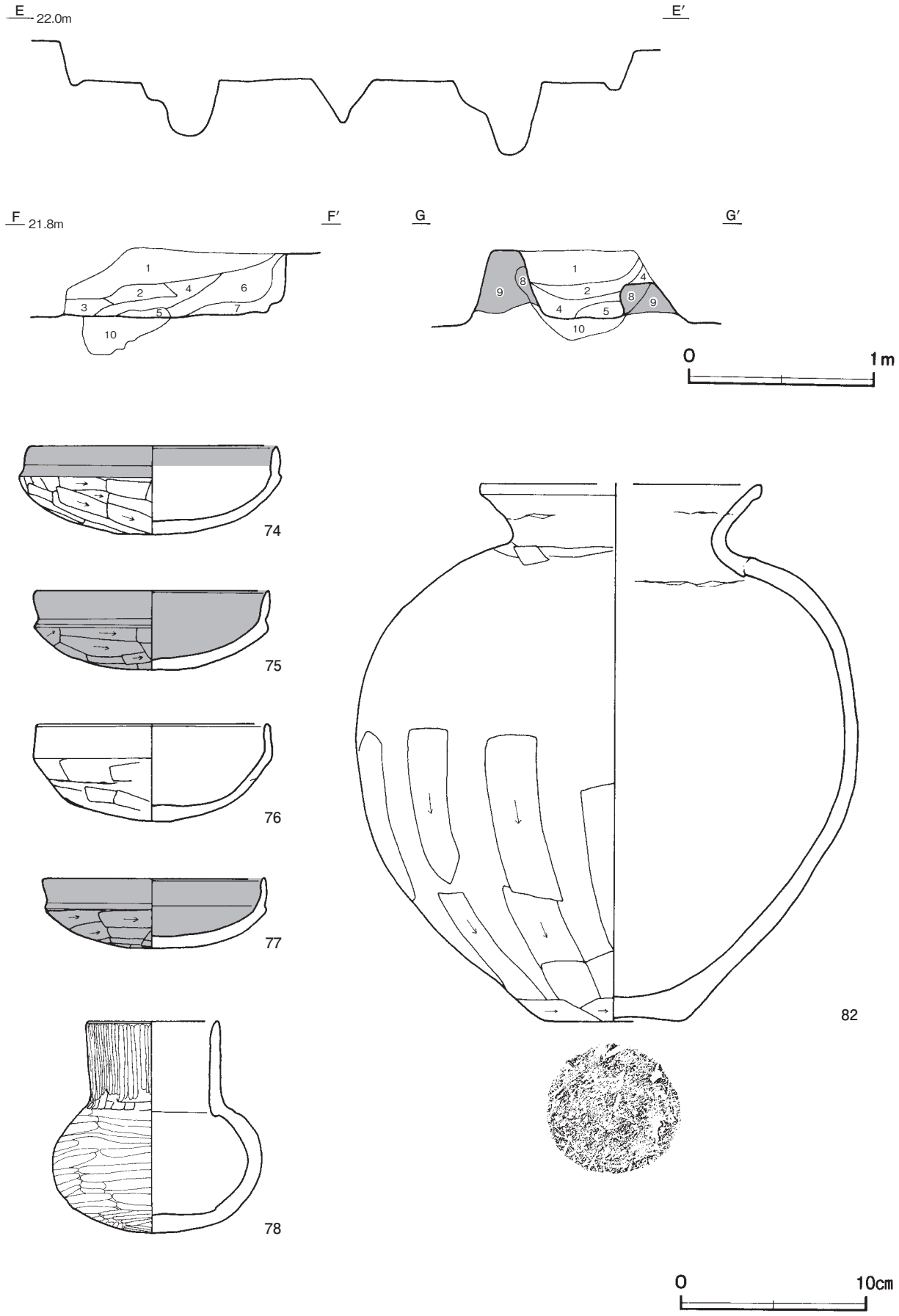
覆土　6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

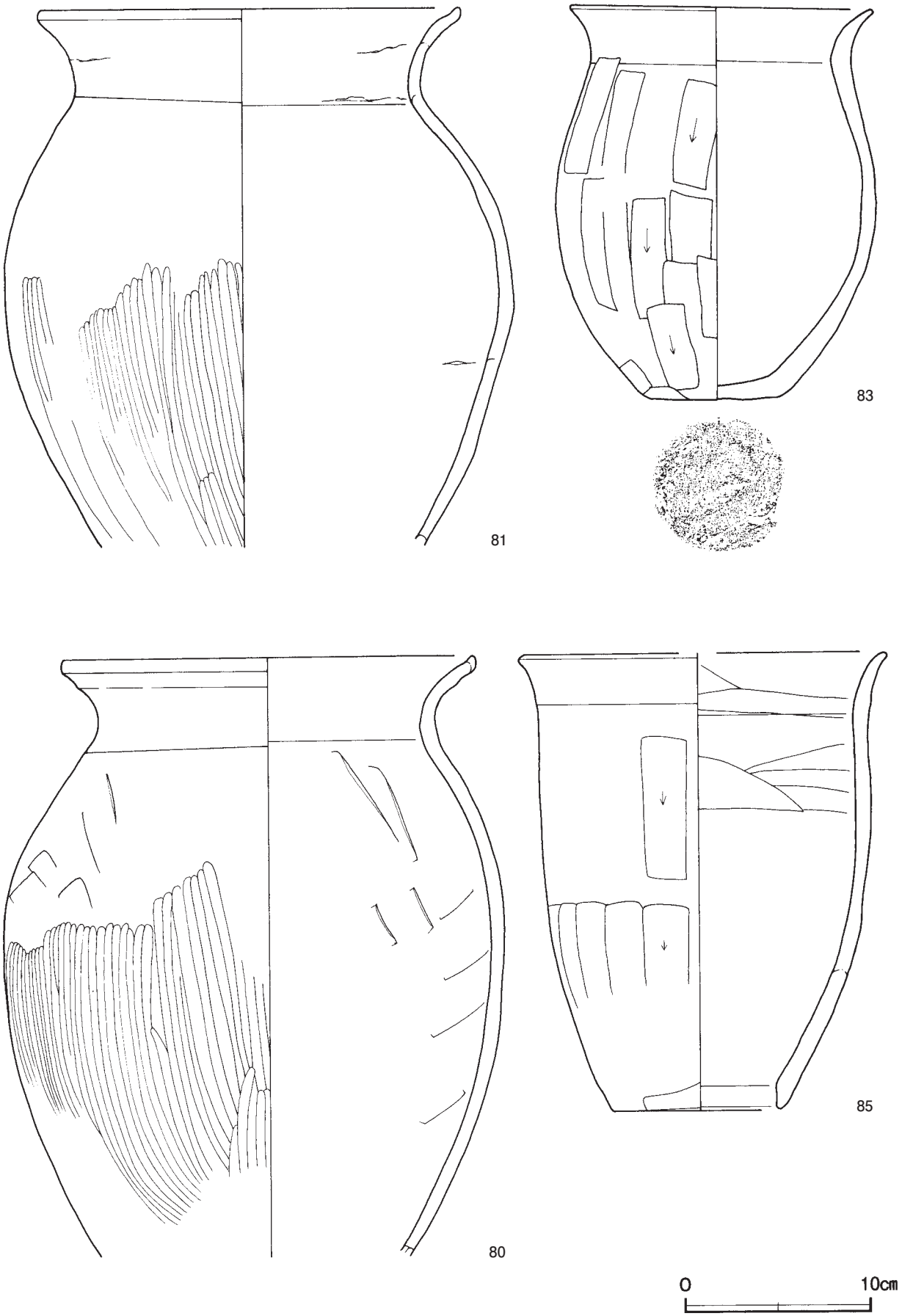
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　にぶい褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



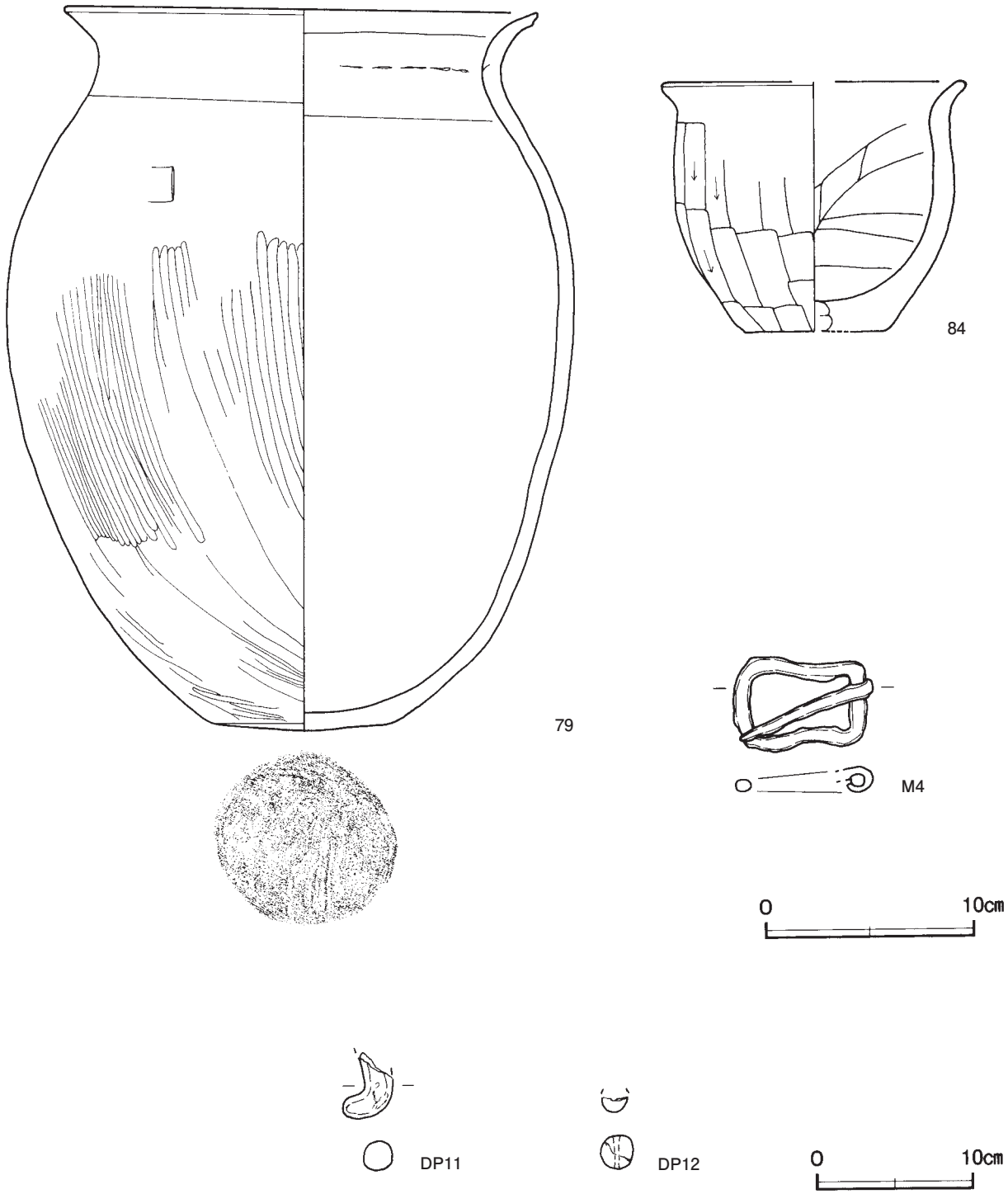
第 36 図　第 2838 号竪穴建物跡実測図



第 37 図　第 2838 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 38 図　第 2838 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 39 図　第 2838 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況　土師器片 1735 点（坏 383，高坏４，壺２，甕類 1343，小形甕２，甑１），須恵器片 29 点（坏１，瓶類５，甕類 23），土製品８点（勾玉１，土玉１，支脚６），鉄製品１点（鉸具），貝３点（シジミヵ），焼成粘土塊４点が，全域の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか，混入した縄文土器片６点（深鉢），石器１点（石錐）も出土している。74・77・85・DP11 は南東部，79 は南部，82 は中央部，DP12 は東部の床面からそれぞれ出土している。83 は，中央部の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。76 は中央部，75・M ４南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。84 は，南東部の覆土上層から中層にか

けて出土した破片が接合したものである。78はＰ２の覆土上層から出土している。80は，北西部の覆土中層とＰ６の覆土上層から出土した破片が接合したものである。81はＰ４の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀中葉に比定できる。

第2838号竪穴建物跡出土遺物観察表（第37～39図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
74	土師器	坏	13.2	4.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	80%　PL26
75	土師器	坏	12.6	4.2	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後磨き　輪積痕	覆土中層	95%　PL26
76	土師器	坏	12.4	5.2	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　輪積痕　内面ナデ	覆土中層	70%
77	土師器	坏	11.9	3.8	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%
78	土師器	壺	7.0	11.4	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面縦位のヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ヘラ磨き	Ｐ２覆土上層	95%　PL26
79	土師器	甕	22.8	34.6	8.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　内面輪積痕	床面	80%　PL26
80	土師器	甕	22.2	(32.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中層 Ｐ６覆土上層	60%
81	土師器	甕	22.7	(29.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ナデ　外・内面輪積痕	Ｐ４覆土中層	60%
82	土師器	甕	[15.0]	29.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り下端横位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	75%　PL27
83	土師器	小形甕	16.2	21.3	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土上層～床面	60%　PL26
84	土師器	小形甕	[14.2]	12.0	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土上層～覆土中層	60%　PL26
85	土師器	甑	[19.5]	24.7	9.2	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	80%

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP11	勾玉	(2.15)	0.94	－	(2.67)	長石・石英	欠損　ナデ	床面	PL35

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP12	土玉	(0.90)	(0.48)	－	(0.56)	長石・石英	欠損　ナデ　穿孔痕	床面	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｍ４	鉸具	6.75	4.58	1.29	36.1	鉄	中位屈曲　可動式　馬具	覆土中層	PL38

第2839号竪穴建物跡（第40・41図）

位置　調査区東部のＪ8e8区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第5305・5306号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.30ｍ，短軸4.95ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は35～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～20cm，深さ12～20cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで125cmで，燃焼部幅は45cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土を主体とした第８～10層を積み上げて構築されている。火床部は床面より12cmくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ，奥壁で内傾しながら立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子微量
7　灰　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
8　灰　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック少量

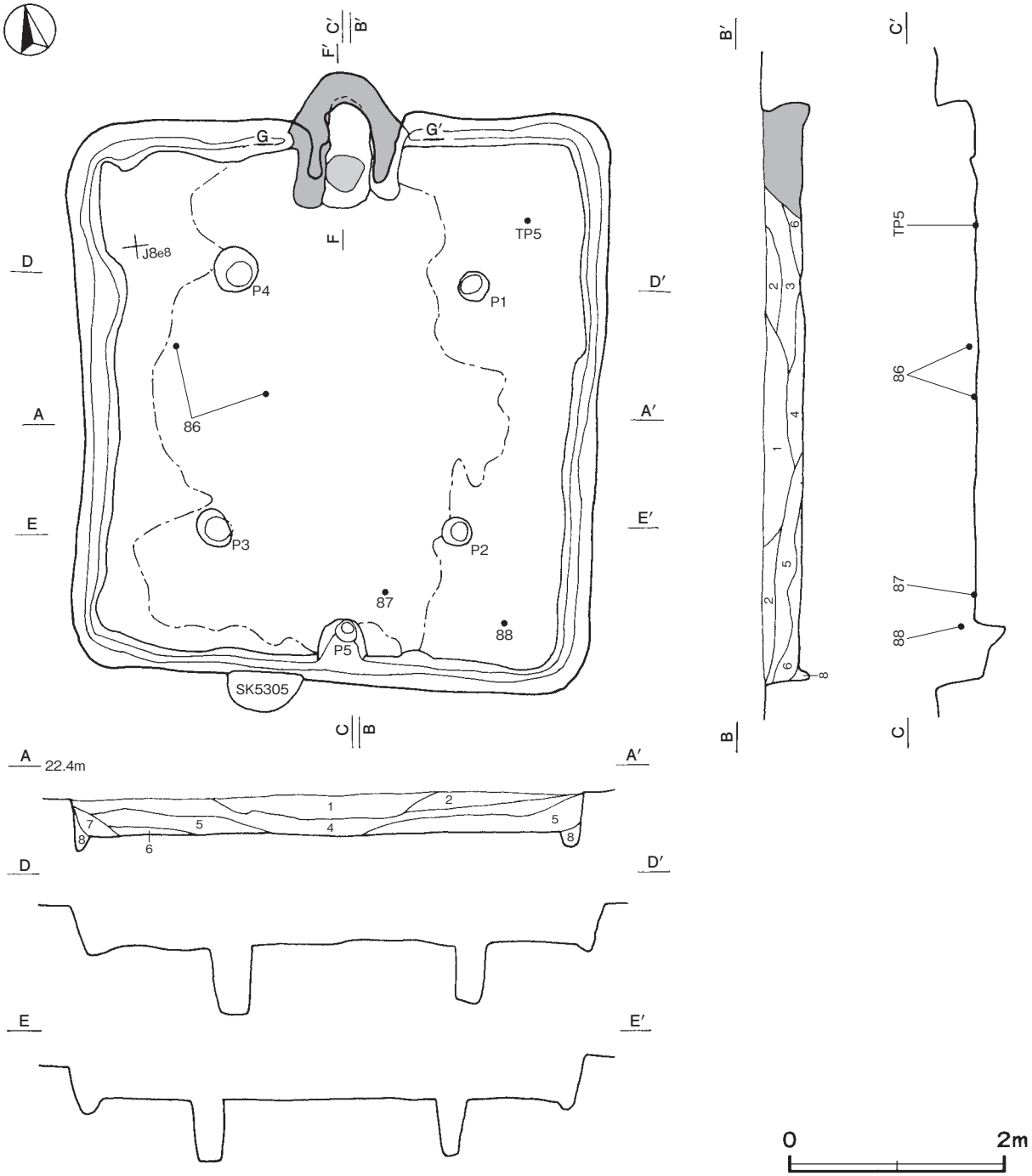
9　赤　褐　色　焼土粒子・粘土粒子多量
10　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，炭化物微量
11　赤　褐　色　焼土粒子多量，ロームブロック中量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 55 ～ 62cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 33cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　８層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

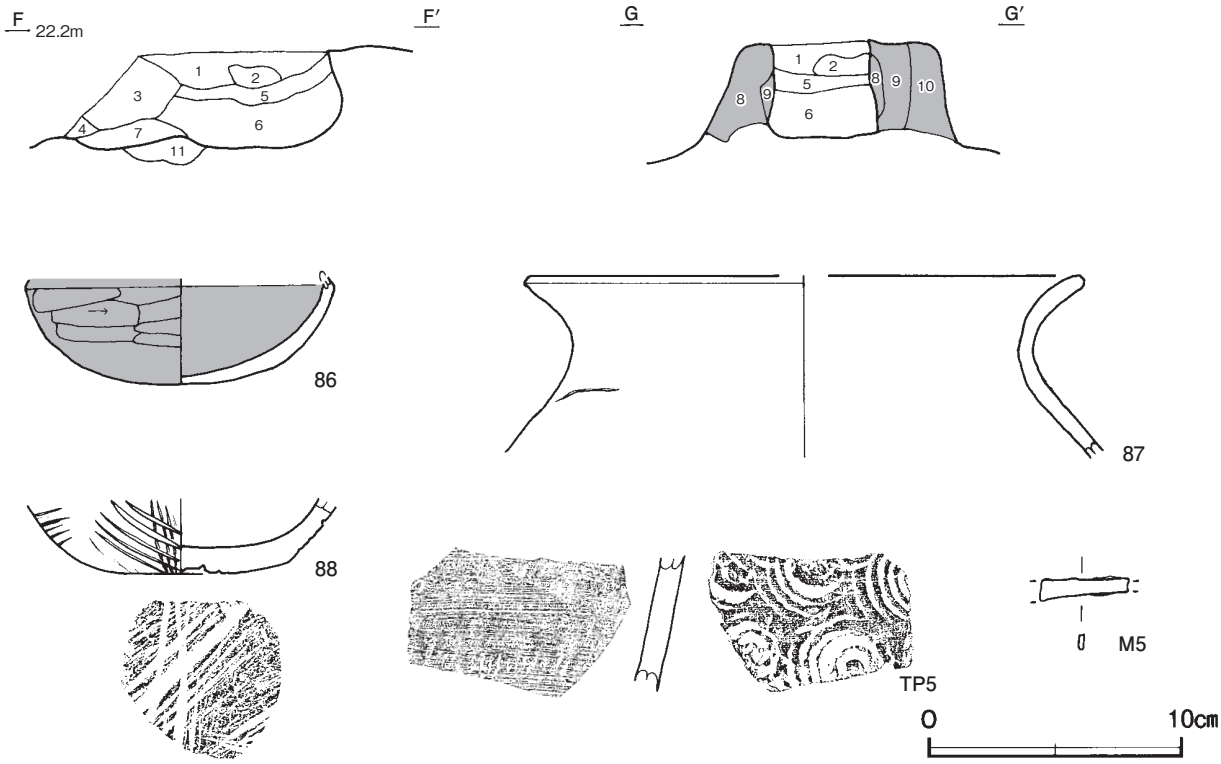
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子多量
7　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量



第 40 図　第 2839 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 408 点（坏 84，甕類 324），須恵器片２点（甕類），鉄製品１点（刀子），焼成粘土塊１点，礫１点が，全域の覆土中層から床面にかけて散在して出土している。86 は，西部の床面と覆土下層から出土した破片２点が接合したものである。87 は南部，TP ５は北東部の床面からそれぞれ出土している。88 は南東部の覆土下層から出土している。Ｍ５は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。



第 41 図　第 2839 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 2839 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 41 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
86	土師器	坏	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　外・内面劣化による剥離顕著	床面 覆土下層	95%　PL26
87	土師器	甕	[21.8]	(7.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	10%
88	土師器	甕	－	(3.0)	[8.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面下端・底部外面砥石転用　筋状に擦り痕	覆土下層	５%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP ５	須恵器	甕	長石・石英	灰	普通	外面縦位の平行叩き後カキ目　内面同心円状の当て具痕 SI2830TP １と同一個体ヵ	床面	PL33

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｍ５	刀子	(3.52)	0.94	0.22	(3.29)	鉄	刃部・茎端部欠損　断面長方形	覆土中	

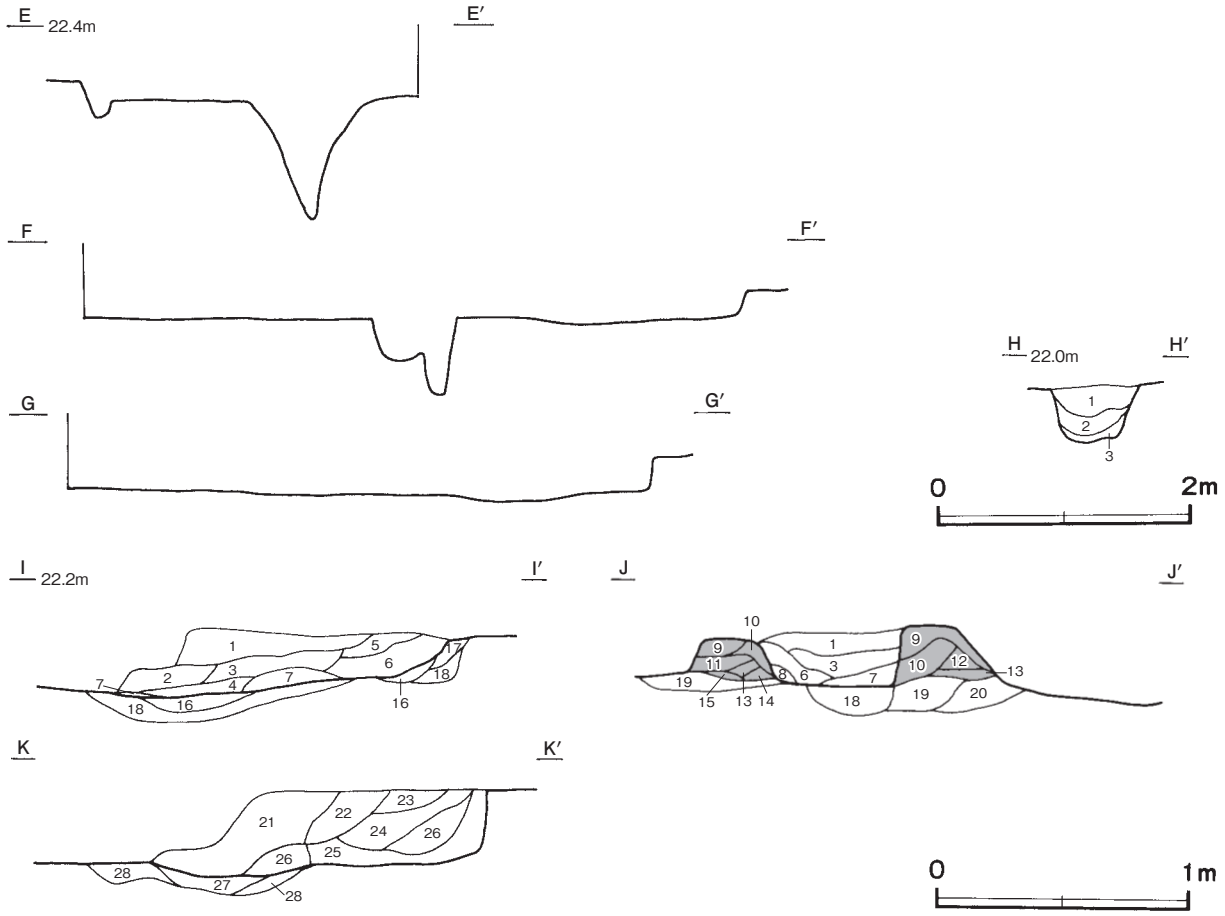
第 2840 号竪穴建物跡（第 42 ～ 44 図）

位置　調査区南東部のＫ８d4 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2830 号竪穴建物に掘り込まれている。

竈1
竈2
91
90
89
DP13
Q7
貯蔵穴
SI 2830 P4
SI 2830 P1
SI 2830 P3
SI 2830 P2
P1
P2
P3
P4
92
K8e4
22.4m

第 42 図　第 2840 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 43 図　第 2840 号竪穴建物跡実測図 (2)

規模と形状　南東半分が調査区域外にあり，長軸は 8.75 m で，短軸は 4.30 m しか確認できなかった。平面形は方形と推定でき，主軸方向はN－15°－Wである。壁高は 10 ～ 18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁下を除いて踏み固められている。壁下には，幅 21 ～ 26cm，深さ 10 ～ 16cmで，浅いU字形の壁溝が巡っている。

竈　２か所。竈１は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 160cmで，燃焼部幅は 52cmである。袖部は床面を 13cm掘りくぼめた後，第 16 ～ 20 層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第９～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 46cm掘り込まれ，奥壁でほぼ直立している。竈２は北壁中央部に付設されており，火床部の一部と煙道部の掘り込みだけを確認した。規模は焚口部から煙道部まで 150cmで，燃焼部幅は不明である。火床部は床面を 15cm掘りくぼめた後，第 27・28 層を埋土して構築されている。火床部は床面より５cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 55cm掘り込まれ，奥壁で直立している。竈２の袖部が遺存していないことや右袖部と考えられる位置に貯蔵穴が掘られていることから，竈２から竈１へ作り替えられている。

竈１土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化物微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　明 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
5　明 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
8　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　灰　黄　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
10　褐　　色　砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
11　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
12　にぶい褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
13　灰　黄　色　砂質粘土ブロック多量
14　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック微量
15　灰　褐　色　ロームブロック・粘土粒子中量
16　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
17　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量
18　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
19　灰黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
20　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量

竈２土層解説

21　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
22　にぶい褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
23　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
24　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
25　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
26　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
27　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
28　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ94cm･98cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３・Ｐ４は深さ18cm･51cmで，主柱穴との間に位置していることから補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴　竈２の東側に位置している。長径70cm，短径62cmの楕円形で，深さは48cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

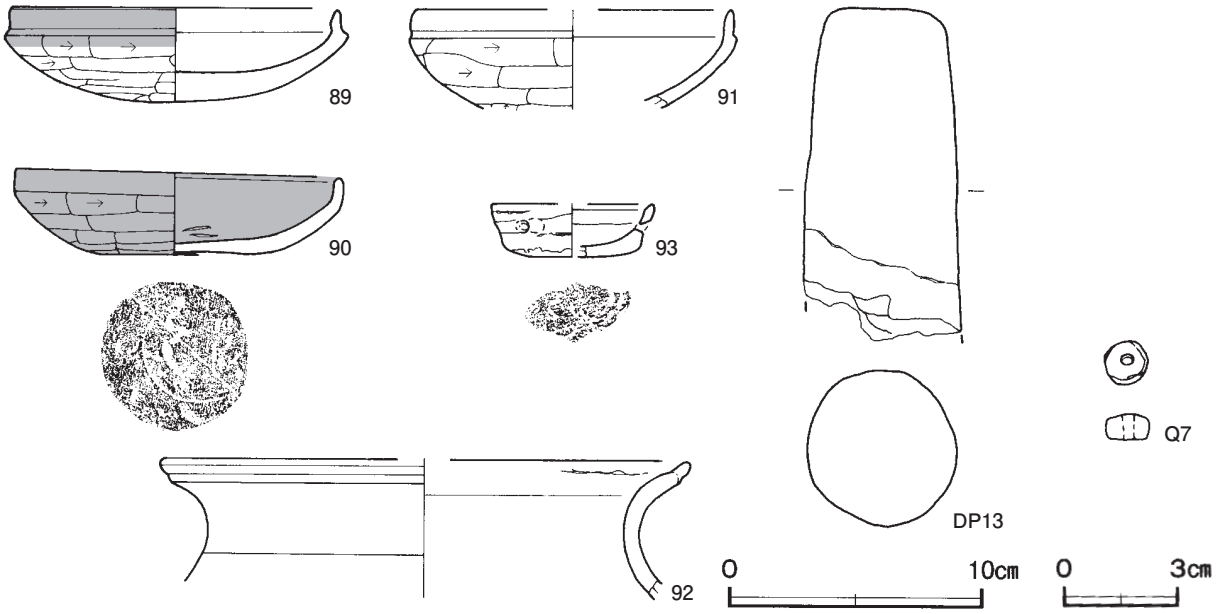
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
9　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片214点（坏91，椀１，甕類122），ミニチュア土器１点，土製品１点（支脚），石製品２点（臼玉，不明）が出土している。90・Ｑ７は，竈１東側の床面からそれぞれ出土している。91は竈１の



第44図　第2840号竪穴建物跡出土遺物実測図

火床部から出土している。92はＰ１の覆土上層から出土している。89は北部，DP13は北西部壁下の覆土中層からそれぞれ出土している。93は竈の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。

第2840号竪穴建物跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	土師器	坏	12.8	3.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	90%　PL27
90	土師器	坏	12.8	3.3	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	90%　PL27
91	土師器	坏	［12.6］	(3.9)	－	長石	にぶい黄橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	竈１火床部	20%
92	土師器	甕	［20.8］	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　輪積痕	Ｐ１覆土上層	10%
93	土師器	ミニチュア	［6.4］	2.1	［5.2］	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部に１か所孔径0.3cmの外面側からの穿孔有り	竈覆土中	40%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP13	支脚	(13.2)	4.9	6.2	(546.7)	長石・石英・赤色粒子	基部欠損　ナデ　被熱痕	覆土中層	PL36

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ７	白玉	1.19	0.69	0.29～0.34	(1.49)	滑石	円筒状　全面研磨　一方向からの穿孔	床面	PL37

第2841号竪穴建物跡（第45・46図）

位置　調査区北部のＩ７i4区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第323号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.95ｍ，短軸5.58ｍの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁高は45～50cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅12～17cm，深さ８～10cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。東壁及び西壁下から柱穴に向かって，幅22～28cm，長さ86～104cm，深さ10～16cmで，断面形が逆台形状の間仕切り溝３条を確認した。また，北東部第323号溝跡との境界付近の床面上に長さ180cm，最大幅70cm，高さ10cmほどの不定形な粘土の広がりを確認した。これに隣接して北壁から床面にかけて，長さ120cm，最大幅60cmほどの半円状の焼土の広がりも確認した。

竈　北壁の中央部に付設されている。北東部が第323号溝に掘り込まれているため，左袖の基部と火床部の一部しか確認できなかった。火床部は床面より11cmくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

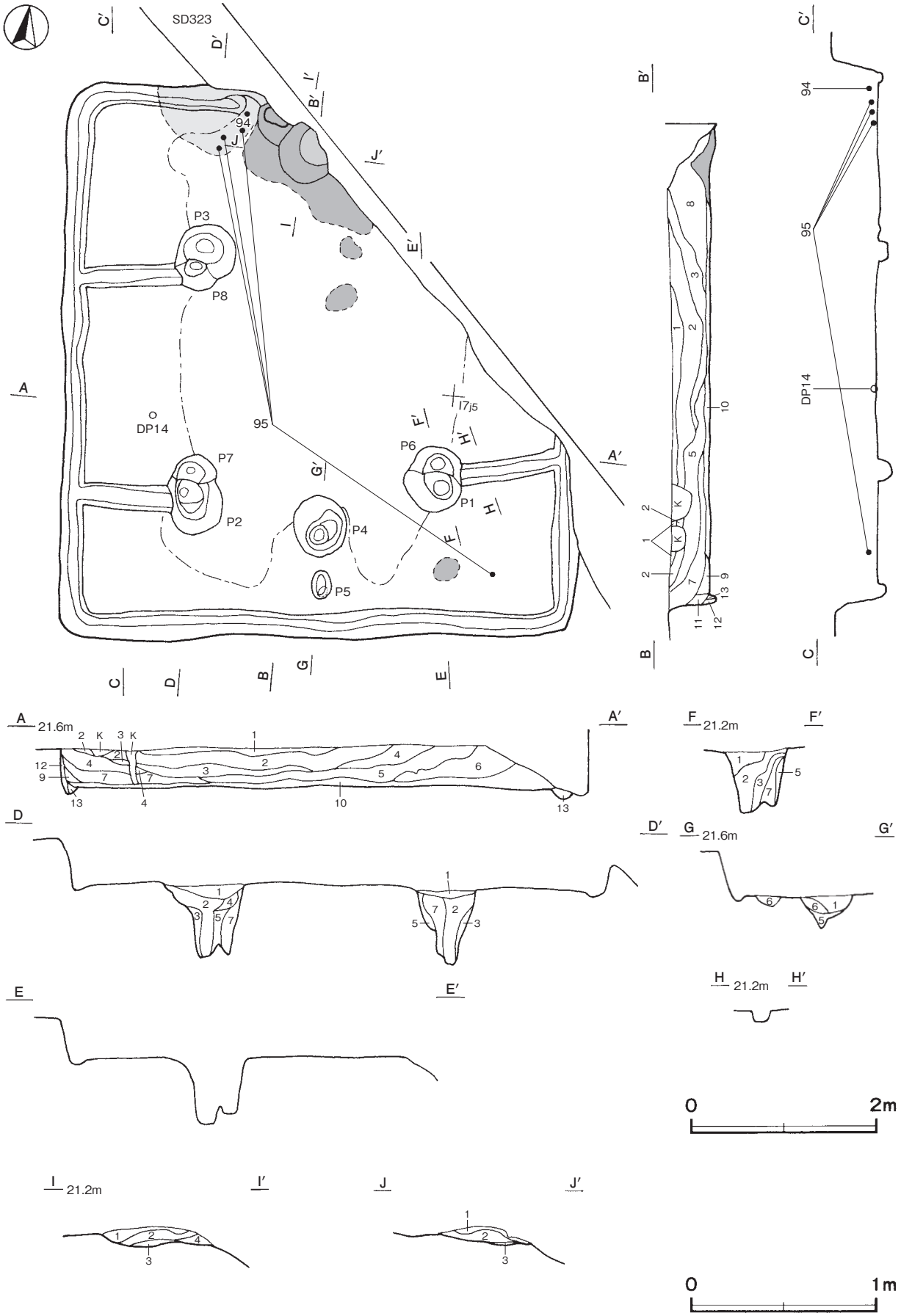
竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物・粘土粒子少量
3　明赤褐色　焼土ブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ71～83cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４・Ｐ５は深さ17cm・42cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ８は深さ61～78cmである。土層観察及び配置状況から，Ｐ６からＰ１へ，Ｐ７からＰ２へ，Ｐ８からＰ３への柱の立て替えが行われている。

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量



第 45 図　第 2841 号竪穴建物跡実測図

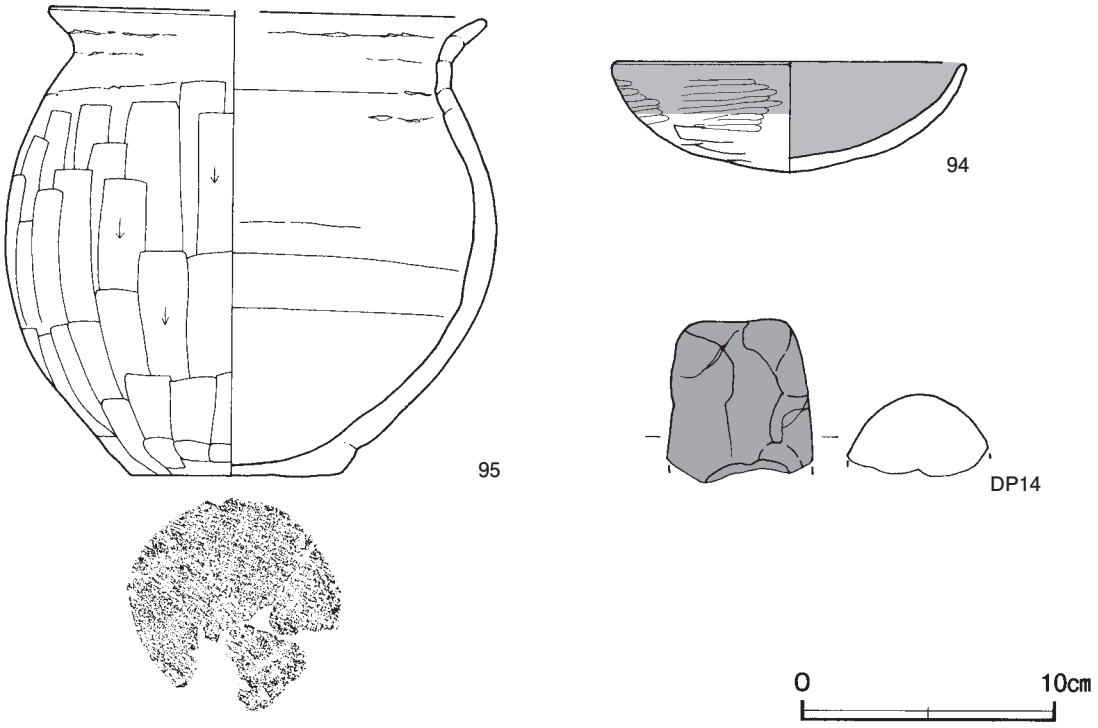
覆土　13 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック･砂質粘土ブロック少量，炭化物･焼土粒子微量
8　灰褐色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
9　黒褐色　ロームブロック少量
10　灰黄褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　灰黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　褐灰色　ロームブロック・炭化粒子少量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 177 点（坏 66，高坏１，甕類 109，小形甕１），須恵器片３点（坏１，甕類２），土製品２点（土玉・支脚），焼成粘土塊７点が出土している。94 は竈西側の覆土下層から出土している。DP14 は西部の床面から出土している。95 は竈西側と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。北部の床面で確認した粘土及び焼土は，本跡が廃絶される際に竈の構築材がその周囲の床面上に広がったものと考えられる。



第 46 図　第 2841 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2841 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 46 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
94	土師器	坏	14.0	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面横位のヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土下層	45%　PL27
95	土師器	小形甕	[17.1]	18.6	8.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	50%　PL28

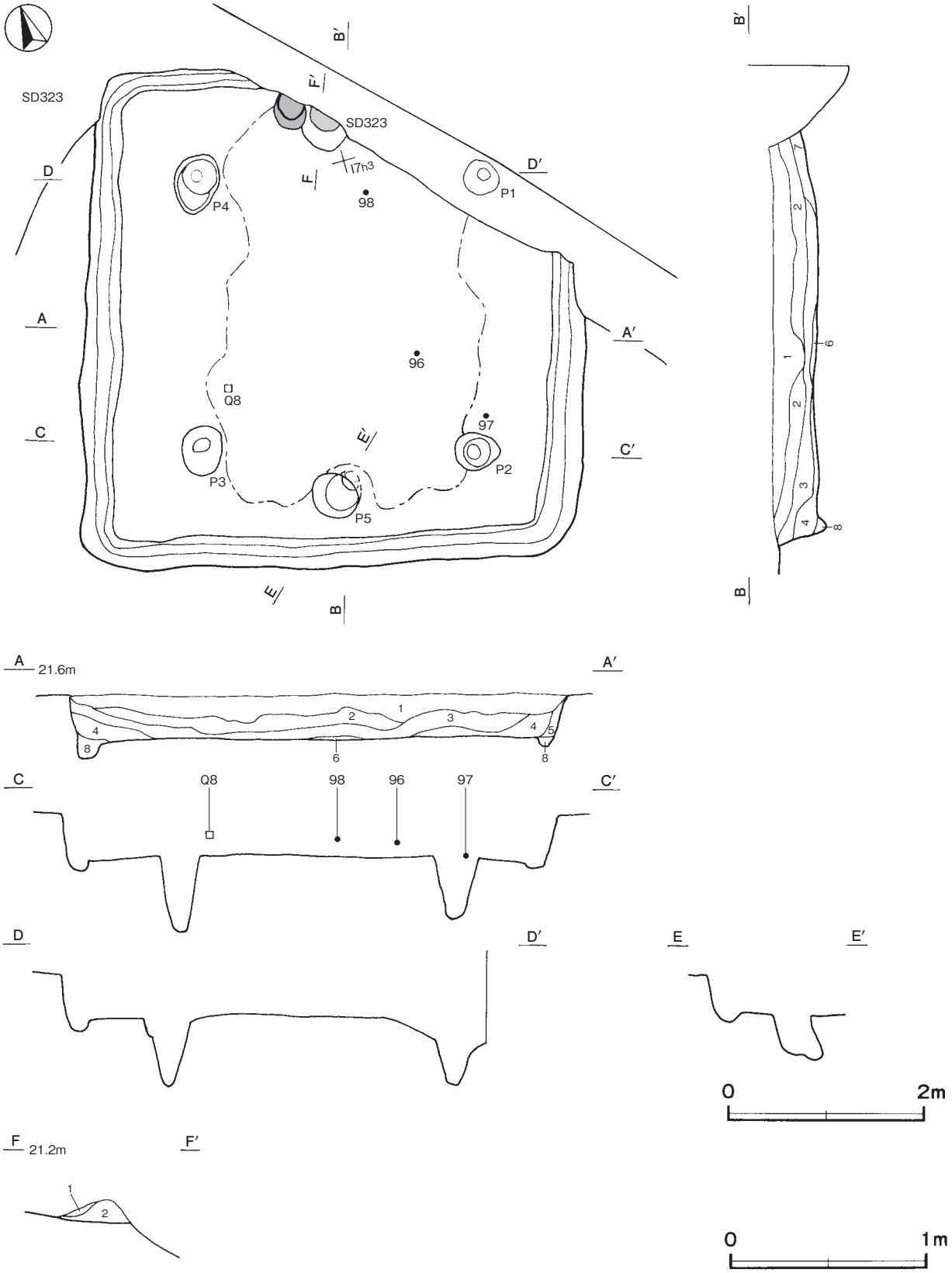
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP14	支脚	(6.5)	4.8	(5.7)	(128.9)	長石・石英・雲母	指頭痕　煤付着	床面	

第 2842 号竪穴建物跡（第 47・48 図）

位置　調査区北部のＩ７h2 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.15 m，短軸 5.10 mの方形で，主軸方向はN－12°－Eである。壁高は 50 ～ 55cmで，ほぼ直立している。



第 47 図　第 2842 号竪穴建物跡実測図

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 17 ～ 22cm，深さ 10 ～ 17cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。北東部が第 323 号溝に掘り込まれているため，左袖と火床部のそれぞれ一部しか確認できなかった。火床部は床面より 12cmくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　灰　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 67 ～ 79cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 48cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

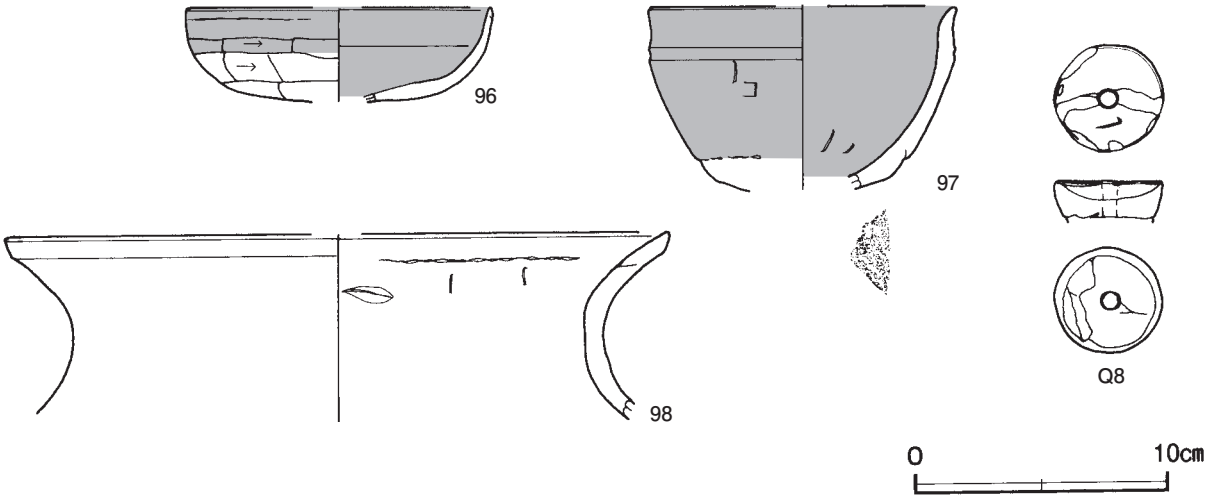
覆土　８層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量
6　オリーブ黄色　粘土粒子多量，ロームブロック少量
7　黒　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 1224 点（坏 357，椀１，高坏４，甕類 861，甑１），須恵器片 10 点（甕類），土製品５点（支脚），石器２点（紡錘車，不明），鉄滓１点（25g）が，全域の覆土上層から床面にかけて出土している。98 は竈前，96 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。97 は南東部の床面から出土している。Ｑ８は中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。



第 48 図　第 2842 号竪穴建物跡出土遺物実測図

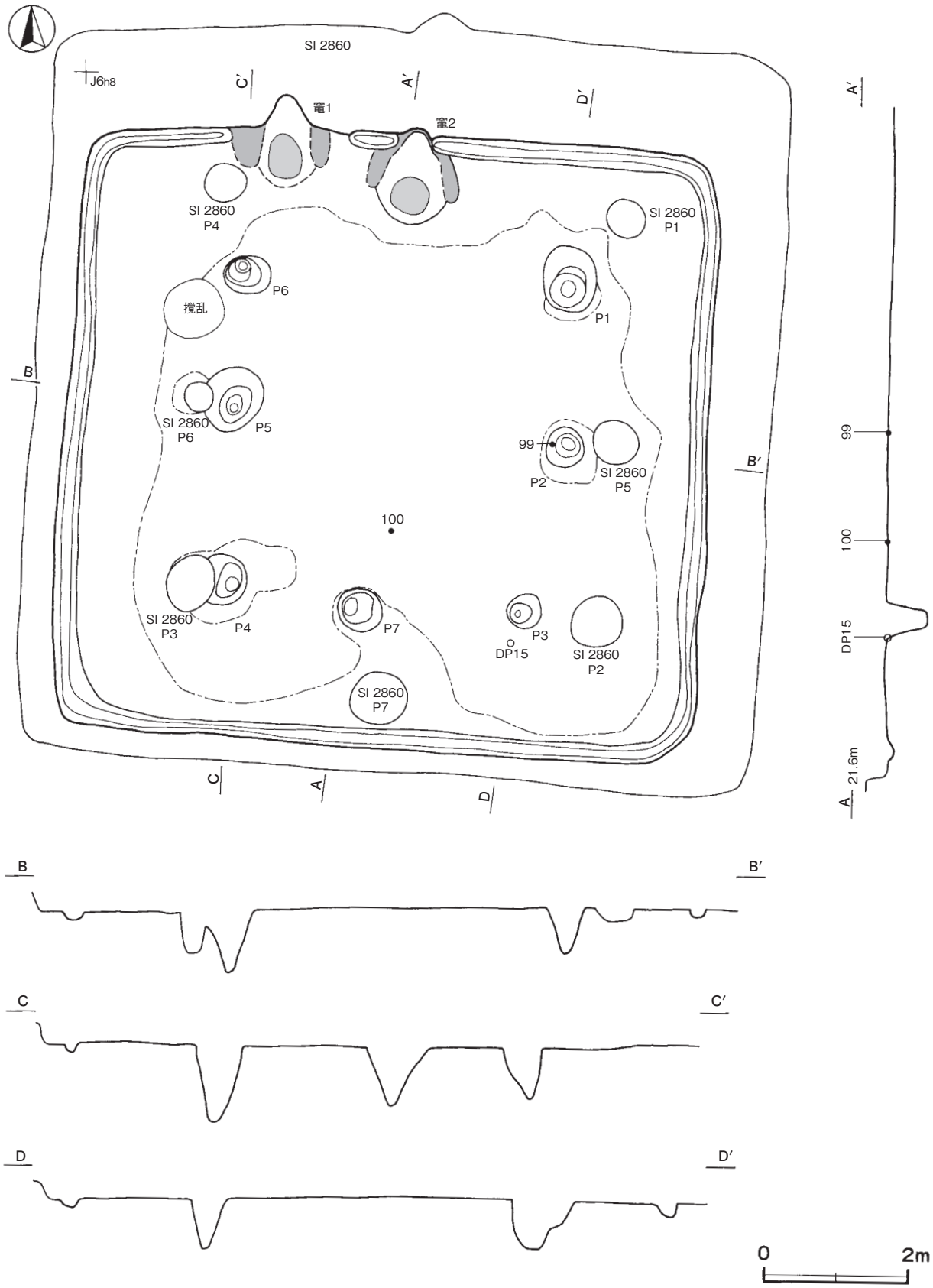
第 2842 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 48 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
96	土師器	坏	[12.2]	3.7	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	30%
97	土師器	椀	[11.8]	(7.3)	[6.9]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ　外面輪積痕	床面	20%
98	土師器	甕	[26.1]	(7.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面輪積痕	覆土下層	5 %

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｑ８	紡錘車	4.3	(1.7)	0.7	(38.5)	安山岩	欠損　全面研磨　一方向からの穿孔	覆土中層	PL37

第 2843 号竪穴建物跡（第 49・50 図）

位置　調査区南西部のＪ６h8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。



第 49 図　第 2843 号竪穴建物跡実測図

重複関係　第 2860 号竪穴建物に床面直上まで掘り込まれているため，床面の硬化面と壁溝及び竈の痕跡のみを確認した。

規模と形状　長軸 8.73 m，短軸 8.35 mの方形で，主軸方向はN－5°－Eである。

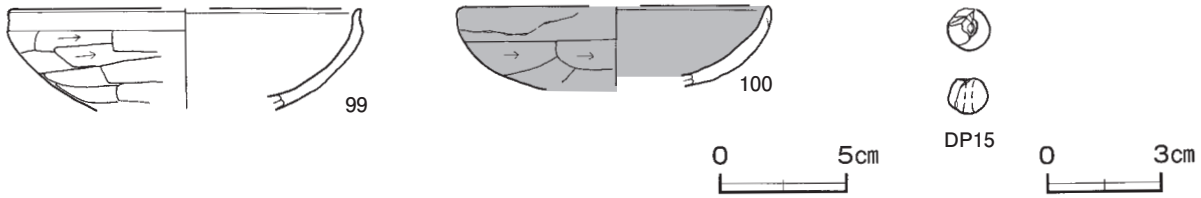
床　平坦で，中央部が踏み固められている。幅 18 ～ 29cm，深さ 14 ～ 17cmで，浅いU字形の壁溝が巡っている。

竈　２か所。竈１は北壁の西寄りに付設されている。規模は袖部や火床部の痕跡から，焚口部から煙道部まで 123cmで，燃焼部幅は 70cmと推定できる。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40cmほど掘り込まれている。竈２は北壁中央部に付設されている。規模は袖部や火床部の痕跡から，焚口部から煙道部まで 128cmで，燃焼部幅は 95cmと推定できる。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 10cmほど掘り込まれている。竈２の両袖が壁溝に掘り込まれていることから，竈２から竈１に作り替えられたと考えられる。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ６は深さ 63 ～ 101cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ７は深さ 56cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況　土師器片 16 点（坏７，甕類９），土製品１点（土玉）が出土している。100 は中央部，DP15 は南東部の床面からそれぞれ出土している。99 はＰ２の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。本跡を掘り込んでいる第 2860 号竪穴建物は，主軸方向や床面の高さがほぼ一致する。第 2860 号竪穴建物の柱穴の配置から，本跡は第 2860 号竪穴建物へ建て替える前の竪穴建物跡の可能性がある。



第 50 図　第 2843 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2843 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 50 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
99	土師器	坏	[14.0]	(4.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	Ｐ２覆土上層	10%
100	土師器	坏	[12.4]	(3.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外面輪積痕	床面	10%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP15	土玉	1.12	0.98	0.19 ～ 0.23	(1.08)	長石・石英	欠損　ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL34

第 2844 号竪穴建物跡（第 51・52 図）

位置　調査区南西部のＪ６h5 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2858 号竪穴建物跡，第９号竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.75 m，短軸 3.50 mの方形で，主軸方向はN－85°－Eである。壁高は 15 ～ 23cmで，外傾して立ち上がっている。

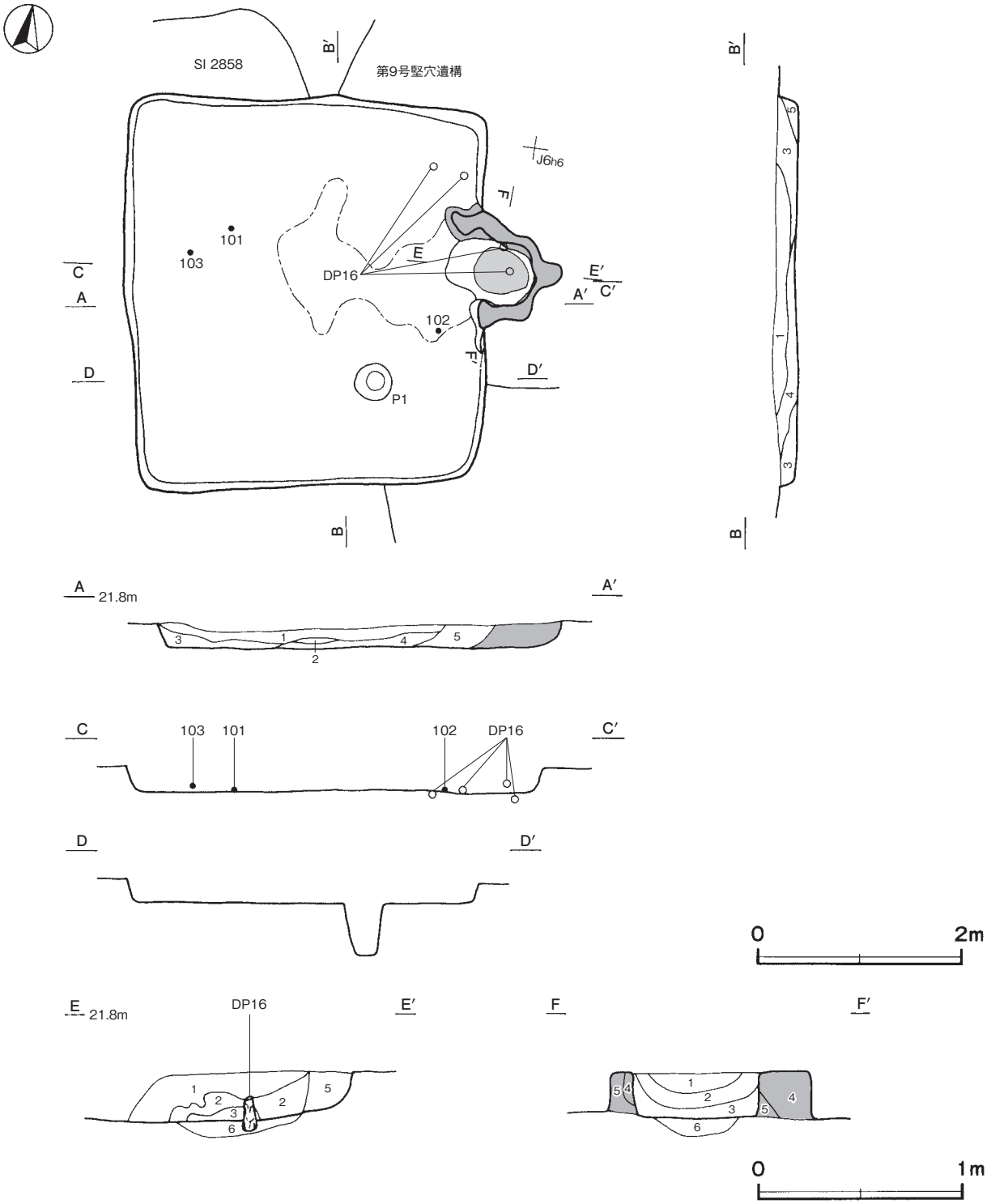
床　平坦で，竈前が踏み固められている。

竈　東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 117cmで，燃焼部幅は 59cmである。袖部は

床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第４・５層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10cmほど掘りくぼめた後，第６層を埋土して構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 78cm掘り込まれ，奥壁で直立している。

竈土層解説

1	黒　褐　色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量	4	灰　褐　色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子少量	5	明 褐 灰 色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子微量
3	にぶい褐色	焼土粒子多量，炭化粒子微量	6	明 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子微量



第 51 図　第 2844 号竪穴建物跡実測図

ピット　深さ52cmで，性格は不明である。

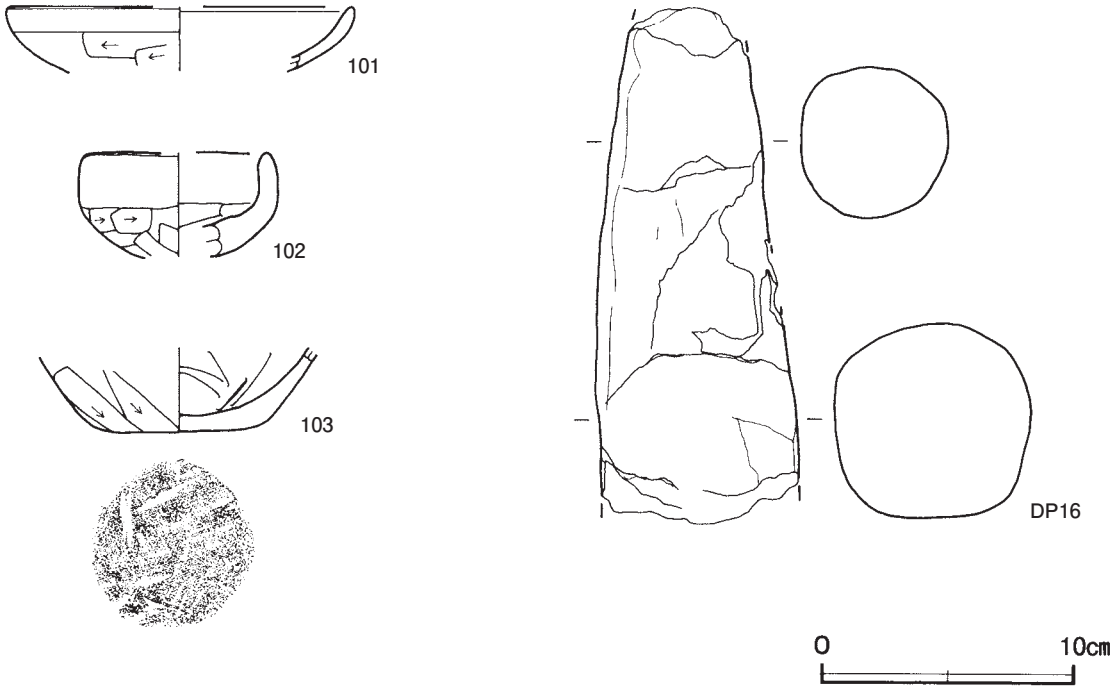
覆土　５層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片232点（坏58，高坏１，甕類173），須恵器片３点（坏２，蓋１），土製品１点（支脚）が出土している。そのほか，混入した石器１点（磨石）も出土している。101は中央部，102は竈東側の床面からそれぞれ出土している。DP16は竈の火床面に据えられた状態で出土している。103は西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から７世紀後葉に比定できる。



第52図　第2844号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2844号竪穴建物跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	土師器	坏	[13.6]	(2.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	5％
102	土師器	坏	[6.8]	(4.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	40％
103	土師器	甕	－	(3.4)	6.6	長石・石英・雲母	橙	良好	体部外面下端斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	15％

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP16	支脚	(20.4)	(4.8)	(8.0)	(1,141)	長石・石英	上部欠損　ヘラナデ　被熱痕	竈火床面	PL36

第2845号竪穴建物跡（第53～55図）

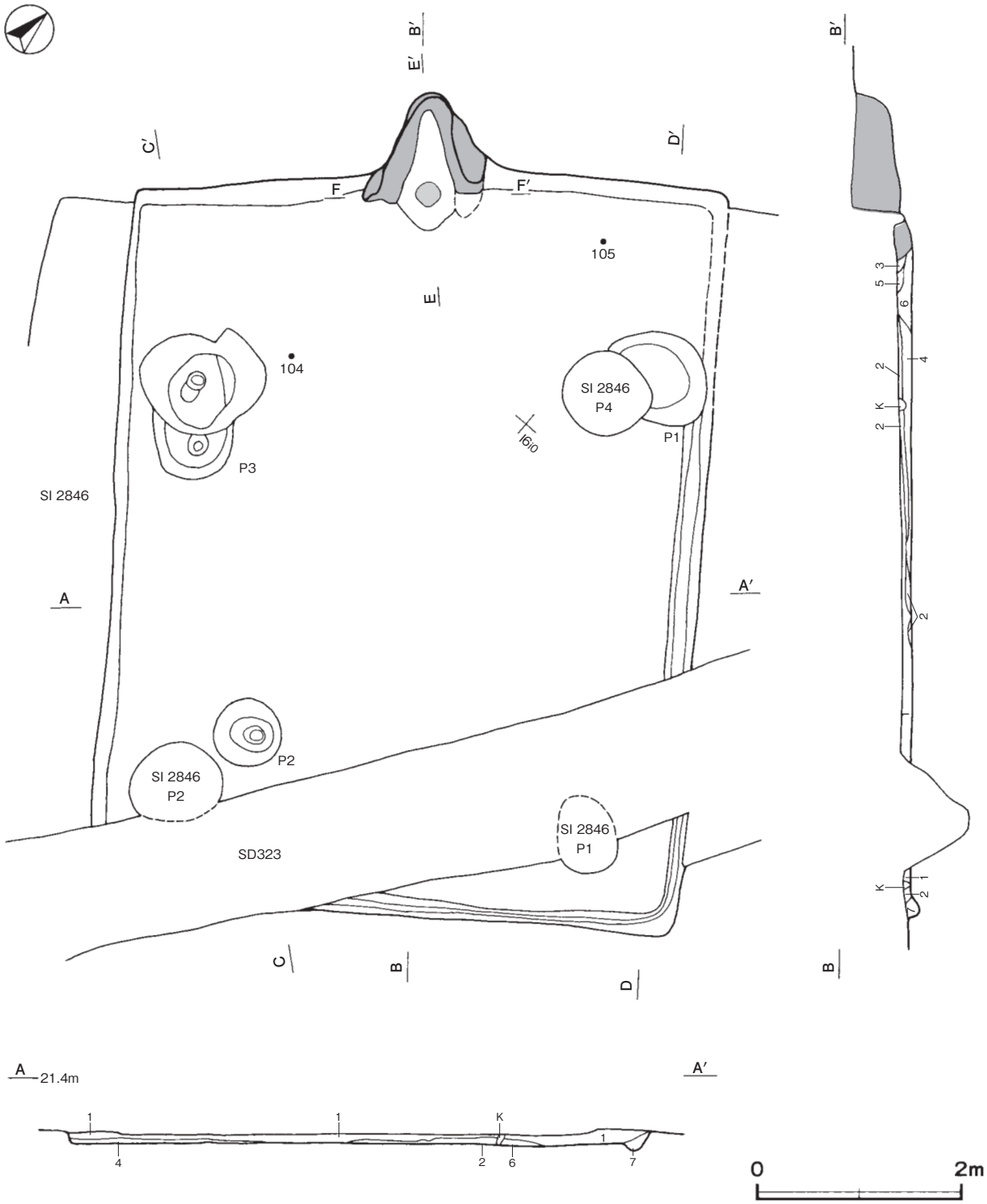
位置　調査区北部のＩ６i9区，標高21ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第2846号竪穴建物，第323号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 7.35 m，短軸 5.78 mの長方形で，主軸方向はN－38°－Wである。壁高は 10 ～ 14cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，踏み固められた痕跡は認められない。東壁から南壁にかけて，幅 13 ～ 22cm，深さ８～ 14cmで，浅いU字形の壁溝を確認した。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 132cmで，燃焼部幅は 53cmと推定できる。袖部は地山を掘り残した基部のみで，構築土は遺存していない。火床部は床面を 20cmほど掘りくぼめた後，



第 53 図　第 2845 号竪穴建物跡実測図 (1)

第10層を埋土して構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ75cm掘り込まれ，奥壁でほぼ直立している。

竈土層解説

1	灰　褐　色	炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
2	灰黄褐色	粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4	褐　　色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
5	褐　　色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
6	にぶい褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7	褐　　色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8	褐　　色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
9	赤　褐　色	焼土粒子多量
10	灰　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ20～86cmで，規模と配置から主柱穴である。

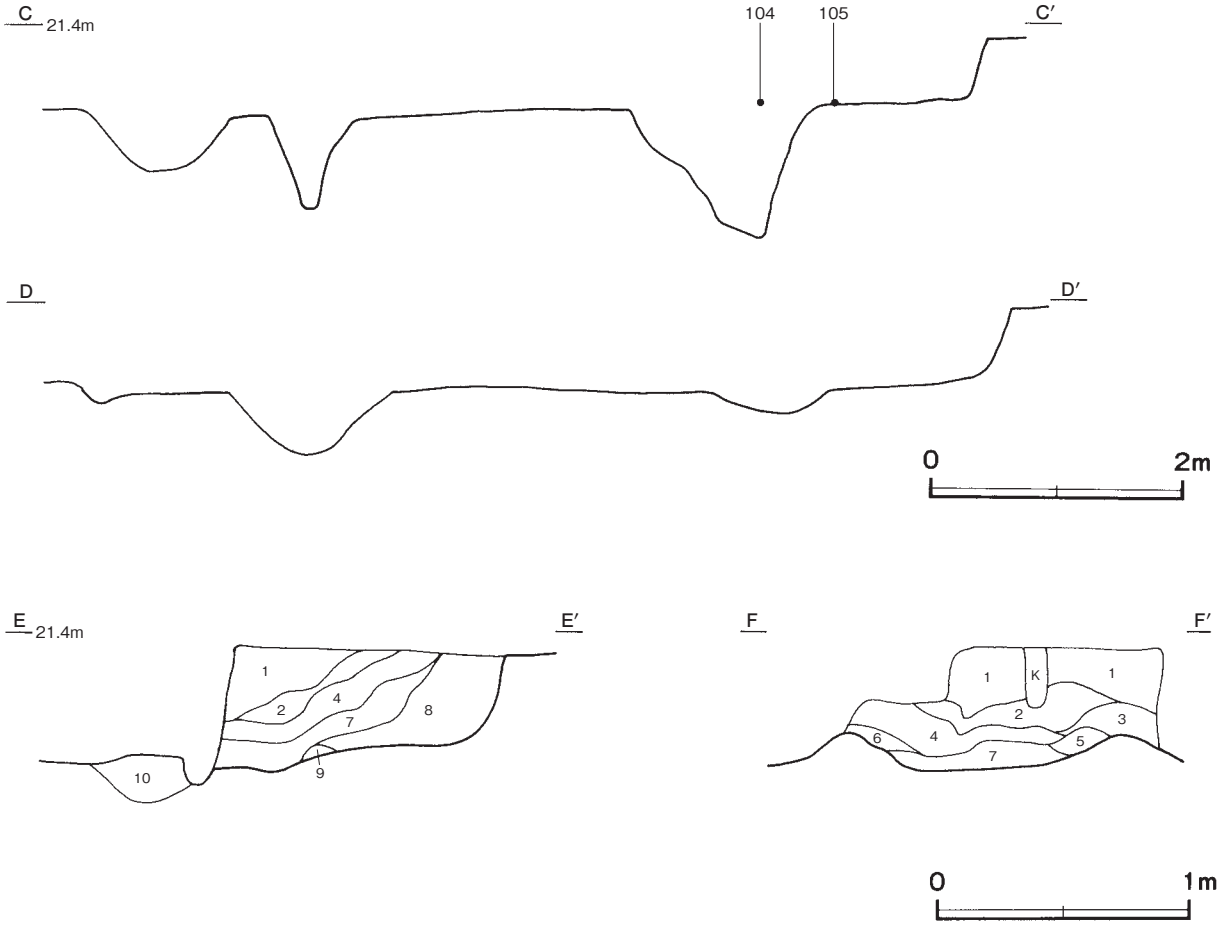
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

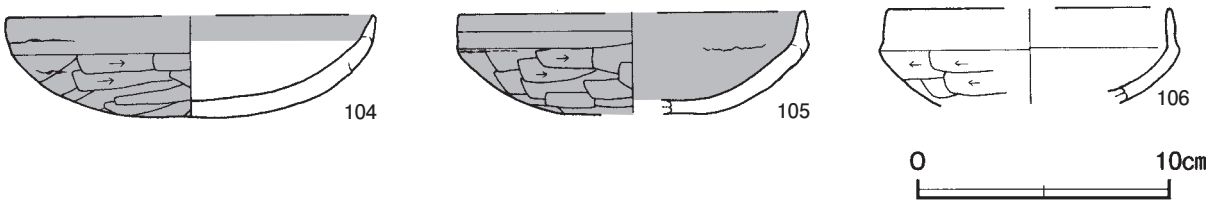
1	灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3	褐　　色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量
4	褐　　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
6	にぶい褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
7	褐　　色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片250点（坏89，高坏１，甕類159，甑１）が出土している。104は北西部，105は北東部の床面からそれぞれ出土している。106は竈の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。



第54図　第2845号竪穴建物跡実測図(2)



第 55 図　第 2845 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2845 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
104	土師器	坏	［14.8］	4.0	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	床面	40%
105	土師器	坏	［13.8］	4.0	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	床面	30%
106	土師器	坏	［11.2］	（3.8）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	竈覆土中	15%

第 2846 号竪穴建物跡（第 56 ～ 59 図）

位置　調査区北部のＩ６i0 区，標高 21 ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2845 号竪穴建物跡を掘り込み，第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 7.80 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 56゜－Ｅである。壁高は 40 ～ 48cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 18 ～ 31cm，深さ 11 ～ 17cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北東壁の中央部に付設されている。第 323 号溝に掘り込まれているため，左袖部と火床部のそれぞれ一部しか確認できなかった。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を含む第 10 ～ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 15cmほど掘りくぼめた後，第 13 ～ 15 層を埋土して構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

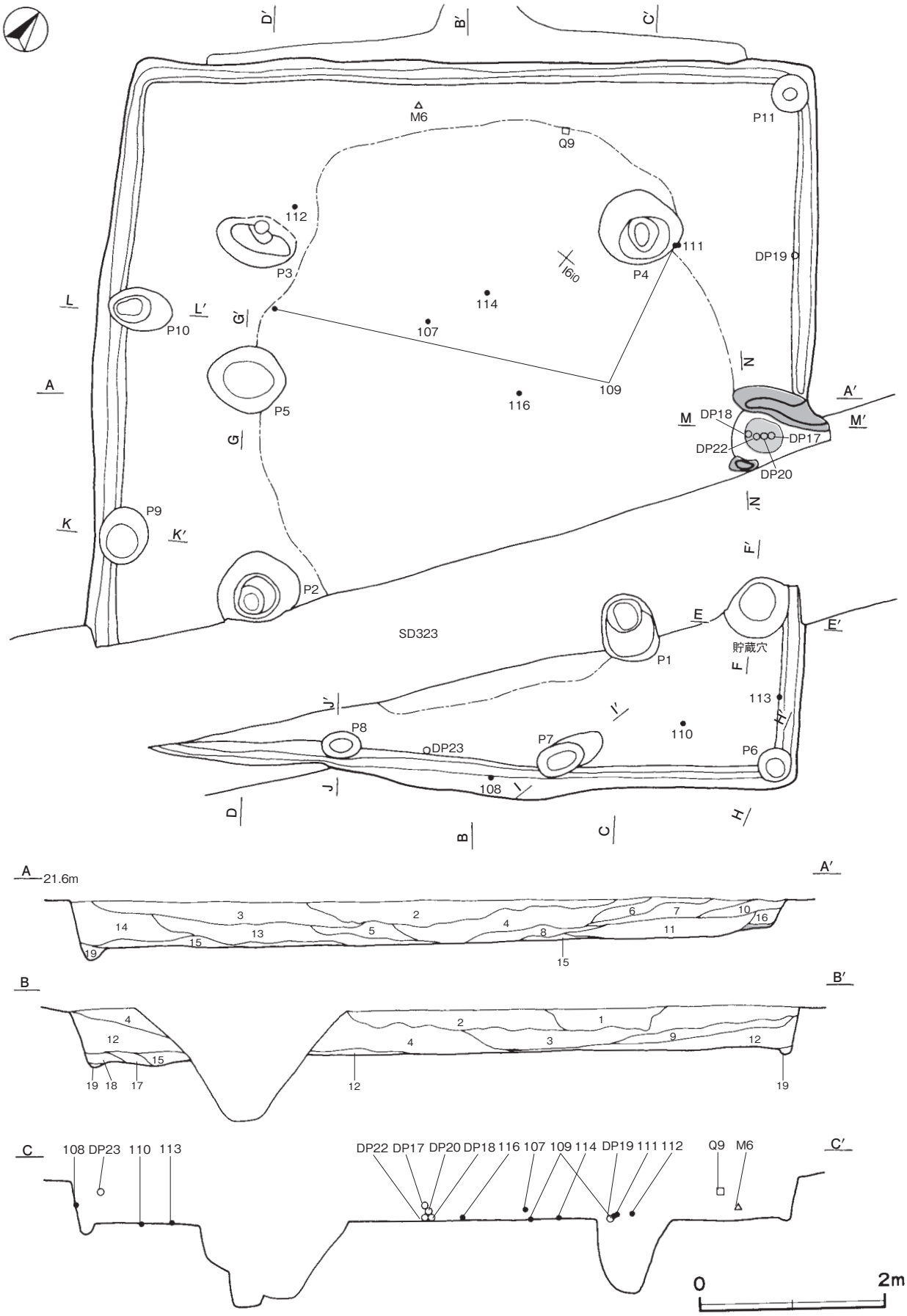
1　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
2　灰　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
4　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい黄褐色　焼土ブロック・炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
6　にぶい褐色　砂質粘土ブロック多量，炭化物・焼土粒子中量
7　赤　褐　色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化物少量
8　にぶい赤褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　炭化物多量，焼土粒子中量
10　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
11　にぶい黄橙色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子微量
12　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
13　橙　　色　焼土粒子多量
14　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量
15　にぶい褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット　11 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 78 ～ 84cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 21cmで，硬化面の広がりや位置から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ 11 は深さ 27 ～ 49cmで，壁際に配置されていることから，壁柱穴と考えられる。

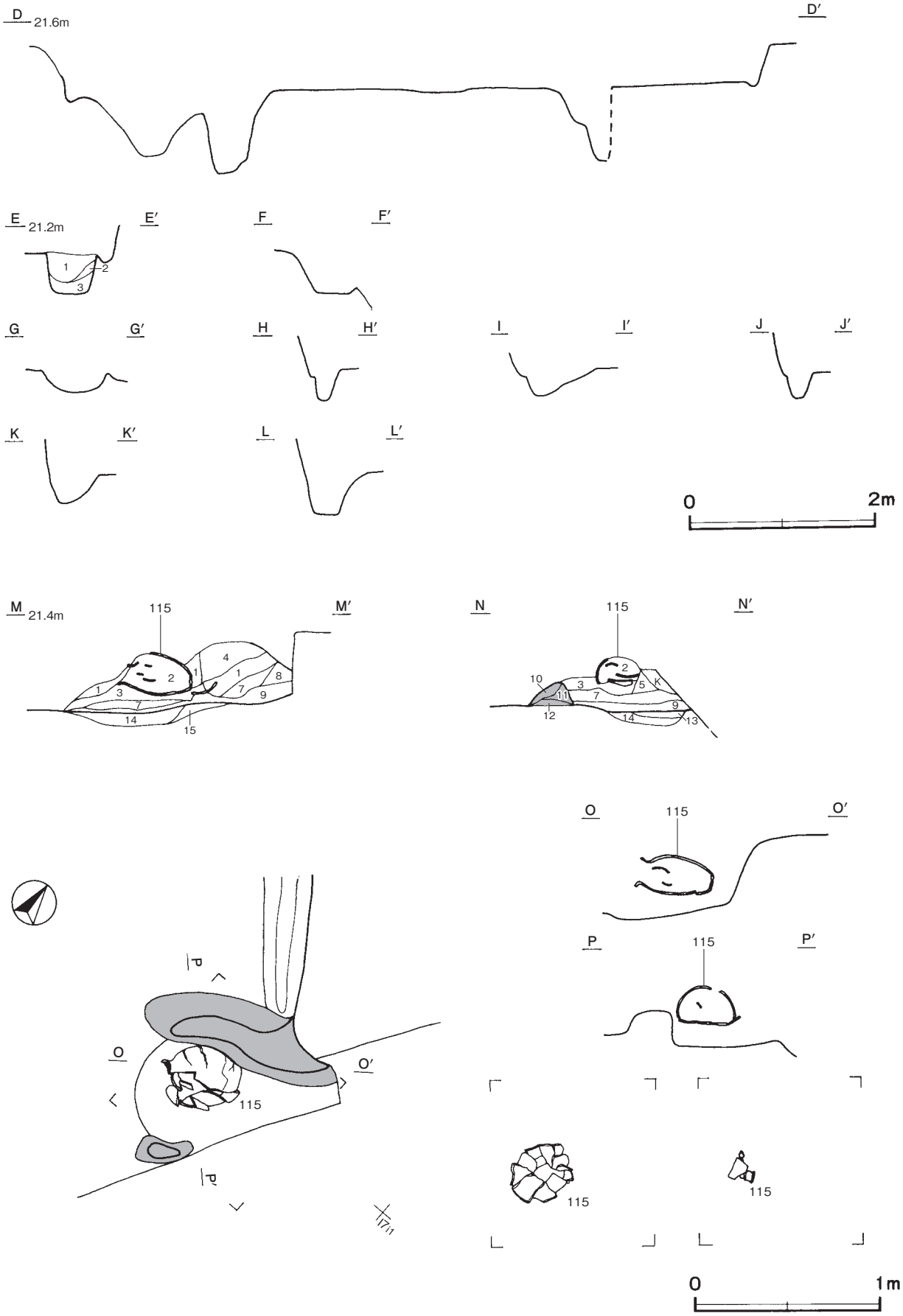
貯蔵穴　竈の南東側に位置している。北西側を第 323 号溝に掘り込まれているため，長径 70cm，短径 68cmしか確認できなかった。深さは 45cmで，遺存している上端や底面の形状から，円形または楕円形と推測できる。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

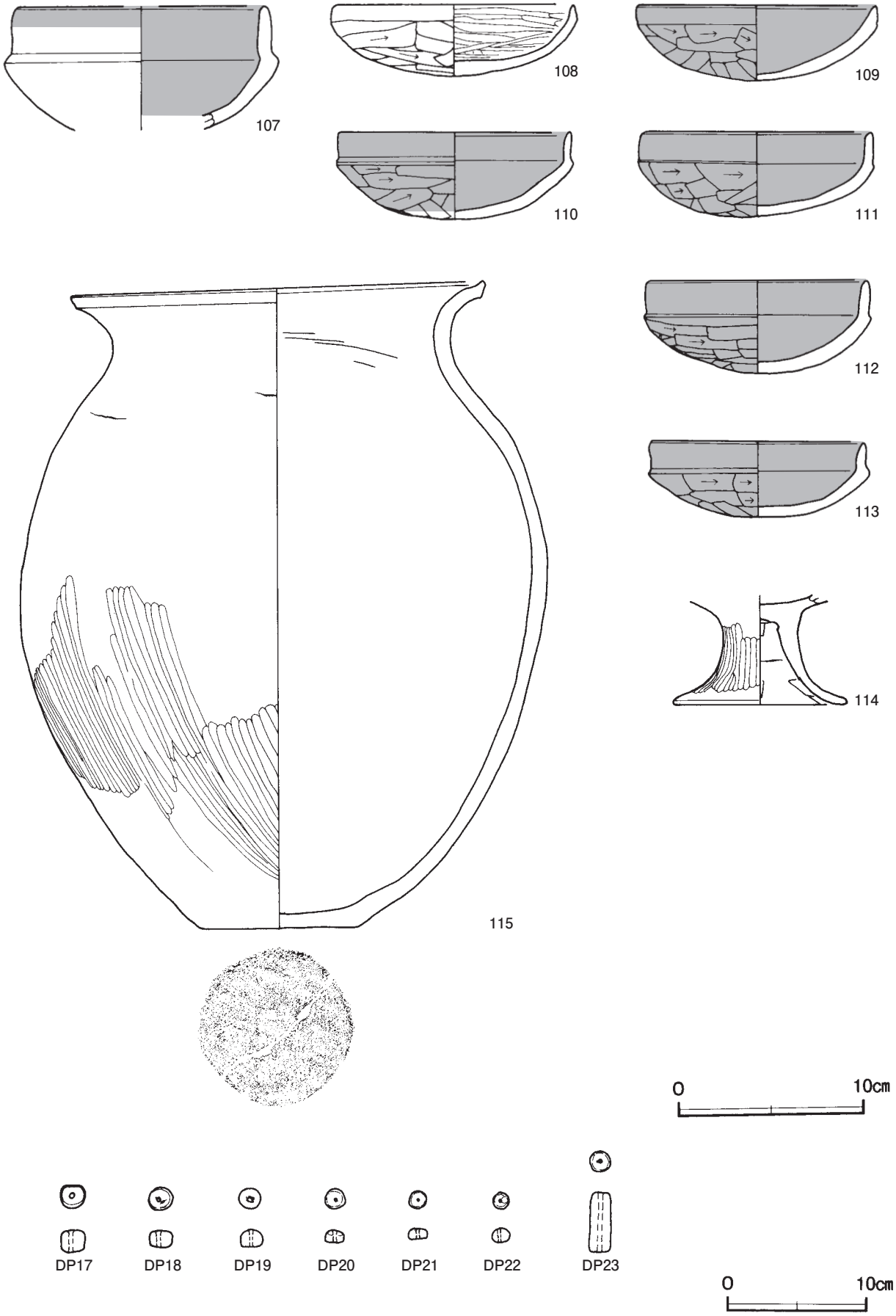
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量



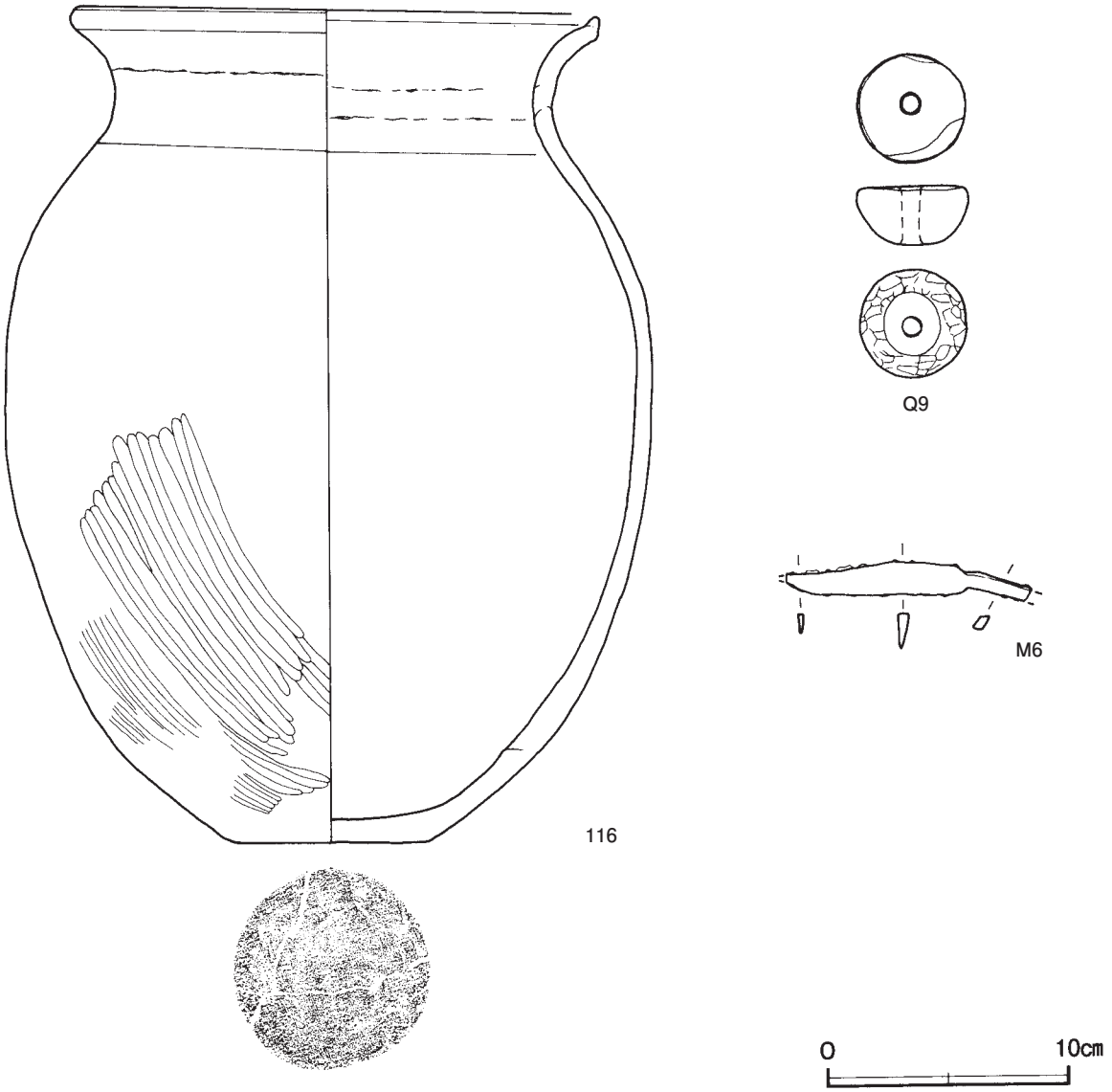
第 56 図　第 2846 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 57 図　第 2846 号竪穴建物跡実測図 (2)



第 58 図　第 2846 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 59 図　第 2846 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

覆土　19 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　灰 黄 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，炭化物・焼土粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
7　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
9　褐　灰　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
10　暗　褐　色　砂質粘土ブロック・炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
11　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
12　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
13　黒　　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
14　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化粒子微量
17　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
18　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子少量
19　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 2393 点（坏 980，高坏 16，甕類 1386，甑 11），須恵器片 3 点（坏 1，甕類 2），土製品 18 点（土玉 6，管玉 1，支脚 11），石器 1 点（紡錘車），鉄製品 3 点（刀子，釘，不明），鉄滓 1 点（27g）種子 1 点が，全域の覆土中層から床面にかけて出土している。111・DP19 は北部の床面からそれぞれ出土し

ている。109 は北部と西部の床面から出土した破片２点が接合したものである。114・116 は中央部の床面からそれぞれ出土している。110・113 は東部の床面からそれぞれ出土している。112 は西部の床面から出土している。115 は竈の火床部から横位の状態で出土している。支脚との位置関係から，竈に掛けられた状態から倒れたものとみられる。DP17・DP18・DP20・DP22 も竈の火床部からそれぞれ出土している。DP21 は竈の覆土中から出土している。107 は中央部の覆土下層から出土している。Ｑ９・Ｍ６は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。108・DP23 は南東壁下中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。竈の火床面や竈の覆土中及び竈付近の床面上から出土している土玉は，建物の廃絶に際して行われた，竈神に関わる祭祀行為に伴うものの可能性がある。

第 2846 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 58・59 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	土師器	坏	[13.4]	(6.7)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面磨滅　内面ナデ	覆土下層	30%
108	土師器	坏	13.0	3.9	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中層	60%　PL27
109	土師器	坏	12.9	4.2	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL27
110	土師器	坏	12.6	4.8	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	50%
111	土師器	坏	12.4	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL27
112	土師器	坏	11.8	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	60%　PL27
113	土師器	坏	11.5	4.1	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	70%　PL27
114	土師器	高坏	－	(5.9)	[9.4]	長石	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	床面	30%
115	土師器	甕	22.3	34.7	8.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈火床部	80%　PL27
116	土師器	甕	21.7	34.6	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	75%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	土玉	0.91～0.95	0.82	0.15	0.76	長石・石英	ナデ　孔両端に擦痕	竈火床部	PL34
DP18	土玉	0.81～0.90	0.65	0.27	0.51	長石	ナデ　孔両端に擦痕	竈火床部	PL34
DP19	土玉	0.78～0.85	0.65	0.15	0.39	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL34
DP20	土玉	0.75～0.76	0.51	0.1	0.32	長石・石英	ナデ　孔両端に擦痕	竈火床部	PL34
DP21	土玉	0.70～0.71	0.42	0.12	0.22	長石	ナデ　一方向からの穿孔	竈覆土中	PL34
DP22	土玉	0.61～0.62	0.54	0.08	0.19	石英	ナデ　一方向からの穿孔	竈火床部	PL34

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP23	管玉	2.10	0.75～0.80	0.16～0.19	1.70	長石・石英	ナデ　断面円形　一方向からの穿孔	覆土中層	PL34

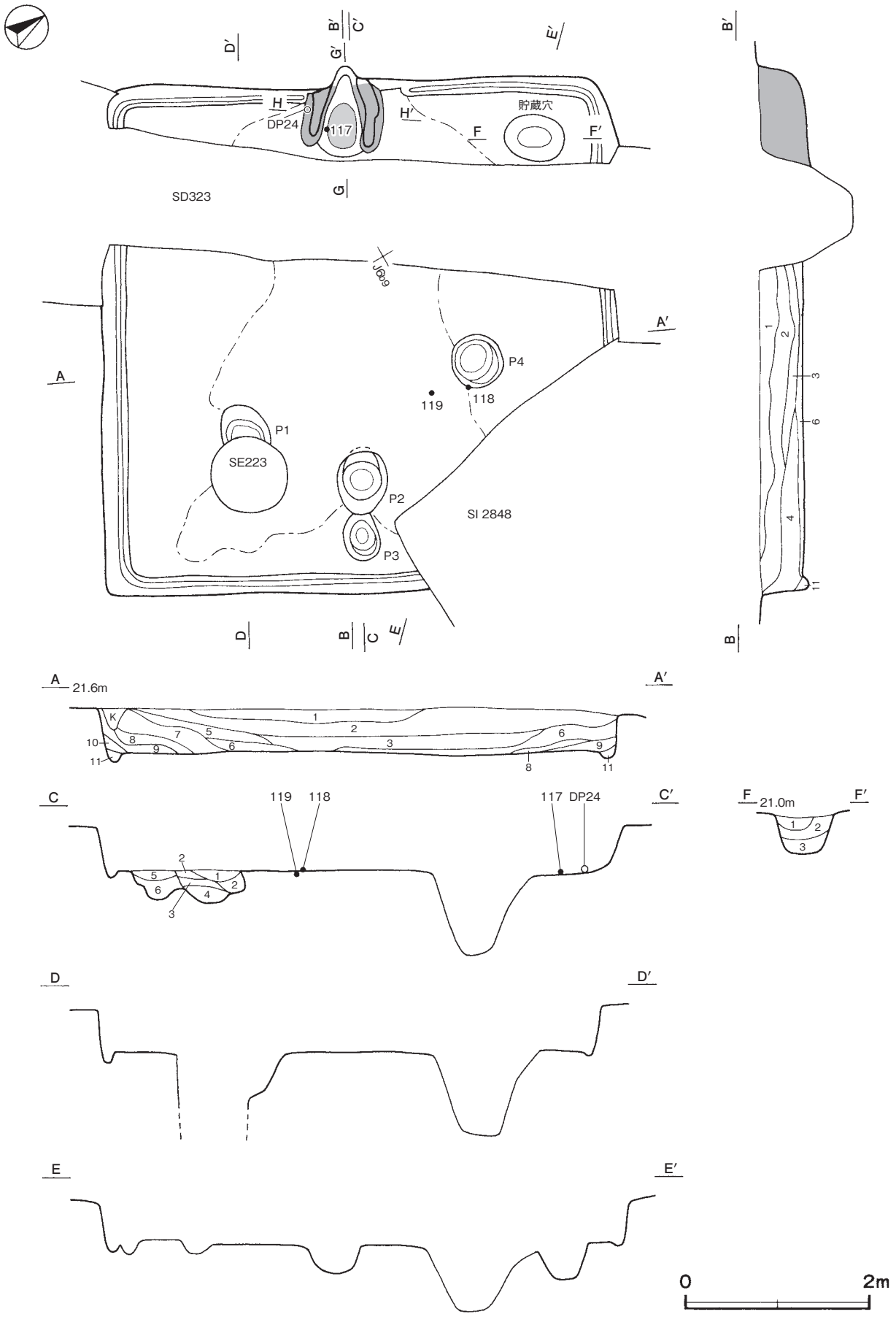
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ９	紡錘車	4.5～4.6	2.4	0.75～0.83	71.5	砂岩	全面研磨　一方向からの穿孔	覆土中層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ６	刀子	(10.3)	1.44	0.58	(20.4)	鉄	茎端部・切先欠損　断面三角形	覆土中層	PL38

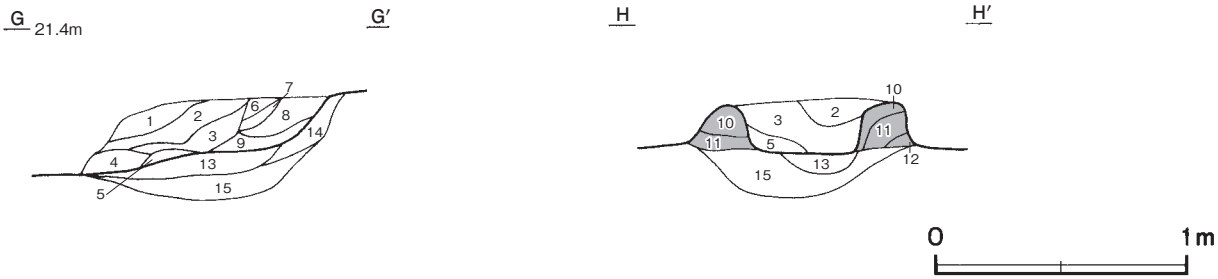
第 2847 号竪穴建物跡（第 60～62 図）

位置　調査区北部のＪ６b9 区，標高 21 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2848 号竪穴建物・第 223 号井戸・第 323 号溝に掘り込まれている。



第 60 図　第 2847 号竪穴建物跡実測図 (1)



第61図　第2847号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状　長軸5.63ｍ，短軸5.44ｍの方形で，主軸方向はＮ－67°－Ｗである。壁高は45～48cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～13cm，深さ６～14cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで101cmで，燃焼部幅は44cmである。袖部は床面を16cm掘りくぼめた後，第13～15層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第10～12層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい褐色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量，粘土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　にぶい黄橙色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化物少量
8　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
10　にぶい褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
11　明褐灰色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
12　灰　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
13　赤　褐　色　焼土ブロック多量
14　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量
15　褐　灰　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１は深さ43cmで，規模と位置から主柱穴である。Ｐ２・Ｐ３は深さ34cm・32cmで，東壁際の中央部に位置し，竈に相対していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。土層断面図から，Ｐ３からＰ２に付け替えられている。Ｐ４は深さ32cmで，性格は不明である。

ピット２・３土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘度粒子少量，炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長径64cm，短径50cmの楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

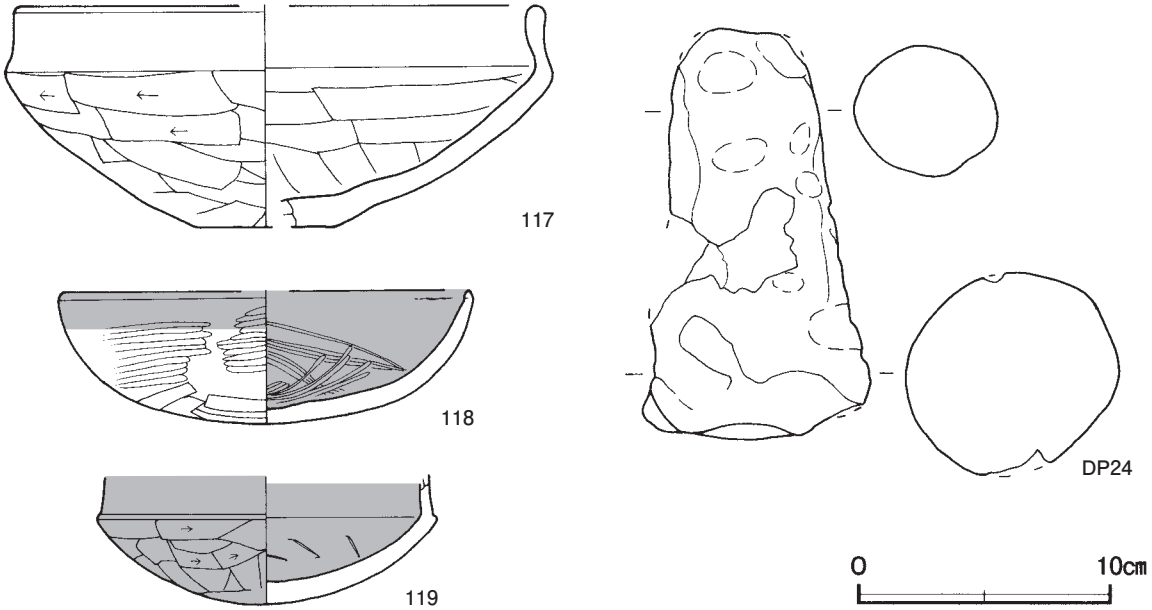
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　灰黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　灰黄褐色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　灰　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
11　灰黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片97点（坏31，高坏２，甕類64），須恵器片１点（甕），土製品３点（支脚）が出土している。

118・119 は中央部の床面からそれぞれ出土している。117 は竈の覆土下層から出土している。DP24 は竈南側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から６世紀後葉に比定できる。



第 62 図　第 2847 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2847 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
117	土師器	坏	［20.6］	8.7	［5.5］	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	竈覆土下層	50%　PL28
118	土師器	坏	［16.2］	5.2	－	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後横位のヘラ磨き　内面ナデ後ヘラ磨き	床面	40%
119	土師器	坏	－	（5.1）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	50%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP24	支脚	16.1	3.1	9.0	（751.6）	長石・石英・赤色粒子	一部欠損　指頭痕　被熱痕	覆土下層	PL36

第 2848 号竪穴建物跡（第 63・64 図）

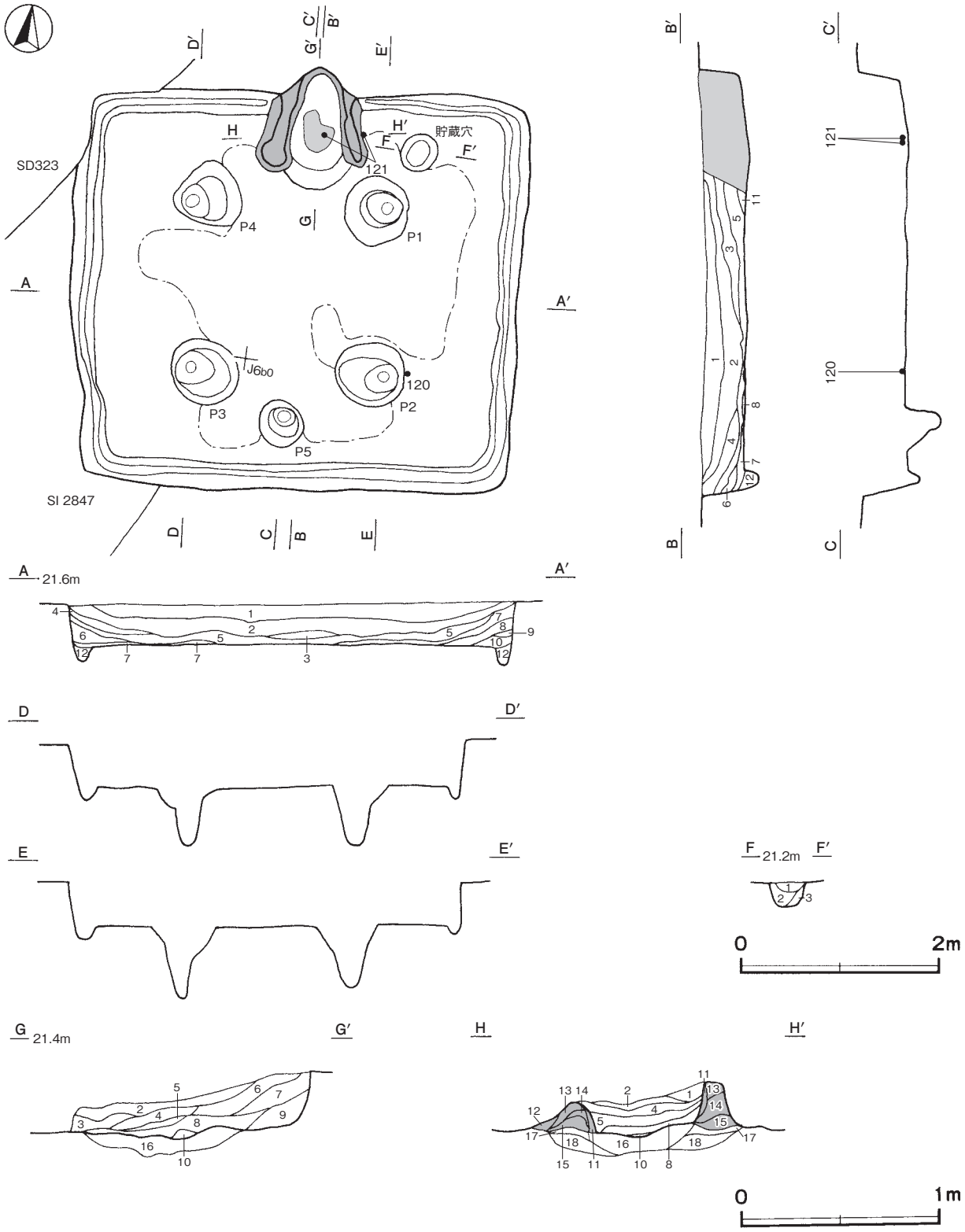
位置　調査区北部のＪ６a0 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2847 号竪穴建物跡を掘り込み，第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.05 m，短軸 4.01 mの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁高は 40 ～ 45cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 12 ～ 28cm，深さ 12 ～ 20cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 121cmで，燃焼部幅は 50cmである。袖部は床面を 10cmほど掘りくぼめた後，第 16 ～ 18 層を埋土して基部とし，砂質粘土を主体とした第 11 ～ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 24cm掘り込まれ，奥壁で直立している。



第 63 図　第 2848 号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1　褐　　色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
2　灰　褐　色　砂質粘土ブロック・炭化物中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化物少量
5　黒　褐　色　炭化物多量，灰少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
7　灰　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物少量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，灰少量
9　黒　褐　色　炭化物多量，焼土ブロック・ローム粒子少量
10　明　褐　色　焼土ブロック多量
11　明 赤 褐 色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量

12　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
13　灰黄褐色　粘土粒子多量
14　にぶ黄橙色　粘土粒子多量
15　にぶ黄褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
16　褐　灰　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
17　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
18　灰黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ56～71cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ35cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈の東側に位置している。長径40cm，短径34cmの楕円形で，深さは25cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

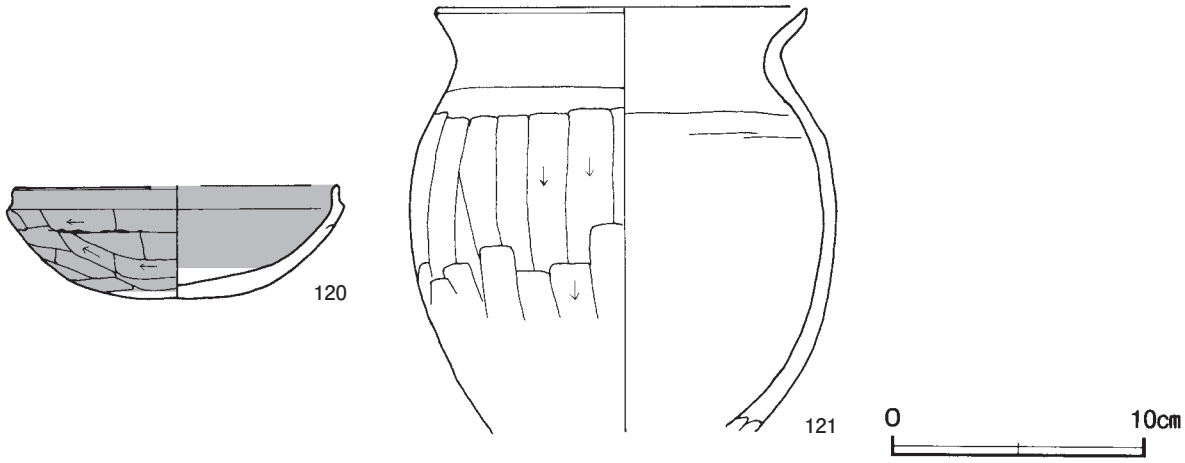
貯蔵穴土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

覆土　12層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　灰黄褐色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　灰　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6　灰黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，炭化粒子少量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片333点（坏90，高坏３，甕類239，小形甕１），須恵器片１点（瓶類），鉄製品１点（釘），種子１点（桃）が，全域の覆土上層から床面にかけて出土している。120は南東部の床面から出土している。121は火床面と竈東側の床面から出土した破片２点が接合したものである。

所見　時期は，出土土器や重複関係から７世紀前葉に比定できる。



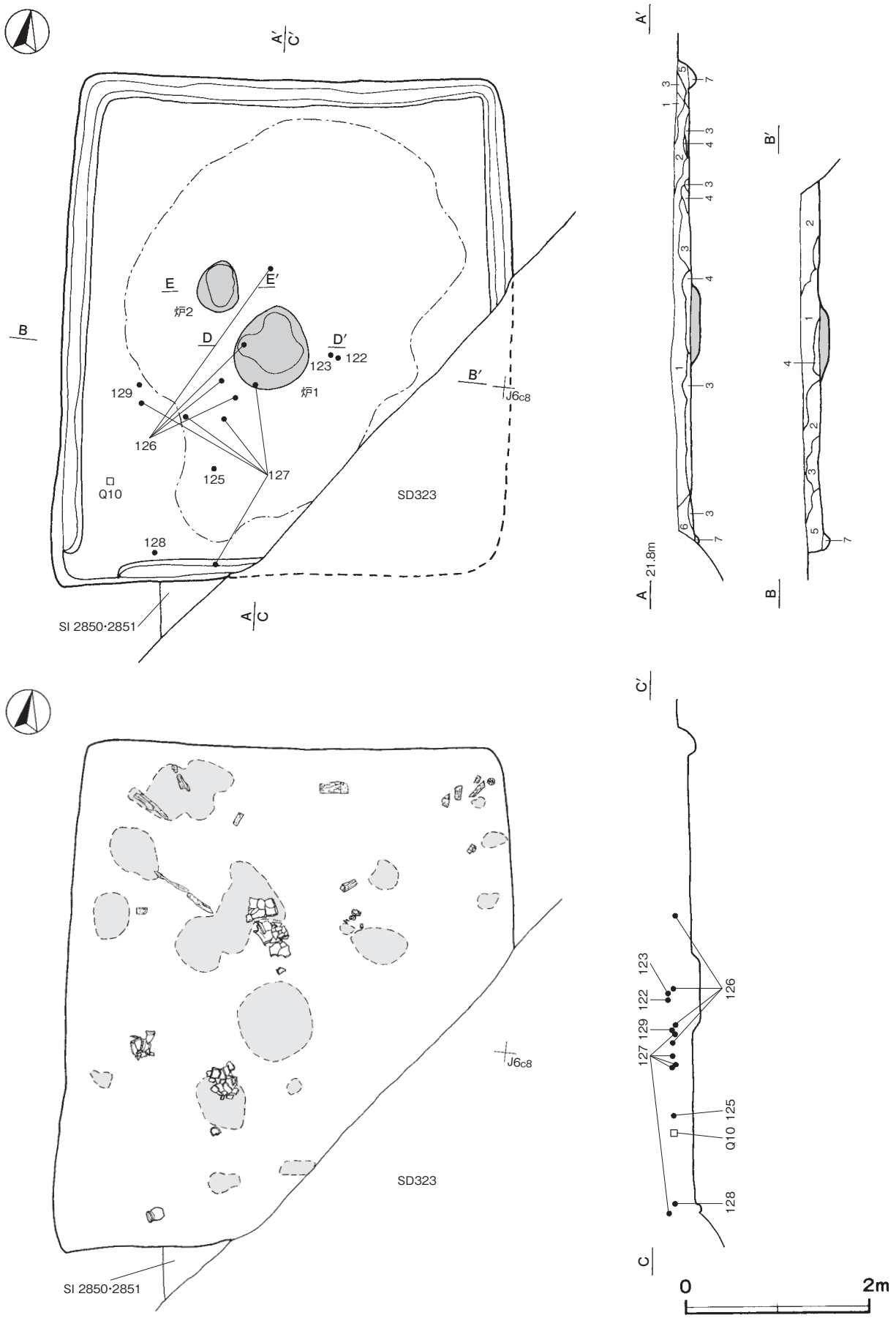
第64図　第2848号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2848号竪穴建物跡出土遺物観察表（第64図）

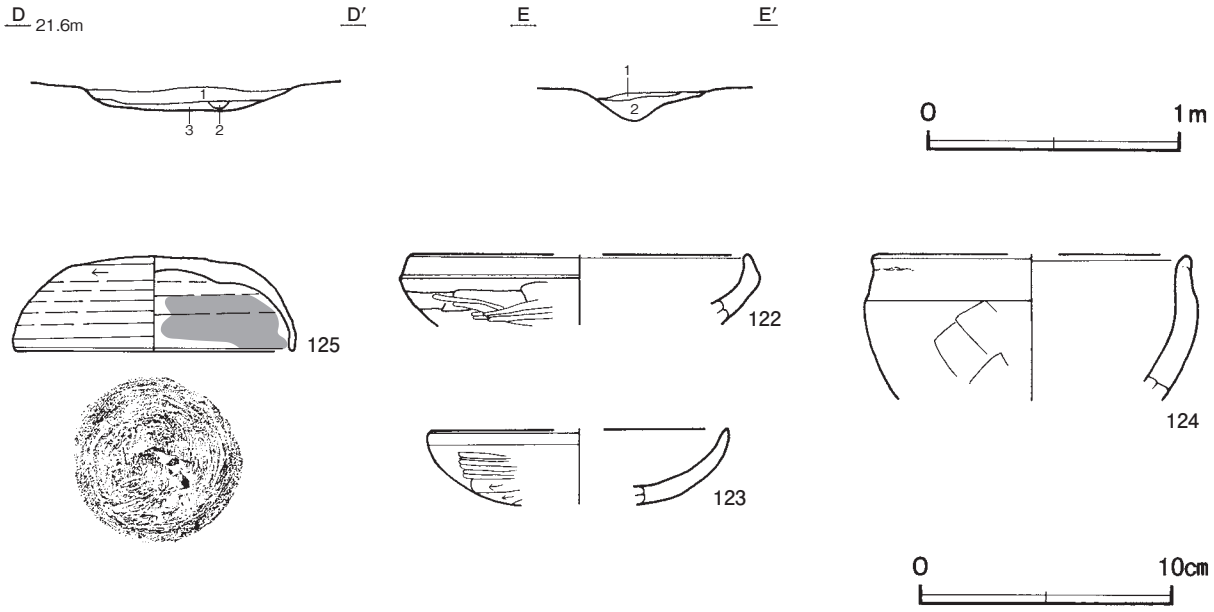
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
120	土師器	坏	[12.7]	4.4	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	床面	40%
121	土師器	小形甕	14.6	(16.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面 床面	50%

第2849号竪穴建物跡（第65～67図）

位置　調査区北西部のＪ６b7区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第 65 図　第 2849 号竪穴建物跡実測図



第 66 図　第 2849 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係　第 2850・2851 号竪穴建物跡を掘り込み，第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.48 m，短軸 4.85 mの長方形で，主軸方向はN－5°－Wである。壁高は 13 ～ 17cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，炉を中心に周囲が踏み固められている。壁下には，幅 24 ～ 35cm，深さ 6 ～ 10cmで，浅いU字形の壁溝が巡っている。

炉　2か所。中央部とやや北西壁寄りに付設されている。炉 1 は，長径 98cm，短径 84cm の楕円形で床面を 9 cm 掘り込んだ地床炉である。炉 2 は，長径 56cm，短径 44cm の楕円形で，床面を 14cm 掘り込んだ地床炉である。

炉土層解説（炉 1 ・ 2 共通）

1　にぶい褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量

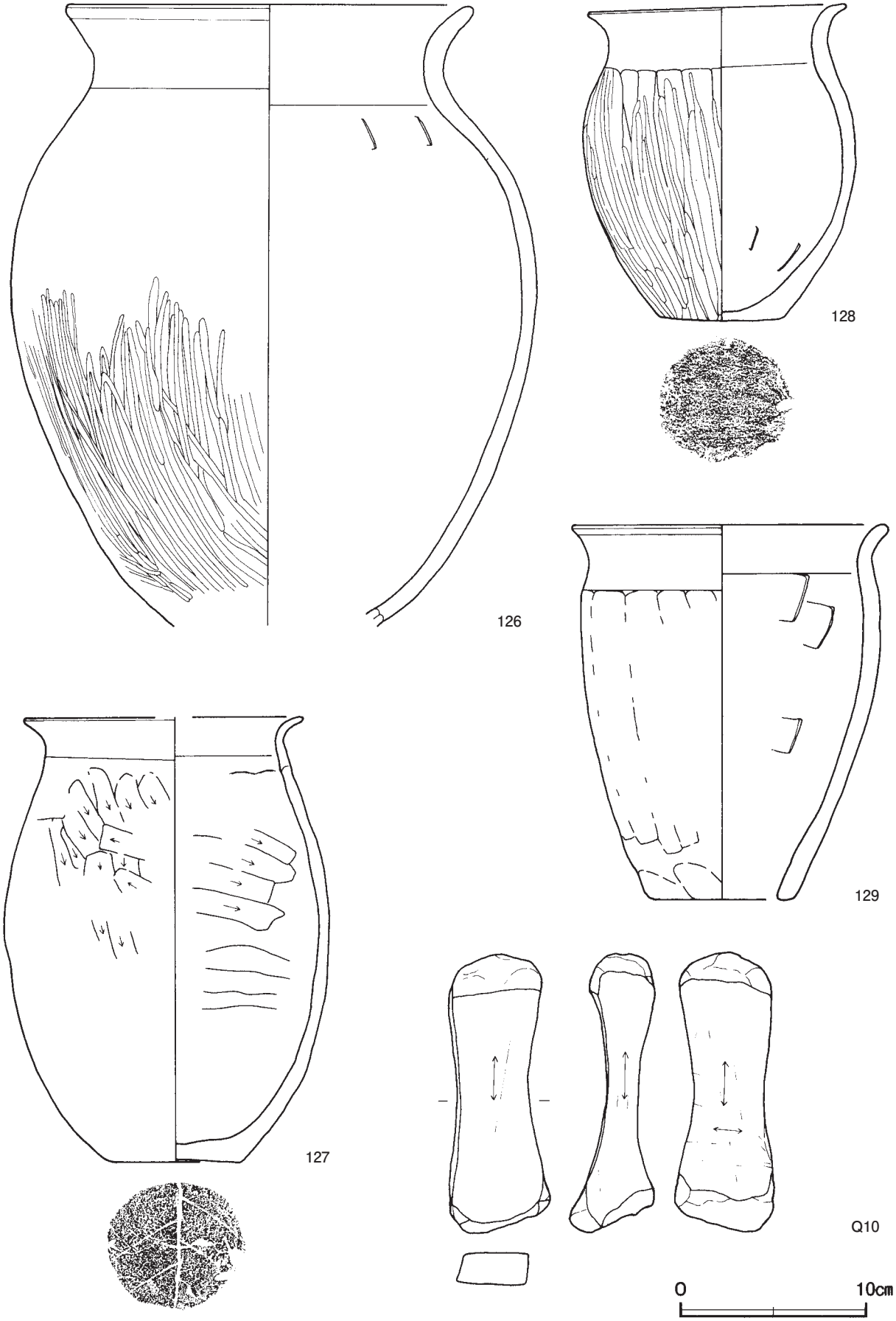
覆土　7 層に分層できる。 各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片 247 点（坏 47，椀 1，甕類 154，小形甕 1，甑 44），須恵器片 4 点（坏 3，蓋 1），石器 1 点（砥石）が，西壁際と南壁際にかけて出土している。また，混入した縄文土器片 1 点（深鉢）も出土している。　129 は炉の南西側付近の覆土下層から潰れた状態で出土している。122 は中央部，125 は南西部からともに正位の状態で，126 はほぼ中央部に散在して，128 は南西壁際から横位の状態で，127 は南西部に散在して，Q 10 は南西部壁寄りから，それぞれ覆土下層から出土したものである。123 は中央部の覆土上層から，124 は覆土中から出土したものである。

所見　床面全体に焼土と炭化材が散在していることから，焼失建物と考えられる。遺物は破片が多く，埋め戻された覆土中からの出土であることから，火災ではなく廃棄行為によるものと考えられる。時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 67 図　第 2849 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2849 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 66・67 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
122	土師器	坏	［13.4］	(2.8)	－	長石・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土下層	５％
123	土師器	坏	［11.8］	(2.9)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土上層	10％
124	土師器	椀	［12.3］	(5.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ナデ	覆土中	５％
125	須恵器	蓋	10.9	3.8	－	長石・雲母	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ　天井部外面回転ヘラ削り　内面ロクロナデ	覆土下層	90％　PL28
126	土師器	甕	21.7	(33.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ　外・内面に黒斑	覆土下層	70％　PL28
127	土師器	甕	［14.8］	23.9	7.0	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ　底部外面木葉痕	覆土下層	80％
128	土師器	小形甕	13.6	17.0	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ　体部外面に黒斑　底部外面指頭痕	覆土下層	95％　PL28
129	土師器	甑	16.8	20.2	7.6	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	70％　PL28

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 10	砥石	14.9	4.7	4.3	348	凝灰岩	砥面４面	覆土下層	PL37

第 2850 号竪穴建物跡（第 68 ～ 70 図）

位置　調査区西部のＪ６d8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2851 号竪穴建物跡の上部に構築され，北西部隅を第 2849 号竪穴建物，北西部と煙道部の一部を第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 9.68 m，短軸 9.48 mの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁高は 36 ～ 42cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，竈と貯蔵穴の周囲と壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅 17 ～ 34cm，深さ５～ 14cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。壁際寄りから焼土と炭化材が散在している。貼床は，ロームブロック及び焼土粒子を含んだ第 15 層を均一に埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。確認できた焚口部から煙道部までは 109cm，燃焼部幅は 58cm である。袖部は，地山の上に砂質粘土を主体とした第 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

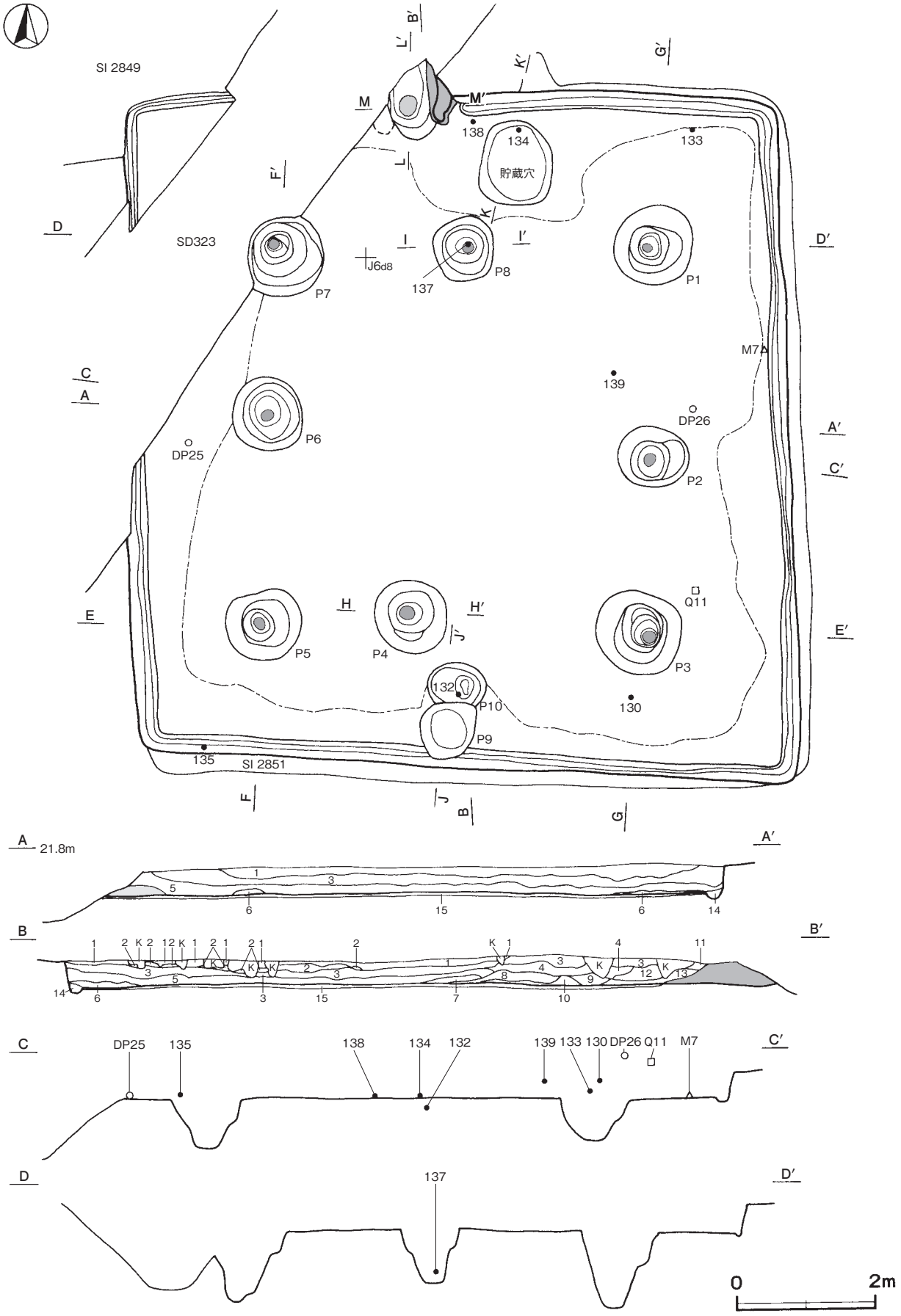
竈土層解説

1　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子中量，ロームブロック・炭化材少量
2　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量
3　褐　　色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ローム粒子少量
4　黒　　色　炭化粒子多量，焼土ブロック中量
5　にぶい赤褐色　灰多量，焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子中量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，粘土粒子中量
8　黒　褐　色　焼土粒子少量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，粘土粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

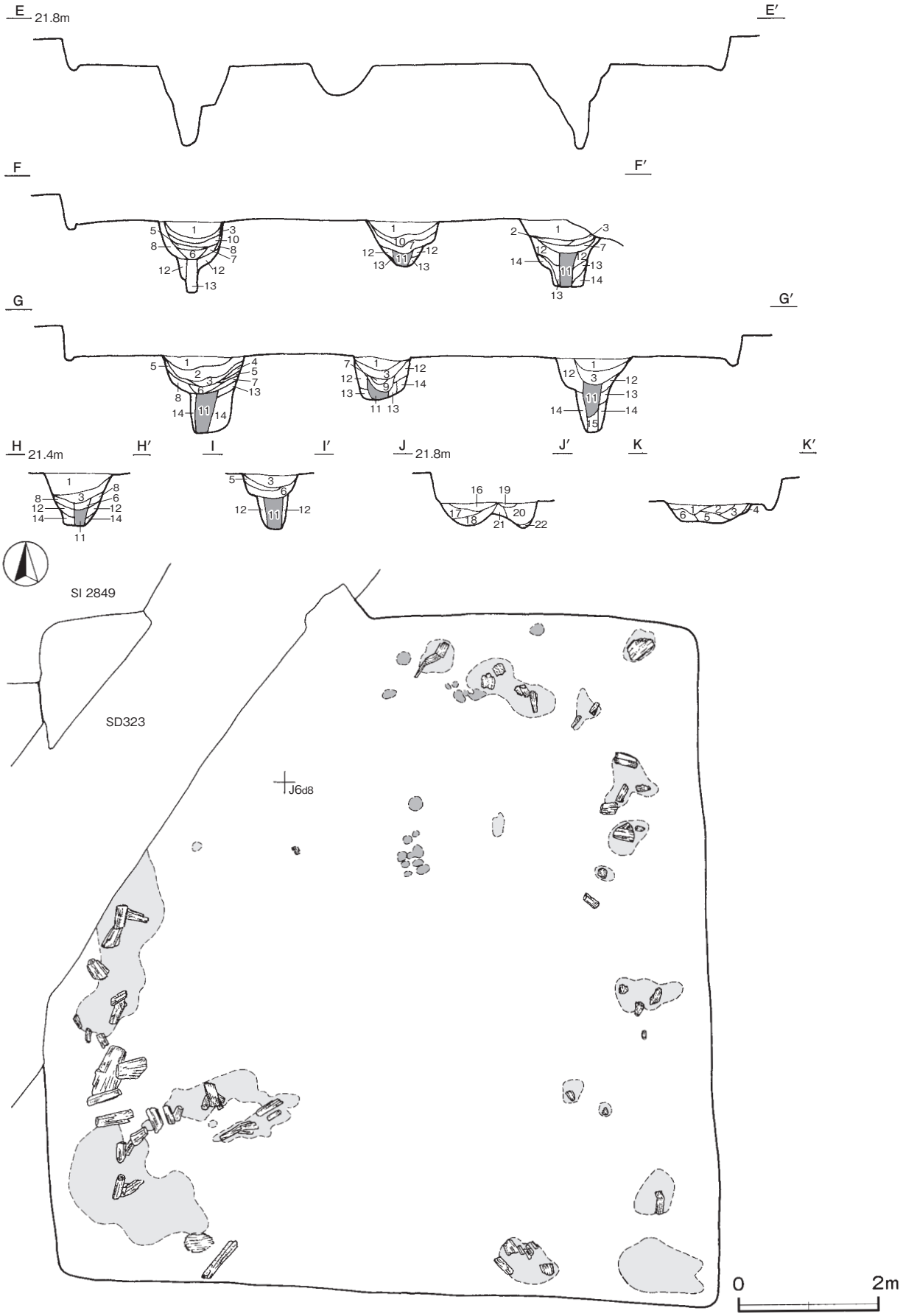
ピット　10 か所。Ｐ１～Ｐ８は深さ 76 ～ 106cm で，主柱穴である。Ｐ９は深さ 30cm，P10 は深さ 38cm で，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。第 11 層は柱根跡である。

ピット土層解説

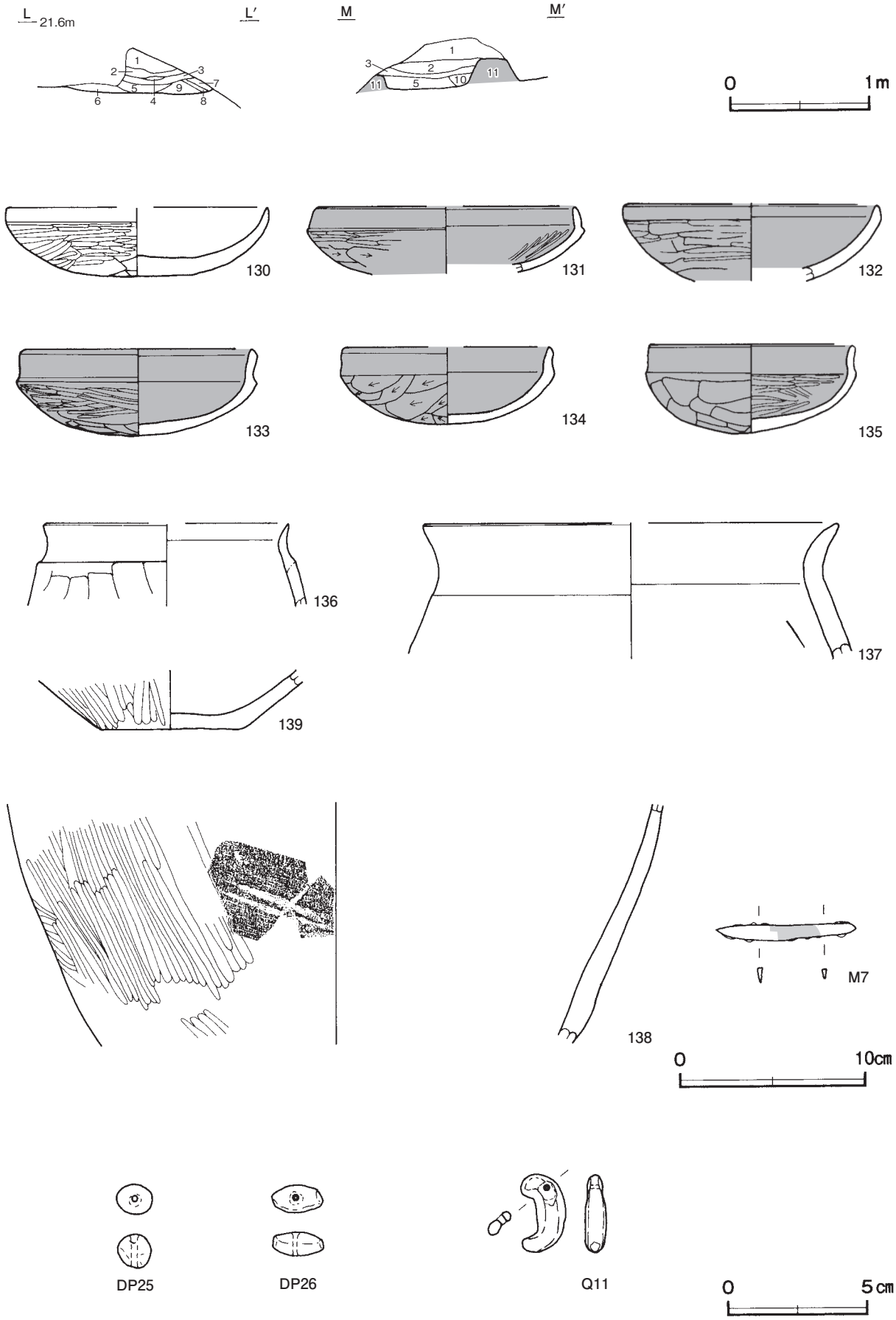
1　褐　　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　にぶい黄褐色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　炭化材中量，ロームブロック・炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，炭化材少量，焼土粒子微量
9　黒　　色　炭化材多量，ロームブロック・焼土ブロック小量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック小量，炭化物微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量
13　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
16　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
18　黒　褐　色　ローム粒子微量
19　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
20　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
21　灰　褐　色　炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
22　暗　褐　色　ロームブロック微量



第 68 図　第 2850 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 69 図　第 2850 号竪穴建物跡実測図 (2)



第 70 図　第 2850 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

貯蔵穴　北壁中央部寄りで竈の南東側に隣接している。長軸 119cm，短軸 100cm の隅丸長方形で，深さは 22cm である。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　にぶい褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

覆土　14 層に分層できる。 各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 15 層は貼床の構築土である。第 16 ～ 19 層は第 2851 号竪穴建物跡の覆土である。

土層解説

1　灰黄褐色　ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　焼土ブロック中量，炭化材・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量
5　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
9　褐　　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化材少量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
14　灰黄褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
15　暗赤褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 2764 点（坏 567, 高坏４, 甕類 2149, 甑 44), 須恵器片 27 点（坏 20, 高坏２, 長頸瓶３, 甕類２），土製品３点（土玉，棗玉，支脚），石製品１点（勾玉），鉄製品２点（刀子），粘土塊１点，鉄滓２点（237.1g）が，全域の覆土上層から下層にかけて出土している。また，混入した縄文土器片４点（深鉢），磁器片１点（碗）も出土している。135 は南西隅の壁溝内から，134 は貯蔵穴内から，132 はＰ 10 内から，137 はＰ８内からそれぞれ出土している。133 は北東隅の壁寄りに，138 は竈の東側付近，DP25 は西壁とＰ６の間，Ｍ７は東壁寄りの床面から出土している。130 は南東部のＰ３付近，139 はＰ２の北側付近の覆土下層から，DP26・Ｑ 11 は東壁寄りの覆土上層から，131・136 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　壁際寄りの床面から焼土と炭化材が出土していることから焼失家屋と考えられる。遺物のほとんどが破片であることや覆土が埋め戻されていることから，不慮の火災ではなく廃棄行為によるものと考えられる。本跡の平面形は，第 2851 号竪穴建物跡を北・西壁はほぼそのままに，南・東壁を 10 ～ 15cmほど縮小したと考えられる。時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。

第 2850 号竪穴建物跡・出土遺物観察表（第 70 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
130	土師器	坏	［14.2］	3.2	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ	覆土下層	30%
131	土師器	坏	［14.0］	(3.5)	－	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面放射状のヘラ磨き	覆土中	10%
132	土師器	坏	［13.6］	(4.1)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り後ヘラ磨き内面ナデ	P10 覆土中層	20%
133	土師器	坏	12.3	4.6	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	90%　PL28
134	土師器	坏	［11.1］	4.1	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	貯蔵穴内	60%
135	土師器	坏	10.9	4.8	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラ磨き	壁溝内	95%
136	土師器	甕	［13.2］	(4.4)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中	５%
137	土師器	甕	［22.4］	(7.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ	Ｐ８覆土中層	５%
138	土師器	甕	－	(13.0)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面磨き　内面ナデ　砥石転用	床面	10%
139	土師器	甕	－	(3.1)	［7.6］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　底部外面ヘラ磨き	覆土下層	５%

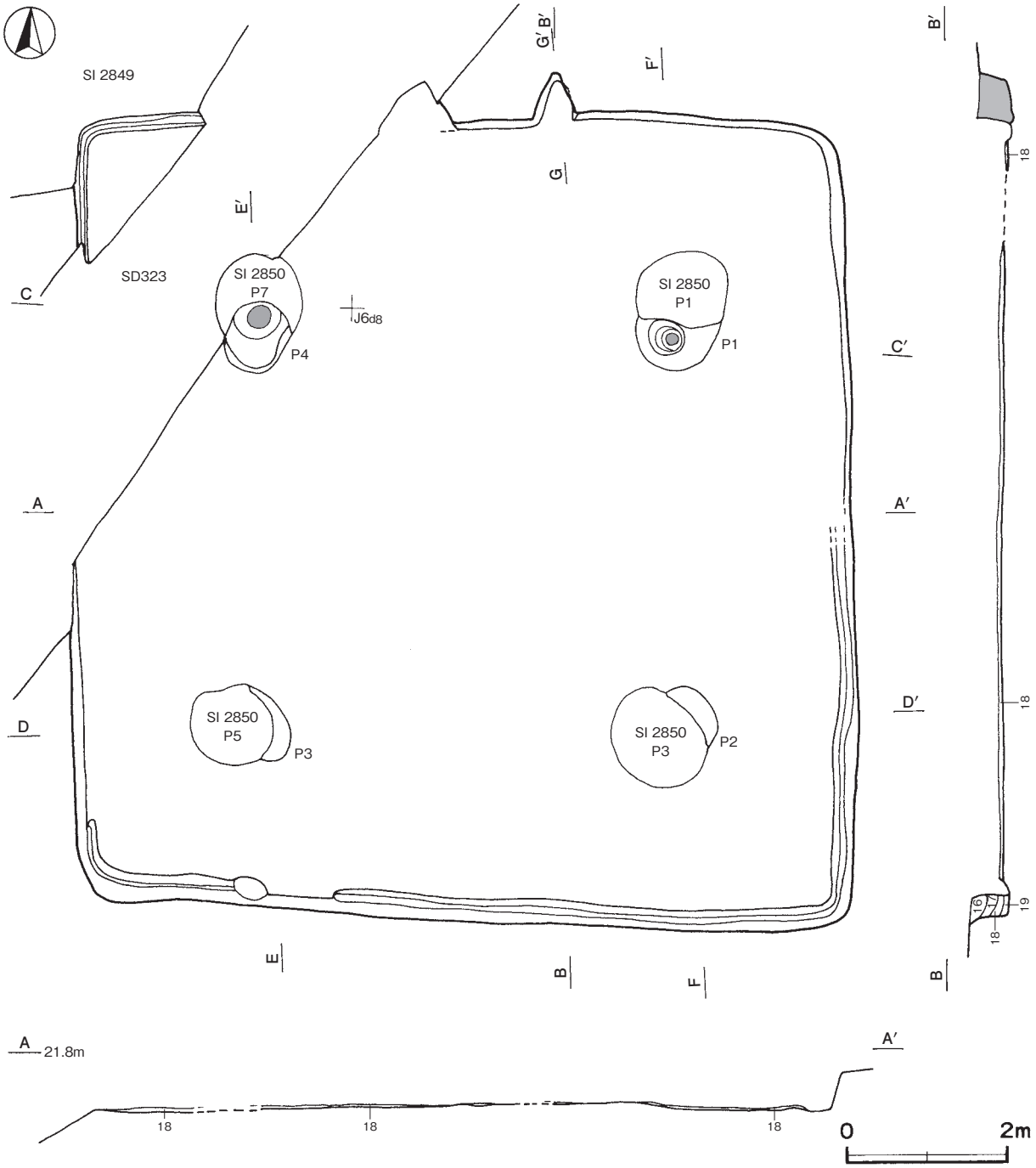
番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP25	土玉	1.31	1.21	0.24 ～ 0.26	1.62	長石	ナデ　一方向の穿孔　黒斑	床面	PL34
DP26	棗玉	1.86	1.01	0.17 ～ 0.19	1.65	長石	ナデ　一方向の穿孔　両端部を平坦に成形	覆土上層	PL34

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 11	勾玉	2.71	0.74	0.12	(3.82)	瑪瑙	一方向からの穿孔	覆土上層	PL37

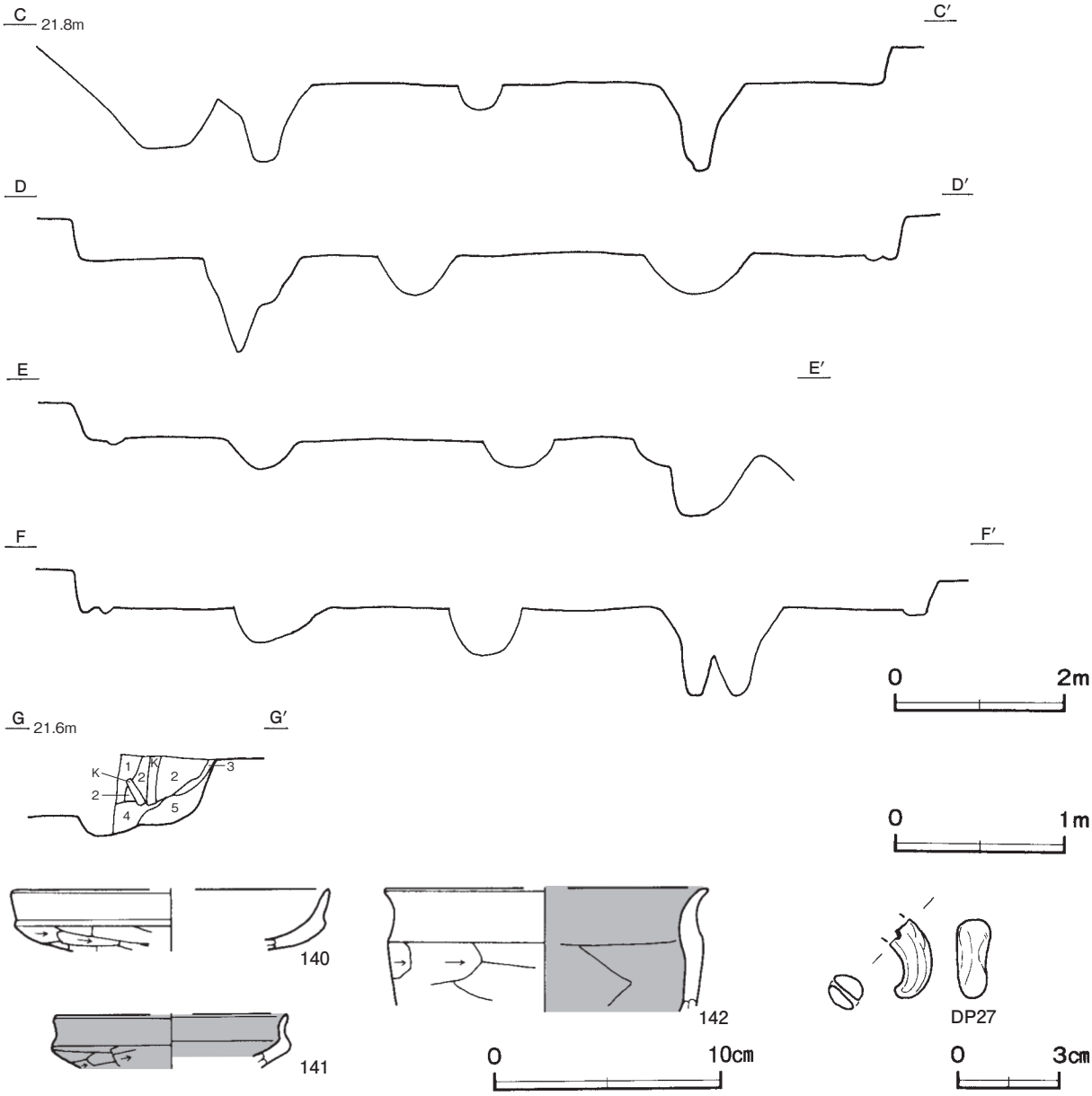
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 7	刀子	7.71	1.00	0.31	(5.84)	鉄	片関　被熱痕	床面	PL38

第 2851 号竪穴建物跡（第 71・72 図）

位置　調査区西部のＪ６d8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。



第 71 図　第 2851 号竪穴建物跡実測図



第 72 図　第 2851 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

確認状況　第 2850 号竪穴建物の床下 10cmほどで確認した。

重複関係　第 2849・2850 号竪穴建物，第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 9.82 m，短軸 9.64 mの方形で，主軸方向はN－3°－Wである。南壁際及び床面直上には，わずかに覆土が遺存し，壁高は 50cmほどで，ほぼ直立している。

床　平坦で，踏み固められた痕跡は認められない。北西コーナー部及び南壁から南東コーナー部の壁下にかけて，幅 20 ～ 41cm，深さ 7 ～ 16cmで，浅いU字形の壁溝を確認した。

竈　北壁中央部の東寄りに付設されている。煙道部の痕跡のみを確認した。煙道部は壁外へ 60cm掘り込まれ，奥壁でほぼ直立している。

竈土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　にぶい褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子・粘土粒子少量

4　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化物少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット　４か所。本跡のＰ１～Ｐ４は，第2850号竪穴建物のＰ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７にそれぞれ掘り込まれているため，底面が確認できたＰ１・Ｐ４は深さ78cm・76cmで，Ｐ２・Ｐ３は深さ26cm・28cmまでしか確認できなかった。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　４層に分層できる。第2850号竪穴建物跡土層解説の第16～19層に相当する。南壁際及び床面直上にわずかに遺存しており，各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
16　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
17　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
18　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
19　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片155点（坏47，椀１，鉢１，甕類106），須恵器片１点（坏），土製品１点（勾玉）が出土している。140は竈の覆土中から出土している。141・142・DP27は床面直上の第３層中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。本跡は，南壁際及び床面直上に埋め戻された覆土がわずかに遺存していることから，全体が埋め戻された後，第2850号竪穴建物を構築するために掘り込まれたと考えられる。出土土器から両跡の時期差はあまりないものとみられる。

第2851号竪穴建物跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
140	土師器	坏	[14.0]	(2.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	竈覆土中	10%
141	土師器	坏	[10.2]	(2.4)	－	長石・石英	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	５%
142	土師器	鉢	[14.4]	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	10%

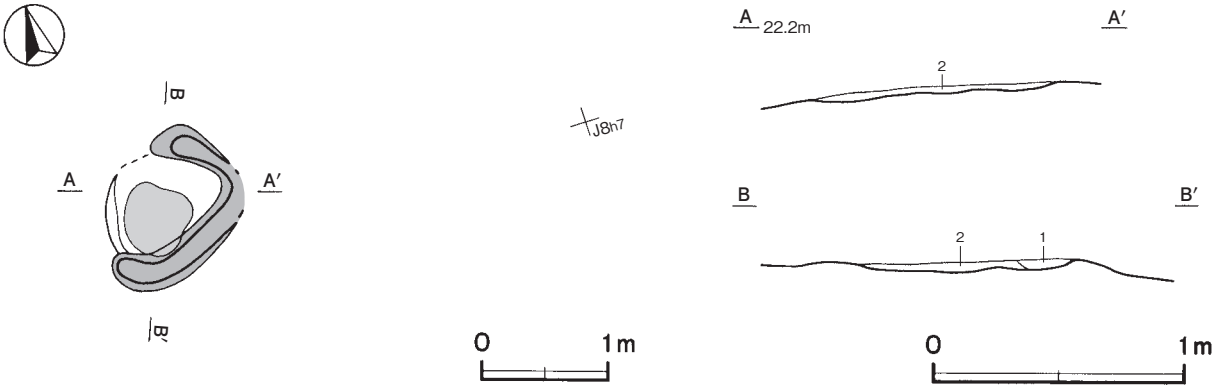
番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP27	勾玉	(2.29)	1.07	－	(2.49)	長石・石英	欠損　ナデ　穿孔痕	覆土中	PL35

第2852号竪穴建物跡（第73図）

位置　調査区東部のＪ８g6区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況　竈の痕跡のみ確認した。建物の規模や床面等は不明である。

規模と形状　遺存している竈の状況から，主軸方向はＮ－90°－Ｅと推定できる。



第73図　第2852号竪穴建物跡実測図

竈　遺存状況から，規模は焚口部から煙道部まで102cmで，燃焼部幅は75cmである。袖部は地山を掘り残して基部としている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　炭化材少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　にぶい褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・灰少量

所見　時期は，出土遺物がないため不明であるが，周囲の竪穴建物跡の確認状況から古墳時代と見られる。

第2853号竪穴建物跡（第74～77図）

位置　調査区西部のＪ６e6区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第2859号竪穴建物・第323号溝に掘り込まれている。

規模と形状　一辺5.95ｍの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁高は45～56cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅18～24cm，深さ７～14cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで，燃焼部幅は42cmである。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第16層を積み上げて構築されている。火床部は床面より８cmくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ70cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化材少量
2　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
3　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　にぶい黄橙色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　にぶい橙色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
8　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　にぶい黄橙色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
10　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
11　明赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子少量，炭化物微量
12　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
14　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
15　黒　褐　色　粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子少量
16　灰黄褐色　砂質粘土ブロック多量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ86～108cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ14cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

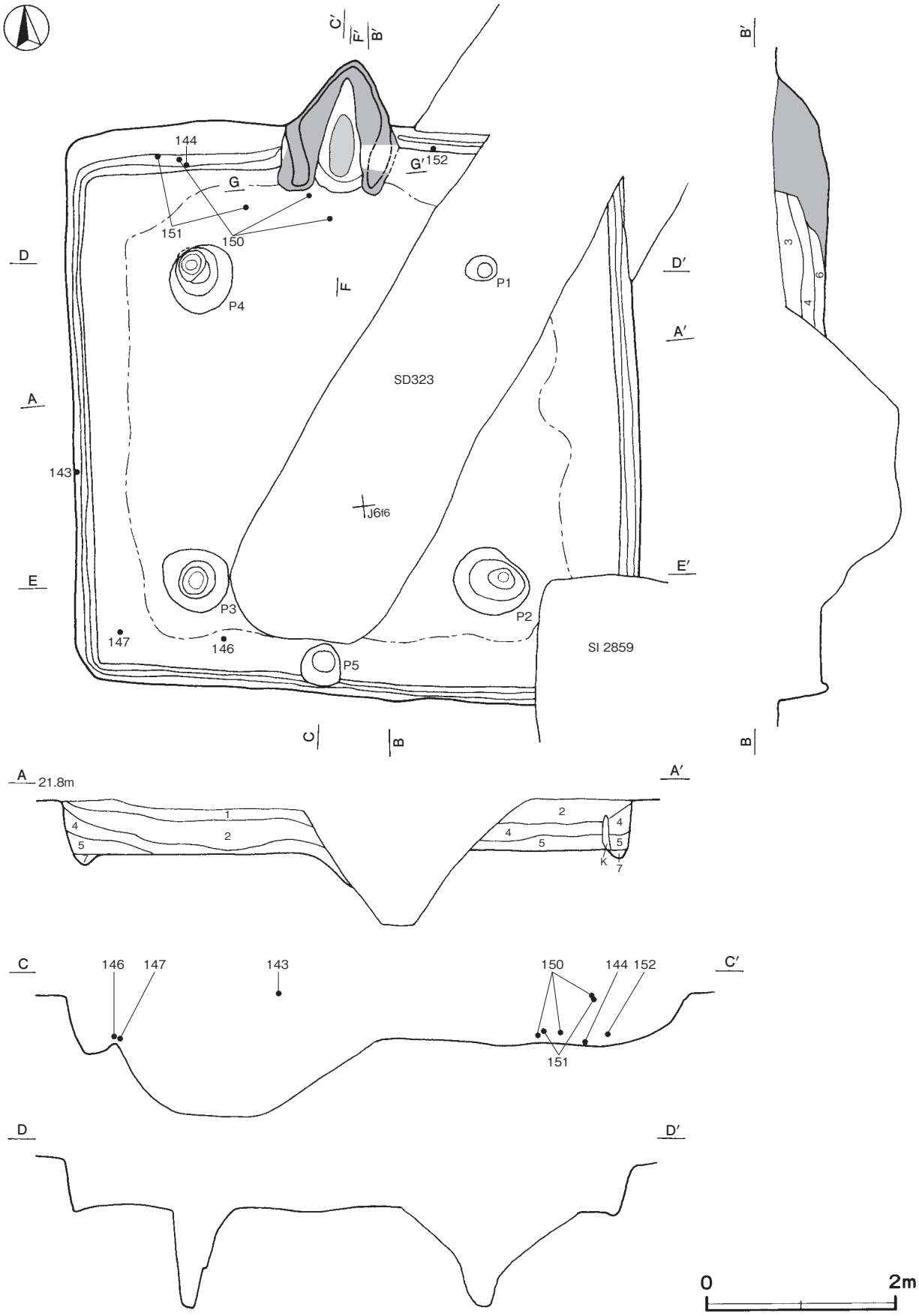
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

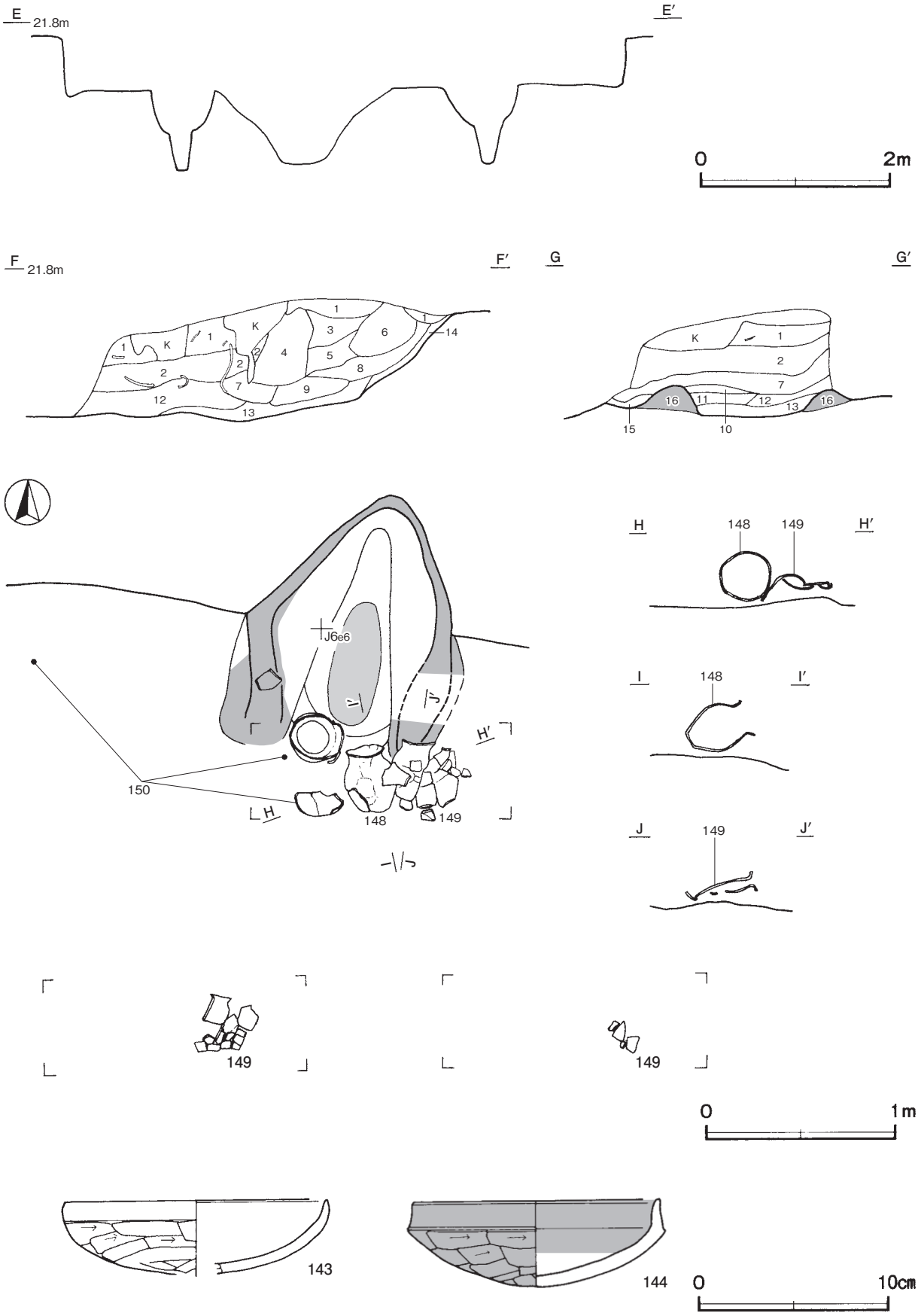
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化材・焼土粒子微量
2　灰黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　灰黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片1025点（坏255，高坏８，鉢１，甕類754，甑７），須恵器片６点（坏４，蓋１，高坏１），土製品６点（土玉５，支脚１），鉄製品２点（手鎌，不明），焼成粘土塊１点，鉄滓１点（18g）が，竈前から北西部の覆土中層から床面にかけて集中して出土している。144は北壁下西部の壁溝覆土中から出土している。146・147は南西部の床面からそれぞれ出土している。148～150は竈の火床面から，148・149は横位で，150は伏せた状態でそれぞれ出土している。152は北部壁下の覆土下層から出土している。151は北西部の覆土下層と覆土中層から出土した破片２点が接合したものである。143は西部の覆土上層から出土している。145・DP28～DP32・Ｍ８は覆土中からそれぞれ出土している。

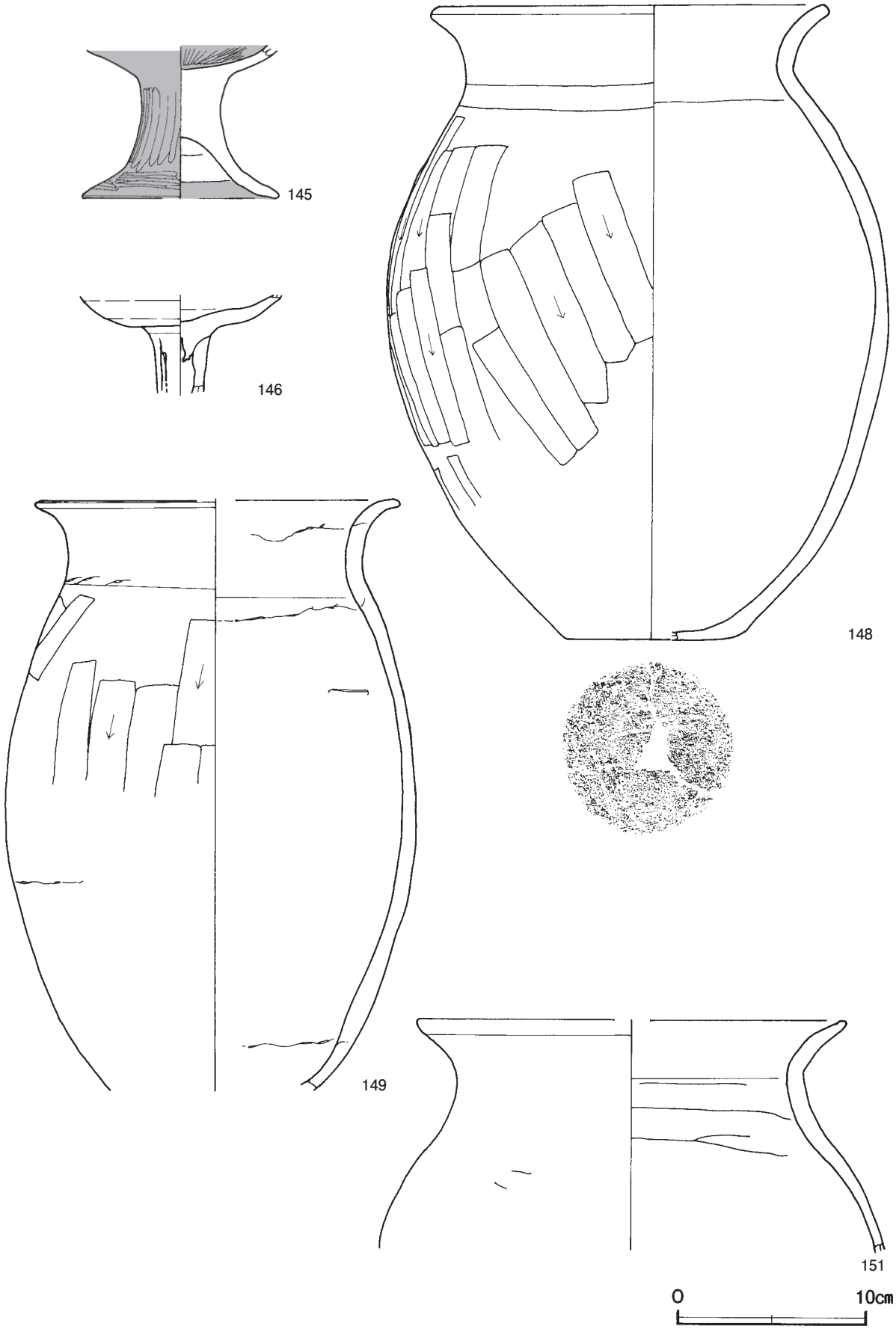
所見　時期は，出土土器や重複関係から６世紀後葉に比定できる。



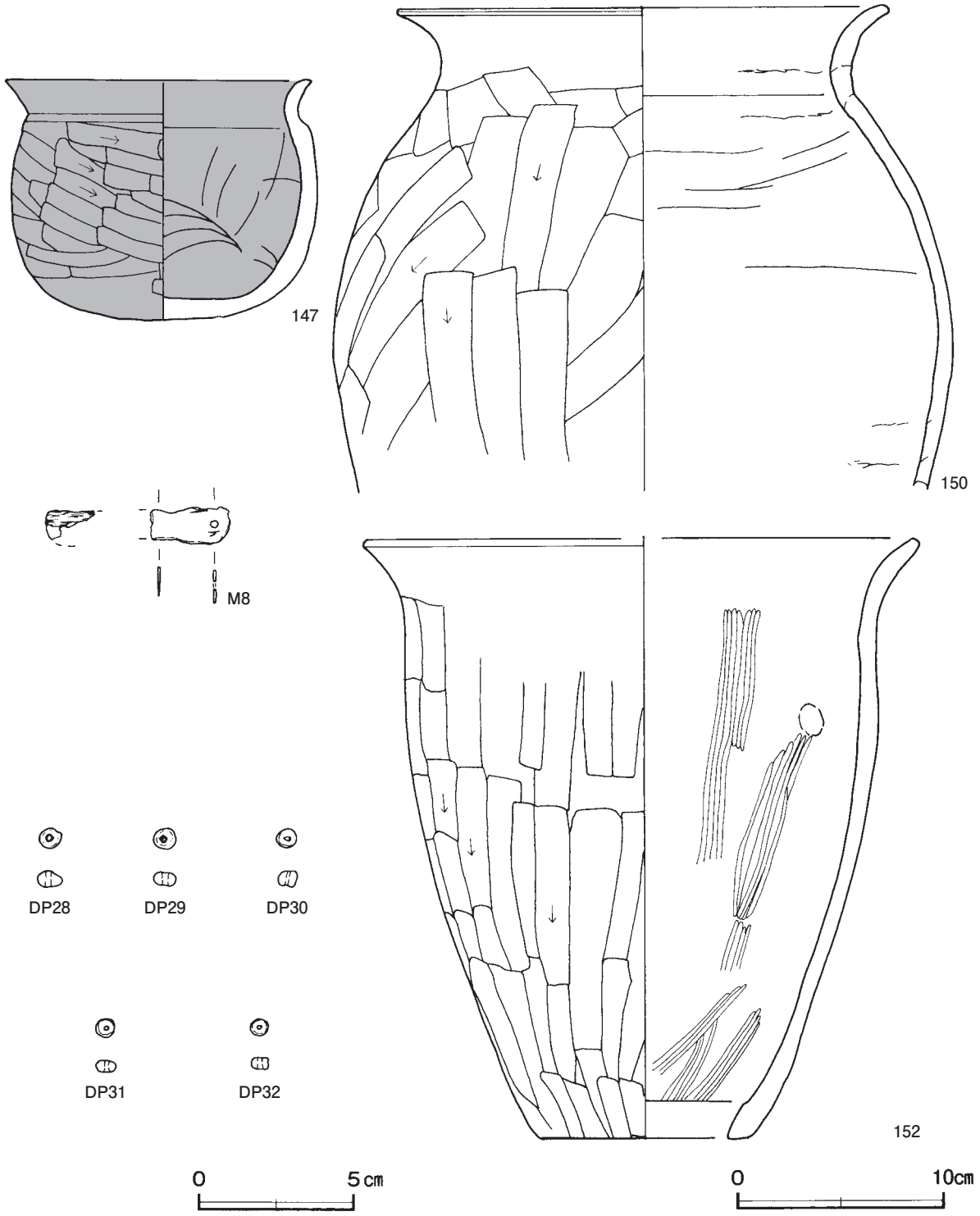
第 74 図　第 2853 号竪穴建物跡実測図



第 75 図　第 2853 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 76 図　第 2853 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 77 図　第 2853 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 2853 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 75 ～ 77 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
143	土師器	坏	13.8	(3.8)	－	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土上層	75%　PL29
144	土師器	坏	13.0	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	壁溝覆土中	95%
145	土師器	高坏	－	(8.0)	[10.4]	長石・石英	にぶい黄	普通	坏部内面放射状のヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ磨き　裾部外面横位のヘラ磨き	覆土中	50%
146	須恵器	高坏	－	(5.1)	－	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　脚部に透かし孔３か所	床面	35%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
147	土師器	鉢	15.0	11.5	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	95%　PL29
148	土師器	甕	20.6	33.6	9.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	竈火床面	90%　PL29
149	土師器	甕	［19.4］	（31.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	竈火床面	60%
150	土師器	甕	23.4	（23.4）	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	竈火床面	50%
151	土師器	甕	［22.8］	（12.1）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層 覆土中層	20%
152	土師器	甑	［26.0］	28.9	9.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面縦位のヘラ磨き　指頭痕	覆土下層	50%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP28	土玉	0.68～0.80	0.52	0.18	0.26	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL34
DP29	土玉	0.72～0.75	0.46	0.18	0.25	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL34
DP30	土玉	0.63～0.64	0.52	0.14	0.25	長石・石英	ナデ　孔両端に擦痕	覆土中	PL34
DP31	土玉	0.60～0.61	0.42	0.15	0.15	長石	ナデ　孔両端に擦痕	覆土中	PL34
DP32	土玉	0.54～0.55	0.37	0.13	0.13	長石・石英	ナデ　孔両端に擦痕	覆土中	PL34

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Ｍ８	手鎌	（3.86）	1.66	0.29	（3.10）	鉄	中間部欠損　両端に 0.3cmの孔　木質付着	覆土中	PL38

第 2854 号竪穴建物跡（第 78・79 図）

位置　調査区西部のＪ６j7 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 5.30 m，短軸 4.95 mの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は 28 ～ 30cmで，ほぼ直立している。南西コーナー部は，調査区域外に延びているため確認できない。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅 21 ～ 32cm，深さ６～ 12cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。北東・南東コーナー部の壁溝及び南壁際・西壁際の床面の６か所で，焼土塊を確認した。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cmで，燃焼部幅は 50cmである。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第３層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりややくぼんでおり，火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外へ５cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　灰　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 55 ～ 63cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 27cm・32cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

Ｐ５・６土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

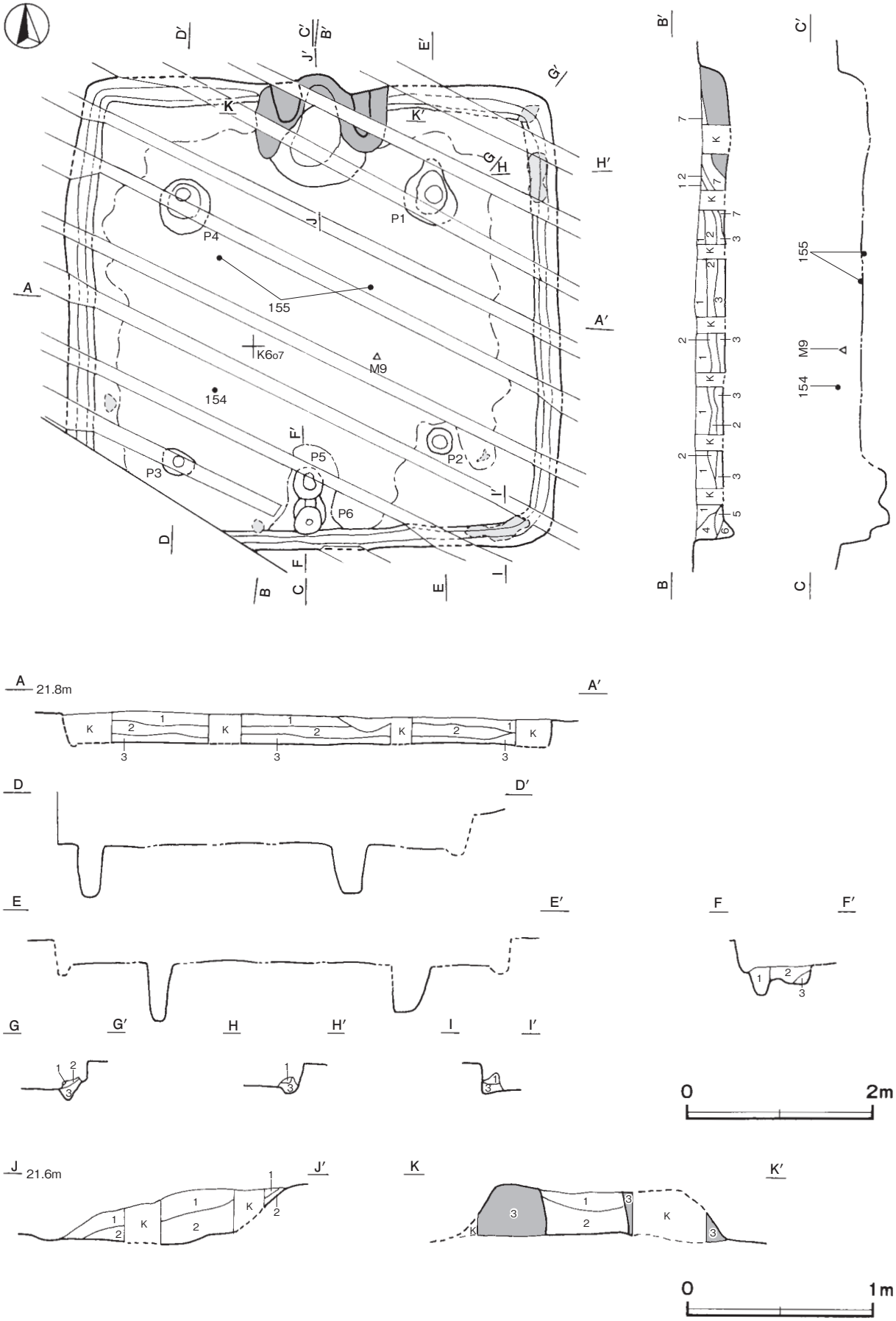
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

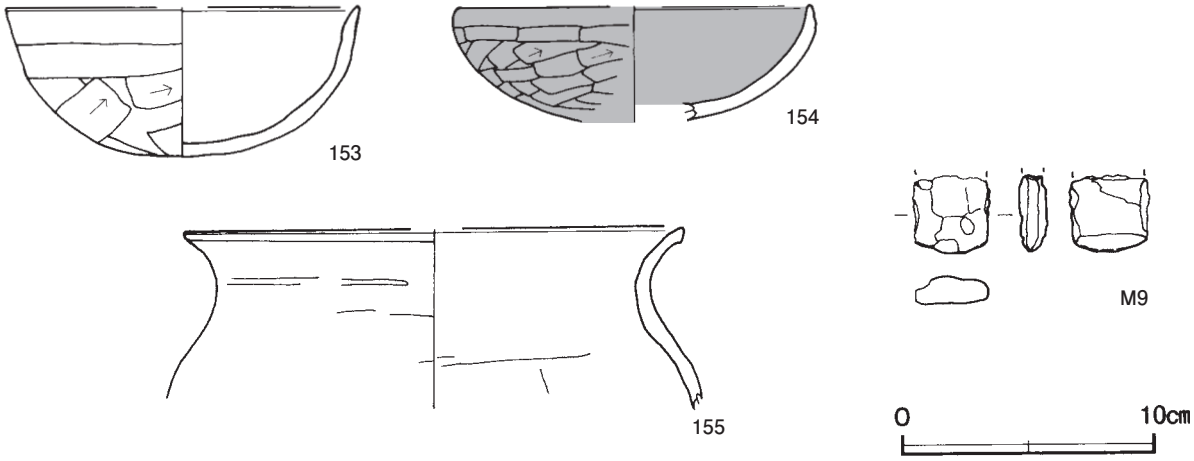
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　灰黄褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　灰　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　灰　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

焼土塊１～３土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子多量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量



第 78 図　第 2854 号竪穴建物跡実測図



第 79 図　第 2854 号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 227 点（坏 51，甕類 176），須恵器片 10 点（坏６，蓋１，甕類３），土製品１点（支脚），鉄製品１点（小形鉄斧ヵ），鉄滓１点（2.88g）が出土している。154・Ｍ９は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。155 は中央部の床面から出土した破片２点が接合したものである。153 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉に比定できる。壁下で確認した焼土塊は，床面が焼けていないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第 2854 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 79 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
153	土師器	坏	［14.0］	5.9	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	50%　PL29
154	土師器	坏	［14.0］	(4.6)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	25%
155	土師器	甕	［19.8］	(7.0)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｍ９	小形鉄斧ヵ	(2.99)	(3.06)	1.20	(20.8)	鉄	袋部欠損　刃部片刃	覆土中層	PL38

第 2855 号竪穴建物跡（第 80 ～ 85 図）

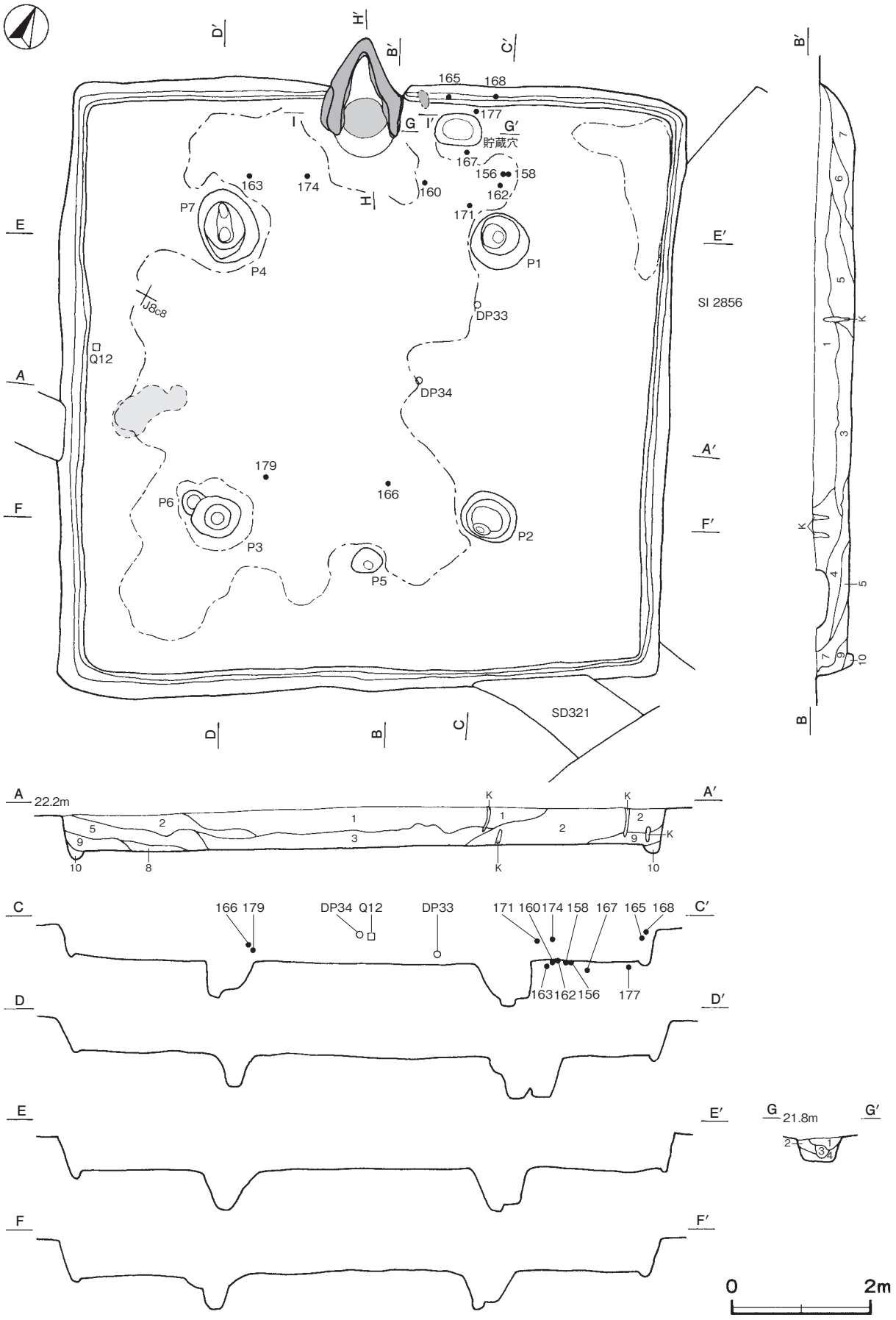
位置　調査区東部のＪ８b8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2856 号竪穴建物跡を掘り込み，第 89 号方形竪穴遺構，第 321 号溝に掘り込まれている。

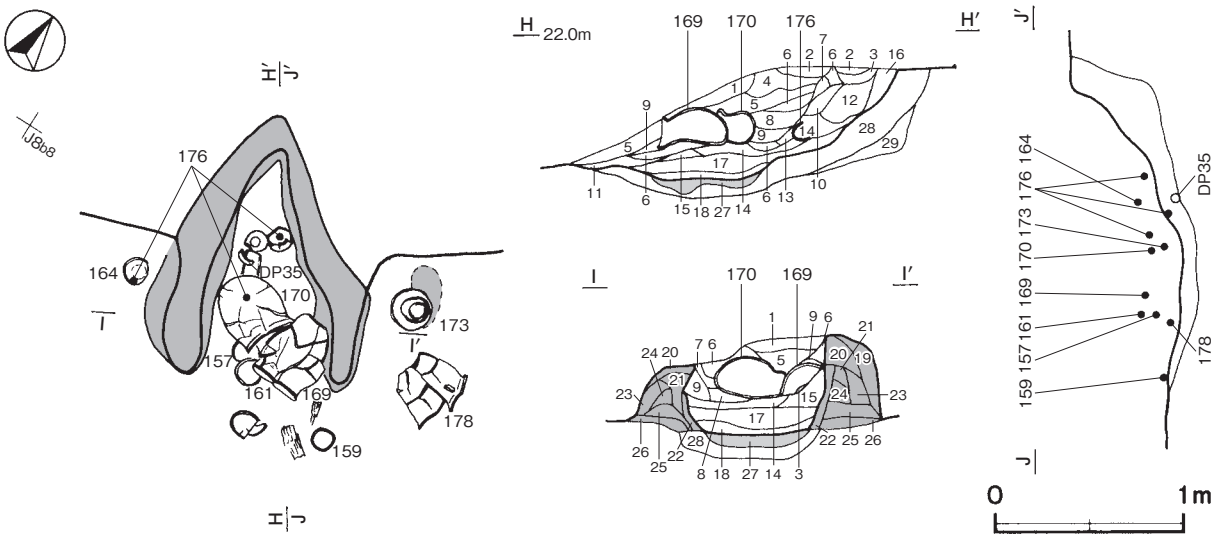
規模と形状　長軸 8.72 m，短軸 8.60 mの方形で，主軸方向はＮ－ 27 °－Ｗである。壁高は 30 ～ 45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部及び北東コーナー部の壁下が踏み固められている。壁下には，幅 13 ～ 26cm，深さ６～ 11 cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 135cmで，燃焼部幅は 54cmである。竈は焚口部から奥壁までを 15cm掘りくぼめ，第 28・29 層を埋土して全体を整地した後，袖部は砂質粘土を主体とした第 19 ～ 26 層を積み上げて構築されている。第 27 層は火床部である。火床部は床面よりややくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 52cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっ



第 80 図　第 2855 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 81 図　第 2855 号竪穴建物跡実測図 (2)

ている。第５～９層は天井部の崩落土である。火床部の上には，土師器甕２点（169・170）が東西方向に並んで出土していることから，横２口掛けの竈と考えられる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5	暗 赤 褐 色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10	赤　褐　色	焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
11	暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子少量
12	極暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
13	にぶい赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
14	灰　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
15	明 褐 灰 色	灰中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
16	黒　褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
17	灰　白　色	焼土ブロック・灰少量
18	明 赤 褐 色	焼土ブロック多量
19	灰 黄 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
20	にぶい橙色	砂質粘土ブロック多量
21	にぶい橙色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
22	にぶい黄橙色	粘土粒子多量，焼土ブロック微量
23	明 褐 灰 色	粘土粒子多量
24	にぶい黄橙色	粘土粒子多量
25	にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量
26	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
27	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
28	明 赤 褐 色	焼土粒子・粘土粒子少量
29	にぶい黄褐色	ロームブロック多量，焼土粒子少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 47 ～ 61cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 49cmで，位置と硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ７は深さ 49cm・56cmで，配置からＰ６からＰ３へ，Ｐ７からＰ４への柱の立て替えが想定できる。

貯蔵穴　竈の東側に位置している。長径 50cm，短径 33cmの楕円形で，深さは 38cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

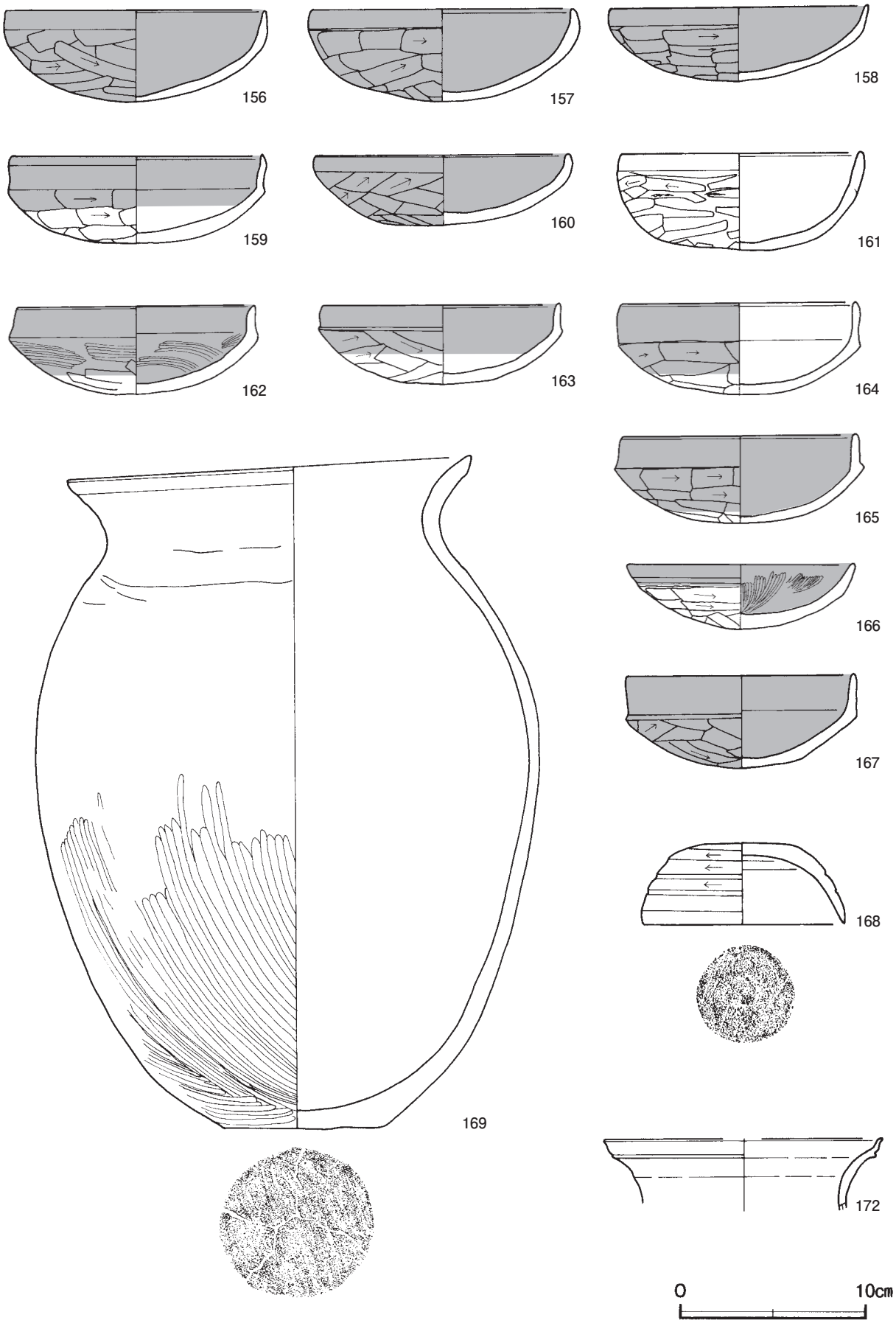
貯蔵穴土層解説

1	褐　　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2	褐　　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3	褐　　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量

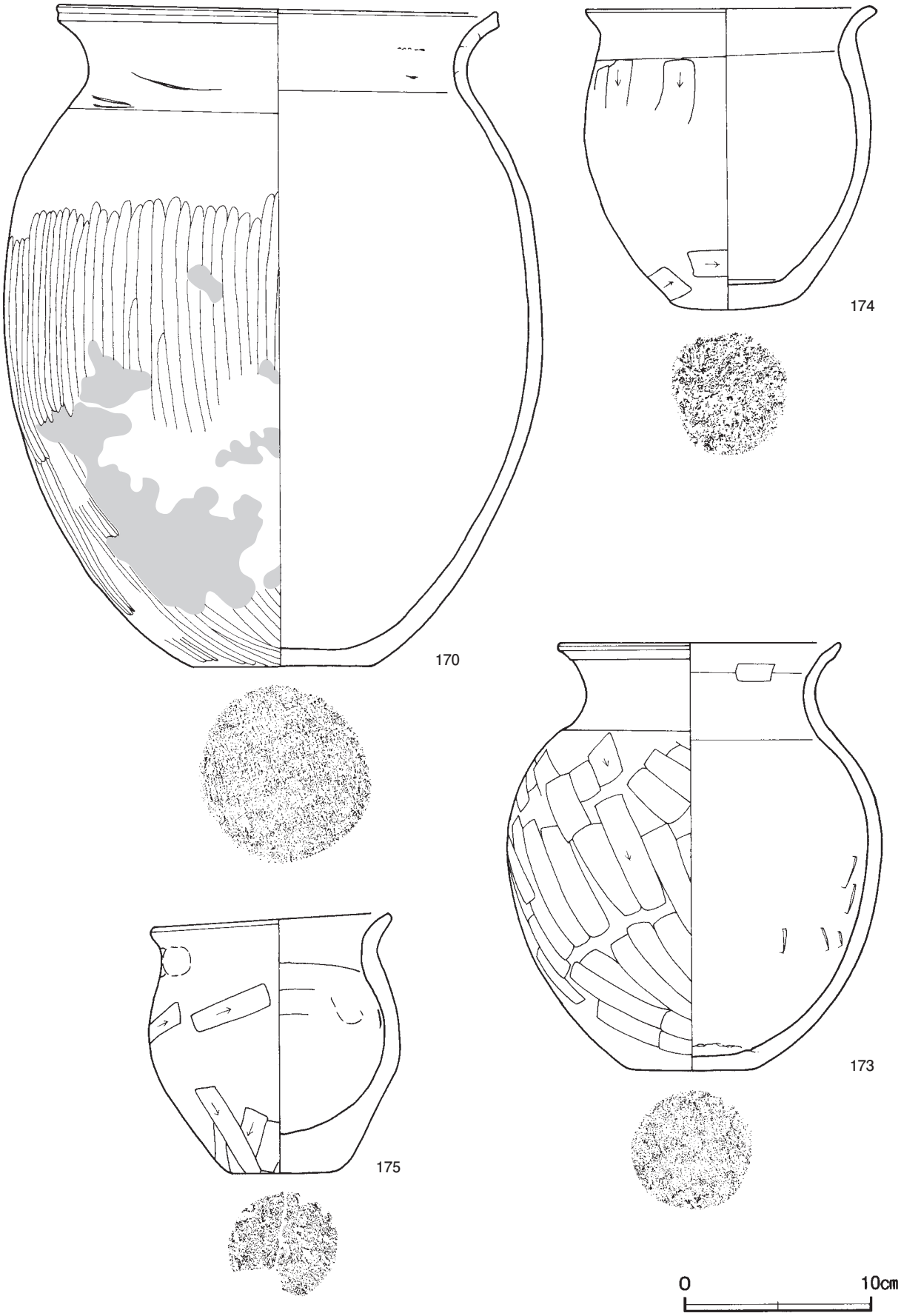
覆土　10 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

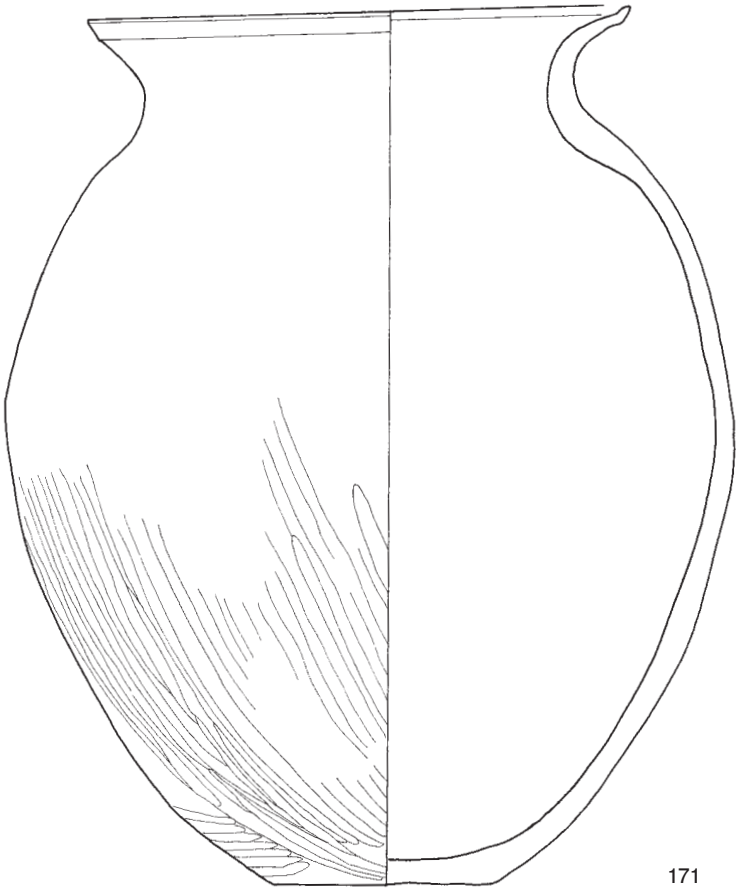
1	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐　　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	褐　　色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
6	にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7	灰　褐　色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	赤　褐　色	ロームブロック・焼土粒子中量，灰少量，炭化粒子微量
9	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
10	明　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

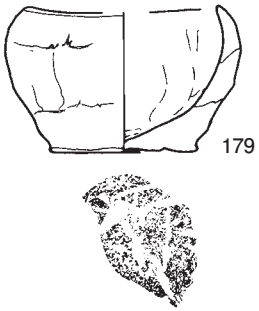


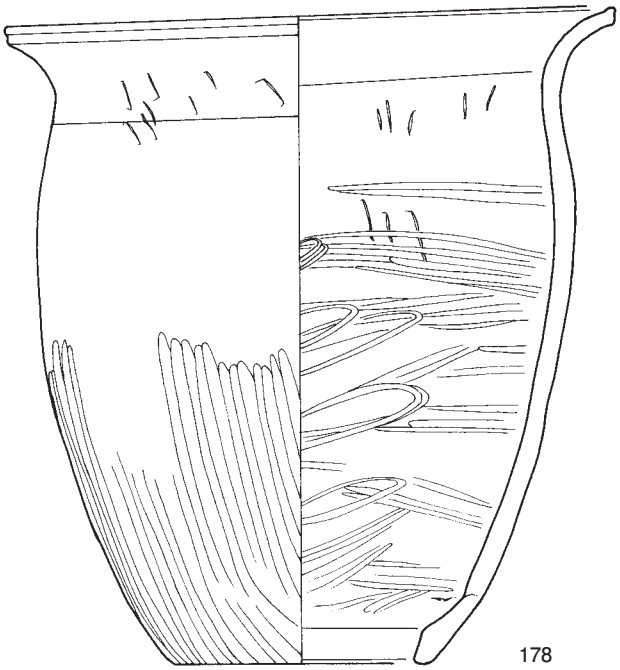
第 82 図　第 2855 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)

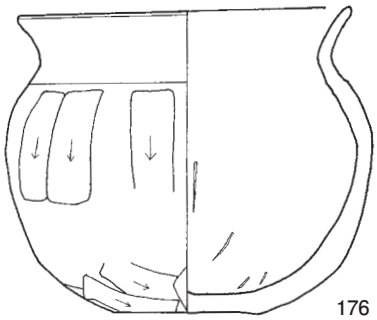


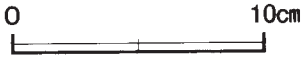
第 83 図　第 2855 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



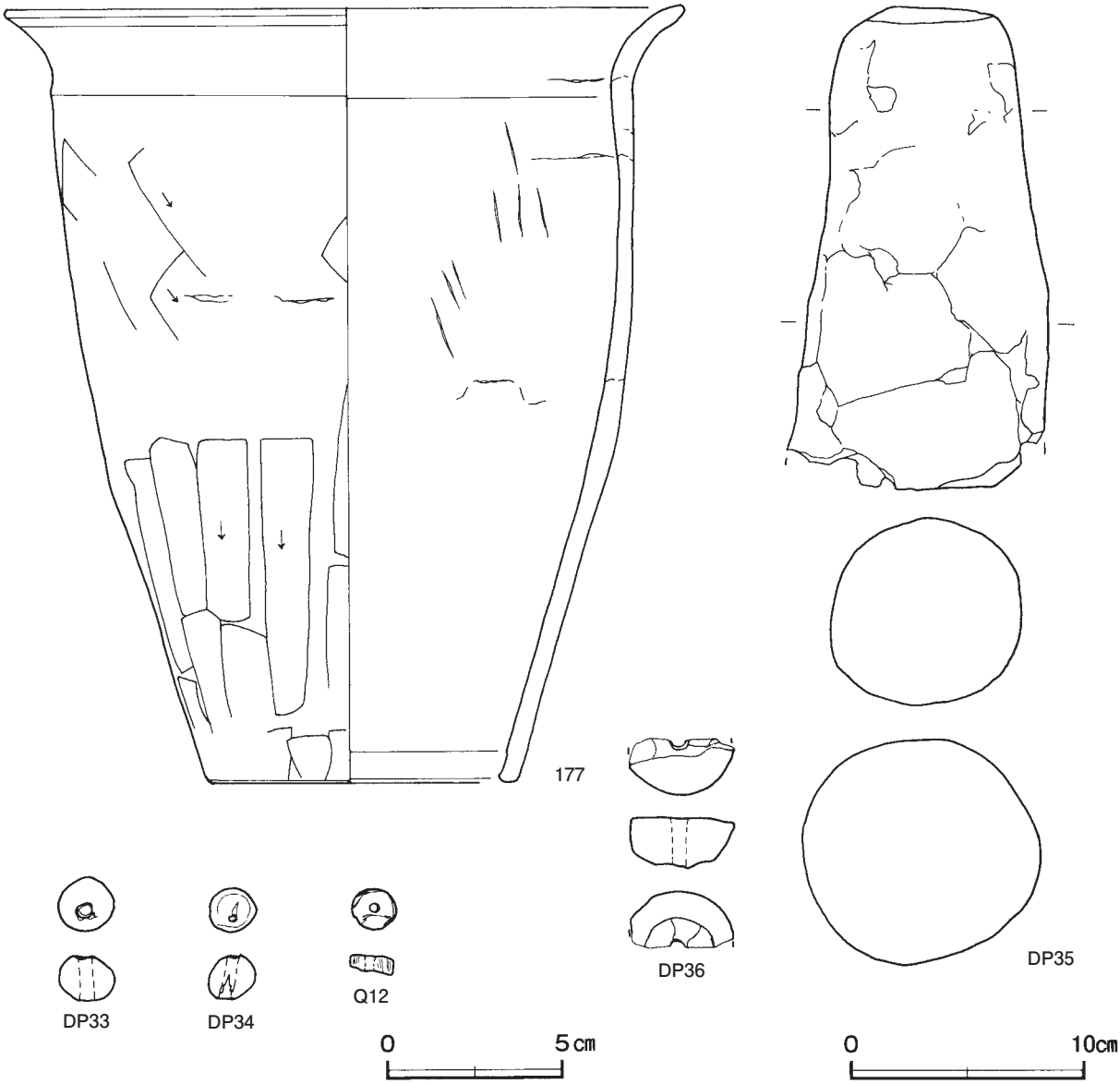








第 84 図　第 2855 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 85 図　第 2855 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

遺物出土状況　土師器片 2549 点（坏 711，椀 1，高坏 13，甕類 1817，小形甕 4，甑 2，手捏 1），須恵器片 28 点（坏 3，蓋 7，甕類 18），土製品 9 点（土玉 2，支脚 7），石器 1 点（紡錘車），石製品 1 点（臼玉），焼成粘土塊 1 点，鉄滓 1 点（15.9g）が，竈周辺から中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。DP35 は竈の火床部から横位の状態で出土している。169・170 の甕 2 点は，竈の覆土中層の天井部崩落土中から横位で出土していることから，甕 2 点は竈に掛けられ，使用されていたと考えられる。そのほか，火床部からは 157・161 も出土している。176 は竈の火床部と竈西側の床面から出土した破片 3 点が接合したものである。159 は焚口部から正位の状態で出土している。156・158・160・162・167・173・177・178 は竈東側の床面からそれぞれ出土している。163・164 は竈西側の床面からそれぞれ出土している。166・179・DP33 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。165・168・171 は竈東側，174 は竈西側，DP34 は中央部，Q12 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。172・175・DP36 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。

第 2855 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 82 ～ 85 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
156	土師器	坏	14.0	4.9	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%
157	土師器	坏	14.0	4.9	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	竈火床部	95%　PL29
158	土師器	坏	13.9	4.0	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL29
159	土師器	坏	13.6	4.7	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	焚口部	98%
160	土師器	坏	13.5	3.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	95%
161	土師器	坏	12.9	5.3	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　内面ナデ　輪積痕	竈火床部	95%
162	土師器	坏	12.8	4.7	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	床面	95%
163	土師器	坏	12.7	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	95%　PL29
164	土師器	坏	12.5	4.9	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	80%　PL29
165	土師器	坏	12.4	4.7	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	95%　PL29
166	土師器	坏	12.1	3.5	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	90%　PL29
167	土師器	坏	12.0	4.8	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	90%
168	須恵器	蓋	10.8	4.4	－	長石・石英	灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り　内面ロクロナデ	覆土中層	70%
169	土師器	甕	21.7	36.0	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈火床部	90%
170	土師器	甕	23.4	35.5	9.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　炭化物付着	竈火床部	95%　PL30
171	土師器	甕	21.5	35.0	8.5	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ナデ	覆土中層	70%　PL30
172	須恵器	甕	［15.0］	（3.9）	－	長石・石英	暗灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	覆土中	５%
173	土師器	小形甕	14.9	22.9	6.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ　底部斜位のヘラナデ	床面	95%　PL30
174	土師器	小形甕	15.4	16.2	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上半縦位のヘラ削り　下端横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	70%　PL30
175	土師器	小形甕	12.6	13.9	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　指頭痕	覆土中	60%　PL30
176	土師器	小形甕	13.0	12.1	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面中位縦位のヘラ削り　下位斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床部 床面	70%
177	土師器	甑	29.1	33.2	［13.3］	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上半斜位のヘラ削り　下半縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	床面	60%
178	土師器	甑	24.1	26.1	10.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラ磨き	床面	95%　PL30
179	土師器	手捏土器	［7.6］	5.7	［5.7］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ　輪積痕　内面指頭痕　底部木葉痕	覆土下層	50%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP33	土玉	1.62	1.3	0.45 ～ 0.52	3.15	長石・石英・雲母	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL34
DP34	土玉	1.36	1.34	0.18 ～ 0.33	2.28	長石・石英・雲母	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	PL34

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP35	支脚	20.6	6.9	（11.2）	（1,993）	長石・石英	一部欠損　ナデ　被熱痕	竈火床部	PL36

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP36	紡錘車	（4.5）	2.2	（0.6）	（19.6）	長石・石英・赤色粒子	欠損　ナデ　穿孔痕	覆土中	PL35

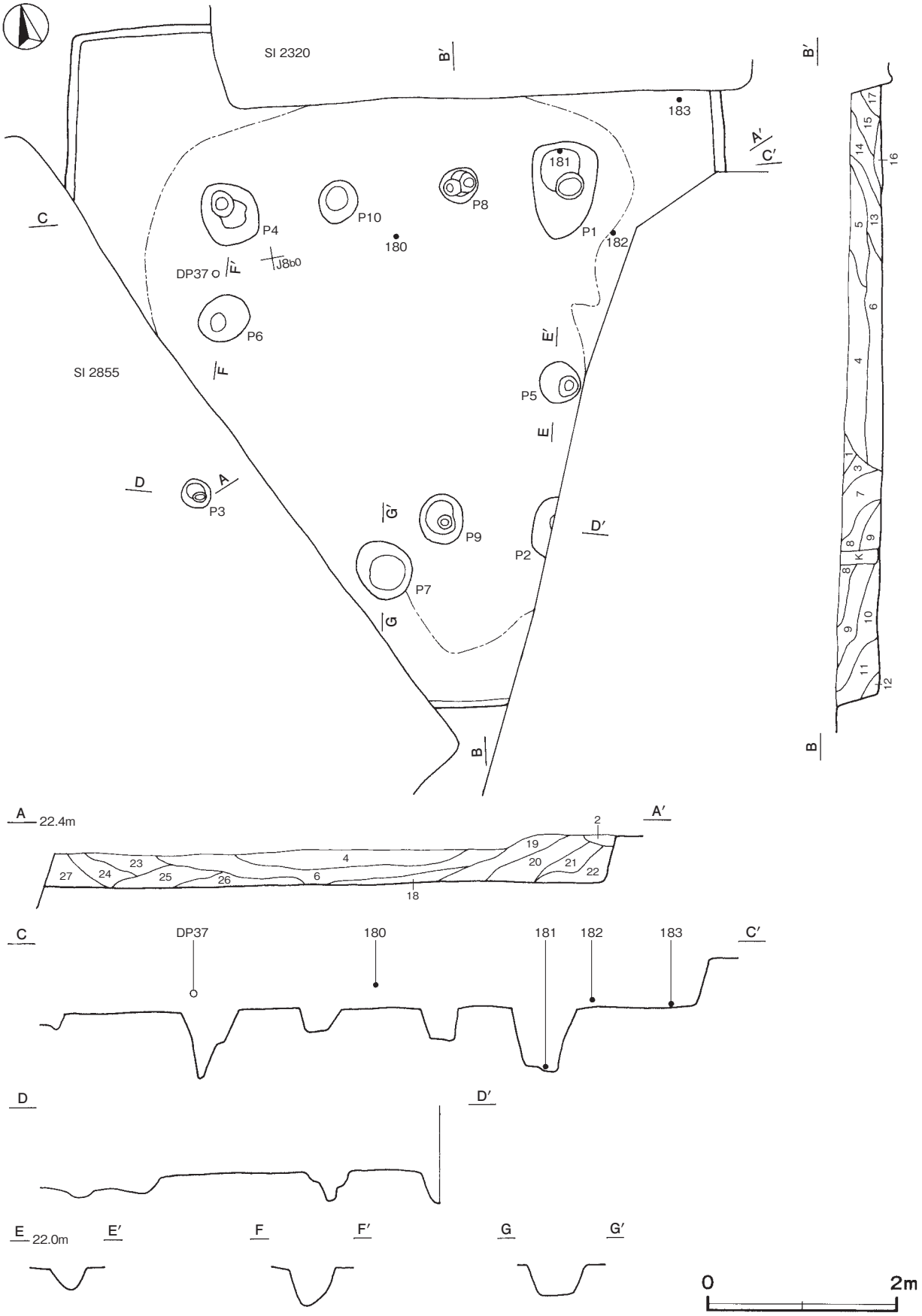
番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 12	臼玉	1.21	0.51	0.25	（1.27）	滑石	一部欠損　全面研磨　円筒状　一方向からの穿孔	覆土中層	PL37

第 2856 号竪穴建物跡（第 86・87 図）

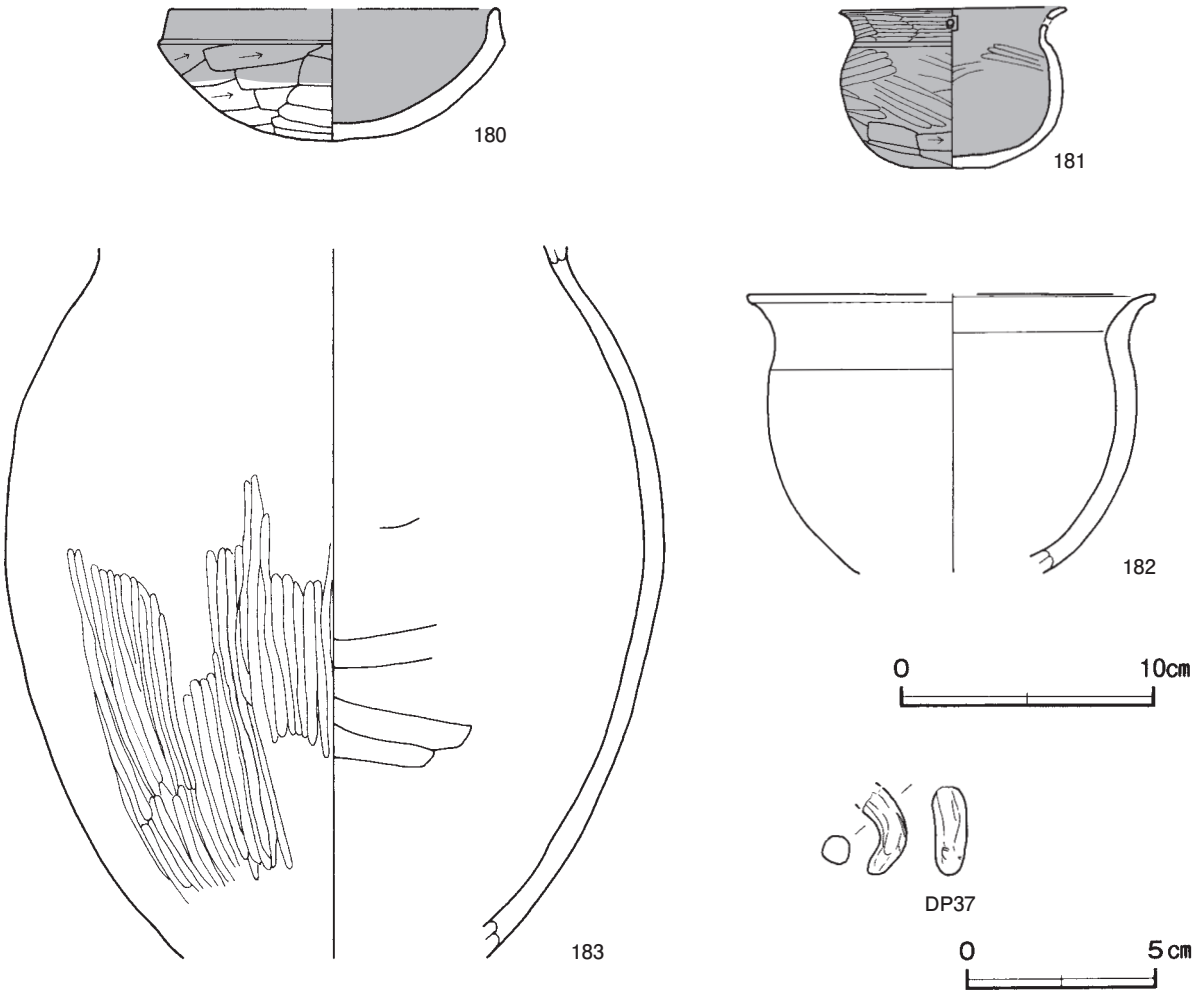
位置　調査区東部のＪ８b0 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2320・2855 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部を第 2320 号竪穴建物，西部を第 2855 号竪穴建物に掘り込まれ，東部は調査区域外に延びているため，南北軸 6.40 m，東西軸 6.96 mしか確認できなかった。わずかに確認した北西コーナー部や柱穴の



第 86 図　第 2856 号竪穴建物跡実測図



第 87 図　第 2856 号竪穴建物跡出土遺物実測図

配置から，平面形は長方形で，主軸方向はN－17°－Eと推定できる。壁高は 50 ～ 52cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　10か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ65～77cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ36cm･24cmで，位置と規模から補助柱穴と考えられる。Ｐ７は深さ 38cmで，位置と硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ８～Ｐ 10 は深さ 28 ～ 41cmで，性格は不明である。

覆土　27 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック多量
3	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4	灰褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・白色粘土粒子少量
5	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
8	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
9	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
10	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
11	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子微量
13	褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
14	にぶい褐色	焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
15	にぶい褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック少量
16	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
17	にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子・白色粘土粒子少量
18	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
19	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
20	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
21	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
22	黒褐色	ロームブロック少量
23	褐色	ロームブロック中量
24	褐色	ロームブロック少量
25	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
26	暗褐色	ロームブロック中量，白色粘土微量
27	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片 246 点（坏 56, 椀 1 , 高坏 3 , 鉢 1 , 甕類 185）, 土製品 2 点（勾玉, 支脚）, 鉄滓 5 点（10.6g）が出土している。181 はＰ１の覆土下層から出土している。182・183 は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。180 は中央部，DP37 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から 6 世紀後葉に比定できる。

第 2856 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
180	土師器	坏	［13.0］	5.2	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	50%
181	土師器	椀	9.0	6.4	3.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面ヘラ磨き　体部外面横位のヘラ削り後ヘラ磨き　内面ナデ後ヘラ磨き　頸部に孔径 0.3cmの一対の穿孔	Ｐ１覆土下層	98%　PL31
182	土師器	鉢	［16.2］	（11.0）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面磨滅　内面ナデ	覆土下層	20%
183	土師器	甕	－	（28.0）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土下層	30%

番号	器　種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP37	勾玉	（2.25）	0.86	－	（1.92）	長石・石英・雲母	欠損　ナデ	覆土中層	PL35

第 2857 号竪穴建物跡（第 88・89 図）

位置　調査区南部のＫ６b8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南西部の大半が調査区域外に延びているため，東西軸 4.40 m，南北軸 3.05 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗと推定できる。壁高は 35 ～ 40cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，竈前及びＰ１周辺が踏み固められている。確認した壁下には，幅 18 ～ 30cm，深さ５～ 11cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 103cmで，燃焼部幅は 23cmである。袖部は床面と同じ高さに，砂質粘土を主体とした第９～ 12 層を積み上げて構築されている。第 13 層は火床部で，火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 42cm掘り込まれ，火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

1　にぶい褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　にぶい褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子微量
9　灰　褐　色　砂質粘土ブロック多量，ローム粒子微量
10　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　灰　褐　色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量
12　褐　灰　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 74cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２は深さ 64cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置している。長軸 56cm，短軸 50cmの隅丸長方形で，深さは 20cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

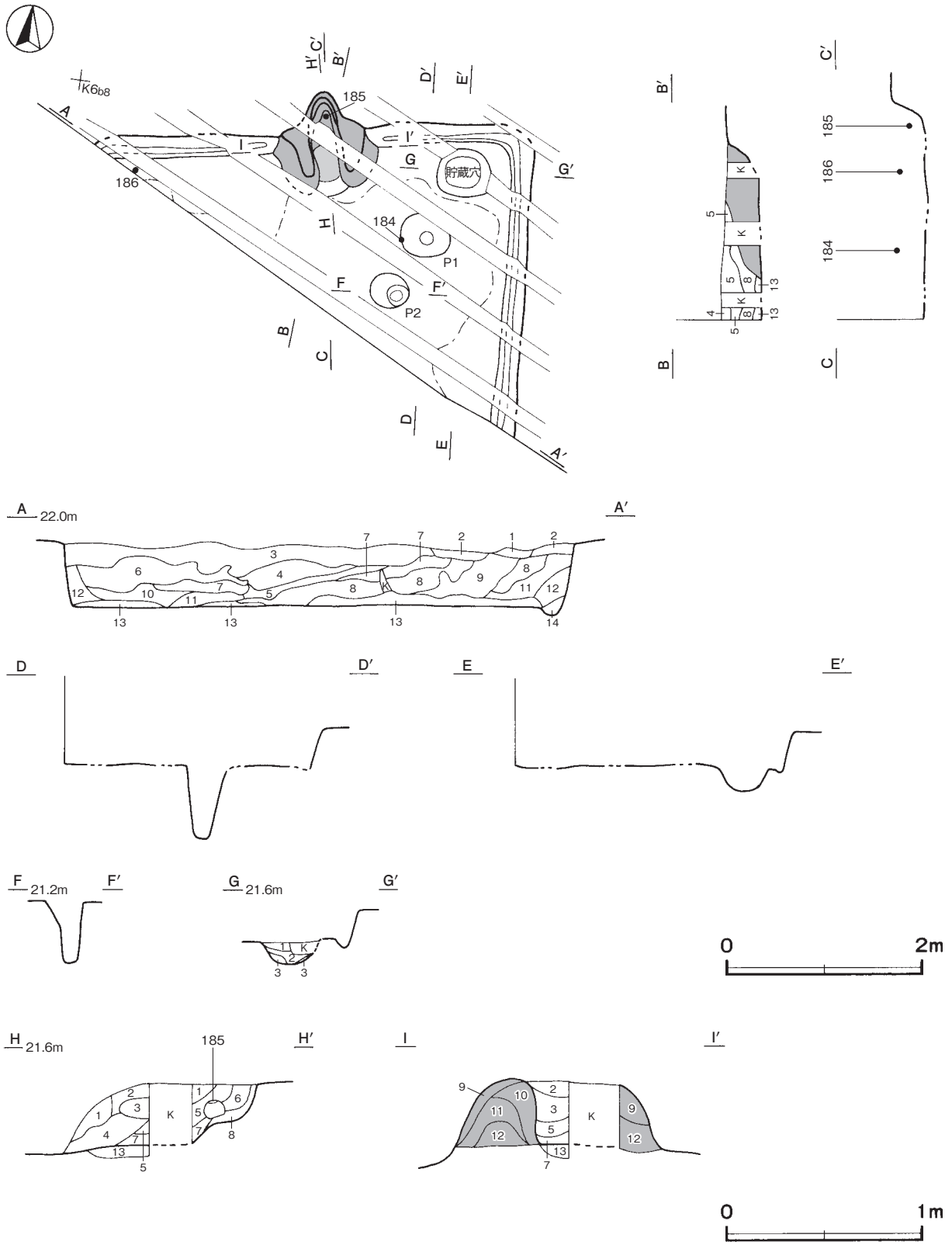
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

覆土　14 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量

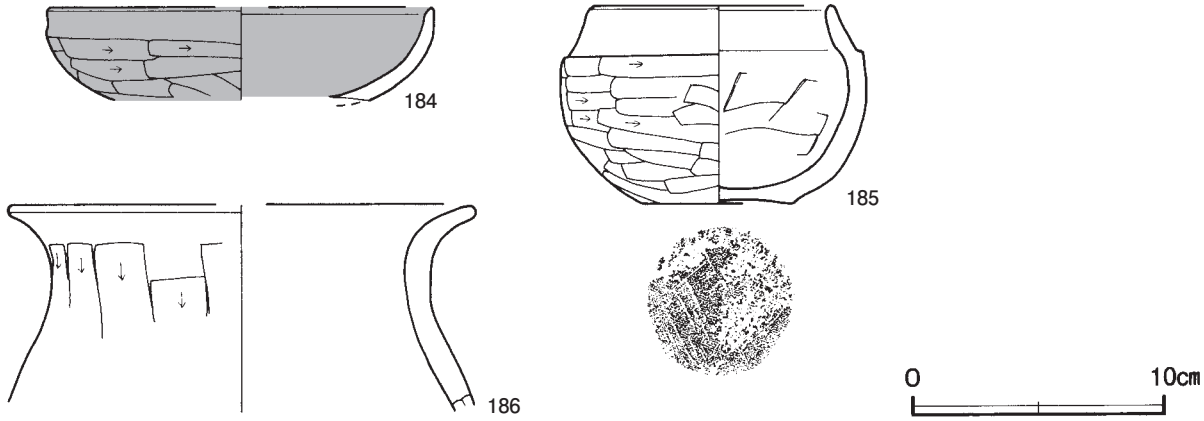
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色土少量，焼土粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック多量，黒色土少量
9　褐　　色　ローム粒子多量
10　褐　　色　ロームブロック中量，黒色土微量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量



第 88 図　第 2857 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 91 点（坏 24，椀 1，甕類 66），須恵器片 1 点（瓶類），土製品 1 点（支脚），焼成粘土塊 1 点が出土している。185 は竈の覆土中層から逆位の状態で出土している。184 は北東部の覆土中層と覆土中から出土した破片 2 点が接合したものである。186 は北西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 89 図　第 2857 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2857 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 89 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
184	土師器	坏	[15.3]	(3.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層 覆土中	25%
185	土師器	椀	9.5	7.8	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	竈覆土中層	95%　PL31
186	土師器	甕	[18.4]	(8.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　頸部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	5 %

第 2858 号竪穴建物跡（第 90 ～ 92 図）

位置　調査区西部のＪ６h4 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2844 号竪穴建物に掘り込まれている。

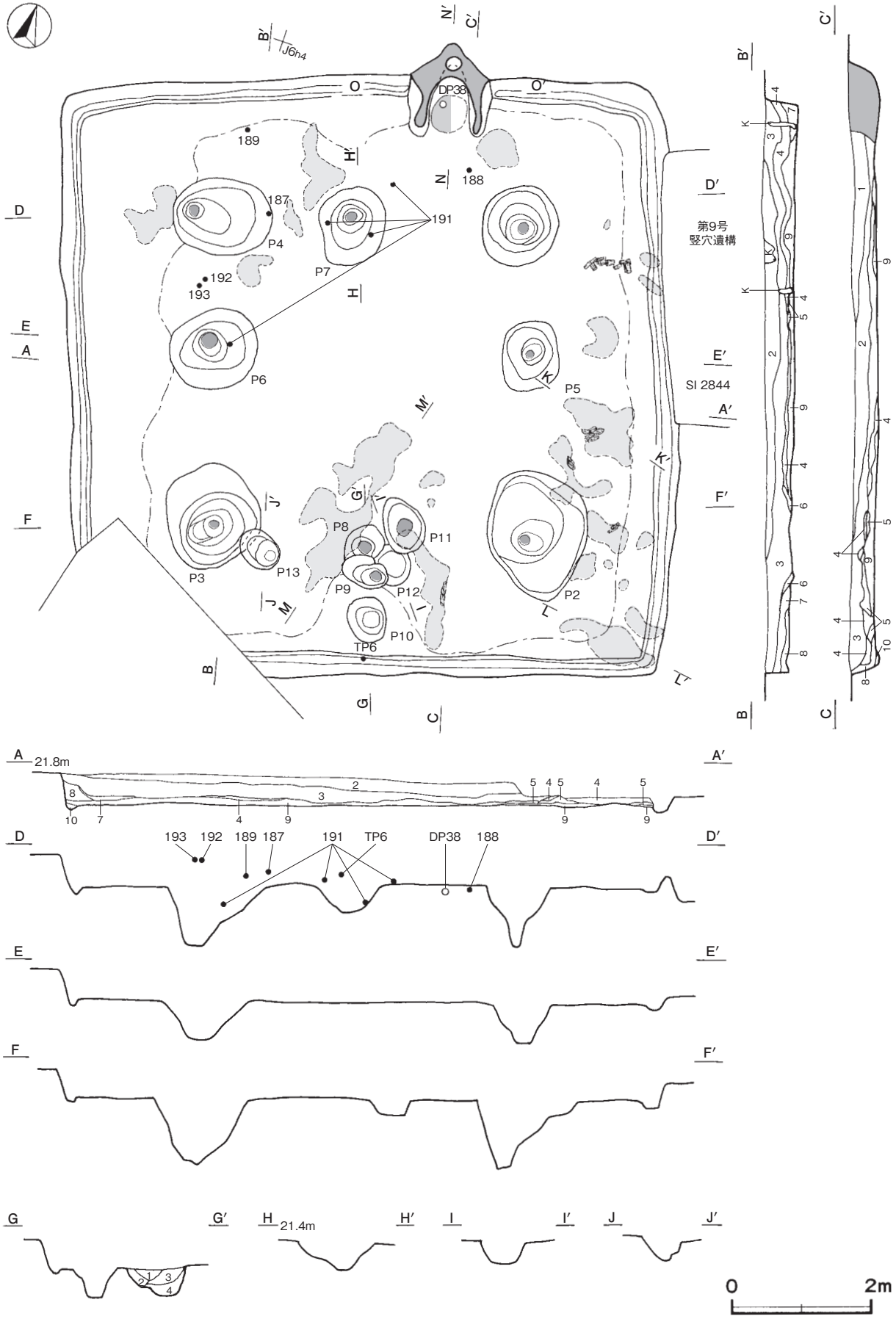
規模と形状　長軸 8.73 m，短軸 8.50 mの方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁高は 23 ～ 45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には，幅 20 ～ 28cm，深さ 7 ～ 10cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。床面からは広範囲に焼土塊を，東部・南部の床面からは炭化材を確認した。

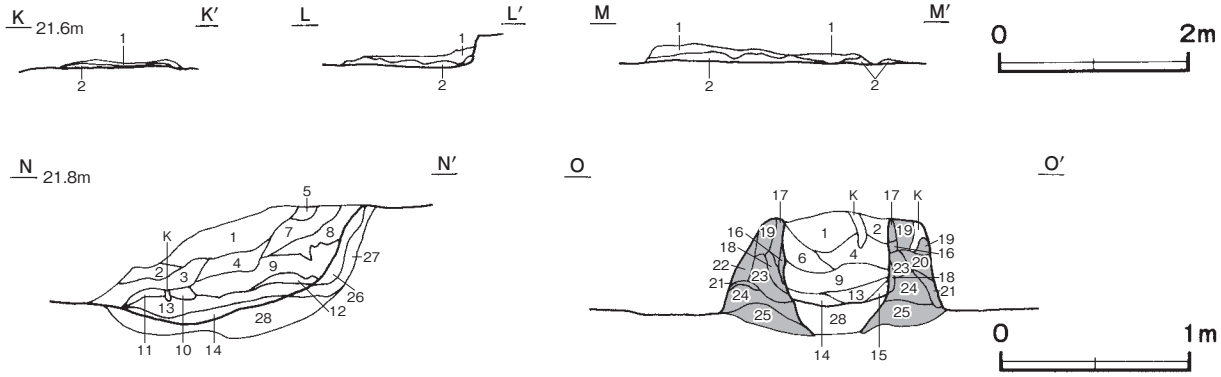
竈　北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 125cmで，燃焼部幅は 61cmである。袖部は床面より 10cmほど掘りくぼめた後，砂質粘土を主体とした第 16 ～ 25 層を積み上げて構築されている。火床部は袖部構築後，第 28 層を埋土して構築されている。火床部は床面より 7 cmくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 45cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。奥壁には，第 26・27 層を貼り付けて補強している。第 5 層は遺存している天井部の構築土である。

竈土層解説

1　褐灰色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　明黄褐色　炭化材・焼土ブロック少量
3　灰褐色　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック・粘土粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5　にぶい黄橙色　粘土粒子多量，ローム粒子微量
6　灰褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化粒子中量
7　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，炭化材・ローム粒子少量



第 90 図　第 2858 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 91 図　第 2858 号竪穴建物跡実測図 (2)

9　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
10　にぶい橙色　焼土ブロック・灰中量
11　にぶい赤褐色　灰多量，焼土ブロック中量
12　にぶい橙色　焼土ブロック中量，炭化物・砂質粘土ブロック少量
13　灰　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
14　赤　　色　焼土ブロック多量，灰少量
15　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・灰少量
16　明 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子多量
17　にぶい黄橙色　粘土粒子多量
18　にぶい褐色　砂質粘土ブロック多量
19　にぶい黄橙色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子微量
20　にぶい黄橙色　粘土粒子多量，炭化粒子微量
21　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
22　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
23　にぶい黄橙色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量
24　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
25　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子少量
26　明 赤 褐 色　焼土粒子多量
27　にぶい黄橙色　ロームブロック・粘土粒子中量
28　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土粒子少量

ピット　13 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 84 ～ 98cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５～Ｐ７は深さ 40 ～ 60 cmで，規模と配置から補助柱穴と考えられる。Ｐ８～Ｐ 10 は深さ 25 ～ 45cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ 11・Ｐ 12 は深さ 22cm・29cmで，Ｐ８～Ｐ 10 より古い出入り口施設に伴うピットの可能性がある。Ｐ 13 は深さ 28cmで，性格は不明である。土層断面図から，Ｐ８からＰ９への出入り口に伴うピットの作り替えが行われている。

Ｐ８・Ｐ９土層解説

1　灰　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量

覆土　10 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

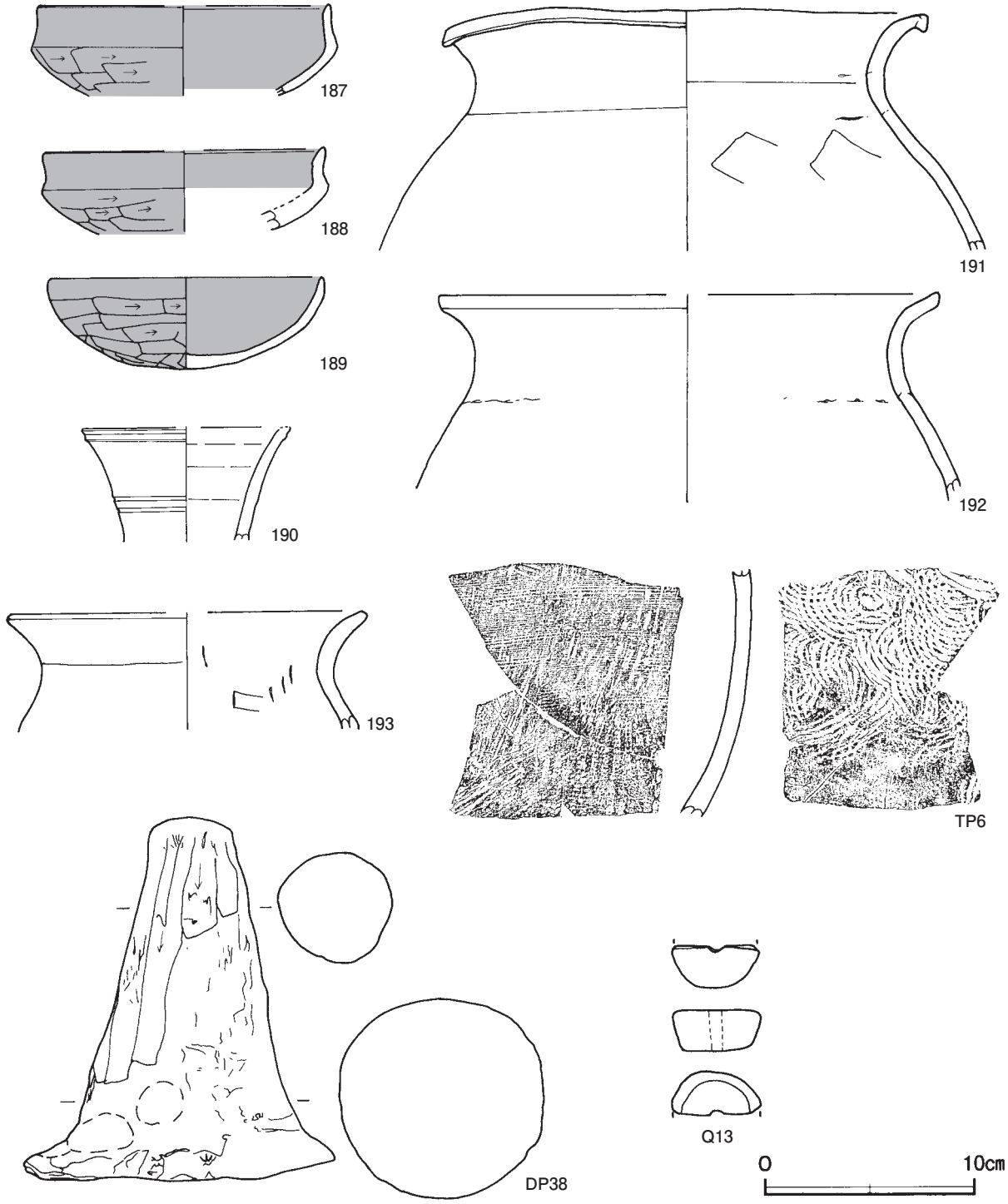
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量
4　黒　　色　炭化物・焼土粒子中量，ロームブロック少量
5　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ロームブロック少量
6　褐　灰　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
7　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物中量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

焼土塊１～３土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 1275 点（坏 205，高坏３，甕類 1065，甑２），須恵器片 12 点（坏３，蓋１，長頸瓶４，甕類４），土製品２点（支脚），石器１点（紡錘車），焼成粘土塊２点が，全域の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか，混入した縄文土器片１点（深鉢）も出土している。188 は竈前の床面から出土している。DP38 は竈火床面に据えられた状態で出土している。187・189 は北西部，TP ６は南部壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。191 は竈前の覆土下層とＰ６・Ｐ７の覆土中層から出土した破片４点が接合したものである。192･193 は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。190･Q13 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。床面から多量の焼土塊や炭化材を確認したことから，焼失家屋と考えられる。



第 92 図　第 2858 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 2858 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
187	土師器	坏	[13.8]	(4.2)	－	長石・石英・赤色粒子	黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	20%
188	土師器	坏	[13.4]	(3.8)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	15%
189	土師器	坏	13.0	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	暗灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%　PL31
190	須恵器	長頸瓶	[9.9]	(5.4)	－	長石・石英	灰	良好	ロクロナデ　外面自然釉	覆土中	5％
191	土師器	甕	23.0	(11.6)	－	長石・石英・雲母	浅黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層 P6・P7 覆土中層	20%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
192	土師器	甕	[24.0]	(9.8)	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　輪積痕	覆土中層	10%
193	土師器	小形甕	[16.8]	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か		備　考
TP 6	須恵器	甕	長石・石英	灰	良好	体部外面上位横位のカキ目　下位斜位の平行叩き　内面同心円状の当て具痕	覆土下層	PL33

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴		備　考
DP38	支脚	17.2	3.9	14.8	1,097	長石・石英・赤色粒子	ヘラ削り　指頭痕　被熱痕	竈火床面	PL36

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　　徴		備　考
Q13	紡錘車	(4.2)	2.0	(0.65～0.7)	(19.8)	泥岩	欠損　全面研磨　穿孔痕	覆土中	PL37

第2859号竪穴建物跡（第93・94図）

位置　調査区東部のＪ６f7区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第2853号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺4.78ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は27～43cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，竈の手前から主柱穴の内側と東壁際と西壁際の一部分が踏み固められている。壁下には，幅22～34cm，深さ７～10cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで141cm，燃焼部幅は31cmである。袖部は，地山を10cmほど掘りくぼめた後に第11層の灰黄褐色土を埋め戻して基部とし，その上に第10層の砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を４cmほど掘り込んで構築され，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　砂質粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
2　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
3　灰　褐　色　焼土ブロック・炭化物・灰少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物少量
5　にぶい褐色　砂質粘土ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　砂質粘土ブロック・炭化物多量，焼土ブロック中量
7　橙　　色　焼土ブロック中量，灰少量
8　暗 赤 褐 色　炭化材中量，焼土ブロック少量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量
10　にぶい黄褐色　粘土粒子多量
11　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量

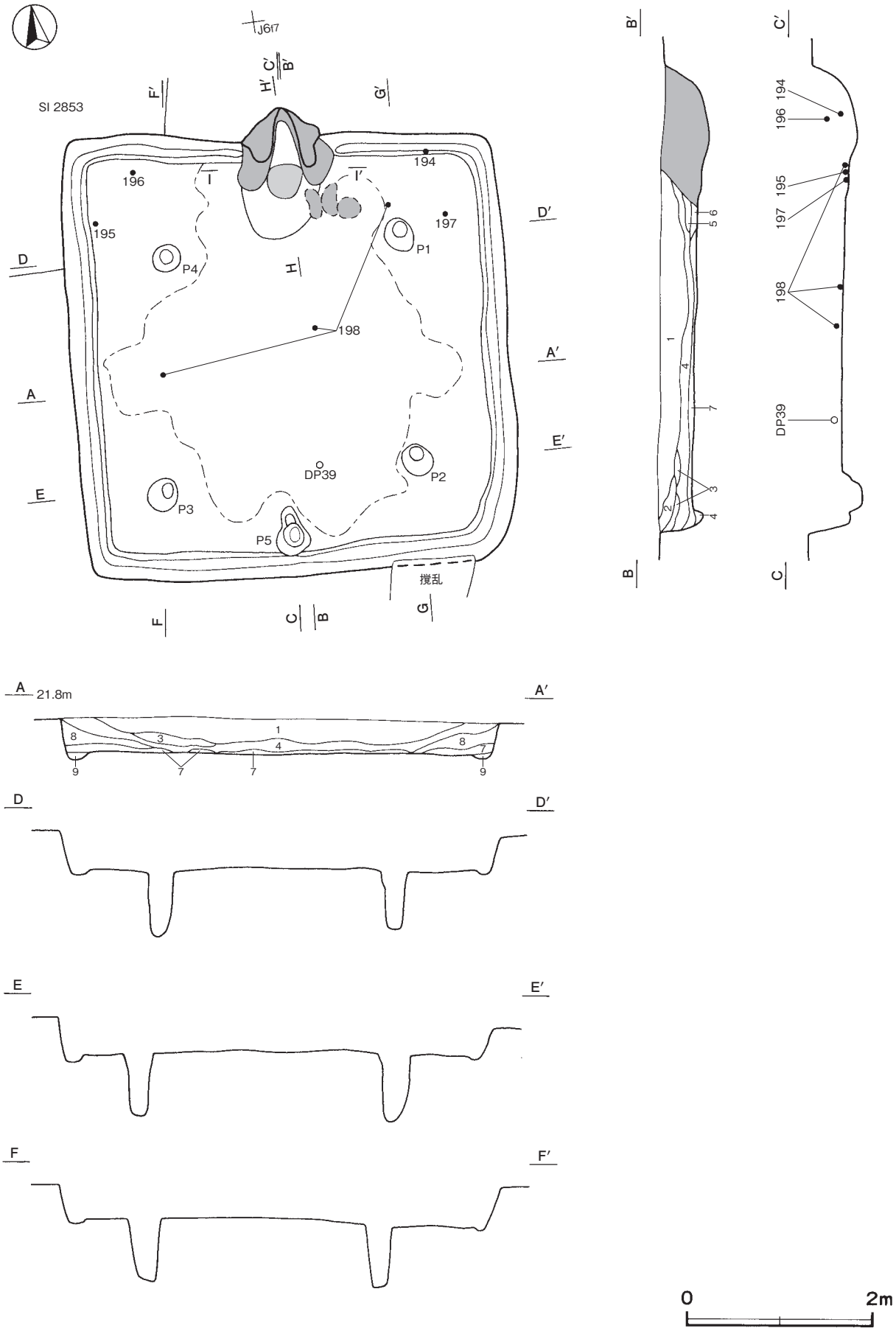
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ64～73cmで，主柱穴である。Ｐ５は深さ22cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　９層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

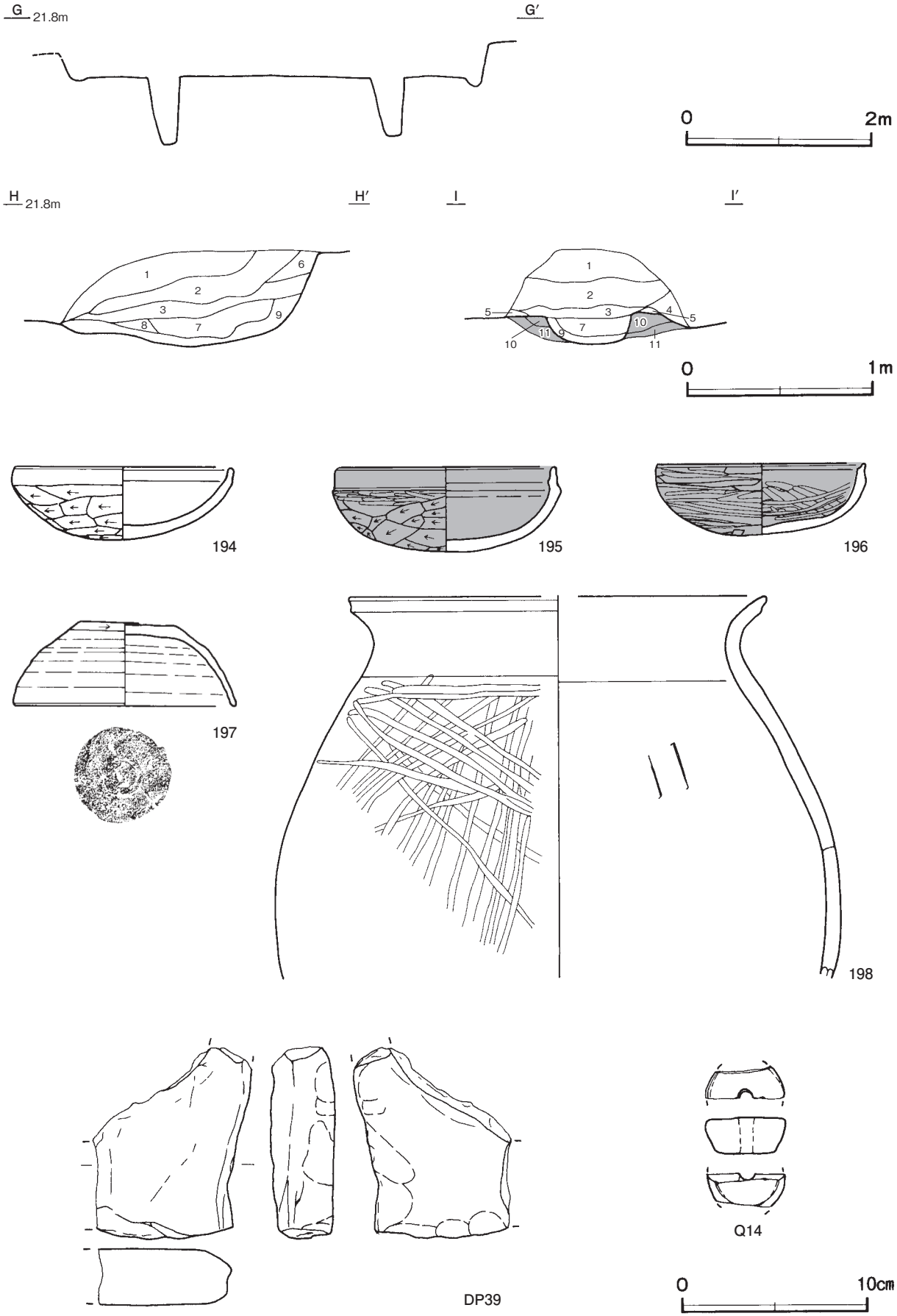
土層解説

1　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5　暗灰黄褐色　砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　灰 黄 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，粘土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
9　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片493点（坏113，高坏１，甕類376，甑３），須恵器片６点（坏１，蓋１，甕類４），瓦質土器２点（鍋），土製品１点（置き竈ヵ），石器１点（紡錘車），鉄器片１点（鎌ヵ），焼成粘土塊１点，自然礫１点，鉄滓１点（245.1g）が，全域の覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。DP39は南壁寄りの床面から出土している。194は北東壁隅寄りから正位の状態で，195は北西壁寄りから正位の状態でそれぞれ覆土下層から出土している。197は北東部，198は北東部，中央部，南西部のそれぞれ覆土中層と



第 93 図　第 2859 号竪穴建物跡実測図



第 94 図　第 2859 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

下層から出土した破片が接合したものである。196は北西壁寄りの覆土中層から出土している。Q14は南東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から7世紀前葉に比定できる。

第2859号竪穴建物跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
194	土師器	坏	11.7	3.9	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%
195	土師器	坏	11.6	4.5	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%　PL31
196	土師器	坏	11.3	3.8	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土中層	70%　PL31
197	須恵器	蓋	11.8	4.7	－	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面ロクロナデ　天井部回転ヘラ削り	覆土下層	70%　PL31
198	土師器	甕	[22.4]	(20.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中層下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP39	置き竈ヵ	(10.3)	(8.5)	3.5	(277)	長石・石英・赤色粒子	橙	外・内面ヘラナデ後指頭によるナデ　庇部片ヵ指頭痕	床面	PL35

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	紡錘車	(4.3)	2.0	0.7	(19.8)	滑石	一方向からの穿孔	覆土中	PL37

第2860号竪穴建物跡（第95・96図）

位置　調査区南西部のＪ６h8区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第2843号竪穴建物跡の上部に構築されている。

規模と形状　一辺が11.5ｍの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は認められない。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで107cmで，燃焼部幅は45cmである。袖部は床面に，砂質粘土を主体とした第６～８層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ22cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

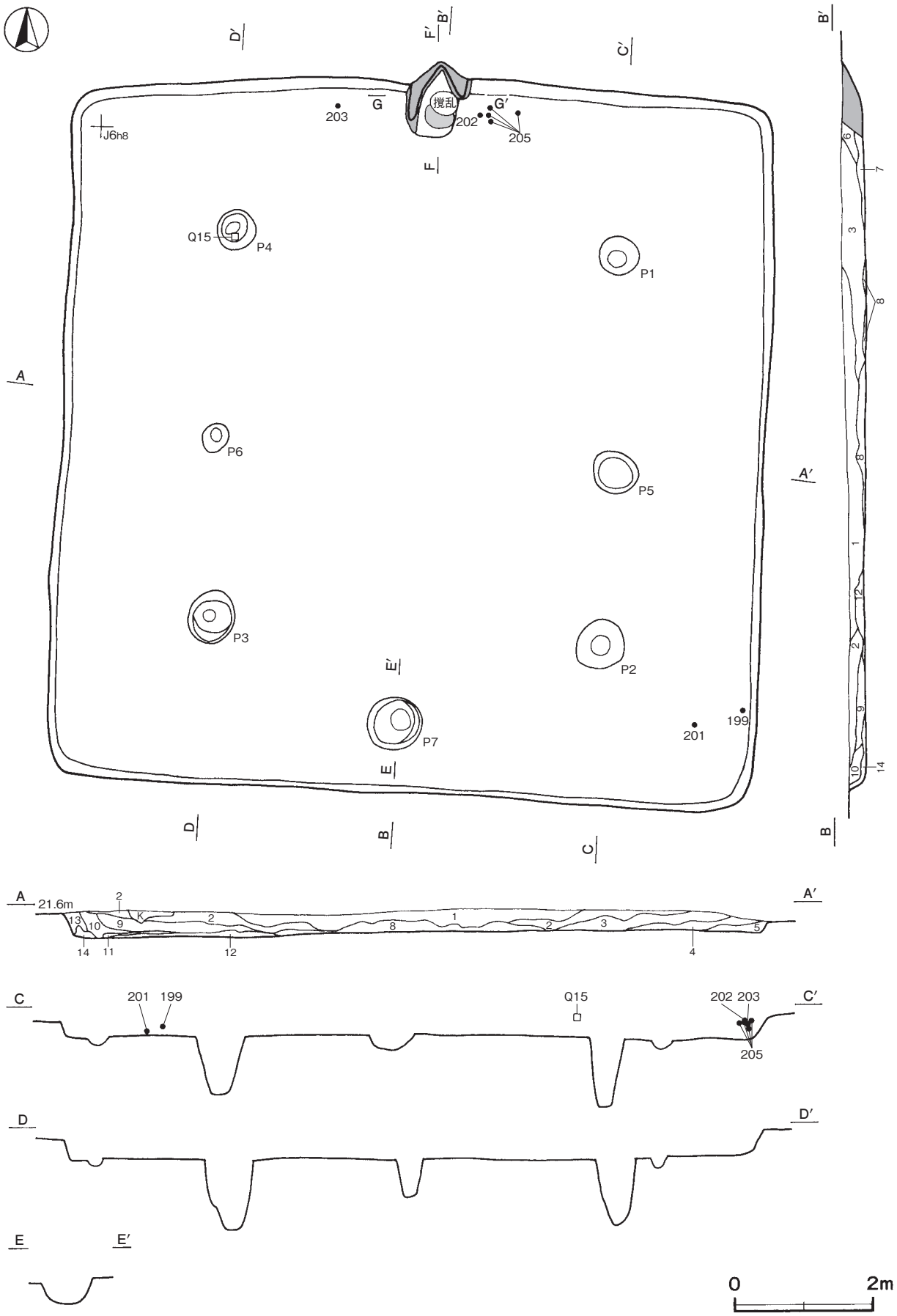
1　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量，炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
3　灰赤色　焼土ブロック・炭化物中量，ローム粒子・粘土粒子少量
4　明赤褐色　焼土ブロック多量
5　褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，炭化物･ローム粒子少量，焼土ブロック微量
7　にぶい黄橙色　粘土粒子多量
8　にぶい黄褐色　砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ６は深さ37～102cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ７は深さ38cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

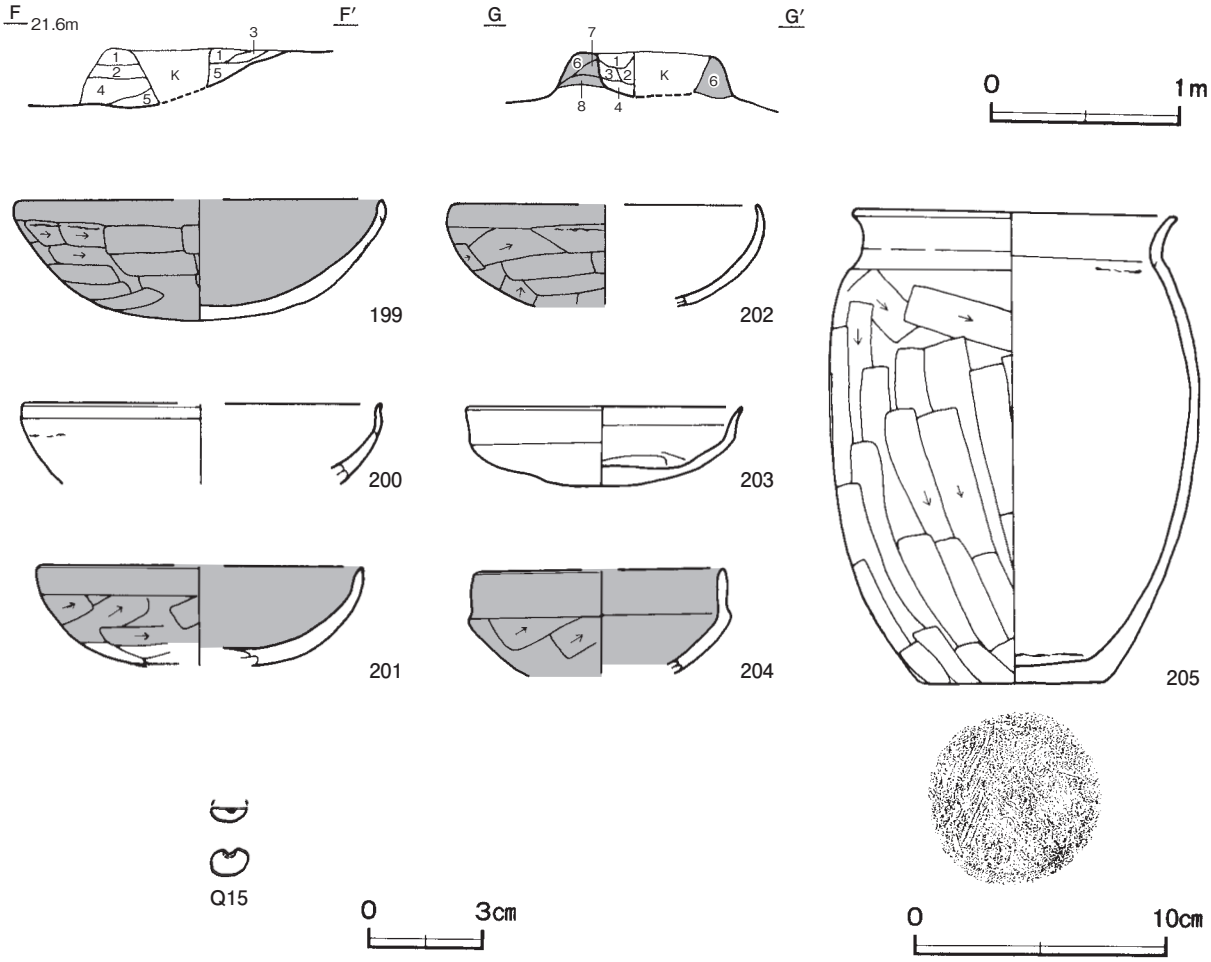
覆土　14層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
6　灰褐色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
7　褐色　ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
10　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量



第 95 図　第 2860 号竪穴建物跡実測図



第 96 図　第 2860 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

12　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 1063 点（坏 308，高坏 1，甕類 753，小形甕 1），須恵器片 17 点（坏 1 点，甕類 16 点），石製品 1 点（小玉），鉄製品 3 点（釘 1，不明 2），鉄滓 1 点（21.4g），焼成粘土塊 1 点が竈周辺の覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか，混入した縄文土器片 1 点（深鉢）も出土している。199・201 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。205 は竈東側の覆土中層から出土した破片 4 点が接合したものである。202 は竈東側，203 は竈西側，Q15 は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。200・204 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。本跡は第 2843 号竪穴建物跡の直上に位置し，主軸方向や床面の高さがほぼ一致すること及び主柱穴や補助柱穴の配置状況等から，第 2843 号竪穴建物を建て替えて拡張した可能性が考えられる。また，出土土器に時期差がないことから，建て替えはあまり時を経ずに行われたとみられる。

第 2860 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 96 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
199	土師器	坏	［14.6］	4.7	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	60%
200	土師器	坏	［14.2］	(3.2)	－	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面磨滅　内面ナデ輪積痕	覆土中	10%
201	土師器	坏	［13.0］	(4.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	20%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
202	土師器	坏	[12.2]	(4.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	50%
203	土師器	坏	10.9	3.3	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面磨滅　内面ナデ	覆土中層	85%
204	土師器	坏	[9.8]	(4.1)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	20%
205	土師器	小形甕	12.8	18.9	7.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	50%　PL31

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 15	小玉	(1.01)	0.74	(0.18)	(0.41)	瑪瑙	欠損　全面研磨　一方向からの穿孔痕	覆土中層	PL37

第3173号竪穴建物跡（第97～99図）

位置　調査区北部のＪ７a7区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第323号溝に掘り込まれている。

規模と形状　中央部を第323号溝によって北西から南東にかけて掘り込まれ，北東部は調査区域外に延びているため，南西部及び南東部の壁の立ち上がりから，長軸5.90ｍ，短軸5.20ｍの長方形と推定した。主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は55～65cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，竈前から南壁･西壁際まで踏み固められている。南壁下から西壁下及び竈東側の北壁下で，幅12～30cm，深さ８～10cmで，浅いＵ字形の壁溝を確認した。貼床は，全体をほぼ均一に掘りくぼめ，ロームブロックを含んだ第８・９層を埋土して構築されている。

竈　２か所。竈１は北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cmで，燃焼部幅は15cmである。袖部は床面を10cm掘りくぼめた後，砂質粘土を主体とした第７～10層を積み上げて構築されている。火床部は焼土を多く含む第11層を埋土して構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ42cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。竈２は竈１の南東側に付設されている。床面から火床部及び煙道部の痕跡のみを確認した。第12層は火床部の構築土と考えられる。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。竈２は，袖部が遺存していないことや煙道部北端部に壁溝が巡っていること等から，竈２から竈１への作り替えが行われている。

竈１土層解説

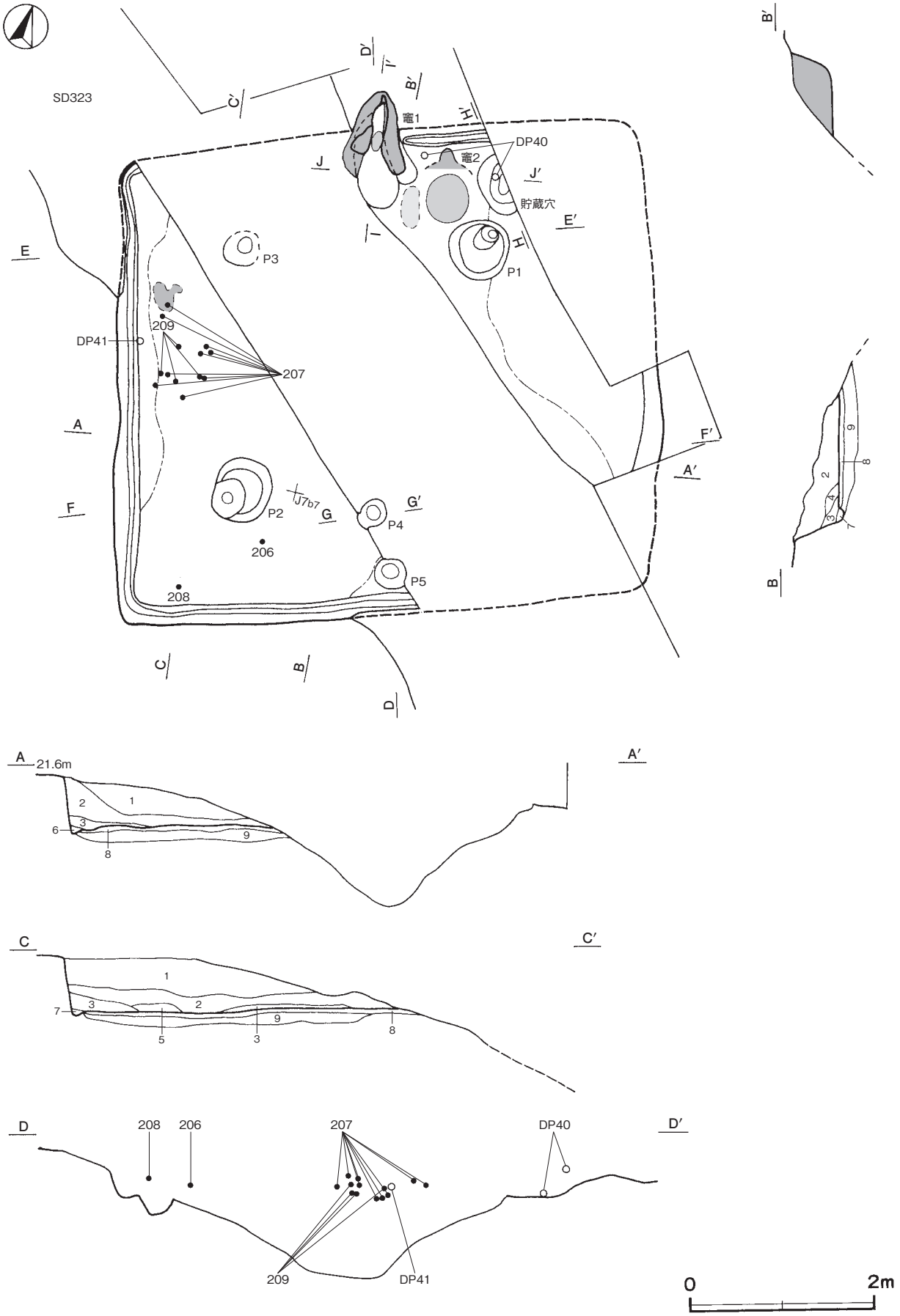
1　黒　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子中量
2　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土ブロック中量
5　黒　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化物微量
6　暗　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
8　灰 黄 褐 色　砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　褐　　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子中量

竈２土層解説

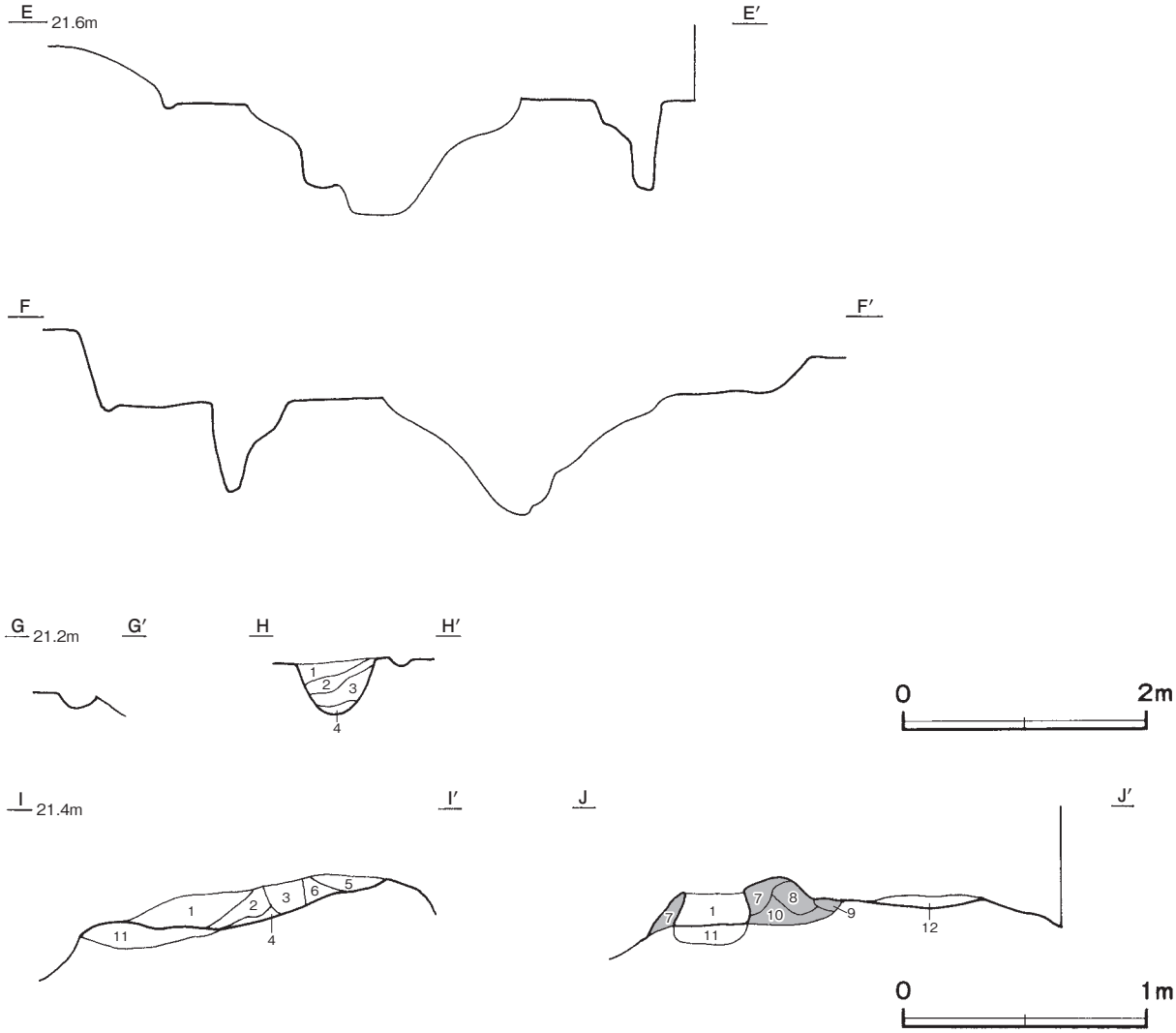
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ72～74cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４・Ｐ５は深さ16cm・26cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈１の東側に位置している。北東半部が調査区域外に延びているため，南北径64cm，東西径28cmしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき，深さは40cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。



第 97 図　第 3173 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 98 図　第 3173 号竪穴建物跡実測図 (2)

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

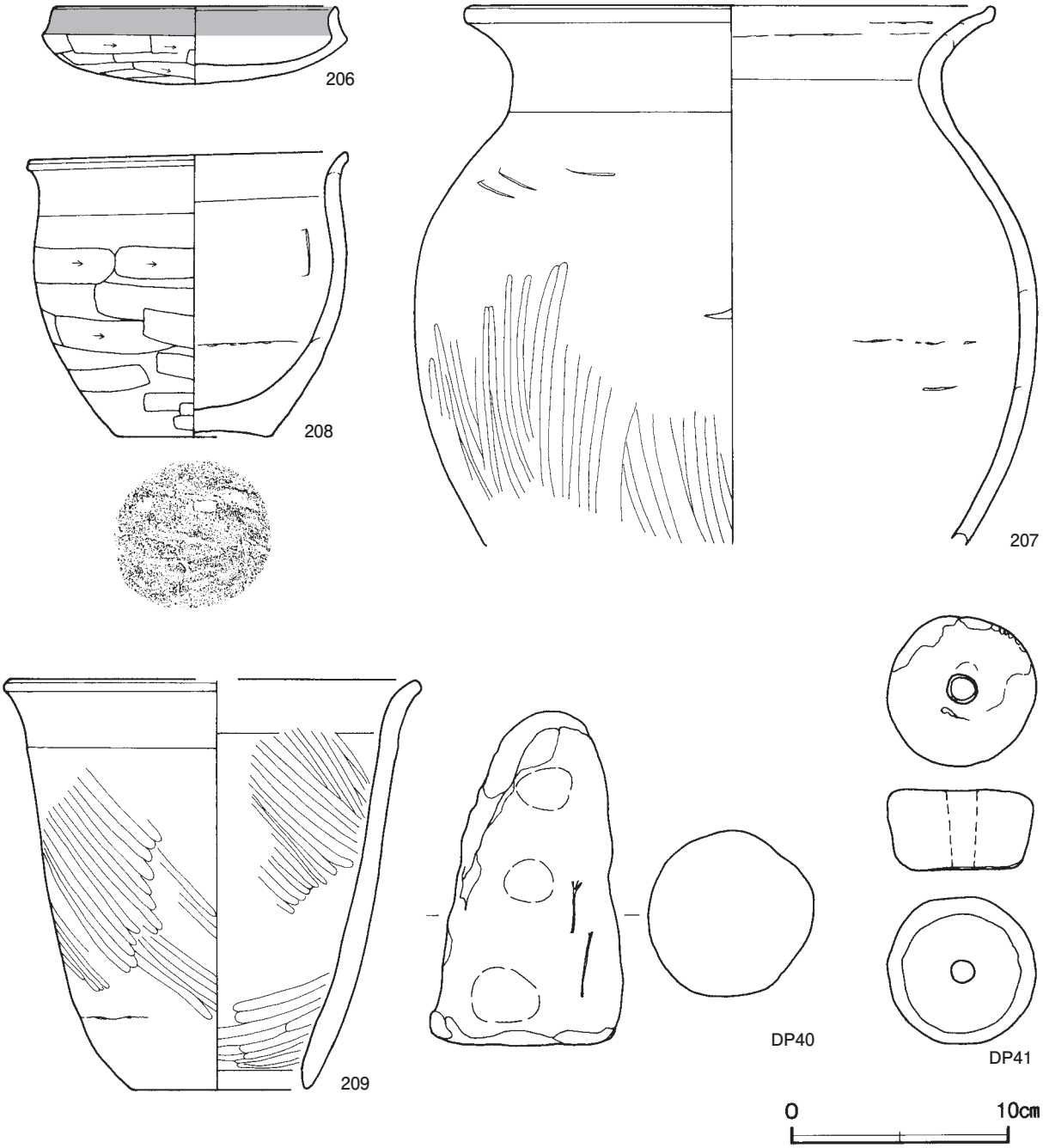
覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第８・９層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
9　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 160 点（坏 52，高坏１，甕類 104，小形甕１，甑２），須恵器片２点（瓶類），土製品２点（紡錘車，支脚）が出土している。206 は南西部の覆土下層から出土している。207・209 は西部の覆土中層から床面にかけて出土した小片が接合したものである。DP40 は竈東側の覆土中層と床面から出土した破片 2 点が接合したものである。208 は南西部，DP41 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。竈２の煙道部の北端部に壁溝が確認できたことから，建物の北側への拡張に伴い，竈の作り替えが行われた可能性がある。



第 99 図　第 3173 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3173 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 99 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
206	土師器	坏	13.0	3.6	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%　PL31
207	土師器	甕	24.0	(25.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	30%
208	土師器	小形甕	14.6	13.1	7.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土中層	90%　PL31
209	土師器	甑	[18.8]	18.8	8.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面斜位のヘラ磨き	覆土中層	50%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP40	支脚	15.3	4.3	8.9	(787.8)	長石・石英・赤色粒子	一部欠損　ナデ　指頭痕　被熱痕	覆土中層 床面	PL36

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP41	紡錘車	6.9	3.8	1.1～1.4	(202.7)	長石・石英	一部欠損　擦痕　一方向からの穿孔	覆土中層	PL35

第3174号竪穴建物跡（第100～103図）

位置　調査区中央部のＪ７g9区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第3176号竪穴建物跡の上部に構築し，第596号掘立柱建物，第7340・7398～7400号土坑，第73号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.87ｍ，短軸5.50ｍの方形で，主軸方向はＮ－13°－Ｗである。壁高は25～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦な貼床で，竈付近から中央部にかけて踏み固められている。壁下には，幅18～28cm，深さ５～13cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。貼床は，第3176号竪穴建物跡の床面上にロームブロック及び炭化粒子を含んだ第10層を５cmほど均一に埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで，燃焼部幅は40cmである。袖部は，第20～28層を全体に埋土して，砂質粘土を主体とする第18・19層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ48cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量
7　褐　　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
8　褐　　色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　炭化粒子少量，粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
12　褐　　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量
13　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
14　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
15　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
16　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
17　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
18　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・細礫少量
19　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子多量
20　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
21　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
22　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
23　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
24　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
25　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，炭化物少量
26　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
27　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
28　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ68～90cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は，土層断面から外側に立て替えられていることから，第3176号竪穴建物跡の柱穴である。Ｐ１～Ｐ３の掘方には，第3176号竪穴建物跡の柱当たりが認められる。

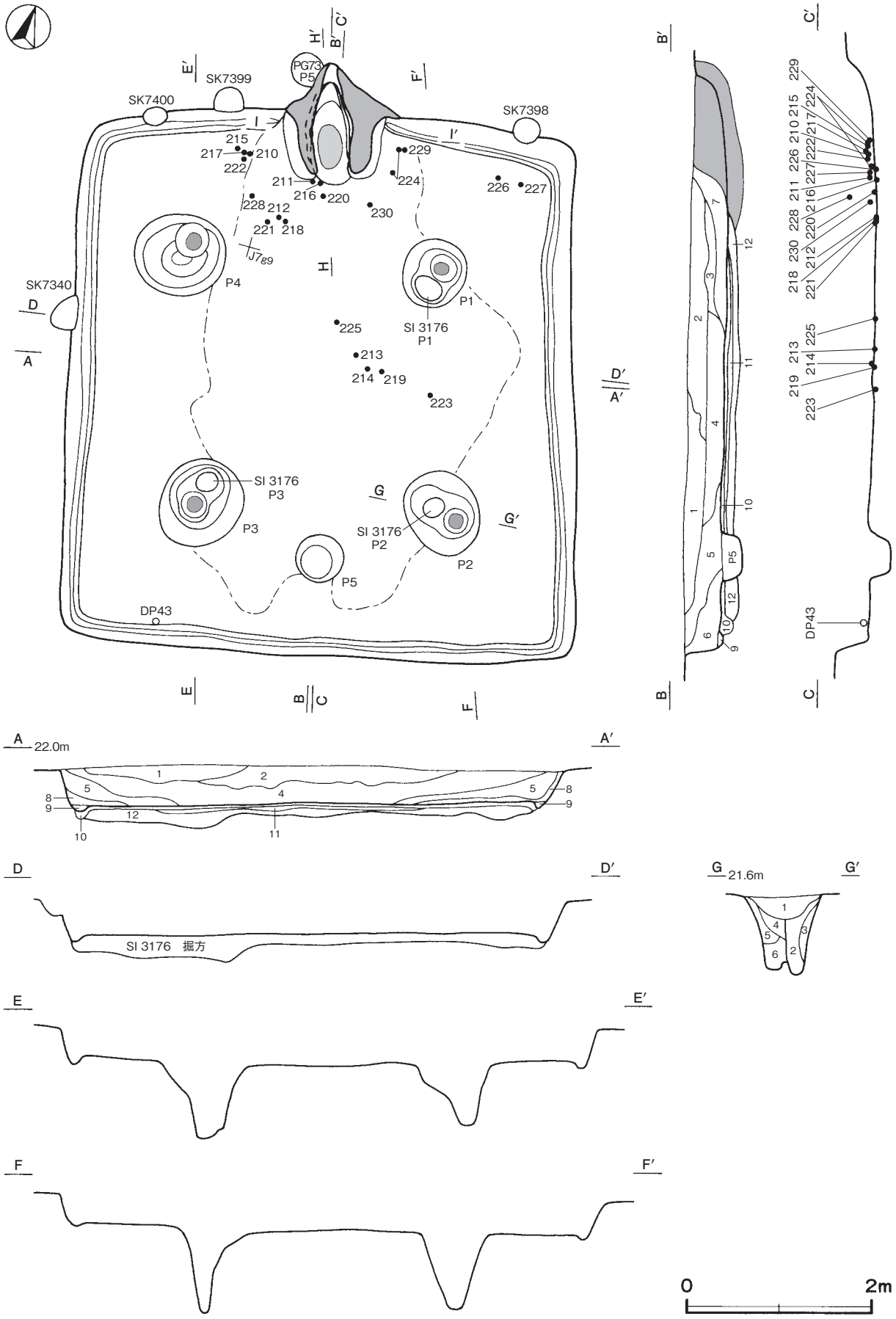
Ｐ２土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

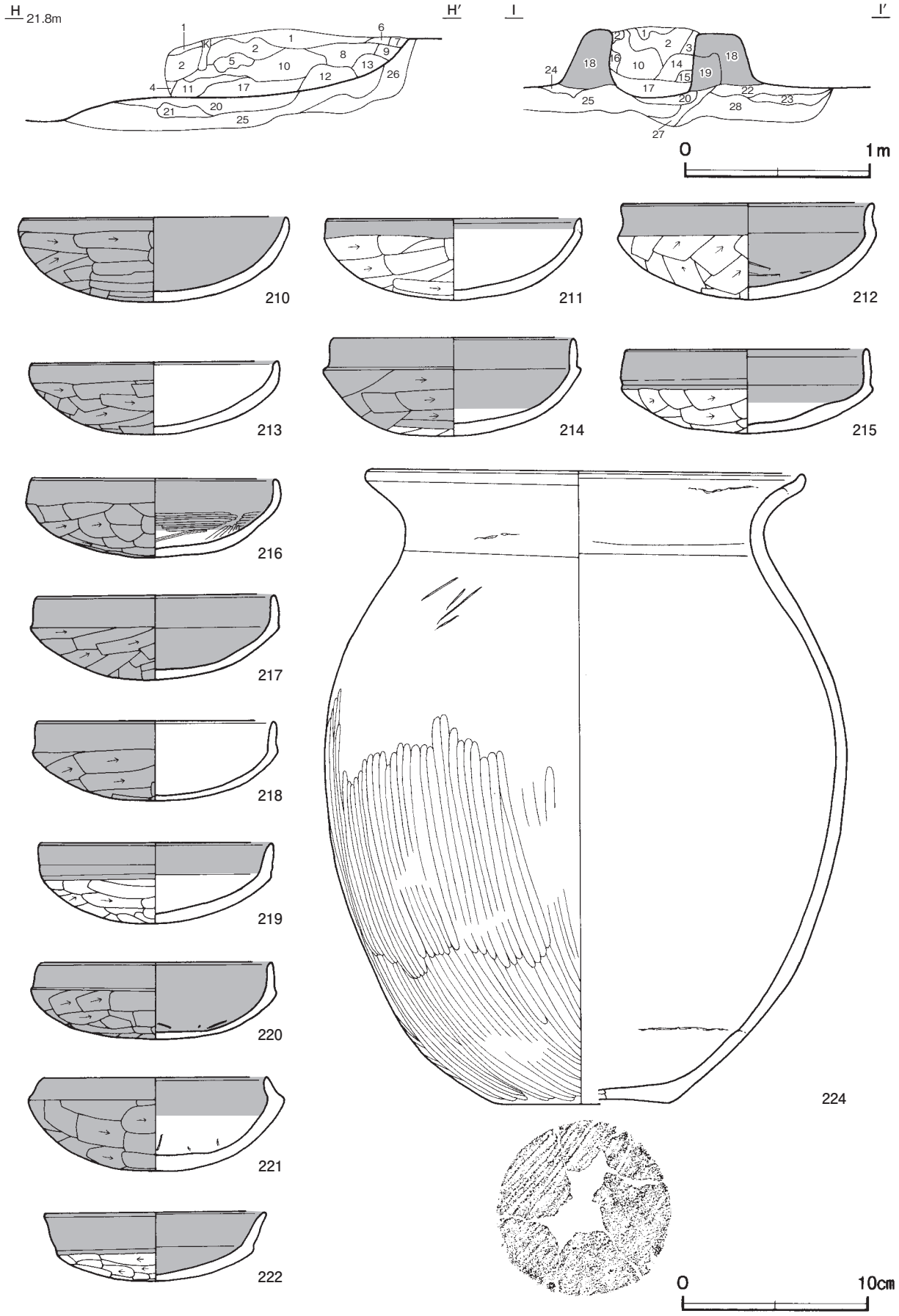
覆土　９層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第10層は貼床の構築土である。第11・12層は第3176号竪穴建物跡の貼床の構築土である。

土層解説

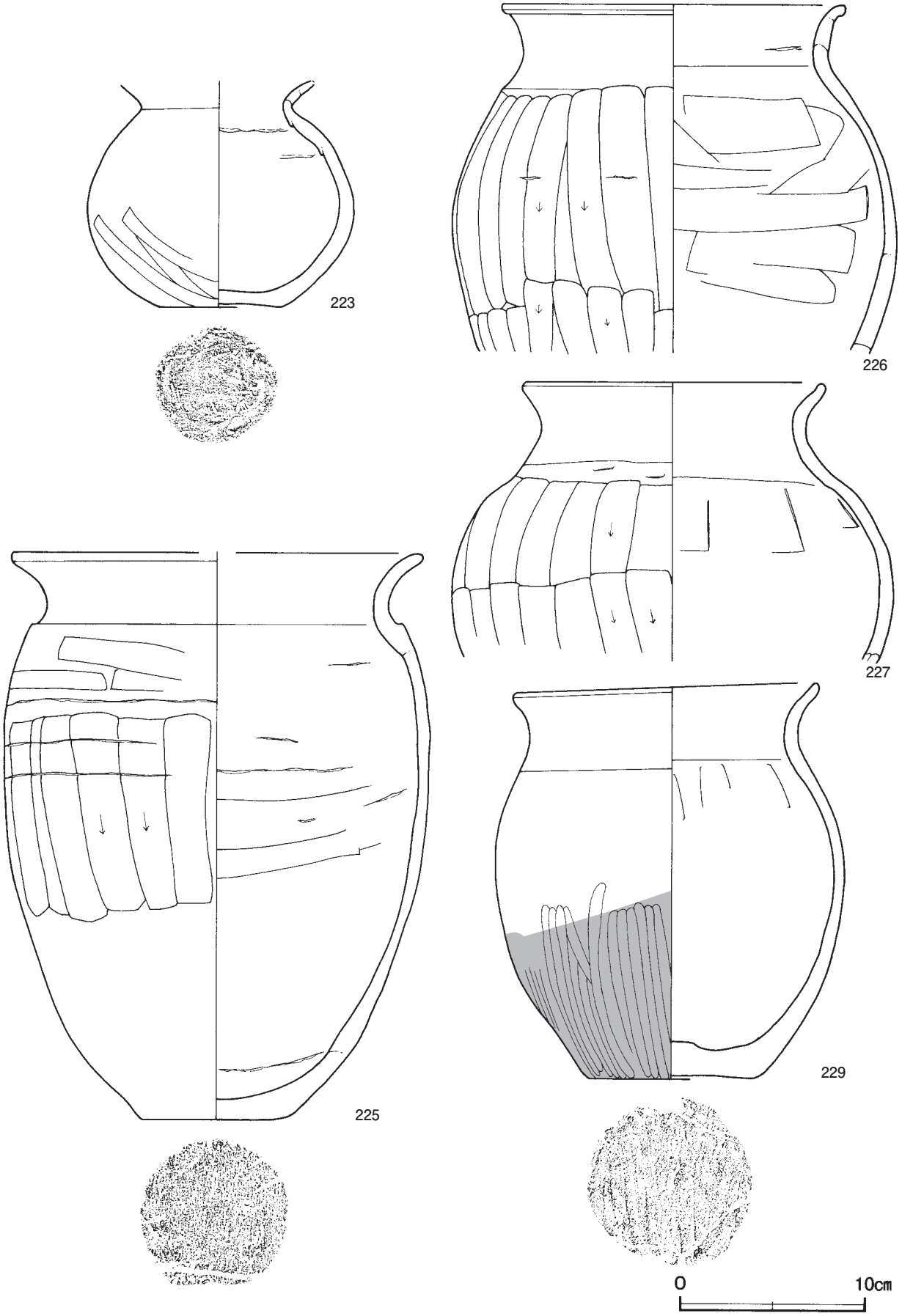
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量



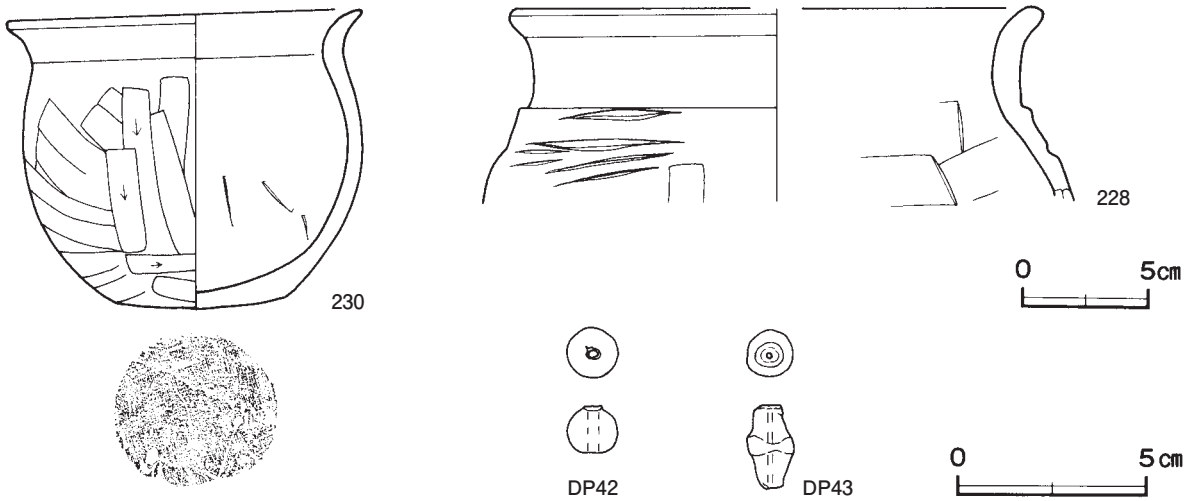
第 100 図　第 3174 号竪穴建物跡実測図



第 101 図　第 3174 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 102 図　第 3174 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 103 図　第 3174 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 532 点（坏 132，高坏２，壺１，甕類 392，小形甕２，甑３），土製品２点（土玉，棗玉）が，竈周辺及び中央部の覆土下層から床面にかけて集中して出土している。211 は竈前，213・219・223・225 は中央部，226 は北東部の床面からそれぞれ出土している。210・217・222 の３点，212・218 の２点は積み重ねられた状態で，そのほか 215・221 が竈西側，216・220・230 は竈前，224・229 は竈東側，227 は北東部，214 は中央部，DP43 は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。228 は竈東側の覆土中層から出土している。DP42 は覆土中から出土している。坏はほぼ正位，甕類は正位または横位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。土器は出土状況から，使用状態のままと考えられる。また，本跡は第 3176 号竪穴建物跡の床面上に貼床をし，壁溝及び壁を外側に構築していることや，柱穴の立て替えを行っていることから，第 3176 号竪穴建物跡を拡張している。出土遺物から，両竪穴建物跡の時期差はあまりないとみられる。

第 3174 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 101 ～ 103 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
210	土師器	坏	14.3	4.6	－	長石・雲母	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%
211	土師器	坏	13.6	4.4	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	90%
212	土師器	坏	13.5	5.2	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	90%
213	土師器	坏	13.4	4.0	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	98%　PL31
214	土師器	坏	13.0	5.2	－	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	85%　PL31
215	土師器	坏	13.0	4.7	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%　PL32
216	土師器	坏	13.0	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土下層	95%
217	土師器	坏	12.7	4.5	－	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	80%
218	土師器	坏	12.7	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	90%
219	土師器	坏	12.5	4.4	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	床面	98%　PL32
220	土師器	坏	12.4	4.1	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%
221	土師器	坏	12.0	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%
222	土師器	坏	12.0	3.7	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土下層	95%　PL32
223	土師器	壺	－	(12.2)	6.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	90%　PL32

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
224	土師器	甕	23.4	34.2	9.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半斜位のヘラ磨き　内面ヘラナデ　輪積痕	覆土下層	80%　PL32
225	土師器	甕	［22.0］	30.5	8.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上位横位のヘラ削り　中位縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	50%
226	土師器	甕	18.5	（18.7）	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　輪積痕	床面	60%
227	土師器	甕	16.0	（14.9）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	35%
228	土師器	甕	［20.4］	（7.6）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面筋状の研痕　内面ナデ　砥石転用	覆土中層	５%
229	土師器	小形甕	16.2	21.3	9.0	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下半縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土下層	90%　PL32
230	土師器	小形甕	14.0	11.8	6.5	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	95%　PL32

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP42	土玉	1.31	1.28	0.16～0.28	2.17	長石	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL34
DP43	棗玉	1.23	2.17	0.11	2.51	長石	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL34

第 3176 号竪穴建物跡（第 104・105 図）

位置　調査区中央部のＪ７g9 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況　第 3174 号竪穴建物の床下５cmほどで確認した。

重複関係　第 3174 号竪穴建物が上部に構築されている。

規模と形状　遺存している壁溝から長軸 5.50 m，短軸 5.10 mほどの方形と推定できる。主軸方向はＮ－ 11°－Ｗである。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。床面の外周部には，幅 18 ～ 27cm，深さ 10 ～ 18cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。東壁・西壁の壁溝から直交して中央部に延びている幅 12 ～ 18cm，長さ 108・116cm，深さ８～ 12cmで，断面形が逆台形状の間仕切り溝２条を確認した。貼床は，壁に近い外周部を溝状に掘り下げ，中央部を島状に掘り残し，ロームブロック主体の第 11・12 層を埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。第 3174 号竪穴建物の竈が上部に構築されているため，火床部の痕跡のみを確認した。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。第１層は掘方への埋土である。

竈土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 60 ～ 78cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 28cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈の東側に位置している。長径 89cm，短径 78cmの楕円形で，深さは 32cmである。底面は皿状で，南壁はほぼ直立しており，北壁は緩やかに立ち上がっている。

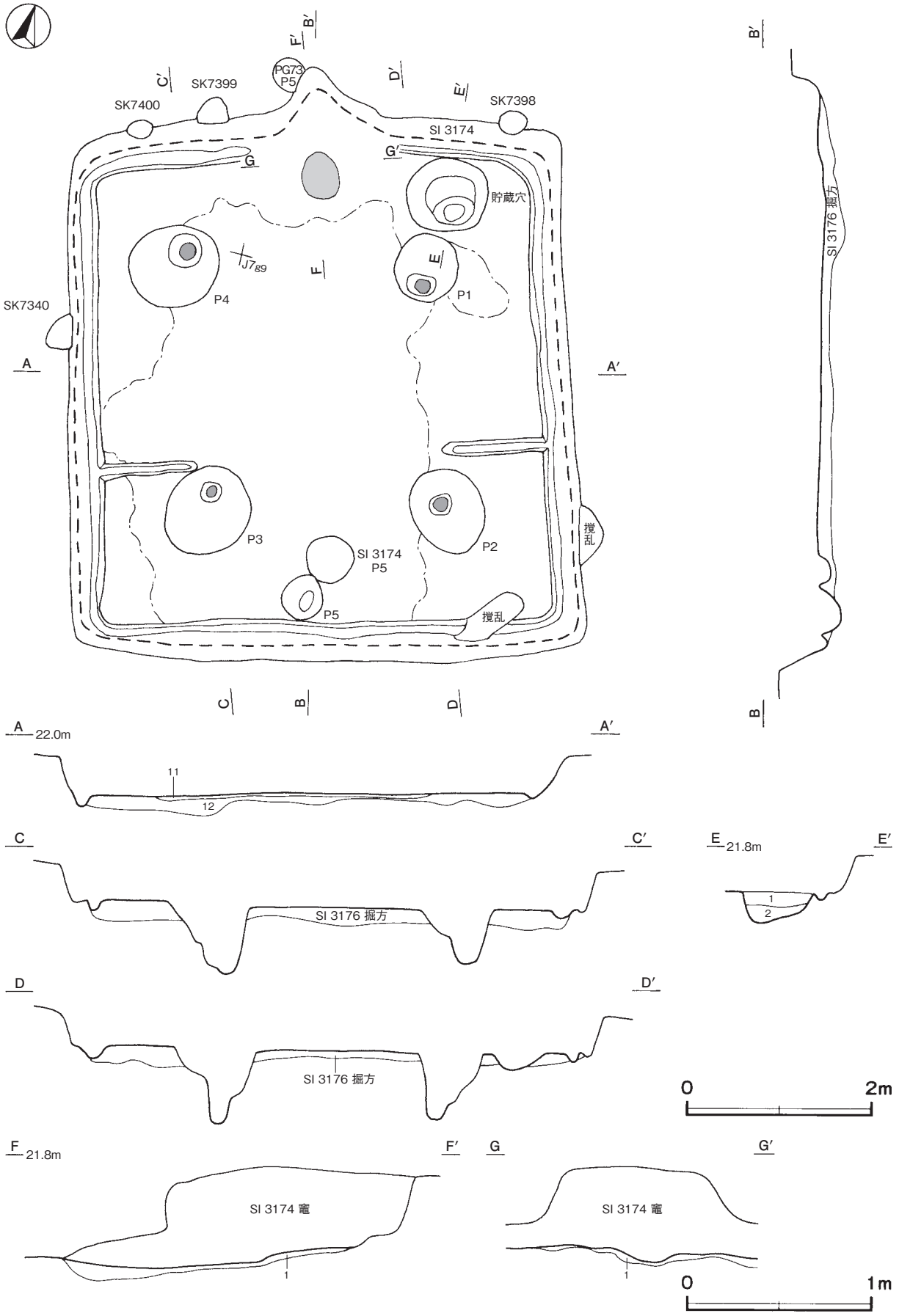
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量　　2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量

覆土　第 11・12 層は貼床の構築土である。

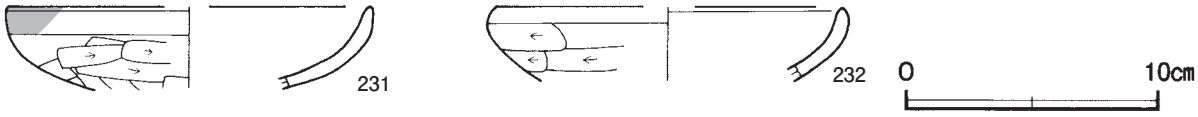
土層解説
11　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量　　12　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 24 点（坏８，甕類 16），焼成粘土塊１点が，掘方の埋土中から出土している。231・232 は南東部の掘方の埋土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器や重複関係から６世紀後葉に比定できる。本跡は，第 3174 号竪穴建物の拡張前の竪穴建物跡である。



第 104 図　第 3176 号竪穴建物跡実測図



第 105 図　第 3176 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3176 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 105 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
231	土師器	坏	［14.4］	(3.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	掘方埋土中	10%
232	土師器	坏	［13.8］	(2.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理残存	掘方埋土中	10%

第 3175 号竪穴建物跡（第 106・107 図）

位置　調査区中央部のＪ７e0 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 7405 号土坑，第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部を第 7405 号土坑，北東部を第 323 号溝に掘り込まれているため，南北軸 5.50 m，東西軸 5.05 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 17°－Ｗである。壁高は 40 ～ 50cmで，ほぼ直立している。

床　平坦な貼床で，全面が踏み固められている。壁下には，幅 22 ～ 28cm，深さ７～ 14cmで，浅いＵ字形の壁溝が巡っている。Ｐ５の周囲で，西側には幅 20cm，長さ 70cm，高さ５cm，北東側には幅５～ 20cm，長さ 80cm，高さ５cmの土手状の高まりを確認した。貼床は，ロームブロックを含む第 14・15 層をほぼ均一に埋土して構築されている。

竈　北壁中央部に付設されている。第 7405 号土坑と第 323 号溝に掘り込まれているため，火床部の一部しか確認できなかった。第１～３層は火床部の掘方と考えられる。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 55 ～ 69cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４・Ｐ５は深さ 31cm・32 cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

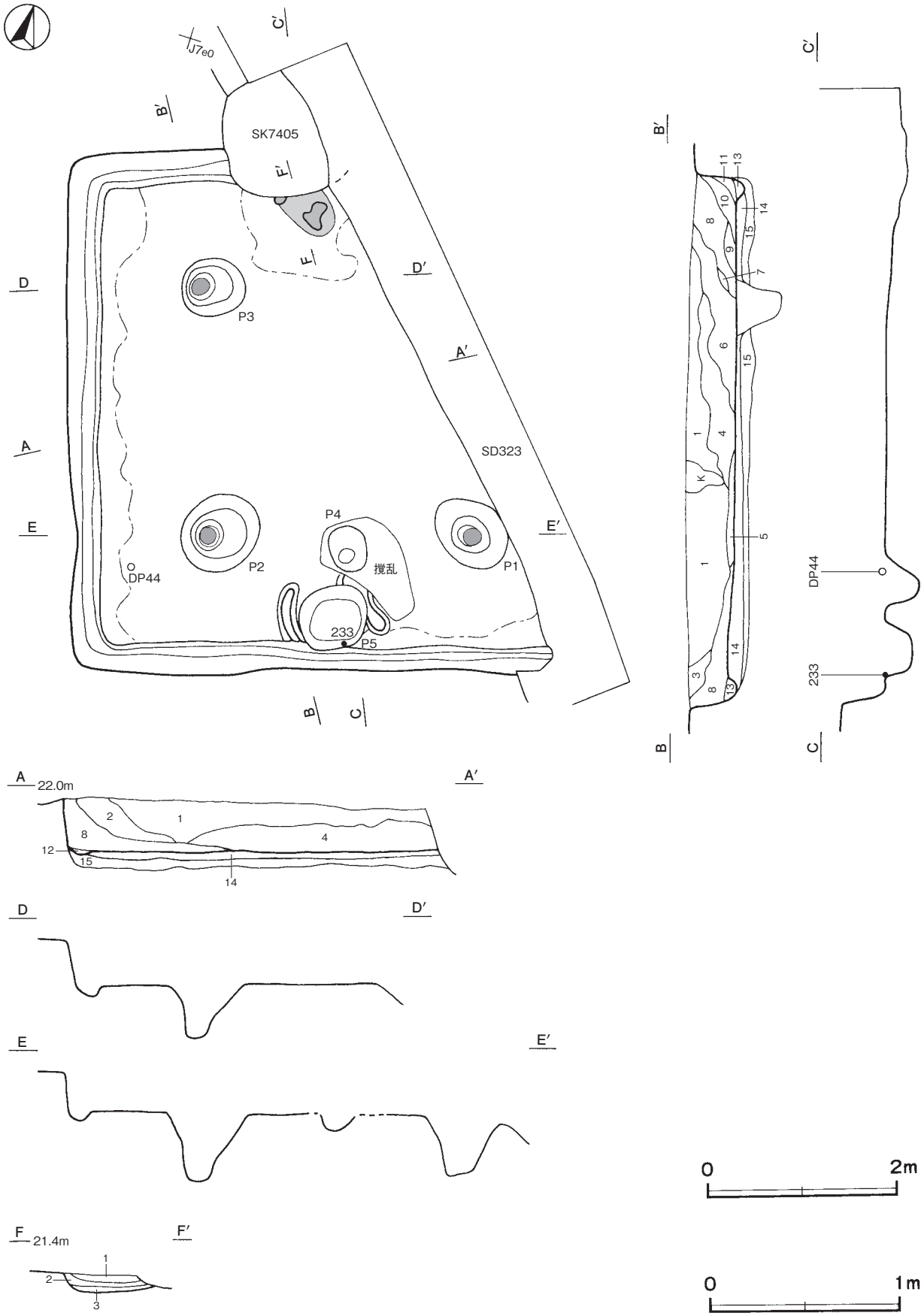
覆土　13 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 14・15 層は貼床の構築土である。

土層解説

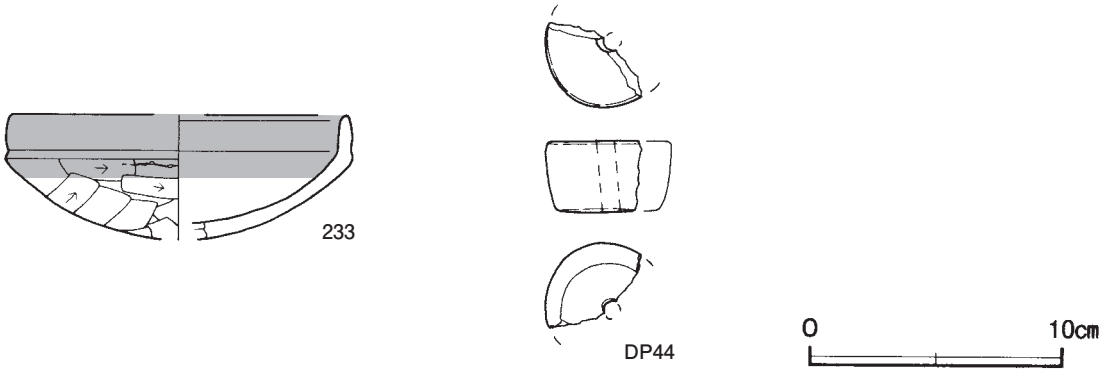
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　黒　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
12　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
14　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片 340 点（坏 87，高坏３，甕類 247，甑１，ミニチュア２），須恵器片６点（蓋１，甕類５），土製品１点（紡錘車）が，覆土中層から床面にかけて集中して出土している。出土土器のほとんどは細片である。233 は南壁下中央部，DP44 は南西部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。



第 106 図　第 3175 号竪穴建物跡実測図



第 107 図　第 3175 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 3175 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 107 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
233	土師器	坏	［12.8］	（4.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	床面	50%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP44	紡錘車	［5.2］ ［3.8］	2.8	［0.7］	（30.3）	長石・石英・雲母	欠損　ナデ　穿孔痕	床面	PL35

表２　古墳時代住居跡一覧表

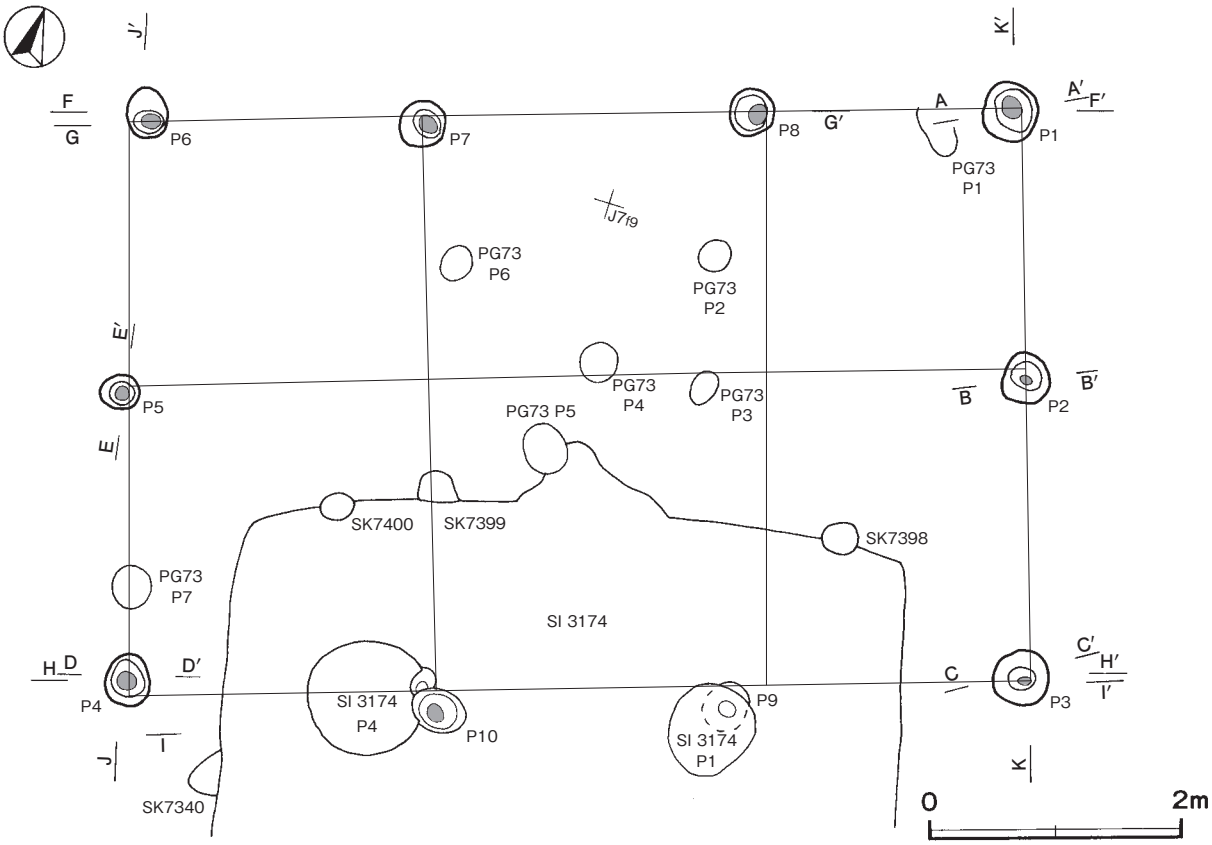
番号	位 置	平面形	主軸方向	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				重複関係（古→新）
2320	Ｉ8j0	方形	Ｎ－10°－Ｅ	5.80 × 5.52	22 ～ 27	平坦	全周	4	2	－	竈１	－	自然	土師器，須恵器，石製品	6 世紀後葉	SI2856 →本跡
2321	Ｉ8i8	方形	Ｎ－25°－Ｗ	5.00 × 4.57	38 ～ 46	平坦	全周	4	1	－	竈１	－	人為	土師器，須恵器，土製品	7 世紀前葉	SI2348 →本跡→ SK3210
2322	Ｉ8j6	長方形	Ｎ－105°－Ｗ	4.31 × 3.90	34 ～ 45	平坦	全周	2	2	3	竈１	1	人為	土師器，須恵器	7 世紀前葉	
2348	Ｉ8h8	［長方形］	［Ｎ－０°］	4.15 ×（3.58）	34 ～ 36	平坦	［全周］	2	－	－	竈１	－	人為	土師器	6 世紀後葉	本跡→ SI2321・2347，SK3145・3165・3208 ～ 3210
2830	Ｋ8d4	方形	Ｎ－18°－Ｗ	4.77 × 4.54	12 ～ 14	平坦	－	4	－	－	竈１	－	人為	土師器，須恵器	6 世紀後葉	SI2840 →本跡
2831	Ｊ8g1	長方形	Ｎ－22°－Ｗ	5.35 × 3.80	32 ～ 36	平坦	［全周］	2	1	－	竈１	－	人為	土師器	6 世紀後葉	本跡→ SI2832
2832	Ｊ8i1	方形	Ｎ－27°－Ｗ	7.00 × 6.69	30 ～ 48	平坦	全周	4	2	2	竈１	1	人為	土師器，須恵器，土製品，石器，鉄製品	7 世紀前葉	SI2831 →本跡
2833	Ｊ7j8	方形	Ｎ－115°－Ｗ	6.03 × 5.71	8 ～ 20	平坦	全周	4	1	16	竈１	－	人為	土師器，須恵器，鉄製品	7 世紀前葉	
2834	Ｋ7a4	方形	Ｎ－１°－Ｅ	5.73 × 5.41	16 ～ 26	平坦	全周	8	1	－	竈１	－	人為	土師器	7 世紀前葉	本跡→ SK5319
2835	Ｋ7d4	方形	Ｎ－18°－Ｗ	6.40 × 6.15	30 ～ 35	平坦	［全周］	4	1	－	竈１	1	人為	土師器，須恵器，土製品，石器	6 世紀後葉	本跡→ UP81
2836	Ｋ7c6	方形	Ｎ－５°－Ｗ	4.05 × 3.95	35 ～ 45	平坦	一部	4	1	－	竈１	－	人為	土師器，鉄製品	7 世紀前葉	本跡→ SD322
2837	Ｋ7d8	方形	Ｎ－29°－Ｗ	4.55 × 4.55	19 ～ 24	平坦	全周	4	1	－	竈１	－	人為	土師器，石器	6 世紀後葉	本跡→ SD322
2838	Ｊ8d2	方形	Ｎ－21°－Ｗ	6.45 × 6.25	30 ～ 45	平坦	全周	6	2	－	竈１	－	人為	土師器，土製品，鉄製品	6 世紀中葉	
2839	Ｊ8e8	方形	Ｎ－５°－Ｅ	5.30 × 4.95	35 ～ 40	平坦	全周	4	1	－	竈１	－	人為	土師器，須恵器，鉄製品	6 世紀後葉	本跡→ SK5305・5306
2840	Ｋ8d4	［方形］	Ｎ－15°－Ｗ	8.75 ×（4.30）	10 ～ 18	平坦	［全周］	2	－	2	竈２	1	人為	土師器，土製品，石製品	6 世紀後葉	本跡→ SI2830
2841	Ｉ7i4	方形	［Ｎ－7°－Ｗ］	5.95 × 5.58	45 ～ 50	平坦	［全周］	6	2	－	竈１	－	人為	土師器，土製品	6 世紀後葉	本跡→ SD323
2842	Ｉ7h2	方形	［Ｎ－12°－Ｅ］	5.15 × 5.10	50 ～ 55	平坦	［全周］	4	1	－	竈１	－	人為	土師器，石器	7 世紀前葉	本跡→ SD323
2843	Ｊ6h8	方形	Ｎ－５°－Ｅ	8.73 × 8.35	－	平坦	全周	6	1	－	竈２	－	－	土師器，土製品	7 世紀前葉	本跡→ SI2860
2844	Ｊ6h5	方形	Ｎ－85°－Ｅ	3.75 × 3.50	15 ～ 23	平坦	－	－	－	1	竈１	－	人為	土師器，土製品	7 世紀後葉	SI2858，第９号竪穴遺構→本跡
2845	Ｉ6i9	長方形	Ｎ－38°－Ｗ	7.35 × 5.78	10 ～ 14	平坦	一部	3	－	－	竈１	－	人為	土師器	6 世紀後葉	本跡→ SI2846，SD323
2846	Ｉ6i0	方形	Ｎ－56°－Ｅ	7.80 × 7.77	40 ～ 48	平坦	全周	4	1	6	竈１	1	人為	土師器，土製品，石製品，鉄製品	6 世紀後葉	SI2845 →本跡→ SD323
2847	Ｊ6b9	方形	Ｎ－67°－Ｗ	5.63 × 5.44	45 ～ 48	平坦	［全周］	1	2	1	竈１	1	人為	土師器，土製品	6 世紀後葉	本跡→ SI2848，SE223，SD323
2848	Ｊ6a0	方形	Ｎ－３°－Ｅ	4.05 × 4.01	40 ～ 45	平坦	全周	4	1	－	竈１	1	人為	土師器	7 世紀前葉	SI2847 →本跡→ SD323

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
2849	J6b7	長方形	N－5°－W	5.48×4.85	13～17	平坦	［ほぼ全周］	－	－	－	炉2	－	人為	土師器，須恵器，石器	7世紀前葉	SI2850・2851→本跡→SD323
2850	J6d8	方形	N－2°－W	9.68×9.48	36～42	平坦	［全周］	8	2	－	竈1	1	人為	土師器，土製品，石製品，鉄製品	6世紀後葉	SI2851→本跡→SI2849，SD323
2851	J6d8	方形	N－3°－W	9.82×9.64	38～51	平坦	一部	4	－	－	竈1	－	人為	土師器，土製品	6世紀後葉	本跡→SI2849・2850，SD323
2852	J8g6	－	［N－90°－E］	－	－	－	－	－	－	－	竈1	－	－	－	古墳時代	
2853	J6e6	方形	N－8°－E	5.98×5.94	45～56	平坦	［全周］	4	1	－	竈1	－	人為	土師器，須恵器，土製品，鉄製品	6世紀後葉	本跡→SI2859，SD323
2854	J6j7	方形	N－2°－E	5.30×4.95	28～30	平坦	［全周］	4	2	－	竈1	－	人為	土師器，鉄製品	7世紀前葉	
2855	J8b8	方形	N－27°－W	8.72×8.60	30～45	平坦	全周	6	1	－	竈1	1	人為	土師器，須恵器，土製品，石製品	7世紀前葉	SI2856→本跡→SH89，SD321
2856	J8b0	［長方形］	N－17°－E	6.96×(6.40)	50～52	平坦	－	6	1	3	－	－	人為	土師器，土製品	6世紀後葉	本跡→SI2320・2855
2857	K6b8	［方形］［長方形］	［N－3°－W］	(4.40×3.05)	35～40	平坦	［全周］	1	－	1	竈1	1	人為	土師器	7世紀前葉	
2858	J6h4	方形	N－9°－W	8.73×8.50	23～45	平坦	［全周］	4	5	4	竈1	－	人為	土師器，須恵器，土製品，石器	6世紀後葉	本跡→SI2844
2859	J6f7	方形	N－5°－E	4.78×4.78	27～43	平坦	全周	4	1	－	竈1	－	人為	土師器，須恵器，土製品，石器	7世紀前葉	SI2853→本跡
2860	J6h8	方形	N－4°－E	11.50×11.50	20～30	平坦	－	4	1	2	竈1	－	人為	土師器，石製品	7世紀前葉	SI2843→本跡
3173	J7a7	［長方形］	N－15°－W	5.90×5.20	55～65	平坦	一部	3	2	－	竈2	1	人為	土師器，土製品	6世紀後葉	本跡→SD323
3174	J7g9	方形	N－13°－W	5.87×5.50	25～35	平坦	全周	4	1	－	竈1	－	人為	土師器，土製品	6世紀後葉	SI3176→本跡→SK7340・7398～7400，PG73
3175	J7e0	［方形］［長方形］	N－17°－W	5.50×(5.05)	40～50	平坦	［全周］	3	2	－	竈1	－	人為	土師器，須恵器，土製品	6世紀後葉	本跡→SK7405，SD323
3176	J7g9	［方形］	N－11°－W	［5.50×5.10］	－	平坦	全周	4	1	－	竈1	1	－	土師器片	6世紀後葉	本跡→SI3174

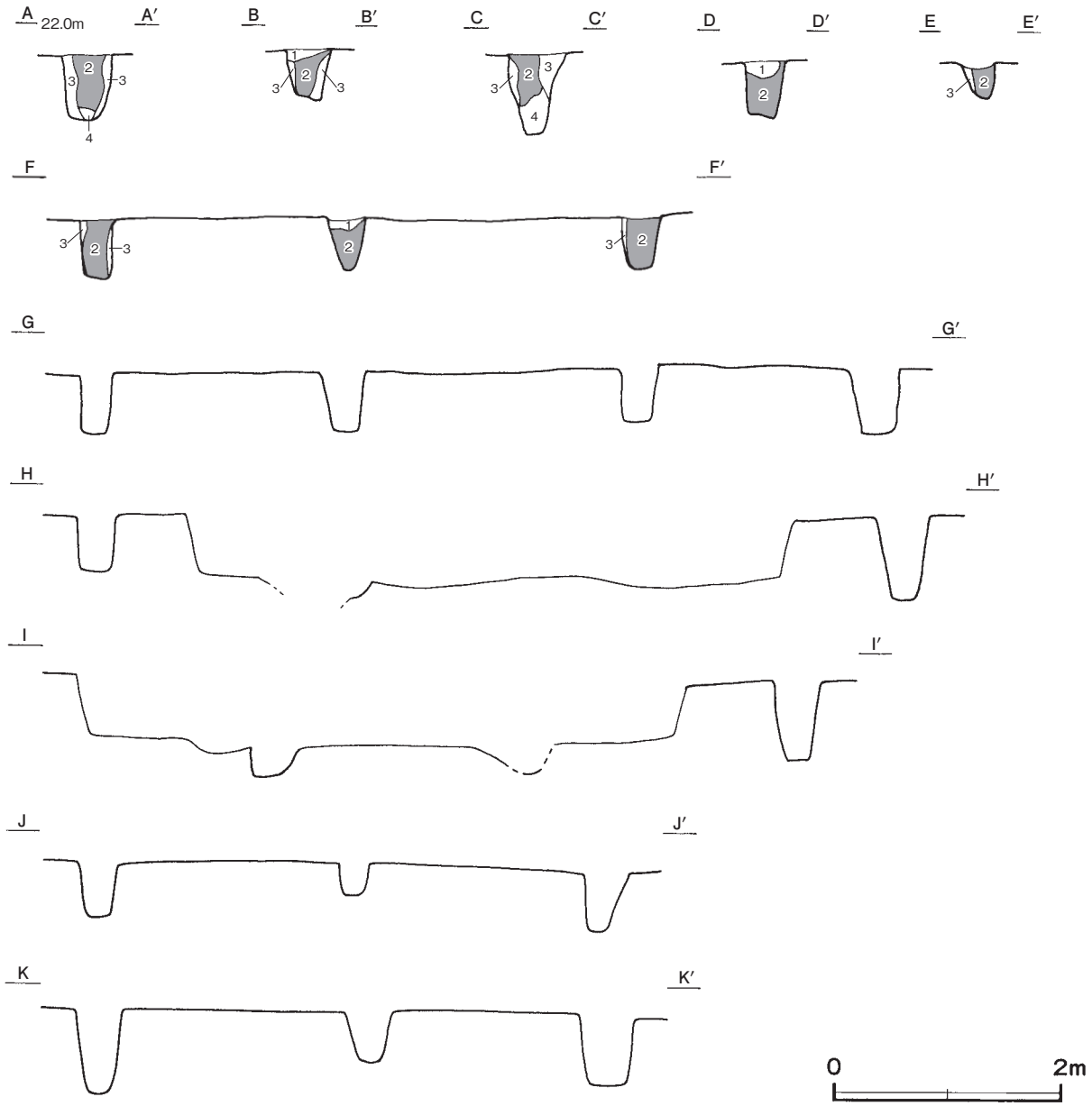
（2） 掘立柱建物跡

第596号掘立柱建物跡（第108・109図）

位置 調査区中央部のＪ７e9～Ｊ７g8区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第108図 第596号掘立柱建物跡実測図（1）



第 109 図　第 596 号掘立柱建物跡実測図 (2)

重複関係　第 3174 号竪穴建物，第 7398 ～ 7400 号土坑，第 73 号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造　桁行３間, 梁行２間の側柱建物跡で, 桁行方向はＮ－72°－Ｅの東西棟である。規模は桁行 7.20 m，梁行 4.50 mで，面積は 32.40㎡である。柱間寸法は桁行が西妻から 2.4 m（８尺)･2.7 m（９尺)･2.1 m（７尺）で，梁行は北平から 2.1 m（７尺）・2.4 m（８尺）で配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　10 か所。平面形は円形または楕円形で，長径 32 ～ 46㎝，短径 28 ～ 44㎝である。深さ 21 ～ 73㎝で，掘方の断面形は逆台形またはＵ字形である。第１層は抜き取り後の堆積土，第２層は柱痕跡，第３・４層は掘方への埋土である。Ｐ９・Ｐ 10 は，第 3174 号竪穴建物の床下で確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片 28 点（坏６，甕類 22）が，覆土中から出土している。

所見　出土土器はいずれも細片のため，図示はできない。重複関係から古墳時代と考えられる。周囲には，軸方向が同じ古墳時代の竪穴建物跡が所在するため，集落内の倉庫的な役割を持っていたと考えられる。

(3)　竪穴遺構

第７号竪穴遺構（第 110 図）

位置　調査区中央部のＪ７h7 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 5300 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 1.87 m，短軸 1.75 mの隅丸方形で，長軸方向はＮ－ 55°－Ｅである。壁高は 15㎝で，外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

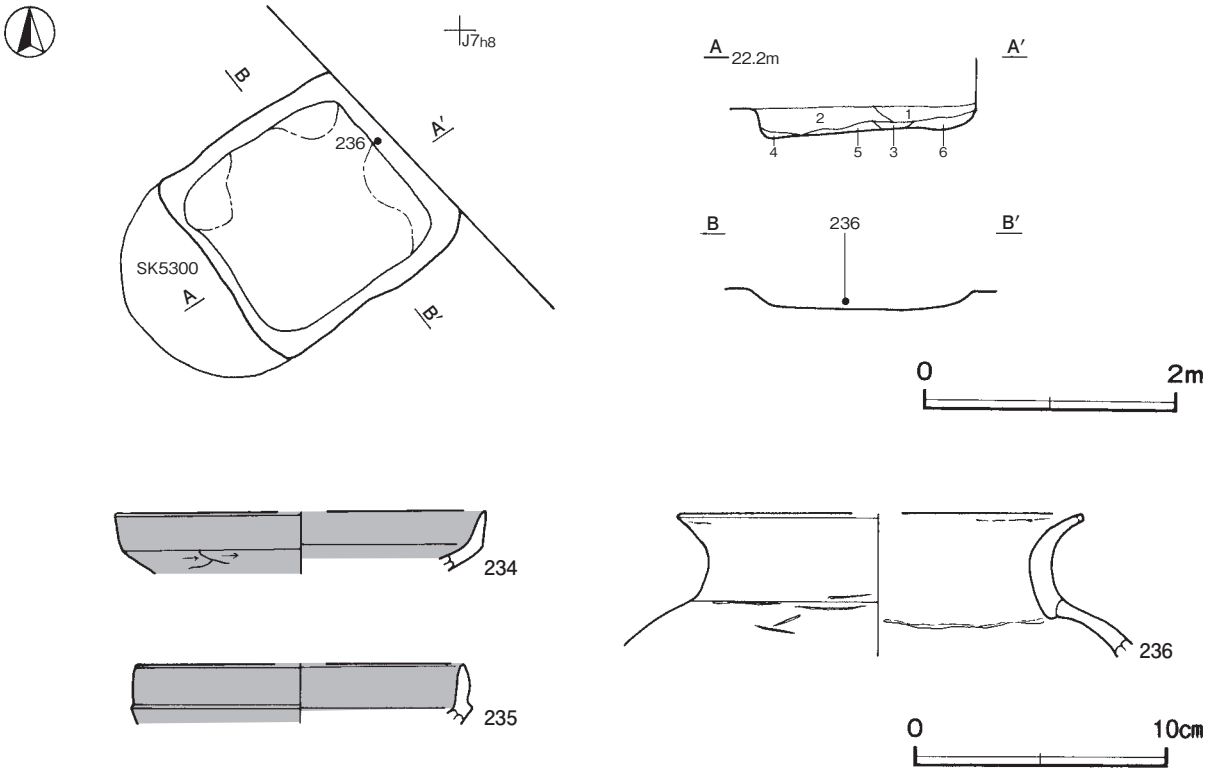
覆土　６層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

１	黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	４	黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
２	黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	５	黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
３	黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量	６	黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片 50 点（坏 30，甕類 20）が覆土中から出土している。236 は北東部の覆土中層から出土している。234・235 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。底面が硬化していることから，人の出入りがあったとみられるが，性格は不明である。



第 110 図　第７号竪穴遺構・出土遺物実測図

第７号竪穴遺構出土遺物観察表（第 110 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
234	土師器	坏	［14.7］	（2.3）	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	５％
235	土師器	坏	［13.0］	（2.3）	－	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	５％
236	土師器	甕	［16.0］	（5.6）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　輪積痕	覆土中層	５％

第８号竪穴遺構（第 111・112 図）

位置　調査区北部のＪ８a1 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸 2.58 m，短軸 2.47 mの方形で，長軸方向はＮ－ 49°－ W である。壁高は 20㎝で，外傾して立ち上がっている。

底面　平坦で，中央部が踏み固められている。

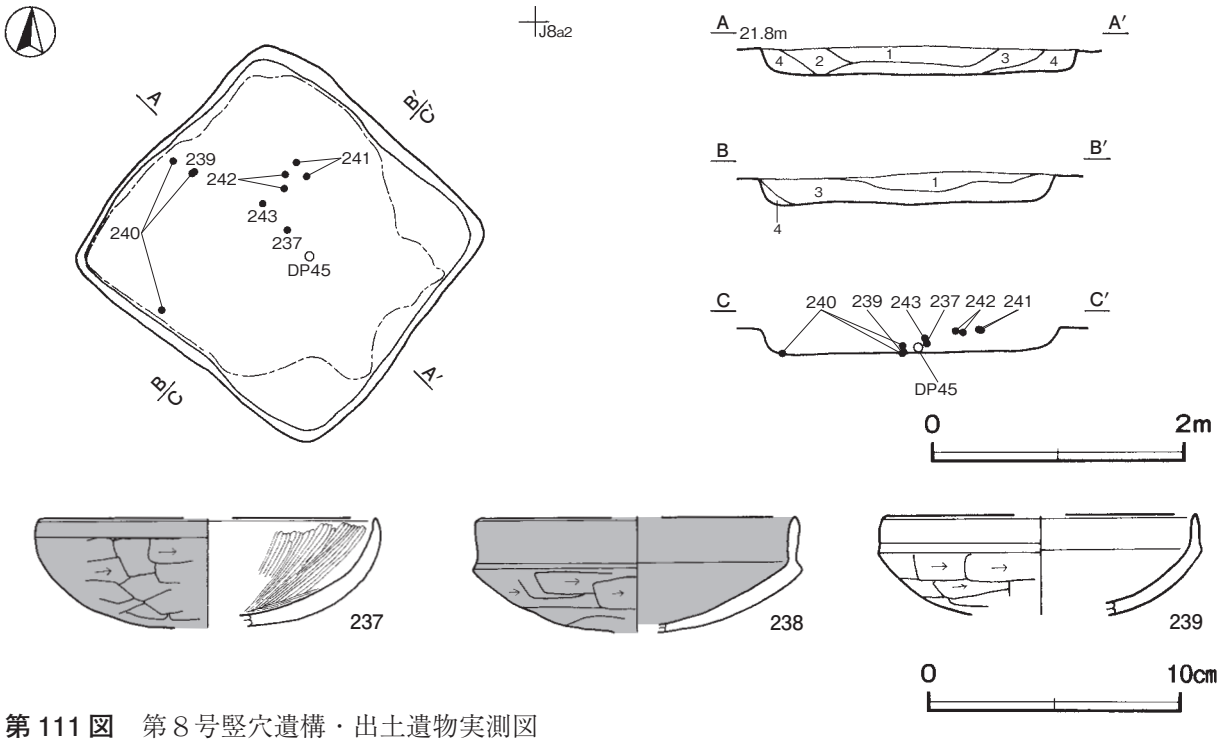
覆土　４層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから，自然堆積である。

土層解説

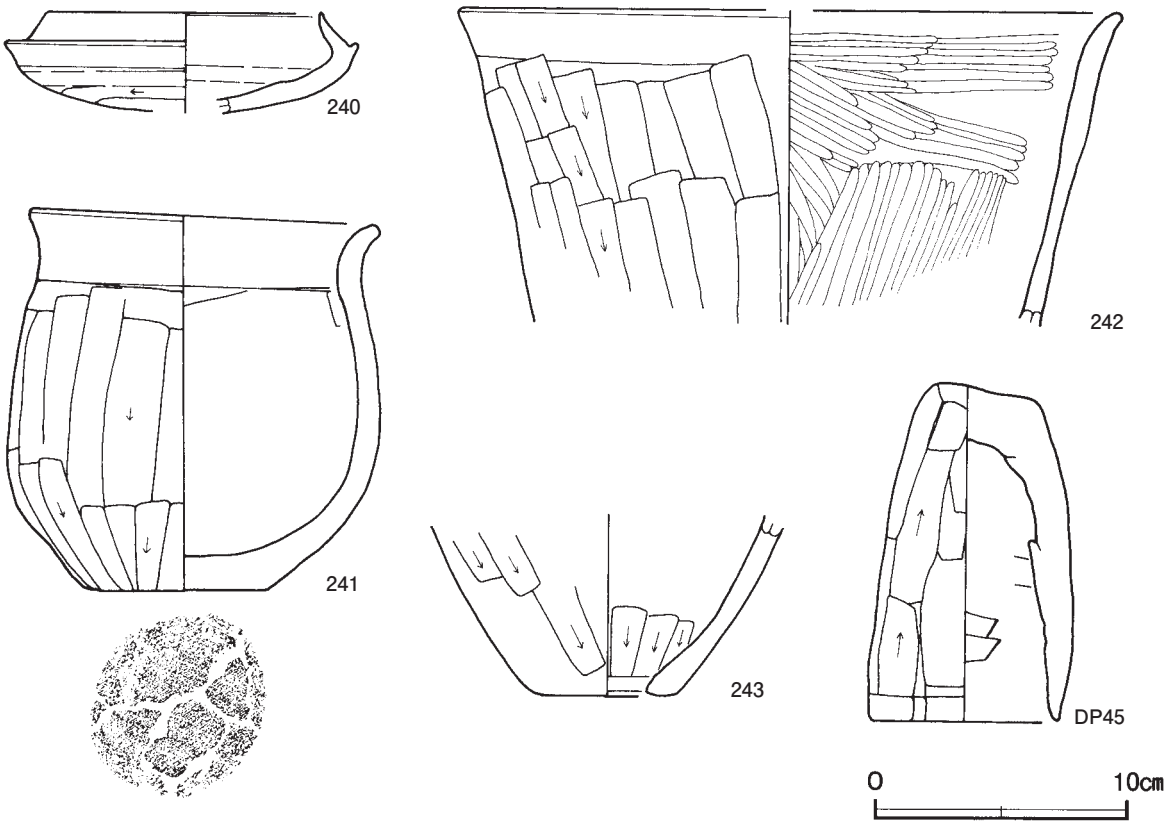
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片 67 点（坏 14，椀 10，甕類 38，甑５），須恵器片１点（坏），土製品１点（支脚）が，全域の覆土中層から底面にかけて出土している。240 は北西部及び南西部の覆土下層から底面にかけて出土した破片３点が接合したものである。239 は北西部の底面，237・243・DP45 は中央部の覆土下層，241・242 は覆土中層からそれぞれ出土している。238 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。底面が硬化していることから，人の出入りはあったとみられるが，性格は不明である。



第 111 図　第８号竪穴遺構・出土遺物実測図



第 112 図　第８号竪穴遺構出土遺物実測図

第８号竪穴遺構出土遺物観察表（第 112 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
237	土師器	坏	[13.3]	4.3	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	20%
238	土師器	坏	[12.4]	5.1	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	20%
239	土師器	坏	[12.3]	3.9	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	底面	20%
240	須恵器	坏	10.9	3.9	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面回転ヘラ削り	覆土下層 底面	90%　PL32
241	土師器	小形甕	13.5	15.1	6.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土中層	90%　PL32
242	土師器	甑	[26.0]	(12.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中層	10%
243	土師器	甑	－	(7.1)	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下位斜位のヘラ削り　内面ヘラ削り	覆土下層	10%

番号	器　種	高さ	最小径	最大径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP45	支脚	13.3	3.9	7.6	543.7	長石・石英・雲母	体部縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	覆土下層	PL36

第９号竪穴遺構（第 113 図）

位置　調査区西部のＪ６h6 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 2844 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長径 4.82 m，短径 4.70 mの円形である。壁高は 65cmで，ほぼ直立している。

底面　平坦で，硬化面は確認できなかった。

覆土　８層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

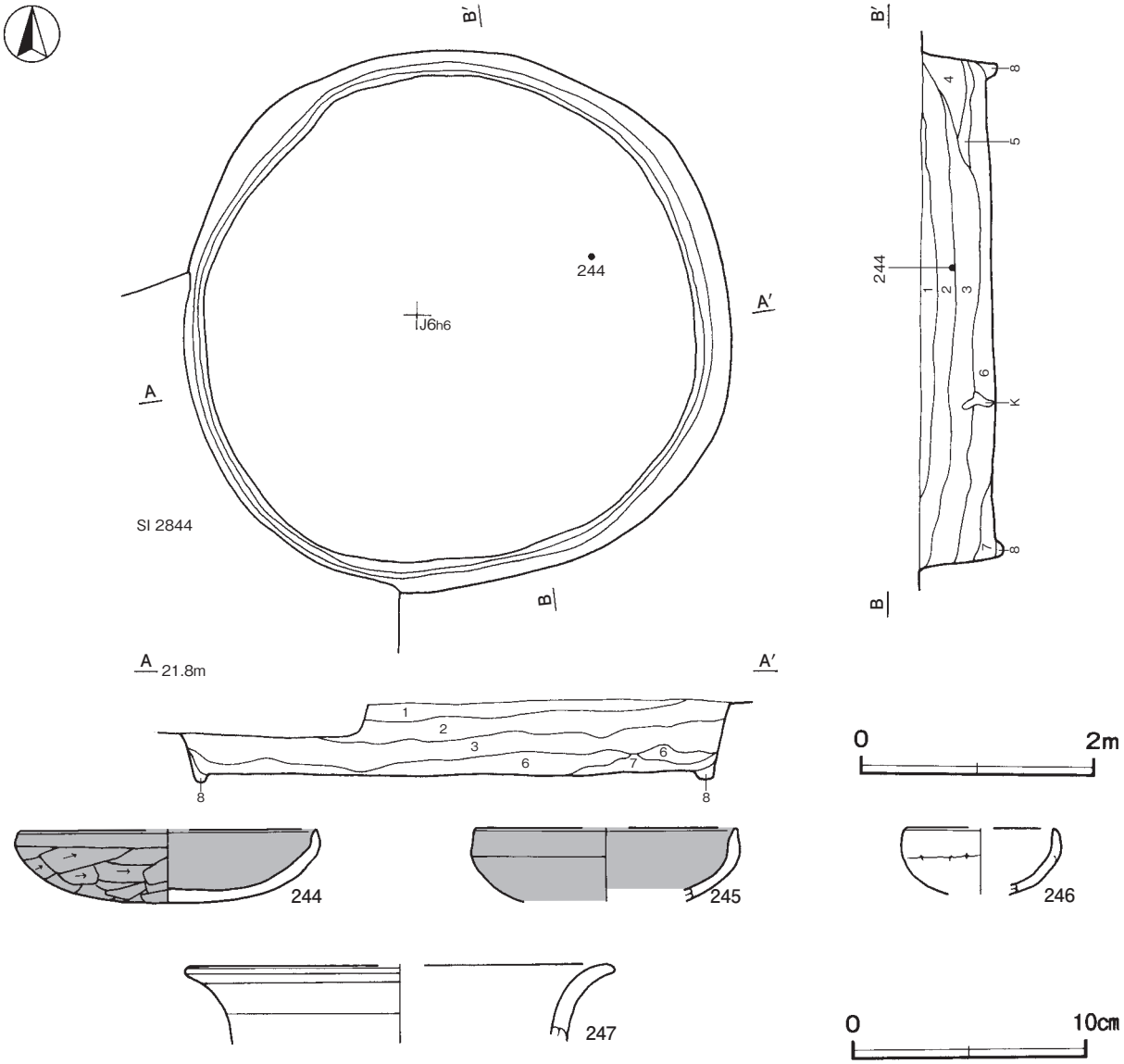
土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，炭化物少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量

5　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量
8　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 175 点（坏 37，甕類 137，甑 1），須恵器片 3 点（坏），鉄滓 1 点（16.3g）が全域の覆土上層から下層にかけて出土している。そのほか，縄文土器片 1 点（深鉢）も出土している。244 は北東部の覆土中層から出土している。245 ～ 247 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。空間は広いが，底面の硬化がみられないことから，倉庫的な施設と考えられるが，詳細は不明である。



第 113 図　第 9 号竪穴遺構・出土遺物実測図

第 9 号竪穴遺構出土遺物観察表（第 113 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
244	土師器	坏	［12.6］	3.6	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中層	30%
245	土師器	坏	［11.2］	（3.1）	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	10%
246	土師器	坏	［6.2］	（2.8）	－	雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　輪積痕	覆土中	25%
247	土師器	小形甕	［18.0］	（3.3）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5 %

表３　古墳時代竪穴遺構一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)	壁高（cm）					
7	J7h7	N－55°－E	隅丸方形	1.87 × 1.75	15	平坦	外傾	人為	土師器片	SK5300→本跡
8	J8a1	N－49°－W	方形	2.58 × 2.47	20	平坦	外傾	自然	土師器片，須恵器片，土製品	
9	J6h6	－	円形	4.82 × 4.70	65	平坦	ほぼ直立	人為	土師器片，須恵器片	本跡→SI2844

２　室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，方形竪穴遺構１基，地下式坑１基，土坑12基，道路跡１条，溝跡６条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　方形竪穴遺構

第89号方形竪穴遺構（第114図）

位置　調査区東部のＪ８c8区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

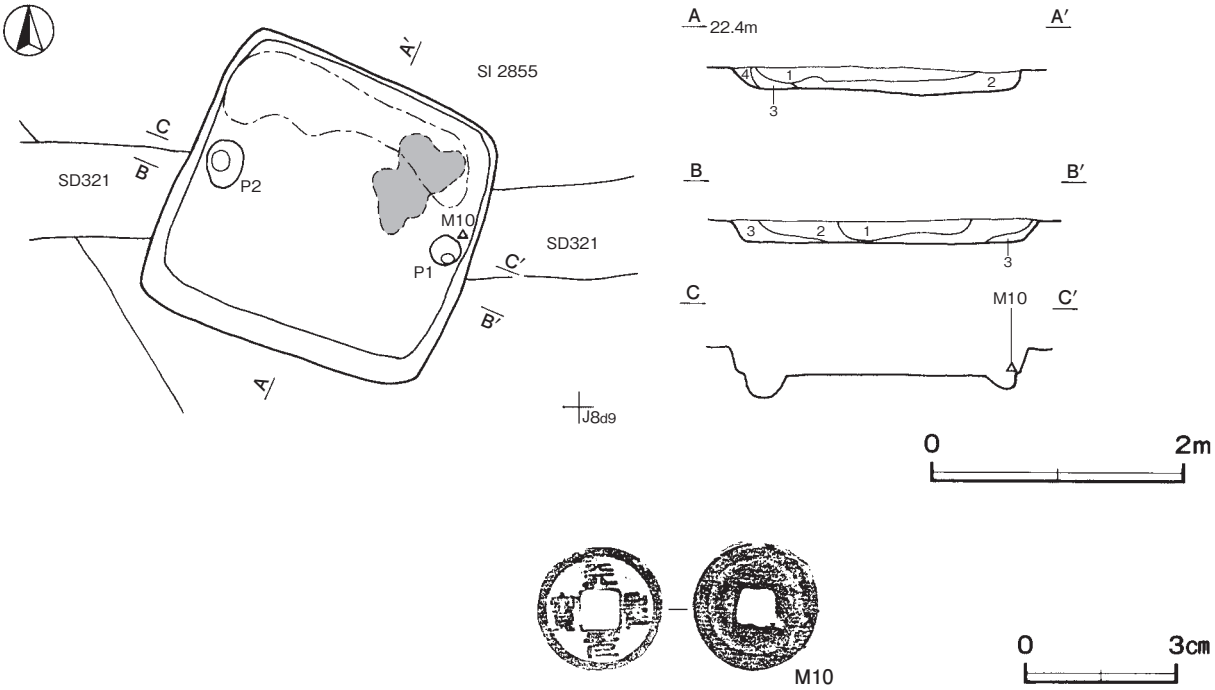
重複関係　第2855号竪穴建物跡，第321号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.40ｍ，短軸2.32ｍの方形で，長軸方向はＮ－70°－Ｗである。壁高は18～21cmで，南壁が緩やかに立ち上がり，ほかの壁はほぼ直立している。

床　平坦で，北壁際が踏み固められている。北東コーナー部から中央部にかけて，長さ90cm，幅20～50cmほどの不定形の炭化粒子の広がりを確認した。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ14cm・20cmで，それぞれ東・西壁下の中央部に位置していることから，柱穴と考えられる。

覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第114図　第89号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　銭貨１点（天聖元寳）が出土している。そのほか，土師器片 79 点（坏 23，高台付坏２，甕類 54），須恵器片８点（坏２，瓶類２，甕類４）が出土している。M 10 は東壁際中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土した銭貨及び遺構の形状から室町時代と考えられる。

第 89 号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第 114 図）

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 10	銭貨	2.51	0.68	0.12	2.73	銅	天聖元寳　初鋳 1023 年	床面	PL38

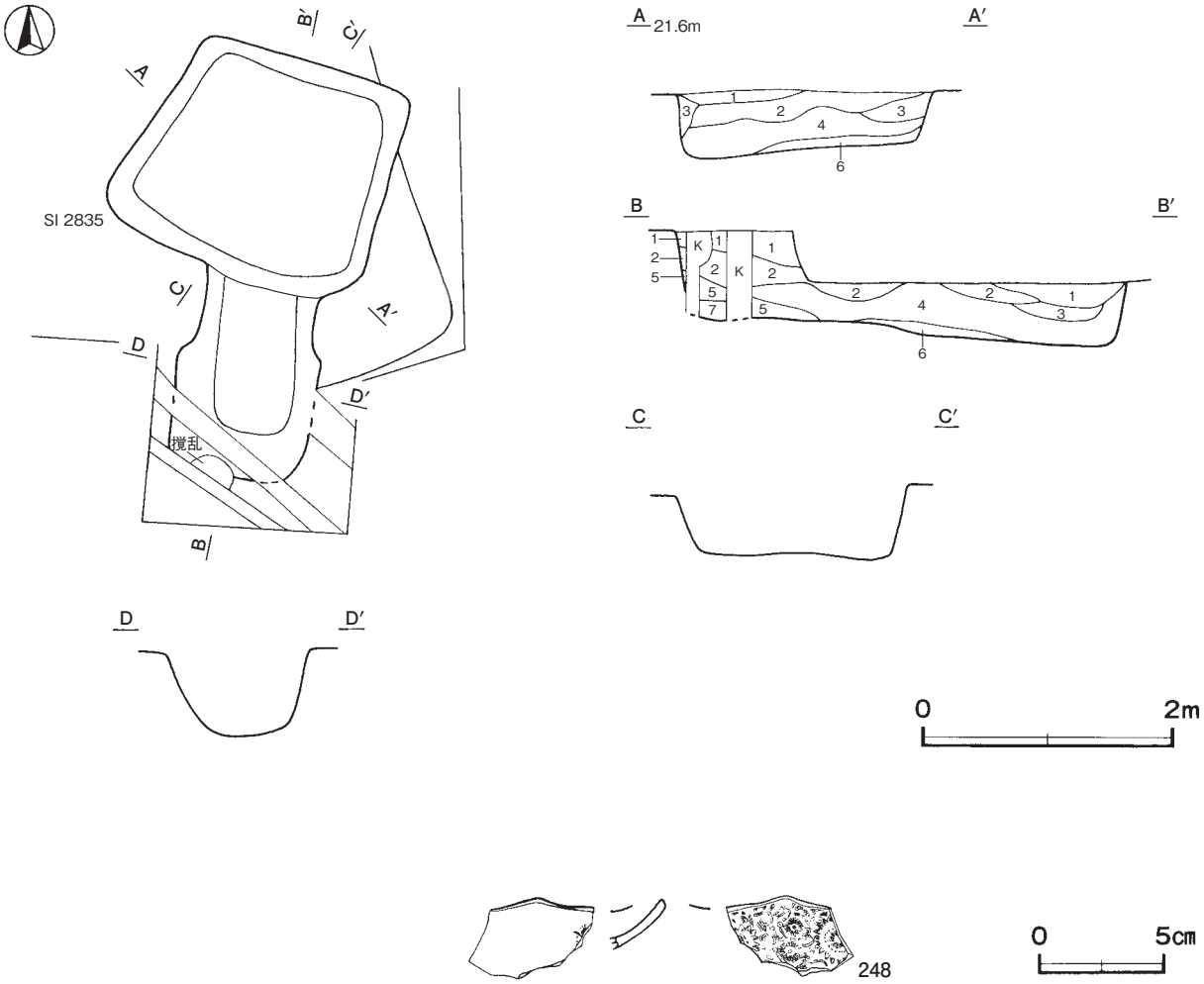
(2)　地下式坑

第 81 号地下式坑（第 115 図）

位置　調査区北部のＫ７d3 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2835 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向　軸長は 3.44m で，軸方向はＮ－ 10°－Ｅである。



第 115 図　第 81 号地下式坑・出土遺物実測図

竪坑　主室南壁東寄りに位置し，奥行 1.58m，横幅 1.14m の長方形である。深さは 70 ～ 74cm で，壁はほぼ直立している。底面はほぼ平坦で，緩やかに下りながら主室に至っている。接続部での顕著な段差は認められない。

主室　奥行き 1.82m，横幅 1.94m の方形である。天井部は崩落している 。深さは 74 ～ 94cm で，底面は接続部から北壁に向かって緩やかに下っている。壁はほぼ直立している。

覆土　７層に分層できる。第３・４層は天井部・壁部の崩落層である。第５・６層は天井部崩落前に竪坑から流れ込んだ自然堆積で，第７層は竪坑壁部の崩落層である。第１・２層は，天井部崩落後に周囲から流入した自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　磁器片１点（皿）が出土している。そのほか，縄文土器片２点（深鉢），土師器片 221 点（坏 36，高坏１，甕類 184），須恵器片７点（坏２，高台付坏１，蓋１，甕類３），焼成粘土塊４点も出土している。248 は覆土中から出土している。

所見　本調査区域の西側で，東西に 20 mほどの等間隔で 16 世紀代の地下式坑３基が，所在していることが『第 360 集』で報告されている。軸方向や形状が類似していることから，16 世紀代と考えられる。

第 81 号地下式坑出土遺物観察表（第 115 図）

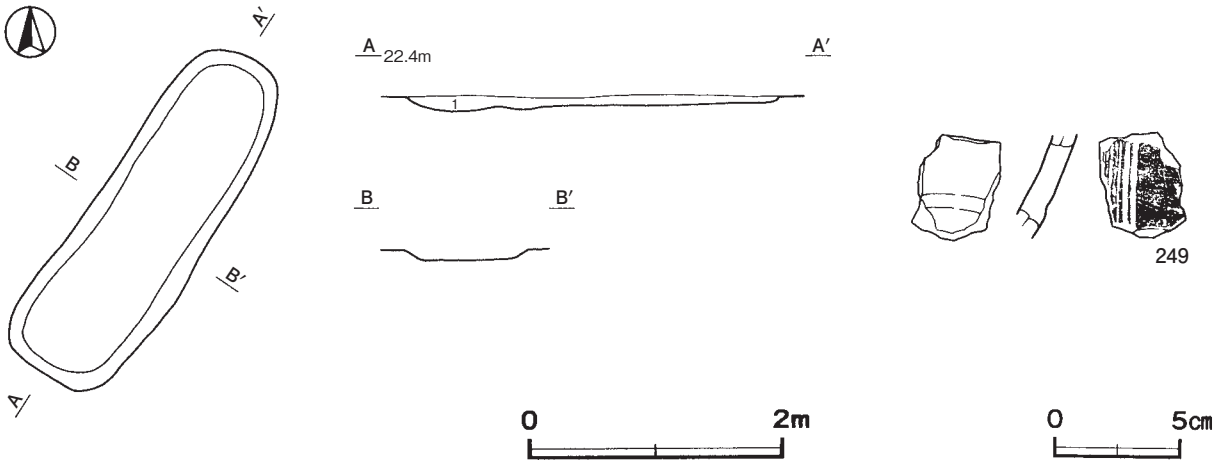
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	絵　付	釉　色	産　地	年　代	出土位置	備　考
248	磁器	皿	－	(2.0)	－	粗雑	灰黄	呉須　印判	灰白	景徳鎮窯模倣ヵ	15 世紀ヵ	覆土中	5 %　PL33

(3)　土坑

当調査区から 12 基を確認した。以下，遺構・遺物の特徴について記述するが，ここでは，当遺跡の性格を考える上で必要な第 5311・5314 号土坑を取り上げて解説する。その他の土坑については，規模・形状等については一覧表で，平面図・土層断面図（第 118・119 図）・土層解説については遺構順に掲載する。

第 5311 号土坑（第 116 図）

位置　調査区東部のＪ８f7 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。



第 116 図　第 5311 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　長軸 2.98 m，短軸 0.99 mの隅丸長方形で，長軸方向はN－34°－Eである。深さは８cm，底面は平坦で，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（擂鉢）のほか，混入した土師器片２点（坏１，甕類１），須恵器片１点（坏）が出土している。これらは，覆土中から出土している。

所見　形状から土坑墓と推測できる。時期は，出土土器から 16 世紀前半と考えられる。

第 5311 号土坑出土遺物観察表（第 116 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
249	陶器	擂鉢	－	(3.9)	－	長石・石英	灰褐	普通	５条単位の擂目ヵ	覆土中	５％

第 5314 号土坑（第 117 図）

位置　調査区北東部のＪ８f6 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

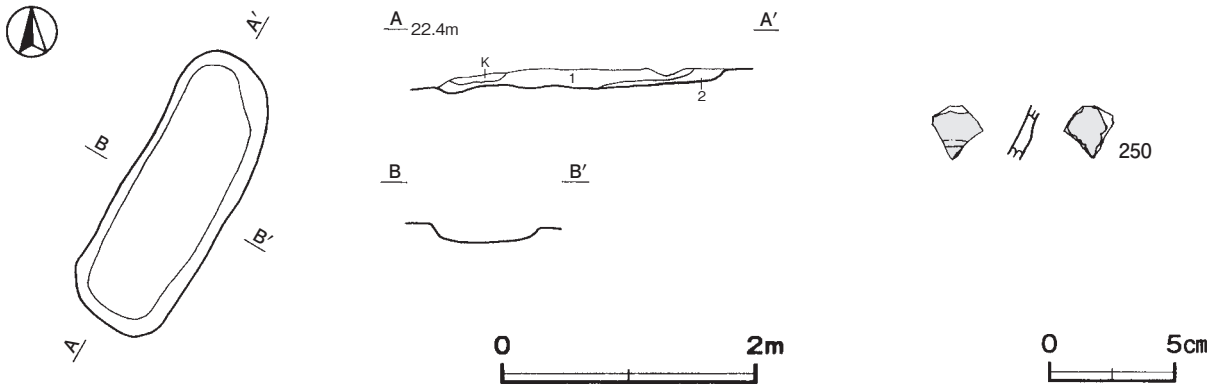
規模と形状　長軸 2.32 m，短軸 0.86 mの隅丸長方形で，長軸方向はN－30°－Eである。深さは 13cm，底面は平坦で，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量　　2　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　陶器片１点（天目茶碗）のほか，混入した土師器片５点（甕類），須恵器片１点（甕類）が出土している。これらは，覆土中から散在して出土している。

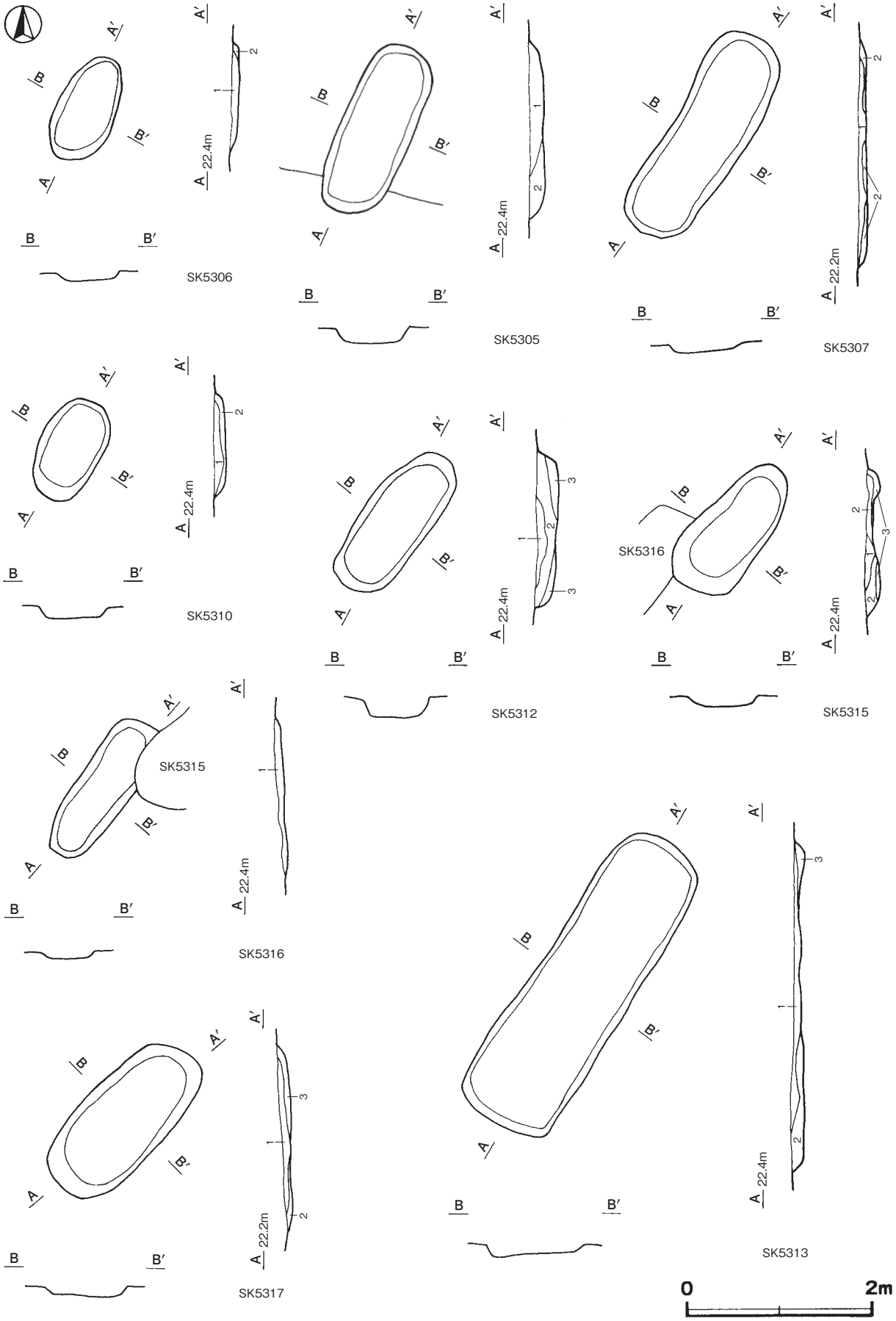
所見　形状から土坑墓と推測できる。時期は，出土陶器から 16 世紀代と考えられる。



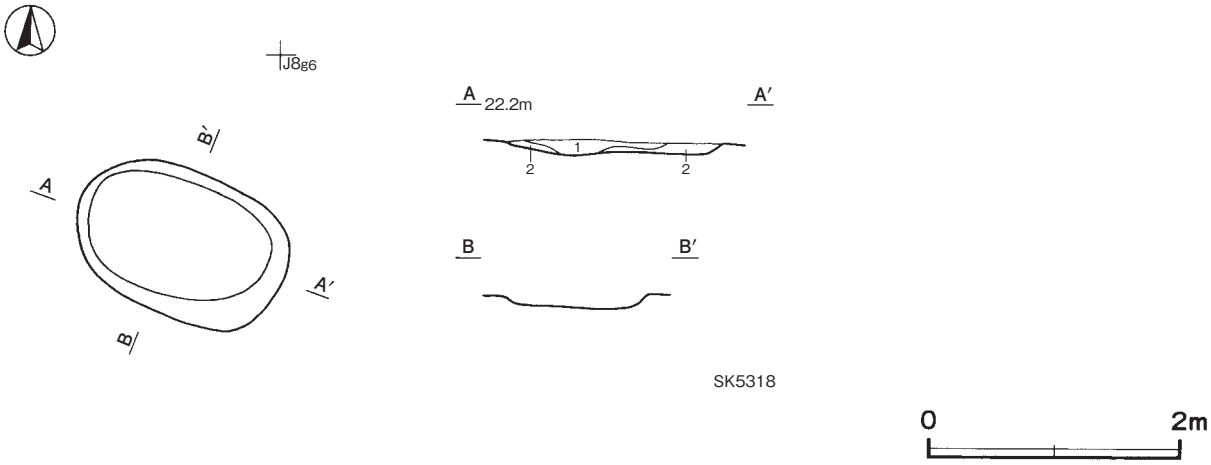
第 117 図　第 5314 号土坑・出土遺物実測図

第 5314 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色調	絵　付	釉　色	産　地	年　代	出土位置	備　考
250	陶器	天目茶碗	－	(2.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	－	黒	瀬戸・美濃	16 世紀	覆土中	５％



第 118 図　その他の土坑実測図 (1)



第 119 図　その他の土坑実測図 (2)

第 5305 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 5306 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子微量

第 5307 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子中量

第 5310 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 5312 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第 5313 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子微量

第 5315 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 5316 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 5317 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 5318 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

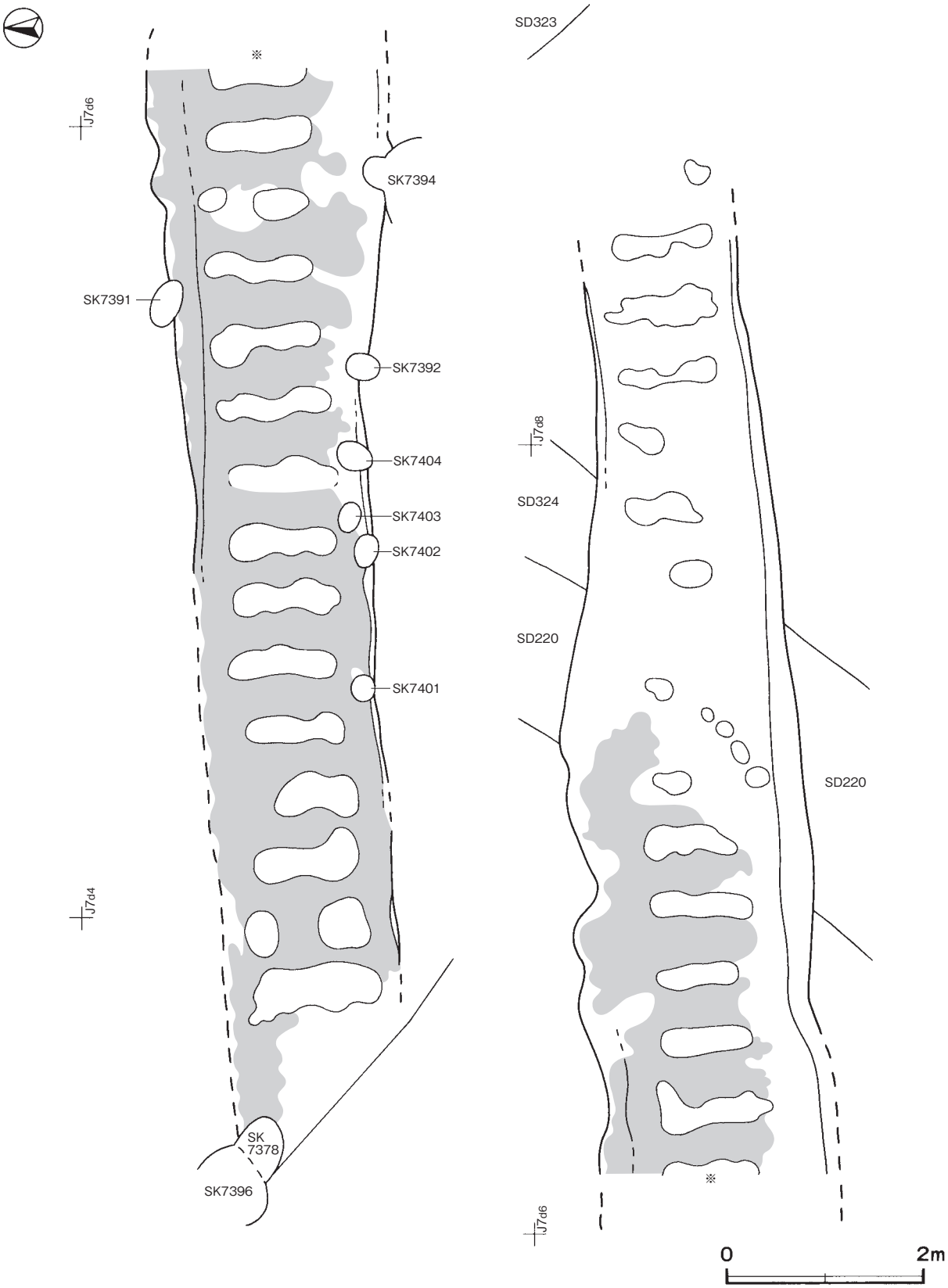
表４　室町時代土坑一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ（cm）					
5305	J8e8	N－23°－E	隅丸長方形	1.94 × 0.78	17	平坦	外傾	人為	土師器片	SI2839 →本跡
5306	J8e8	N－22°－E	楕円形	1.20 × 0.66	10	平坦	外傾	人為	土師器片	SI2839 →本跡
5307	J8e3	N－36°－E	隅丸長方形	2.46 × 0.86	10	平坦	外傾	人為	土師器片	
5310	J8f8	N－28°－E	楕円形	1.14 × 0.67	12	平坦	外傾	人為		
5311	J8f7	N－34°－E	隅丸長方形	2.98 × 0.99	8	平坦	緩斜	人為	土師器片，須恵器片，陶器片	
5312	J8f7	N－37°－E	楕円形	1.76 × 0.75	22	平坦	外傾	人為	土師器片，鉄片	
5313	J8f6	N－32°－E	隅丸長方形	3.54 × 1.14	15	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片	
5314	J8f6	N－30°－E	隅丸長方形	2.32 × 0.86	13	平坦	外傾	人為	土師器片，須恵器片，陶器片	
5315	J8f6	N－40°－E	楕円形	1.62 × 0.78	11	平坦	緩斜	人為		SK5316 →本跡
5316	J8f6	N－41°－E	隅丸長方形	1.70 × 0.60	8	平坦	緩斜	人為	土師器片	本跡→ SK5315
5317	J8f6	N－47°－E	隅丸長方形	2.00 × 0.92	12	平坦	外傾	人為	土師器片	
5318	J8g5	N－67°－W	楕円形	1.72 × 1.11	10	平坦	緩斜	人為	土師器片	

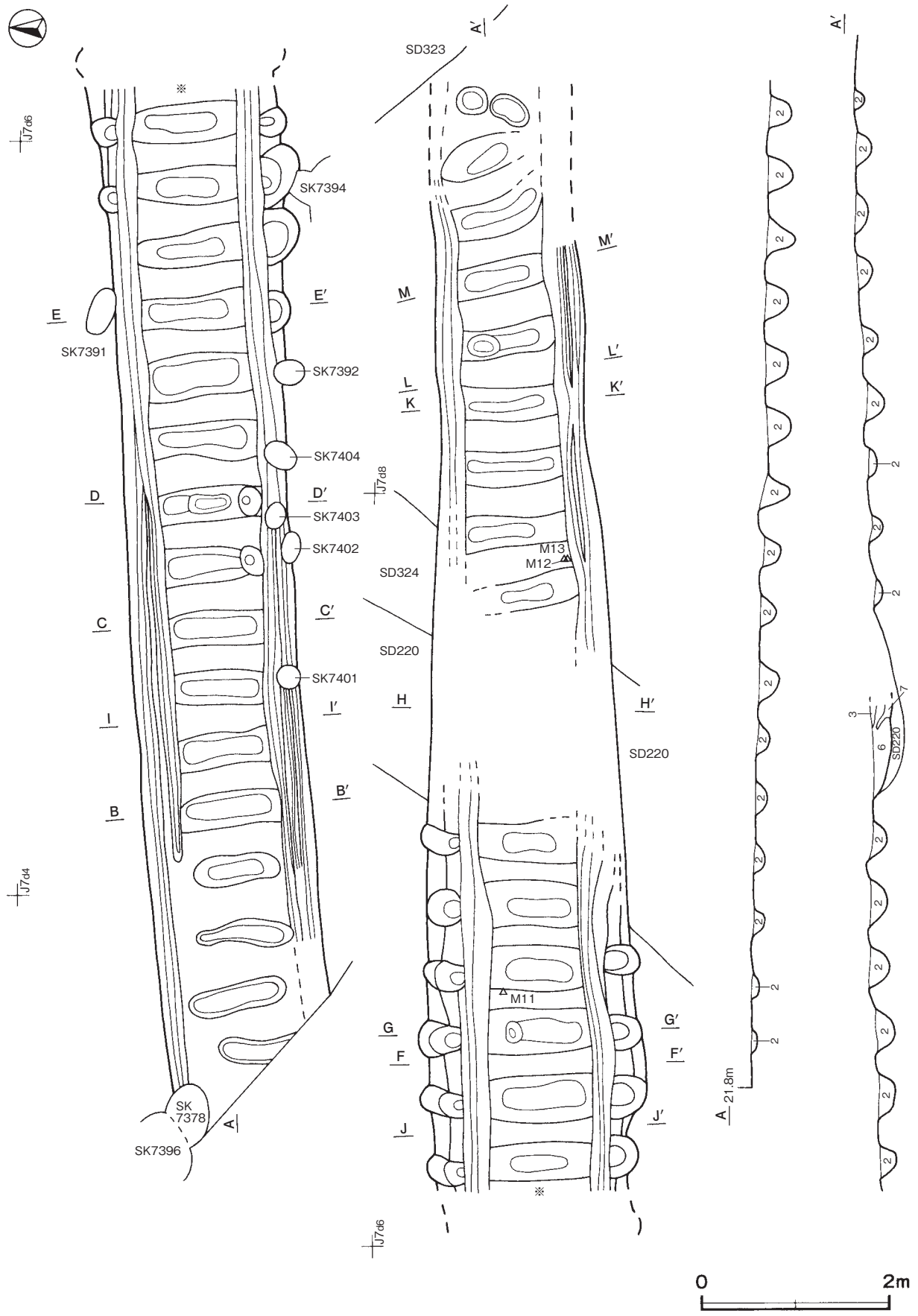
(4) 道路跡

第 31 号道路跡（第 120 ～ 122 図）

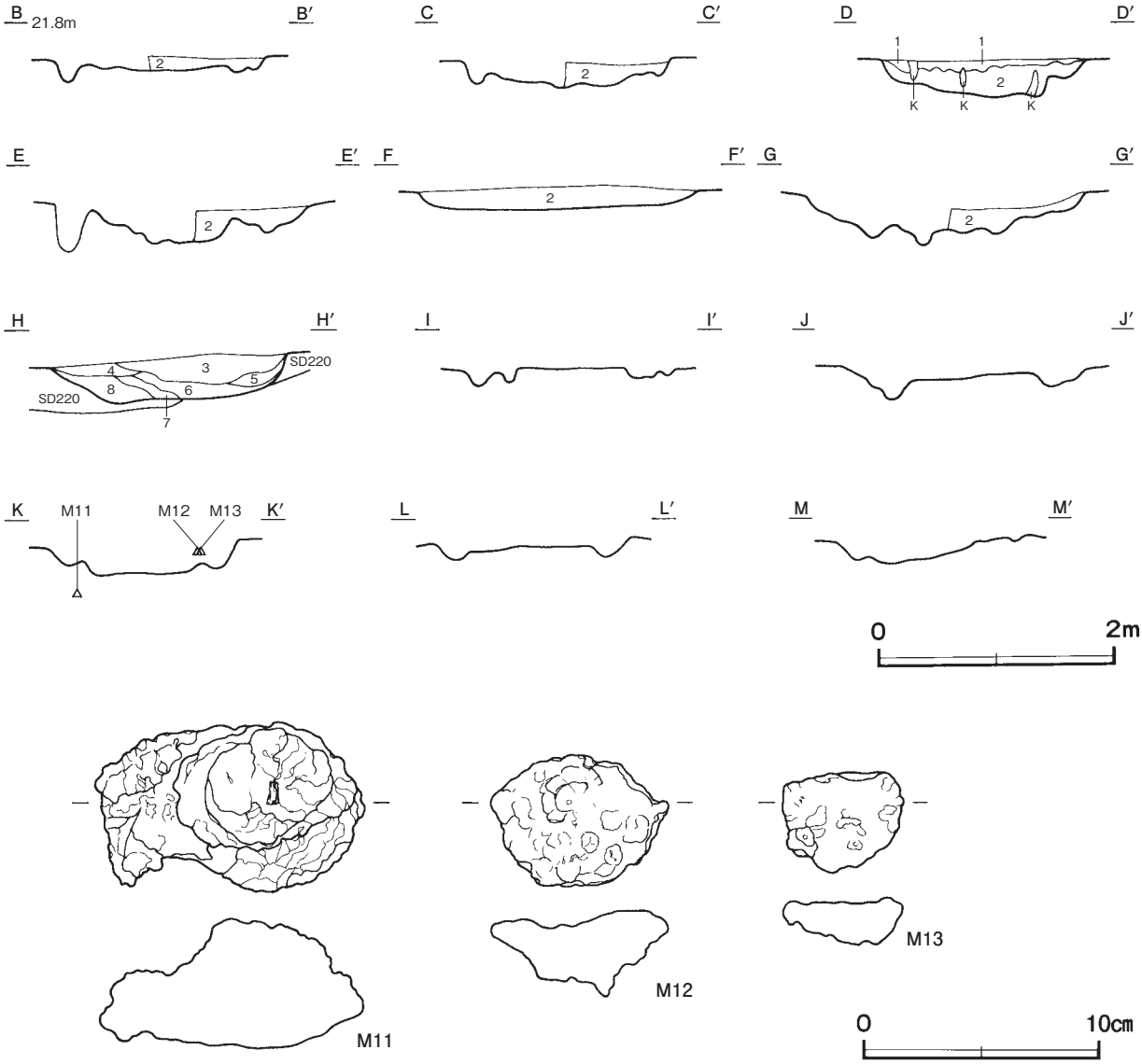
位置　調査区北部のＪ７d3 ～ Ｊ７d9 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。



第 120 図　第 31 号道路跡実測図 (1)



第 121 図　第 31 号道路跡実測図 (2)



第 122 図　第 31 号道路跡・出土遺物実測図

重複関係　第 220・324 号溝跡を掘り込み，第 7378・7391・7392・7394・7401 ～ 7404 号土坑，第 323 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　硬化した路面が，Ｊ７d3 区から東方向（Ｎ－ 86°－Ｅ）に直線状に延び，Ｊ７d9 区まで確認した。確認できた長さは 22.88 ｍで，幅は 1.60 ～ 2.48 ｍである。第 220・324 号溝跡との重複部分を除いて，波板状の凹凸 31 か所を確認した。硬化した面は一面で，第 220 号溝跡と重複する以西の区域が強く踏み固められている。両端部に比べ中央部が 25cmほどくぼむ緩やかなスロープ状をしている。

路面状況　路面には道路の延長方向と直交し，波板状凹凸が交互に連続して配置されている。凸部は地山を掘り残しているのに対して，凹部は確認面で長さ 82 ～ 110cm，幅 25 ～ 49cmの長楕円形の畝状で，掘り込みの間隔は 20 ～ 50cmである。掘方の深さは 10 ～ 38cmで，ロームブロックが含まれる黒褐色または暗褐色土を埋土して，突き固められている。道路の延長方向と平行し，路面の両側で幅 15 ～ 40cm，深さ 18 ～ 35cmで，浅いＵ字形の溝状のくぼみを確認した。西部の北側で２条，南側で３条，中央部から東部にかけての南側で２条となっている。また，中央部やや西寄りの溝状のくぼみの外側で，対を成すように径 23 ～ 60cm，深さ７～ 29cm

のピット状のくぼみ16か所も確認した。第１・２層は掘方への埋土である。第３～８層は第220号溝跡との重複部分に埋め戻し，突き固められた層である。

波板状凹凸土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量（締まりやや強）
2　黒　褐　色　ロームブロック微量（締まり強）
3　黒　褐　色　ロームブロック中量（締まりやや強）
4　暗　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量（締まりやや強）
7　褐　　色　ロームブロック多量（締まりやや強）
8　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師質土器片１点（皿），椀状滓３点が，掘方の埋土上層から底面にかけて出土している。そのほか，土師器片62点（坏７，甕類55），須恵器片38点（坏22，盤１，瓶類１，甕類14）も掘方の埋土中から出土している。M 11は中央部北側の掘方の底面，M 12・13は中央部南側の掘方の埋土中からそれぞれ出土している。土器は細片のため，図示できなかった。

所見　時期は，伴う遺物がないが，重複関係から16世紀前半以降と考えられる。本跡が構築されている箇所は，周囲に比べてややくぼんでいることから，雨水等が溜まりやすく軟弱であったと推測でき，波板状凹凸は，路盤補強のために構築されたものである。路面の両側で確認した溝状のくぼみは，軟弱な路面に残った荷車等の轍痕の可能性がある。轍痕の外側で確認したピット状のくぼみについては，凹部の埋土を突き固める際に組まれた櫓の柱穴の可能性があるが，詳細は不明である。

第31号道路跡出土遺物観察表（第122図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	磁着	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M 11	椀状滓	7.09	11.5	5.52	409.6	やや有	鉄	錆化が顕著で全体に赤褐色　底面が皿状に突出　上面に気孔あり　木質付着	掘方底面	
M 12	椀状滓	5.52	7.59	3.90	153.2	強	鉄	錆化が顕著　下面が円筒状に突出　下面に気孔多い	掘方埋土中	
M 13	椀状滓	4.22	5.09	2.3	67.45	有	鉄	錆化が顕著で褐色を帯びる　上面は平坦　下面は皿状に突出　気孔あり	掘方埋土中	

(5)　溝跡

当調査区から６条を確認した。以下，遺構と遺物の特徴について記述するが，ここでは土層断面図のみを掲載し，平面図は全体図に示す。

第220号溝跡（第123図）

位置　調査区北部のＪ７j9～Ｋ７c1区，標高22ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第268号溝跡を掘り込み，第322・323・324号溝，第31号道路に掘り込まれている。

規模と形状　Ｊ７d7区から北東方向（Ｎ－35°－Ｅ）に直線状に延びている。南西端部が調査区域外へ延びているため，確認できた長さは61.50ｍである。上幅1.04～2.48ｍ，下幅0.20～1.28ｍ，深さ32～59㎝で，溝底は南西端部が最も深く，高低差は27㎝である。断面は浅いＵ字状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　４層に分層できる。土層断面図の第６～９層が相当する。多くの層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

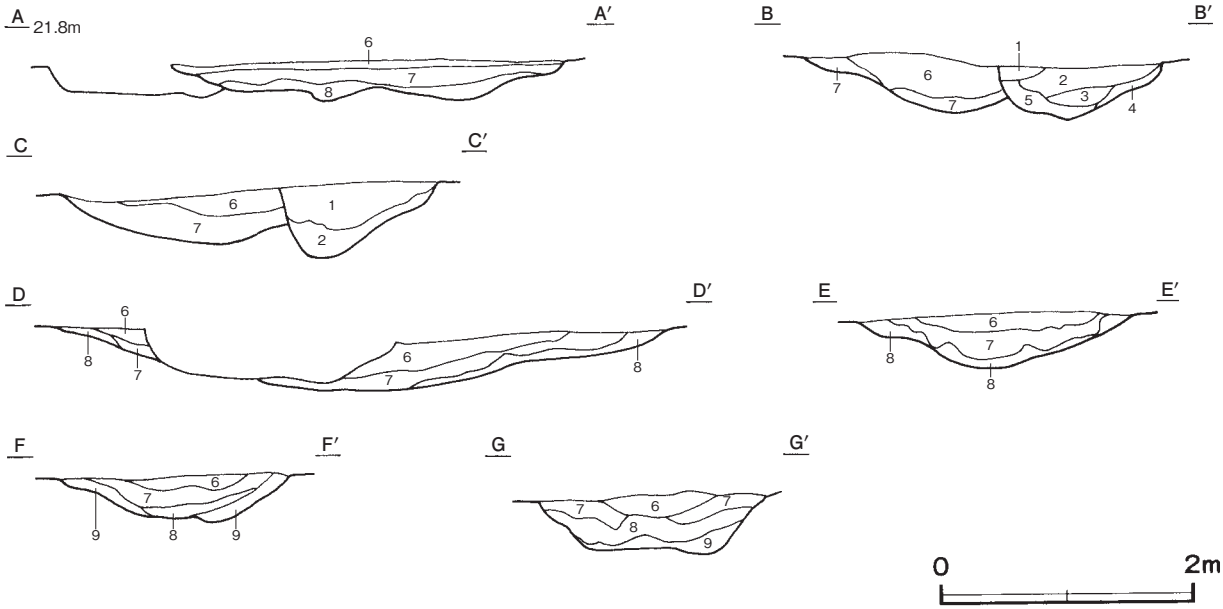
土層解説

6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
7　明　褐　色　ロームブロック多量
8　明　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　陶器片６点（碗３，擂鉢１，急須蓋１，壺１），瓦片３点のほか，土師器片505点（坏128，高台付坏2，高坏3，甕類372），須恵器片64点（坏22，盤１，蓋４，瓶類３，甕類34），粘土塊２点，鉄滓５点（35.2g）が出土している。これらは，覆土中から散在して出土している。土器片及び瓦片は，細片のた

め図示できない。

所見　時期は，重複関係と出土土器から室町時代と考えられる。本跡は，本調査区域の北東側に 115.2 mほど延びていることが『第 360 集』で報告されており，本調査区域と合わせると 177 mほどに達する。溝底が北側の谷に向かって下っており，高低差が 80cmほどあることから，雨水等を谷に排水する機能を有していたと考えられる。



第 123 図　第 220・324 号溝跡実測図

第 324 号溝跡（第 123 図）

位置　調査区中央部のＪ７d7 ～ Ｊ７c8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 220 号溝跡を掘り込み，第 323 号溝，第 31 号道路に掘り込まれている。

規模と形状　Ｊ７d7 区から北東方向（N － 35° － E）に直線状に延びている。北東端部が第 323 号溝に掘り込まれているため，確認できた長さは 5.10 mである。上幅 0.45 ～ 0.65 m，下幅 0.12 ～ 0.18 m，深さ 20 ～ 58cmである。断面は浅いＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層に分層できる。土層断面図の第１～５層に相当する。多くの層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

１	黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	４	褐　　色　ロームブロック中量
２	暗　褐　色　ロームブロック微量	５	褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
３	暗　褐　色　ローム粒子少量		

遺物出土状況　土師器片４点（坏１，甕３），須恵器片１点（坏）が覆土中から出土している。重複関係から，伴う土器とは考えられない。

所見　時期は，重複関係から，第 220 号溝跡が機能を終えてから第 323 号溝が掘られるまでの，15 世紀代から 16 世紀後半の短期間に掘られ，機能していたと考えられる。性格は，北東部が確認できないことから不明である。

第 268 号溝跡（第 124 図）

位置　調査区北部のＪ７a8 ～ Ｊ８d2 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 321 号溝跡を掘り込み，第 220 号溝に掘り込まれている。

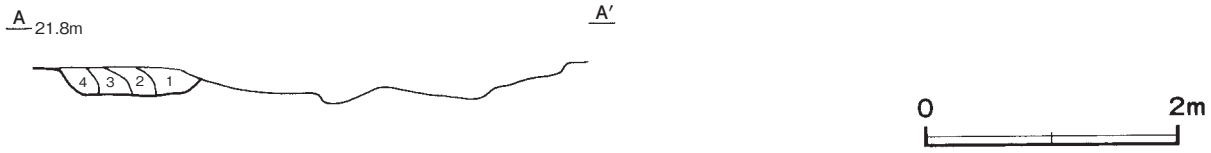
規模と形状　Ｊ８d2 区から北西方向（N － 48° －W）に直線状に延びている。確認できた長さは 18.3 mである。上幅 90 ～ 143㎝，下幅 35 ～ 86㎝で，深さは 20㎝ほどである。断面は逆台形で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　明　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

所見　時期は，重複関係から 15 世紀代と考えられるが，出土土器等がないため詳細は不明である。『第 360 集』では，更に本調査区域の北西側に 85.6 m延びていることが報告されている。本調査区では確認できなかったが，南西側 3.8 mに構築されている第 20 号道路跡の側溝と併走しているため，同時に機能していたことが指摘されている。



第 124 図　第 268 号溝跡実測図

第 321 号溝跡（第 125 図）

位置　調査区北東部のＪ８c1 ～ Ｊ８c0 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2855 号竪穴建物跡を掘り込み，第 89 号方形竪穴遺構，第 268 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　Ｊ８c1 区から東方向（N － 92° － E）に直線状に延びている。東端部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは 36.8 mである。上幅 0.65 ～ 1.26 m，下幅 0.40 ～ 0.73 m，深さ 20 ～ 28㎝で，高低差はほとんどない。断面は逆台形で，壁は緩やかに立ち上がっている。

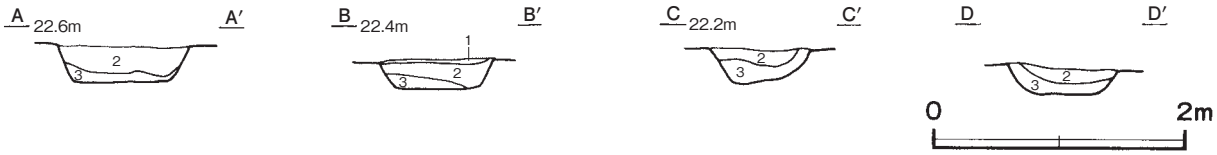
覆土　３層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片 98 点（坏 22，甕類 76），須恵器片４点（瓶類１，甕類３），土製品１点（棗玉）が覆土中から出土している。

所見　時期は，重複関係から 16 世紀代と考えられるが，伴う出土遺物がないため詳細は不明である。東端部が調査区域外へ延びているため詳細は不明だが，本跡の南側には，当時代の墓坑と考えられる土坑群が所在することから，墓域を区画した溝の可能性がある。



第 125 図　第 321 号溝跡実測図

第 322 号溝跡（第 126 図）

位置　調査区南部のＫ６c0 ～Ｋ７a1・Ｋ７a1 ～Ｋ７e8 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2836・2837 号竪穴建物跡，第 220 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｋ６c0 区から北東方向（Ｎ－ 33°－Ｅ）に直線状に延び，Ｋ７a1 区でＬ字状に屈曲して，南東方向（Ｎ－ 61°－Ｗ）のＫ７e8 区まで直線状に延びている。両端部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは 43.8 mである。上幅 0.52 ～ 1.13 m，下幅 0.29 ～ 0.64 m，深さ 23 ～ 35㎝で，溝底は南西端部が最も深い。断面は浅いＵ字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

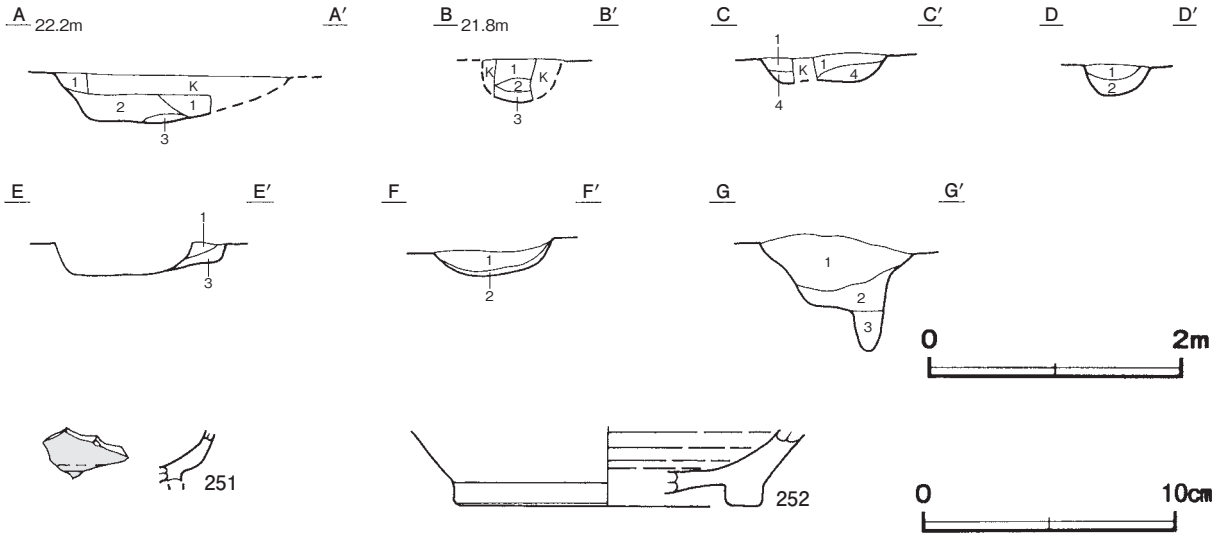
覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　灰釉陶器１点（瓶類），陶器片３点（碗），磁器片２点（白磁碗）のほか，土師器片 144 点（坏 21，甕類 123），須恵器片 26 点（坏 10，長頸壺１，甕類 15），瓦片１点，粘土塊２点が出土している。これらは，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土磁器から 16 世紀代と考えられる。第 220 号溝跡を掘り込んでいるため，第 220 号溝跡が機能を終えてから掘られた区画溝と考えられるが，両端部が調査区域外へ延びているため，詳細は不明である。



第 126 図　第 322 号溝跡・出土遺物実測図

第 322 号溝跡出土遺物観察表（第 126 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
251	白磁	碗	－	(2.0)	－	緻密	灰白	良好	高台削り出し	覆土中	５％　16世紀代 産地不明
252	灰釉陶器	瓶類	－	(3.1)	[12.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形　自然釉	覆土中	５％

第 323 号溝跡（第 127・128 図）

位置　調査区西部のＪ６f5 ～Ｉ７g2・Ｉ７g2 ～Ｊ８f1 区，標高 22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 2841・2842・2845・2847・2849・2850・2853・3173・3175 号竪穴建物跡，第 220・324 号溝跡を掘り込み，第 7405 号土坑に掘り込まれている。

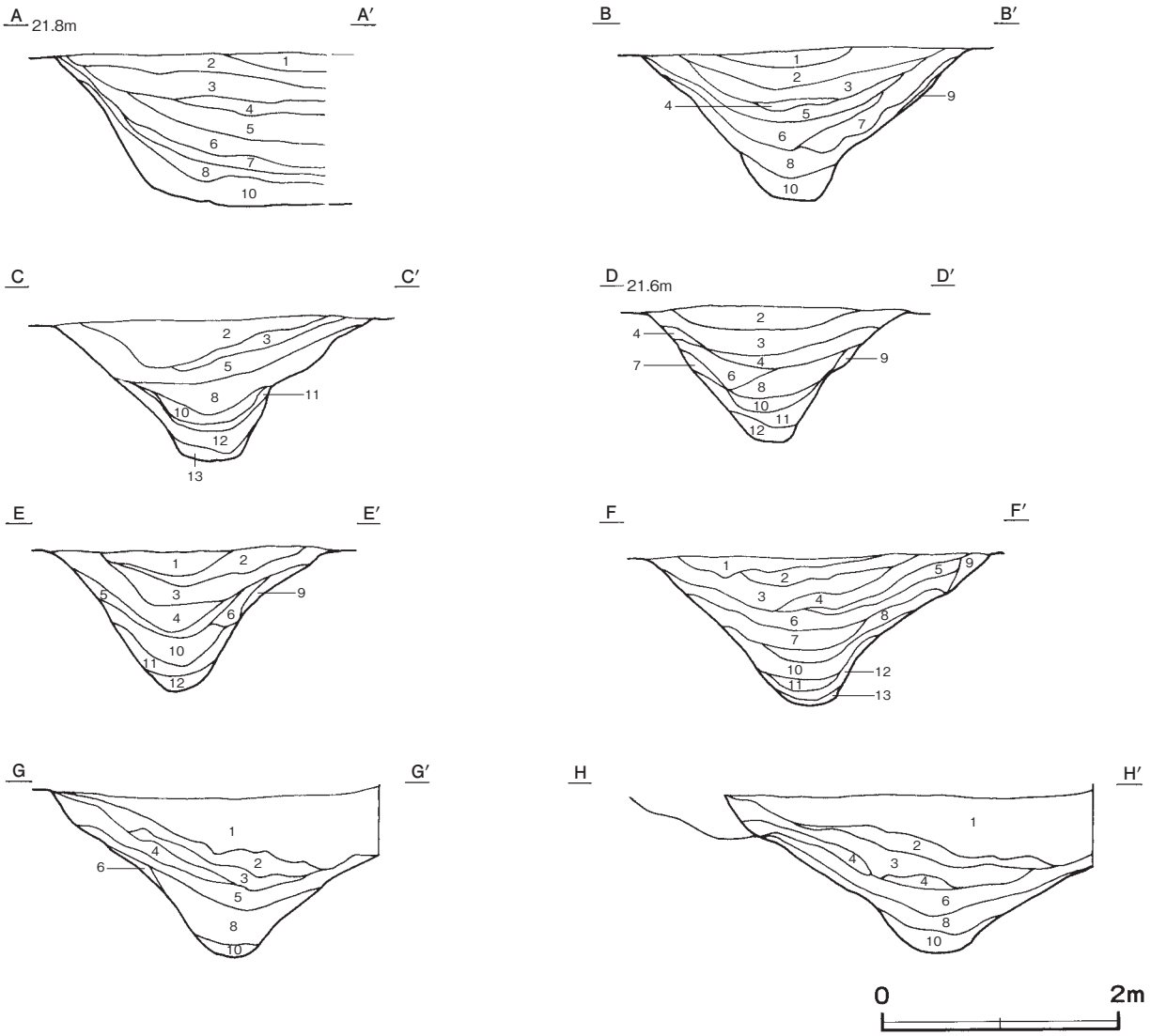
規模と形状　Ｊ６f5 区から北東方向（Ｎ－36°－Ｅ）に直線状に延び，Ｉ７g2 区でＬ字状に屈曲して，南東方向（Ｎ－125°－Ｅ）のＪ８f1 区へ直線状に延びている。南東端部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは 95.0 ｍである。上幅 2.10 ～ 2.82 ｍ，下幅 0.30 ～ 0.48 ｍ，深さ 112 ～ 128cm で，溝底はＬ字状に屈曲する北部付近が最も深い。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　13 層に分層できる。第１～９層は，ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第 10 ～ 13 層は，周囲からの流入による堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
5　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック多量
10　黒　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒　　色　ローム粒子中量
13　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量

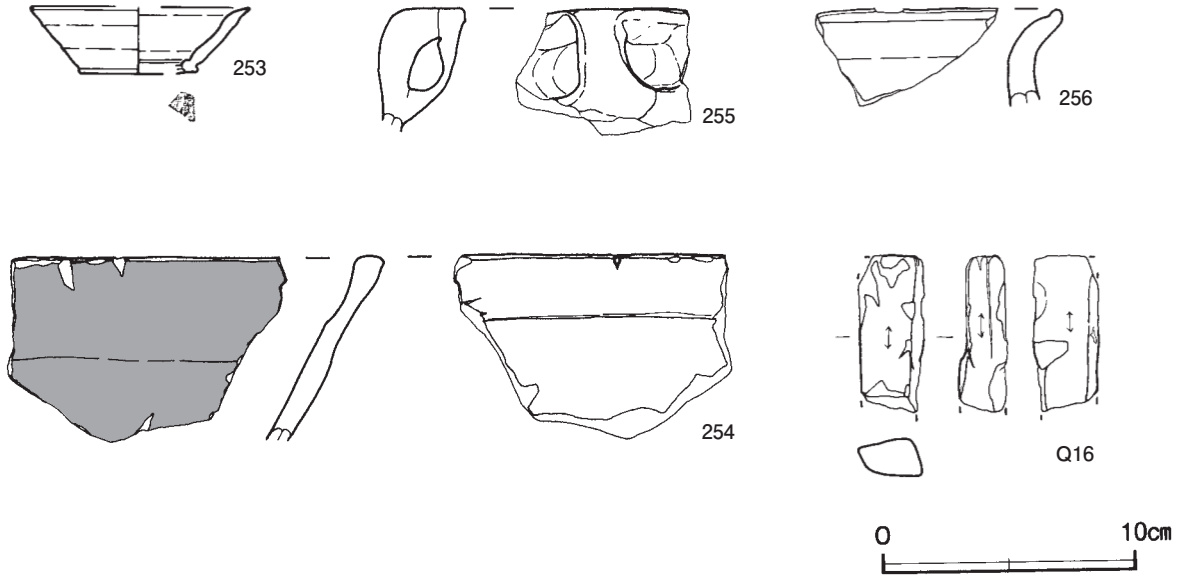
遺物出土状況　土師質土器片６点（小皿２，内耳鍋２，鉢２），陶器片６点（碗１，鉢２，小形壺１，甕１，大甕１）のほか，土師器片 1774 点（坏 369，椀１，高台付坏７，高台付椀５，高坏 11，鉢３，甕類 1372，甑６），須恵器片 83 点（坏 13，蓋４，長頸瓶４，甕類 62），土製品１点（紡錘車），石器１点（砥石），鉄製品４点（釘１，



第 127 図　第 323 号溝跡実測図

釘ヵ１，不明２），鉄滓６点（144.4g），粘土塊２点，自然礫７点が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から16世紀後半と考えられる。本跡は，調査以前の地割に沿って掘られていることから，地境を示す区画溝であったと考えられる。



第128図　第323号溝跡出土遺物実測図

第323号溝跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
253	土師質土器	小皿	[8.8]	2.6	[4.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	5％
254	土師質土器	内耳鍋	－	(7.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中	5％
255	土師質土器	内耳鍋	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面ナデ　外面煤付着　内面耳取り付け後ナデ	覆土中	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
256	陶器	大甕	－	(3.8)	－	長石・石英	にぶい橙	－	にぶい赤褐	常滑	12世紀後半	覆土中	5％ 伝世品ヵ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	砥石	(6.2)	2.6	1.9	(38.6)	凝灰岩	断面不整長方形　砥面３面	覆土中	PL37

表５　室町時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
220	J 7j9～K 7c1	N－35°－E	直線状	(61.5)	1.04～2.48	0.20～1.28	32～59	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片，陶器片，石器，粘土塊，瓦片	SD268→本跡→SD322・323・324，SF31
268	J 7a8～J 8d2	N－48°－W	直線状	(18.3)	0.90～1.43	0.35～0.86	20	逆台形	緩斜	人為		SD321→本跡→SD220
321	J 8c1～J 8c0	N－92°－E	直線状	(36.8)	0.65～1.26	0.40～0.73	20～28	逆台形	緩斜	自然	土師器片，須恵器片，土製品	SI2855→本跡→SH89，SD268
322	K 6c0～K 7e8	N－33°－E N－61°－W	L字状	(43.8)	0.52～1.13	0.29～0.64	23～35	浅いU字状	緩斜	人為	土師器片，須恵器片，陶器片，磁器片，粘土塊，瓦片	SI2836・2837・SD220→本跡
323	J 6f5～I 7j5	N－36°－E N－125°－E	L字状	(95.0)	2.10～2.82	0.30～0.48	112～128	逆台形	外傾	人為 自然	土師器片，須恵器片，土師質土器片，陶器片，磁器，石器，鉄製品，粘土塊	SI2841・2842・2845・2847・2849・2850・2853・3173，3175，SD220・324→本跡
324	J 7d7～J 7c8	N－35°－E	直線状	(5.10)	0.45～0.65	0.12～0.18	20～58	浅いU字状	外傾	人為	土師器片，須恵器片	SD220→本跡 SD323，SF31

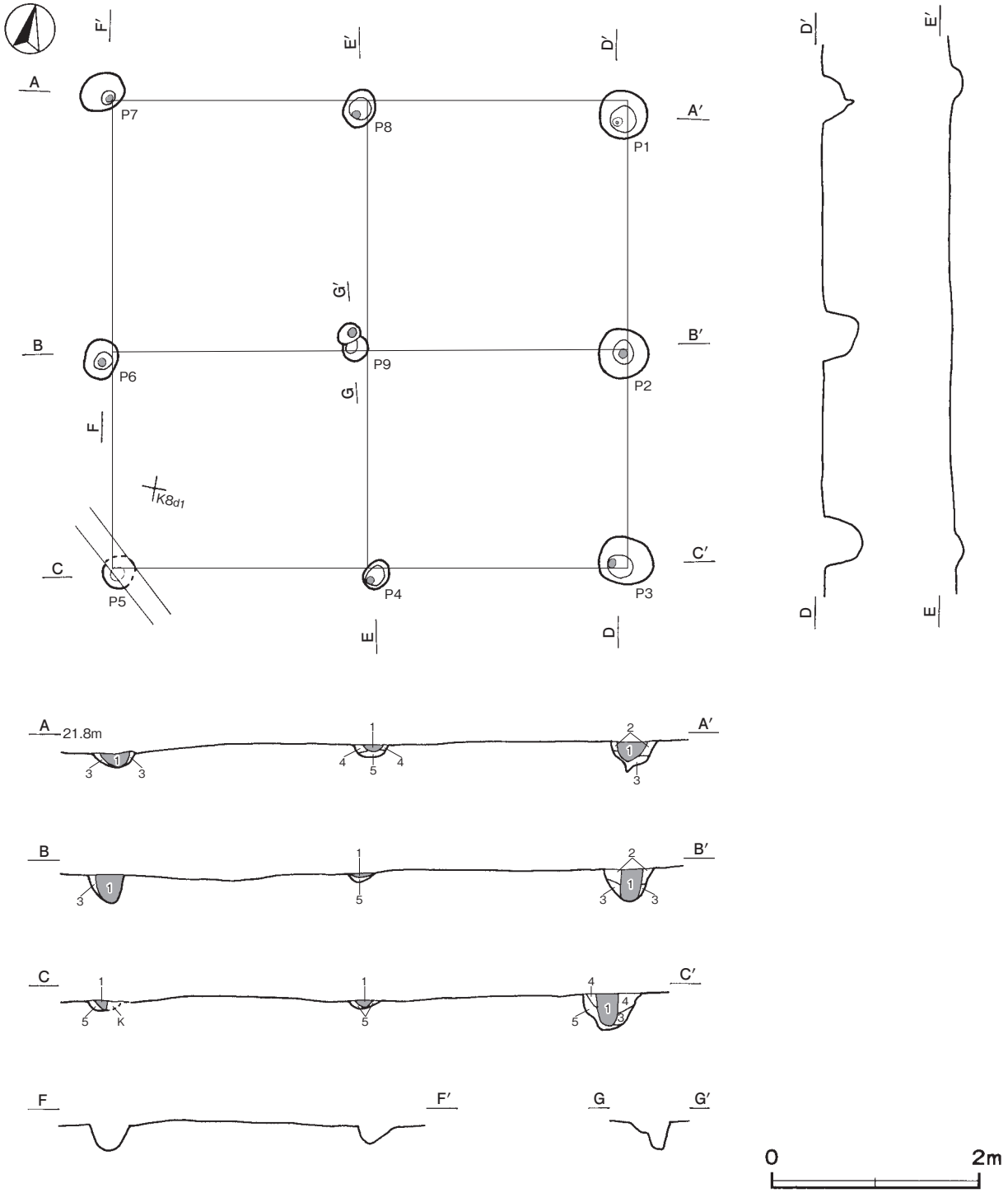
3　その他の遺構と遺物

今回の調査で，伴う遺物が出土していないことから，時期が明らかでない掘立柱建物跡１棟，井戸跡１基，土坑 43 基，ピット群１か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　掘立柱建物跡

第 510 号掘立柱建物跡（第 129 図）

位置　調査区南東部のＫ７c0 ～Ｋ８d2 区，標高 22 mの平坦な台地上に位置している。



第 129 図　第 510 号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行，梁行ともに２間の総柱建物跡で，桁行方向はＮ－79°－Ｅの東西棟である。規模は桁行が4.80 m，梁行が4.50 mで，面積は21.60㎡である。柱間寸法は桁行が2.40 m（８尺）の等間隔で，梁行は北平から2.40 m（８尺）・2.1 m（７尺）に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　９か所。平面形は円形または楕円形で，長径30～52㎝，短径24～46㎝である。深さ６～35㎝で，掘方の断面形はＵ字形である。第１層は柱痕跡，第２～５層は掘方への埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　明　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片８点（甕類）が，覆土中から出土している。

所見　出土土器はいずれも細片のため，図示できない。時期及び性格ともに不明である。

(2)　井戸跡

第223号井戸跡（第130図）

位置　調査区北部のＪ６b9区，標高22 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第2847号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　確認面は径0.85 mほどの円形で，確認面から円筒状に掘り下げている。１mほど掘り下げたが湧水し，崩落の恐れがあることから，下部の調査を断念した。

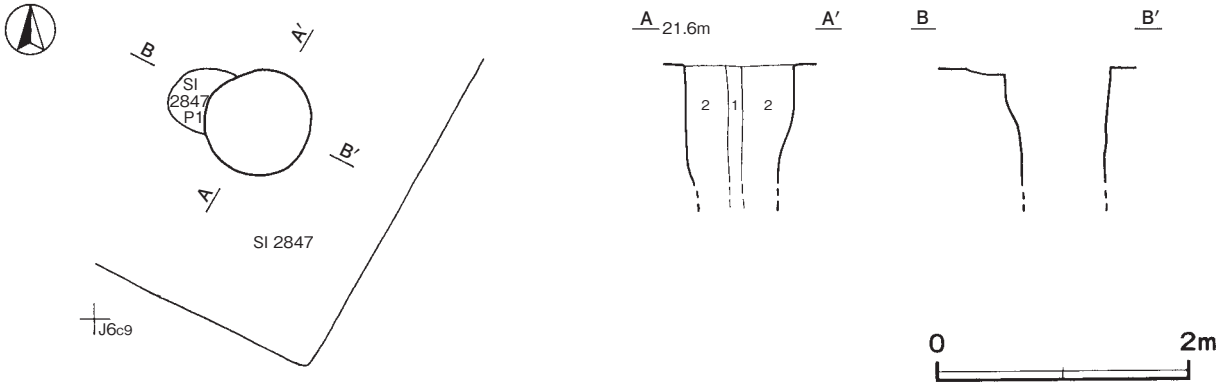
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（碗），瓦片２点が，覆土中から出土している。そのほか，土師器片30点（坏２，甕類28），須恵器片５点（甕類）も覆土中から出土している。

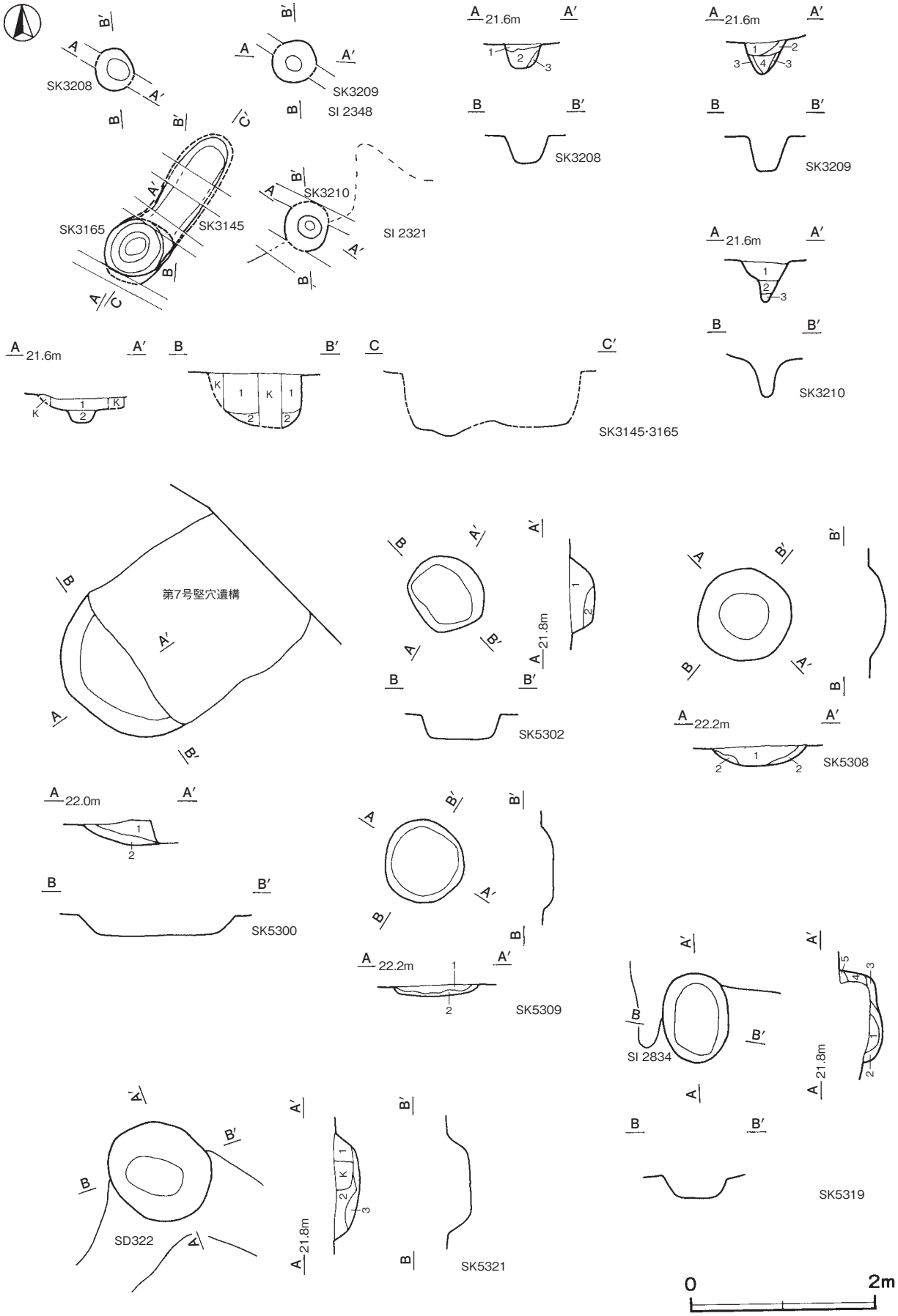
所見　出土土器はいずれも細片のため，図示できない。時期は不明である。



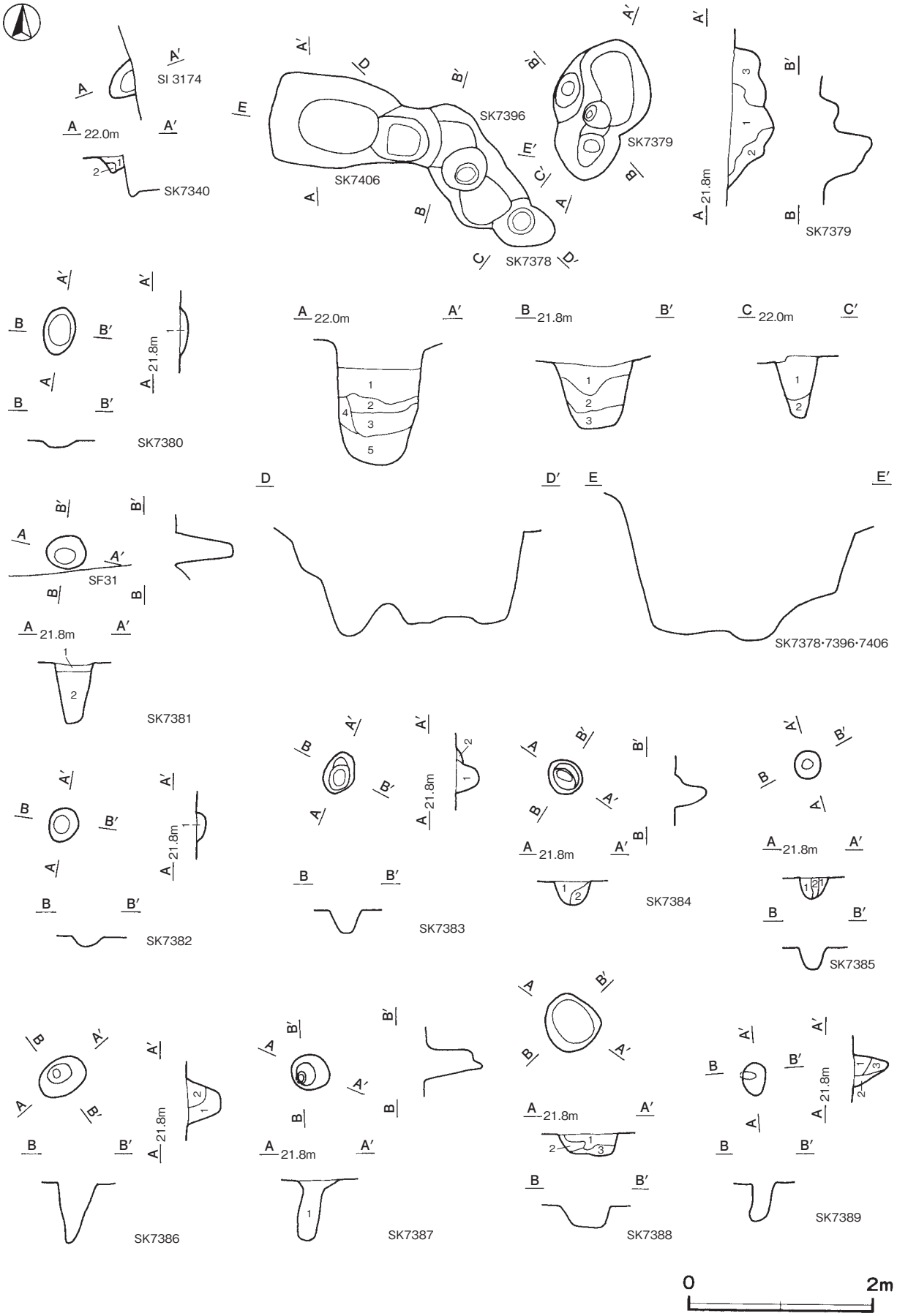
第130図　第223号井戸跡実測図

(3)　土坑

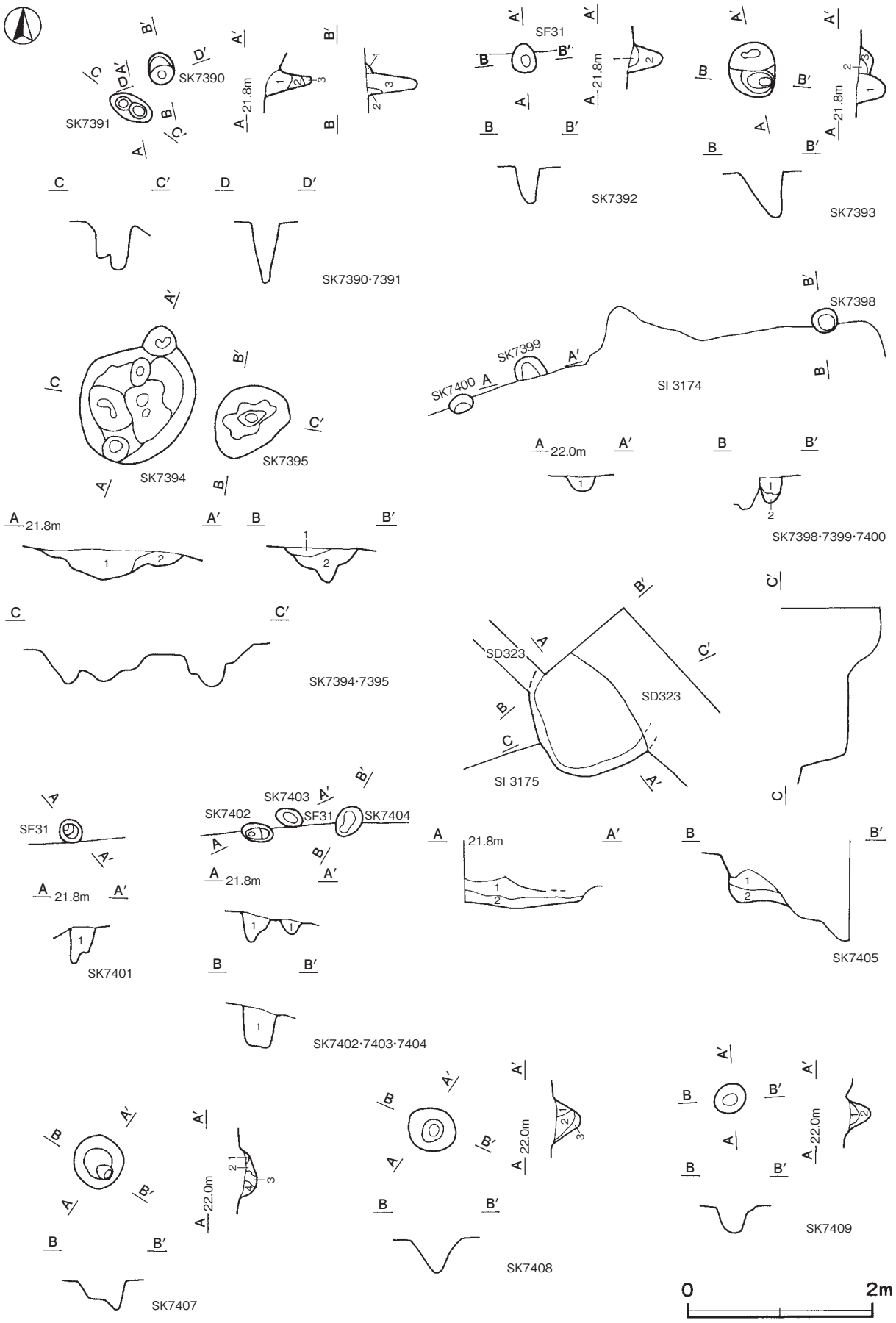
今回の調査で，時期・性格ともに不明の土坑43基を確認した。これらの土坑については，規模・形状等については一覧表で，平面図・土層断面図（第131～133図）・土層解説については遺構順に掲載する。



第 131 図　その他の土坑実測図 (1)



第 132 図　その他の土坑実測図 (2)



第 133 図　その他の土坑実測図 (3)

第 3145 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量

第 3165 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 3208 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 3209 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 3210 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック少量
2　明　褐　色　ロームブロック多量
3　明　褐　色　ローム粒子多量

第 5300 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第 5302 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 5308 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 5309 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 5319 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量

第 5321 号土坑土層解説
1　灰　　褐　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 7340 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック多量

第 7378 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　　色　ロームブロック少量

第 7379 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量

第 7380 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量

第 7381 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 7382 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 7383 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 7384 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 7385 号土坑土層解説
1　明黄褐色　ロームブロック多量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 7386 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　橙　　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 7387 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 7388 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 7389 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 7390 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 7391 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 7392 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 7393 号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

第 7394 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック中量
2　黒　　色　ローム粒子少量

第 7395 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 7396 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック多量
3　黒　　色　ローム粒子微量

第 7398 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黄　褐　色　ロームブロック多量

第 7399 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 7401 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 7402 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 7403 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 7404 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量

第 7405 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量

第 7406 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量
4　黒　　色　ローム粒子中量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量

第 7407 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量

第 7408 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 7409 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量

表６　その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長軸（径）×短軸（径）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
3145	Ｉ8i8	N－35°－E	［楕円形］	(1.94)×(0.50)	60	外傾	平坦	人為	土師器	SI2348→本跡 →SK3165
3165	Ｉ8i8	－	円形	0.60×0.60	65	緩斜	皿状	人為		SI2348→本跡 →SK3145
3208	Ｉ8i9	－	円形	0.40×(0.43)	30	緩斜	平坦	人為		SI2348→本跡
3209	Ｉ8i9	－	円形	0.45×0.46	38	直立	平坦	人為		SI2348→本跡
3210	Ｉ8i8	－	円形	0.50×(0.50)	38	外傾	平坦	人為		SI2348→SI2321 →本跡
5300	Ｊ7h7	N－34°－W	不定形	1.75×(0.77)	24	緩斜	平坦	自然		本跡→第７号竪穴遺構
5302	Ｋ7b3	N－35°－W	楕円形	0.88×0.80	25	外傾	平坦	人為		
5308	Ｊ8c6	－	円形	1.00×1.00	16	緩斜	平坦	自然	土師器	
5309	Ｊ8d7	－	円形	0.88×0.86	12	緩斜	平坦	自然	土師器，須恵器	
5319	Ｊ7j5	N－3°－W	楕円形	0.98×0.72	25	外傾	平坦	自然		SI2834→本跡
5321	Ｋ7a1	－	円形	1.10×1.08	27	緩斜	平坦	人為		SD322→本跡
7340	Ｊ7g8	N－0°	［楕円形］	0.38×(0.30)	18	外傾	平坦	人為		SI3174→本跡
7378	Ｊ7d3	N－46°－W	（楕円形）	(0.55)×0.46	80	外傾	皿状	人為	土師器	SF31→本跡 →SK7396
7379	Ｊ7d3	N－19°－E	不整楕円形	1.52×1.06	54	外傾 直立	皿状	人為	土師器，不明鉄製品	
7380	Ｊ7d4	N－10°－E	楕円形	0.53×0.35	8	緩斜	皿状	自然		
7381	Ｊ7d5	N－75°－W	楕円形	0.43×0.38	65	直立	皿状	人為		
7382	Ｊ7b4	N－11°－E	楕円形	0.37×0.32	13	緩斜	皿状	人為		
7383	Ｊ7b5	N－22°－E	楕円形	0.45×0.33	25	外傾	平坦	人為		
7384	Ｊ7c5	N－45°－W	楕円形	0.40×0.35	38	緩斜	皿状	人為		
7385	Ｊ7c5	－	円形	0.32×0.30	25	外傾	平坦	人為		
7386	Ｊ7d5	N－45°－E	楕円形	0.52×0.40	68	直立	皿状	自然		
7387	Ｊ7d4	N－65°－W	楕円形	0.46×0.40	65	直立	凹凸	人為		
7388	Ｊ7e6	N－55°－W	楕円形	0.62×0.55	25	外傾	平坦	人為		
7389	Ｊ7d5	N－5°－W	楕円形	0.37×0.27	40	直立	平坦	人為		

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長軸（径）×短軸（径）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
7390	J 7d5	N－15°－W	楕円形	0.38 × 0.28	65	直立	皿状	人為		
7391	J 7d5	N－55°－W	楕円形	0.50 × 0.32	40～50	直立	凹凸	自然		SF31 →本跡
7392	J 7d5	N－5°－W	楕円形	0.33 × 0.27	40	外傾	平坦	自然		SF31 →本跡
7393	J 7d6	N－15°－W	楕円形	0.61 × 0.50	52	直立 緩斜	平坦	自然		
7394	J 7d5	N－19°－E	楕円形	1.55 × 1.29	35	緩斜	凹凸	人為	土師器	SF31 →本跡
7395	J 7d6	N－50°－E	楕円形	0.80 × 0.70	42	緩斜	凹凸	人為		
7396	J 7d3	N－32°－W	（楕円形）	（1.30）× 0.78	96	内傾 外傾	皿状	人為	土師器	SK7378 →本跡 → SK7406
7398	J 7f9	N－90°－E	楕円形	0.28 × 0.25	28	外傾	皿状	人為		SI3174 →本跡
7399	J 7f8	［N－25°－W］	［楕円形］	（0.25）× 0.34	18	外傾	平坦	人為		SI3174 →本跡
7400	J 7f8	N－65°－E	楕円形	0.26 × 0.19	不明	［外傾］	［平坦］	不明	土師器	SI3174 →本跡
7401	J 7d4	N－40°－W	楕円形	0.30 × 0.23	30～45	直立	凹凸	人為		SF31 →本跡
7402	J 7d4	N－80°－W	楕円形	0.35 × 0.20	30	直立	凹凸	人為		SF31 →本跡
7403	J 7d5	N－60°－W	楕円形	0.30 × 0.20	15	緩斜	皿状	人為		SF31 →本跡
7404	J 7d5	N－30°－E	楕円形	0.40 × 0.28	45	直立	凹凸	人為		SF31 →本跡
7405	J 7e0	N－17°－W	（楕円形）	（1.30）×（1.02）	50	直立	凹凸	人為	土師器	SI3175，SD323 →本跡
7406	J 7d2	N－77°－W	不整楕円形	1.88 × 1.02	115	外傾	凹凸	人為	土師器	SK7396 →本跡
7407	J 7e8	－	円形	0.56 × 0.53	34	外傾	凹凸	人為		
7408	J 7e9	N－65°－W	楕円形	0.54 × 0.47	35	緩斜	皿状	人為		
7409	J 7d9	－	円形	0.33 × 0.33	27	外傾 緩斜	皿状	人為		

（4） ピット群

今回の調査で確認した，時期不明のピット群１か所については，ピットごとの計測表と平面図を掲載する。

第 73 号ピット群（第 134 図）

位置　調査区中央部の標高 22 m，Ｊ７e9 ～Ｊ７g8 区にかけての東西５m，南北６mの範囲から，柱穴状のピット７か所を確認した。

重複関係　Ｐ５が，第 3174 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 596 号掘立柱建物跡とも重複しているが，新旧関係は不明である。

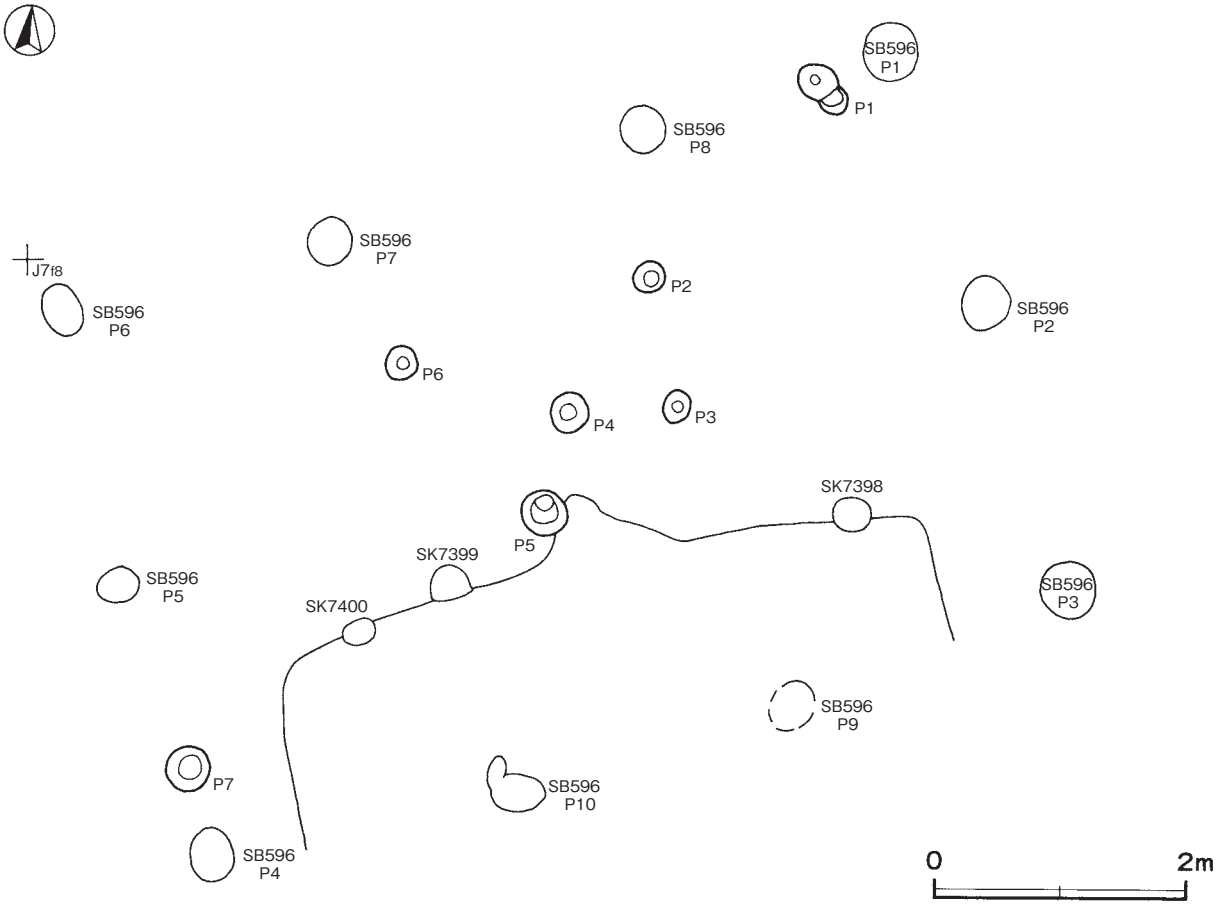
規模　平面形は長径 25 ～ 50cmの円形または楕円形で，深さが 13 ～ 64cmである。

遺物出土状況　土師器片２点（甕類）がＰ６の覆土中から出土しているが，いずれも細片である。

所見　出土土器が細片であるため，図示できない。時期は不明である。また，ピットの配置に規則性が認められず，建物跡を想定することはできない。

表７　第 73 号ピット群計測表

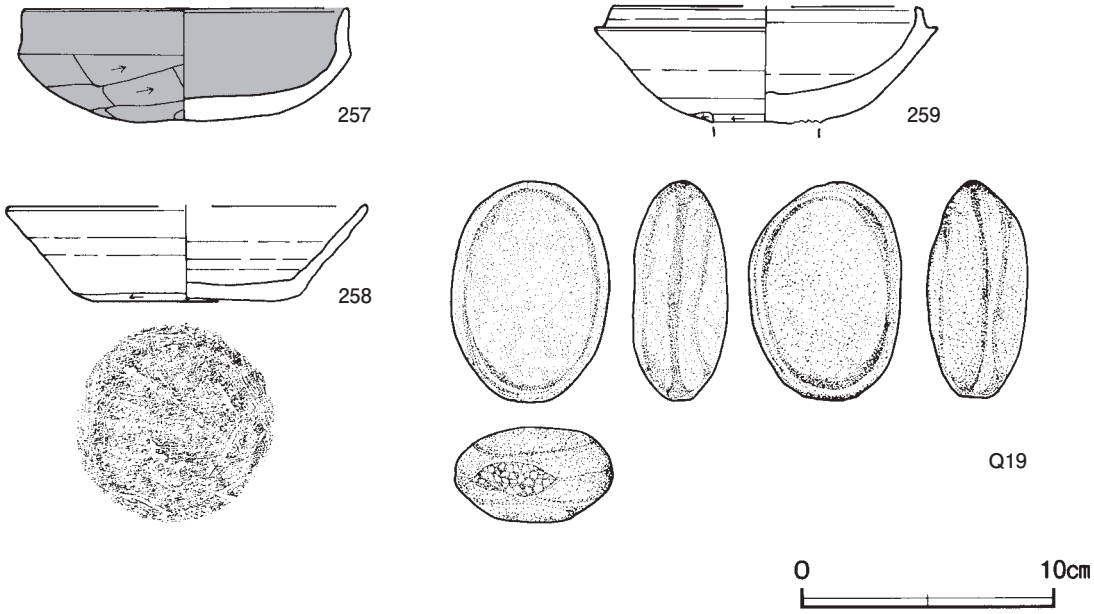
番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	J 7e9	不定形	47	30	64
2	J 7f9	円形	27	25	23
3	J 7f9	楕円形	26	20	13
4	J 7f9	円形	42	41	19
5	J 7f9	楕円形	50	34	45
6	J 7f8	円形	25	25	31
7	J 7g8	円形	35	35	40



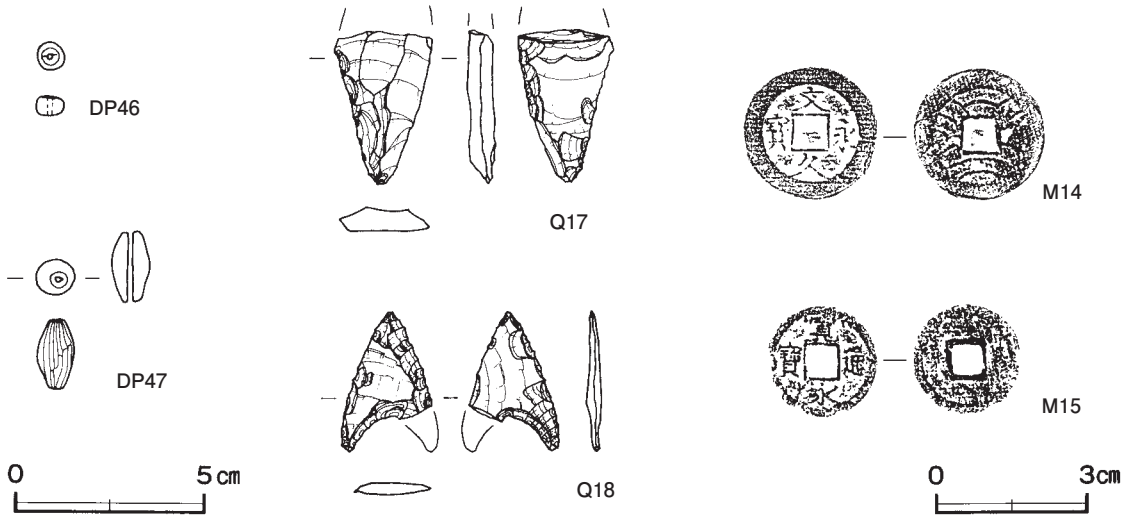
第 134 図　第 73 号ピット群実測図

(5)　遺構外出土遺物（第 135・136 図）

今回の調査で，出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第 135 図　遺構外出土遺物実測図 (1)



第 136 図　遺構外出土遺物実測図 (2)

遺構外出土遺物観察表（第 135・136 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
257	土師器	坏	12.8	4.5	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	SD323	90%
258	須恵器	坏	[14.0]	3.8	8.0	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	UP81	50%
259	須恵器	高坏	[12.1]	(4.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色斑点	橙	不良	口縁部外・内面ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り　脚部剥離	UP81	25%　PL33

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP46	土玉	0.69	0.49	0.12	0.22	長石	ナデ　一方向からの穿孔　外面黒色処理	SD323	PL34
DP47	棗玉	0.99	1.79	0.11	1.57	雲母	ナデ後ヘラ磨き　一方向からの穿孔　外面黒色処理	SD321	PL34

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 17	ナイフ形石器	(3.01)	(1.98)	0.51	(2.81)	頁岩	縦長剥片を素材とし，一側縁に調整を施す　上半部欠損	SI2835	PL37
Q 18	鏃	2.74	(1.77)	0.30	(1.11)	安山岩	両面剥離調整　一部欠損	SD323	PL37
Q 19	磨石	8.7	5.2	3.7	303.8	安山岩	全面研磨痕　側面下部に敲打痕	SI2844	PL37

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M14	銭貨	2.63	0.61	0.10	(2.68)	銅	文久永寳　初鋳 1863 年　裏面に波形文様	SI2837	PL38
M15	銭貨	2.77	0.57	0.14	(2.00)	銅	寛永通寳　初鋳 1636 年	表土	PL38

第４節　ま　　と　　め

1　はじめに

島名熊の山遺跡は，「つくばエクスプレス」沿線の土地区画整理事業に伴い，当財団が平成７年度から調査を実施し，これまでに『第 120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328・360・380 集』の 15 冊の報告書を刊行している[1)]。今回の報告分までの総調査面積は，241,533㎡である。これまでに確認した主な遺構は，竪穴建物跡 2,387 棟，掘立柱建物跡 382 棟，古墳２基，方形竪穴遺構 94 基，地下式坑 72 基，堀跡・溝跡 325 条，道路跡 28 条，井戸跡 196 基，大形竪穴遺構８基，火葬施設 35 基，墓坑 77 基，水田跡２か所，遺物包含層４か所などである。内容としては，古墳時代（４世紀）から平安時代（11 世紀）にかけての集落跡が中心であり，律令期の「河内郡嶋名郷」との関連が指摘されている[2)]。また，中世以降も堀や溝による区画や墓域，水田跡などが確認されており，長期間にわたる土地利用の状況が明らかにされた。

今回報告する調査区域は，平成 17・25 年度調査分の 15 区で，本遺跡の中央部から西部にかけての標高約 21 ～ 22 ｍの平坦な台地上に立地している。確認した遺構は，竪穴建物跡 39 棟，掘立柱建物跡２棟，竪穴遺構３基，方形竪穴遺構１基，地下式坑１基，井戸跡１基，土坑 55 基，道路跡１条，溝跡６条，ピット群１か所である。竪穴建物跡については，竈のみを確認した第 2852 号竪穴建物跡を除いた 38 棟すべてが，古墳時代後期に属するものである。

本節では，まず，今回報告分の調査成果を概観するとともに，主に竪穴建物跡 38 棟から出土している須恵器について，若干の考察を加えてまとめとしたい。なお，時期区分については，これまでの成果との整合性を保つため，『第 190 集』[3)] で示されている土器の変遷に基づいて，第４期＝６世紀中葉，第５期＝６世紀後葉，第６期＝７世紀前葉，第７期＝７世紀中葉，第８期＝７世紀後葉とする。また，竪穴建物跡の規模については，『第 291 集』[4)] で示されているように，一辺の長さ４ｍ未満＝小形，４ｍ以上６ｍ未満＝中形，６ｍ以上８ｍ未満＝大形，８ｍ以上＝超大形とする。

2　各時代の様相

⑴　古墳時代

当時代の遺構は，標高 21 ～ 22 ｍの平坦な台地上に竪穴建物跡 39 棟，掘立柱建物跡１棟，竪穴遺構３基を確認している。遺構の配置状況を概観してみると，調査区域の中央部に集落の広場として利用されていた可能性が考えられる空白地帯が存在し，この空間を取り巻くように竪穴建物跡が配置されている。前述の区分に従い，各期の竪穴建物跡の様相及び変遷について述べたい。第 2852 号竪穴建物跡については，周囲の竪穴建物跡の配置状況から古墳時代としたが，詳細が不明であるため，ここでは除外した。

第４期

当期では，竪穴建物跡１棟（第 2838 号竪穴建物跡）が該当する。今回の調査区域の中では最も古い竪穴建物跡である。規模は大形で，北東部の中央寄りに位置している。当期の竪穴建物跡は 15 区全体では，北部で５棟確認されているだけである。須恵器の出土は細片のみであるが，多量の土師器のほか，土製勾玉や土玉，鉄製の鉸具等が出土していることから，有力者の存在が想定できる。

第５期

第 137 図　島名熊の山遺跡遺構全体図

当期では，竪穴建物跡21棟（第2320・2348・2830・2831・2835・2837・2839～2841・2845～2847・2850・2851・2853・2856・2858・3173～3176号竪穴建物跡）が該当する。今回の調査区域中では，最も棟数が多い時期であり，これまでの当遺跡の考察でも明らかにされているように，集落全体の規模が急激に拡大する時期と合致している。規模別の棟数は，中形が13棟，大形が4棟，超大形が4棟である。主軸方向は，第2348号竪穴建物跡1棟だけは真北を向くが，N－2°～67°－Wの西に振れる一群とN－5°～56°－Eの東に振れる一群とに大別できる。超大形である第2840・2850・2851・2858号竪穴建物跡を中心とした単位集団が想定できる。須恵器の出土数は11点（坏1，高坏2，平瓶1，提瓶1，横瓶2，長頸瓶1，甕3）である。特に第2835号竪穴建物跡は，出土数が4点と，最も多くなっている。土製勾玉や土玉，紐状の粘土を折り返して接着している出土例の少ない土製品も出土している。祭祀行為をうかがわせる遺物である。また，須恵器の提瓶を模倣したとみられる土師器の壺も出土している。当時は希少であった，須恵器への憧憬の念の表れと見られる。第2846号竪穴建物跡では，竈内・外から多数の土玉や土製管玉が出土しており，廃絶に際して竈祭祀が行われたと考えられる。

第6期

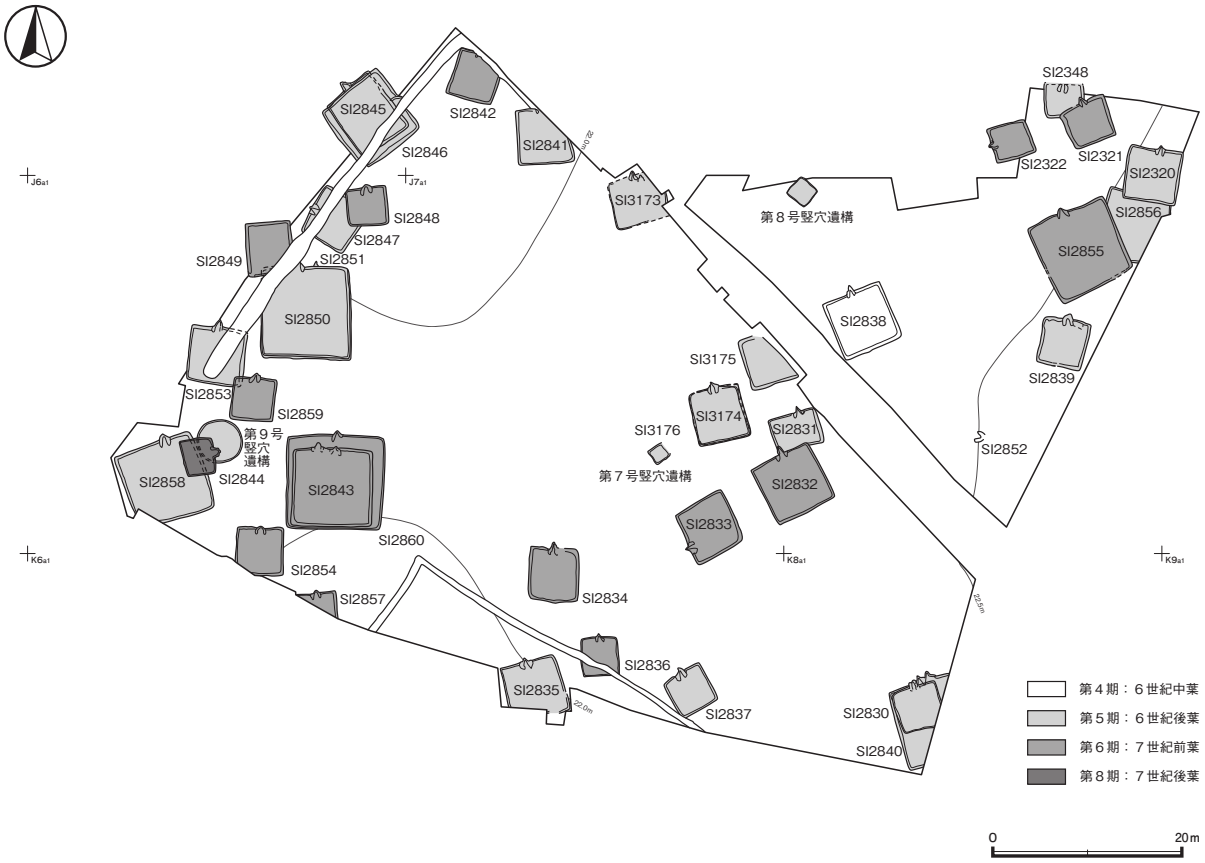
当期では，竪穴建物跡15棟（第2321・2322・2832～2834・2836・2842・2843・2848・2849・2854・2855・2857・2859・2860号竪穴建物跡）が該当する。第5期に次いで棟数の多い時期である。規模別の棟数は，小形が1棟，中形が10棟，大形が1棟，超大形が3棟である。第2322・2833号竪穴建物跡の2棟は主軸方向が，N－105～115°－Wの西竈であるほかは，N－30°－W～N－12°－Eと，第5期よりも振れ幅は小さく，真北に近づく傾向が見て取れる。配置状況に第5期からの目立った変化はなく，大形または超大形である第2832・2843・2855・2860号竪穴建物跡を中心とした，単位集団が存在したと見られる。須恵器の出土は11点（高坏1，蓋4，提瓶1，瓶類2，短頸壺1，甕2）である。第5～6期にかけては，大形または超大形の竪穴建物が多く建てられ，主柱穴も6か所または8か所と，広い床面積の建物の屋根を支えるのに相当する柱が必要であったことをうかがわせる。

第7期に相当する竪穴建物跡は，確認できなかった。

第8期

当期では，竪穴建物跡1棟（第2844号竪穴建物跡）が該当する。今回の調査区域中では1棟のみで，南西部に位置する。15区全体で見ても，同時期の竪穴建物跡は西部で2棟確認されているだけである。規模は小形で，主軸方向はN－85°－Eと，ほぼ東向きである。須恵器の出土は細片のみである。

以上，今回の調査区域の古墳時代の様相について述べてきた。当遺跡全体に目を移してみると，第1期である古墳時代前期の4世紀代に，東側を流れる谷田川から入り込んだ東部や北東部の谷津周辺に，小さな集落が形成され始める。第2期の5世紀代から第3期の6世紀前葉までは，集落の規模が停滞する。今回の調査区域では，第4期に相当する竪穴建物跡は，わずか1棟のみである。集落の端に位置していたと捉えても，少な過ぎる。当遺跡全体で見てみると，第4期の竪穴建物跡は，中央部から北部にかけて存在しており，複数の小集団を形成しているように見受けられる。第4期の集落の範囲は，第3期に比べると拡大しているが，さほどではない。第5・6期になると，今回の調査区域の合計で36棟を数え，飛躍的に増加している。当遺跡全体を見ても，第139・140図から同様の傾向を示している。規模が大形または超大形の竪穴建物が現れ，希少な須恵器の出土も見られるようになる。有力者層を中心とした複数の単位集団が台地上に居を構えていた状況が確認されている。今回の調査区域には第7期の竪穴建物跡は所在せず，第8期の竪穴建物跡も1棟しか所在していない。当遺跡全体でも，竪穴建物跡の総数は減少して集落



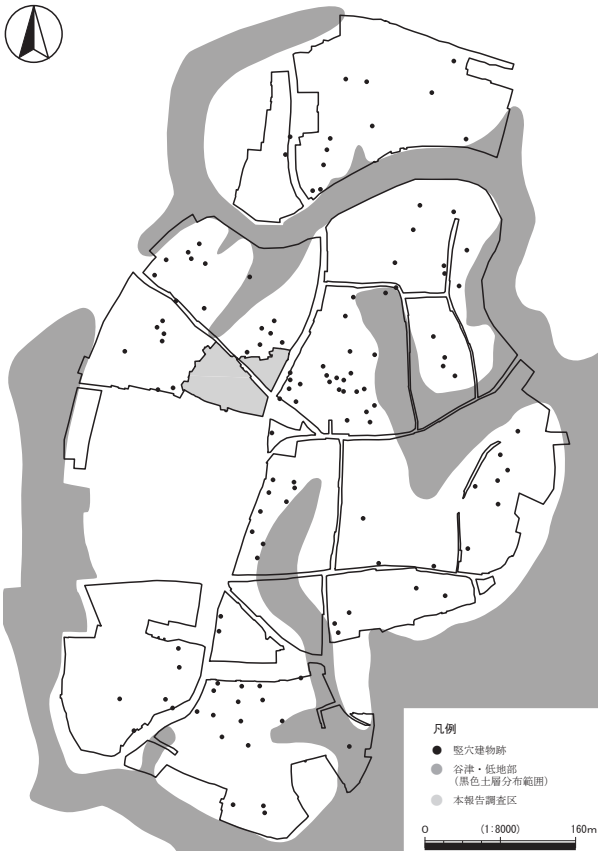
第 138 図　時期別竪穴建物跡及び竪穴遺構変遷図

第３期：６世紀前葉　　第４期：６世紀中葉

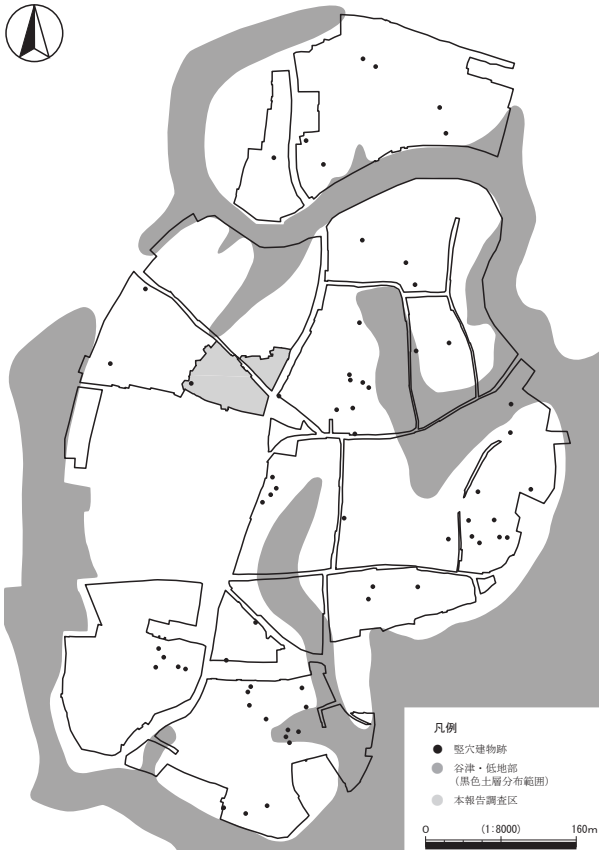
第 139 図　島名熊の山遺跡時期別遺構分布図　第３・４期

第５期：６世紀後葉

第６期：７世紀前葉

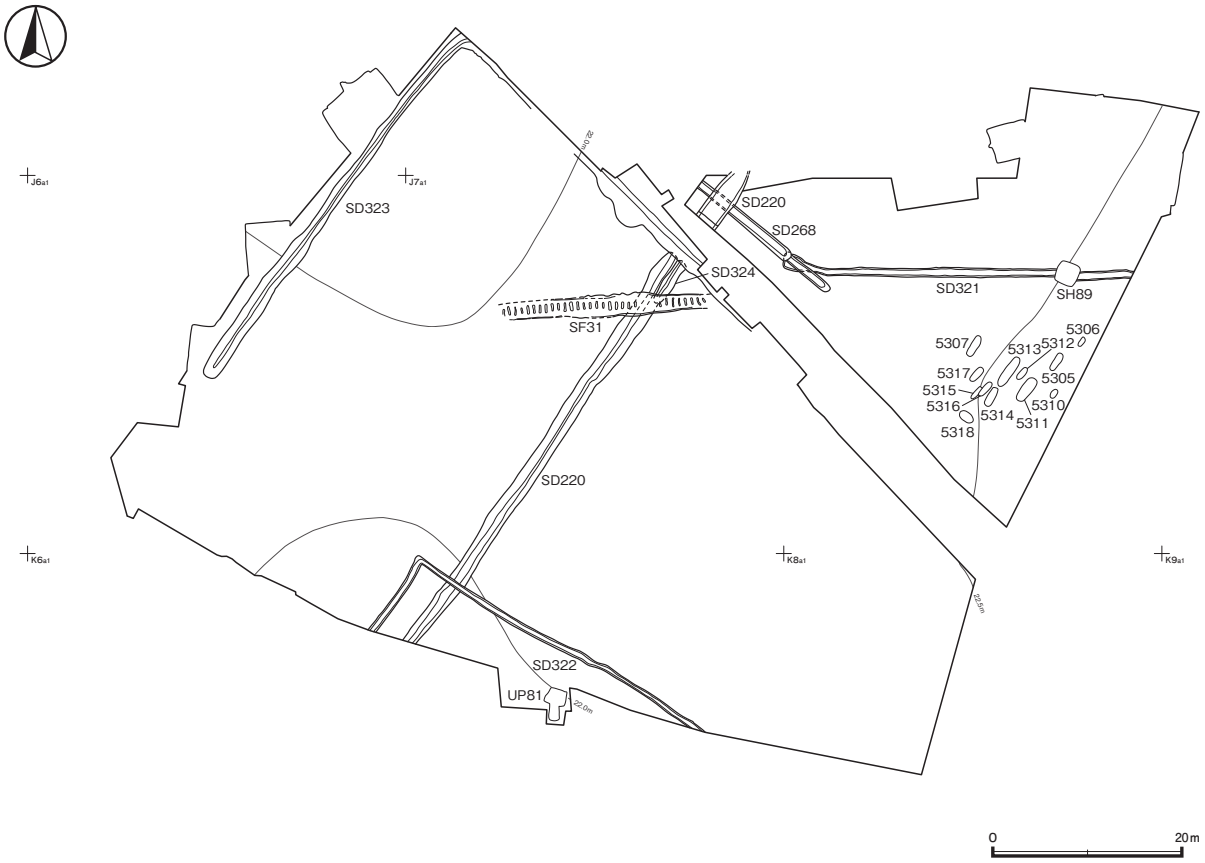


第７期：７世紀中葉



第８期：７世紀後葉

第 140 図　島名熊の山遺跡時期別遺構分布図　第５～８期



第 141 図　室町時代遺構分布図

は縮小傾向にあり，本調査区域と同様の傾向が見て取れる。まさに，この時期は中央の律令制導入前夜に当たる。国家の統制による集落の再編が行われる以前の過渡期と捉えることができよう。

(2)　室町時代

当時代の遺構は，方形竪穴遺構 1 基，地下式坑 1 基，土坑 12 基，道路跡 1 条，溝跡 6 条を確認している。これらの遺構の配置状況を概観してみると，第 220 号溝跡が，本調査区域の中央部を北東から南西方向に直線状に掘られていることが目を引く。時期は 15 世紀代に属すると見られ，本調査区域では，最も古い時期の溝跡である。この溝跡の南東側に，当時代の遺構が集中して所在する様子が見て取れる。第 220 号溝跡は，本調査区域の北東側に更に 115 mほど延びていることが『第 360 集』[5] で報告されており，本調査区域と合わせると 177 mほどに達し，両端部の高低差も 80cmほどあることから，北部の低い谷津に向けて雨水等を排水していた可能性がある。本調査区域の北東部には，第 89 号方形竪穴遺構が所在しており，床面からは北宋銭（天聖元寶）が出土している。その南側には，長楕円形で軸線が揃う土坑 12 基（SK5305 ～ 5307・5310 ～ 5318）がまとまって所在している。これらの土坑は墓坑と見られ，第 89 号方形竪穴遺構も含めて墓域を形成していたと考えられる。本調査区域の南部では，第 81 号地下式坑を確認した。『第 360 集』[6] では，本調査区域の西側で，東西に 20 mほどの等間隔で配置されている地下式坑３基が報告されているが，第 81 号地下式坑は，それらの東側の延長線上に位置している。竪坑の北側に主室を持つことも共通している。それらと同時期に機能していた一連の遺構と考えられる。

また，本調査区域の中央部で第 31 号道路跡を確認した。波板状の凹凸を伴うもので，東西方向に直線

状に 23 mほど続いている。東側及び西側に延びている痕跡は認められない。中央部は両端部と比較して，25cmほど低く，両端に車輪の轍と見られる痕跡も確認できることから，くぼみや軟弱地盤を補強した跡と考えられる。

3　古墳時代の須恵器

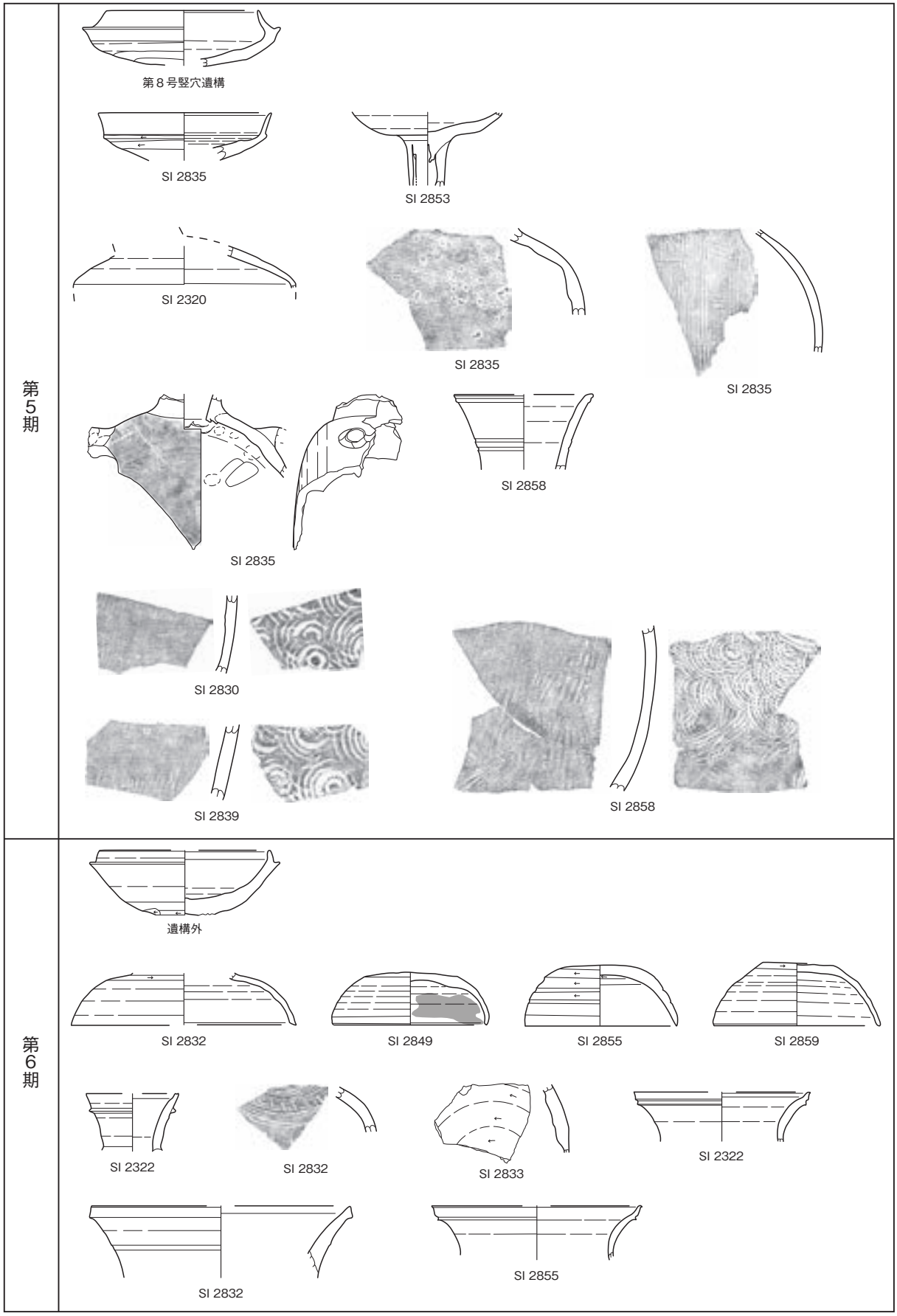
本調査区域で確認した古墳時代の竪穴建物跡 39 棟中，38 棟は古墳時代後期に属するものであることは前述のとおりである。これらの竪穴建物跡，第８号竪穴遺構及び遺構外から，須恵器 22 点が出土している。これらの須恵器は，当遺跡周辺で，古墳時代後期に須恵器が焼かれていたことを示す窯跡が見つかっていないことから，大半は他地域で焼かれ，当地にもたらされた可能性が高いと考えられる。和泉国の陶邑窯跡群や尾張国の猿投窯跡群等の操業開始が５世紀代であることから，製品である須恵器は，畿内や東海地方から，交易の品としてこの地に流通してきたものと考えられる。

当遺跡の，古墳時代の竪穴建物跡を中心とする遺構から出土した須恵器の総数は 146 点で，多量に出土している土師器に比較すると圧倒的に少ない。須恵器の生産は，土師器のそれよりも高い技術や設備等を要し，伝播の遅れる関東地方では，希少価値が高く，十分に供給できるだけの数量が流通していなかったものと推測できる。当遺跡周辺では，集落内で須恵器が出土するようになるのは５世紀半ば以降であり，これらは畿内や東海地方からの搬入品である。当遺跡で須恵器が出土するようになるのは，第４期の６世紀中葉からであり，点数も２点と非常に少ない。第５期の６世紀後葉になると点数は 40 点と大幅に増加し，第６期の７世紀前葉になると 54 点とピークに達する。集落の規模も拡大しており，人的にも物的にも動きが大変活発になっていた時期と考えられる。第７から８期にかけては須恵器の出土点数が減少していく。集落の規模についても同様な傾向をたどっている。

この様な視点で今回の調査区域を見てみると，第５期は 11 点（坏１，高坏２，平瓶１，提瓶１，横瓶２，長頸瓶１，甕３）で，第６期も 11 点（高坏１，蓋４，瓶類２，提瓶１，短頸壺１，甕２）と，第５・６期が最も多く，第４・８期の出土はない。本遺跡で出土している器種としては，坏，高坏（有蓋・無蓋），壺類（短頸壺・長頸壺），瓶類（平瓶・提瓶・横瓶・フラスコ瓶），甕等である。いずれも実用的な日常什器とは性格を異にし，専ら祭祀・供献具として重んじられたものと考えられる。出土総数も少なく，一点一点が希少であり，容易には入手できず，有力者の手中にあったものが殆どであったものと考えられる。今回の調査区域も含めた 15 区全体に視野を広げてみてみると，第 142 図に示したように，須恵器が出土している古墳時代後期の竪穴建物跡等は全体の 17％に過ぎない。遺構の分布をみると，分散していることがわかる。須恵器を保有できる少数の有力者層を中心とした，数棟を単位とするいくつかの集団が存在していたと考えることができるのではないだろうか。

古墳時代の須恵器は，新治窯をはじめとする，常陸国内の須恵器窯が操業を始めた８世紀代に入って大量に流通する須恵器とは一線を画するものである。つまり，他地域産の須恵器が搬入されたということである。これらの須恵器の産地の詳細については，個々の遺物の胎土分析や，より広範囲な地域の資料の類推や比較検討が必要になるが，今回の須恵器の中には，胎土の特徴から東海地方産と見られるものが含まれている。また，筑波山麓で産する雲母を含むものも数点見られることから，在地産のものも存在すると思われる。今後，常陸国内はもとより河内郡内において，古墳時代の須恵器の窯跡が見つかることが期待される。

『新編常陸国誌』[7)] で，嶋名とは字のごとく島のような様相を呈していたとあり，谷田川から入り込んだ谷津が台地を取り囲んでいる。つまり，当遺跡は谷田川の水運に恵まれた地でもあったと考えられる。谷田



第 142 図　出土須恵器実測図

表８　古墳時代の須恵器時期別出土数一覧表

（　）内は全ての確認数

	第４期	第５期	第６期	第７期	第８期	時期不明（古墳時代）	合　計
	６Ｃ中	６Ｃ後	７Ｃ前	７Ｃ中	７Ｃ後		
これまでの遺跡全体	平瓶１，瓶１	坏２，高坏１，蓋４，平瓶２，提瓶５，横瓶１，フラスコ瓶２，瓶７，短頸壺３，瓶類１，甕１	坏６，椀１，高坏２，蓋５，脚付壺１，平瓶４，提瓶６，横瓶１，瓶３，短頸壺１，壺類５，瓶類５，甕３	坏７，蓋７，特殊扁壺２，平瓶２，提瓶１，フラスコ瓶11，瓶２，壺類１	坏３，蓋３，提瓶１，フラスコ瓶２，瓶２，こね鉢１，壺類１，甕１	高坏２，壺類１	坏18，椀１，高坏５，蓋19，脚付壺１，特殊扁壺２，平瓶９提瓶13，横瓶２，フラスコ瓶15，瓶15，短頸壺４，壺類８，瓶類６，こね鉢１，甕５
	計２（66棟）	計29（267棟）	計43（284棟）	計33（115棟）	計14（64棟）	計３（２棟）	計124（798棟）
今回報告分		坏１，高坏２，平瓶１，提瓶１，横瓶２，長頸瓶１，甕３	坏１，高坏１，蓋３，提瓶１，短頸壺１，瓶類２，甕２				坏２，高坏３，蓋３，平瓶１，提瓶２，横瓶２，短頸壺１，長頸瓶１，瓶類２，甕５
	計０（１棟）	計11（21棟）	計11（15棟）	計０（０棟）	計０（１棟）	計０（１棟）	計22（39棟）
合　計	２（67棟）	40（288棟）	54（299棟）	33（115棟）	14（65棟）	３（３棟）	146（837棟）

川は，牛久沼・小貝川を介して利根川にも通じており，他地域産の須恵器の流通経路を河川交通に求めることも出来るであろう。

４　おわりに

島名熊の山遺跡は，集落が形成され，飛躍的に拡大していくのは古墳時代である。今回の調査区域では，古墳時代後期の集落跡が中心であり，正に当遺跡の集落が一挙に拡大していく時期である。その要因としては，今回の調査区域が標高21～22ｍの平坦な台地上に位置しているという，恵まれた立地条件があげられる。更には，谷田川から樹枝状に入り込んだ谷津による水運に恵まれていたことも，集落拡大の後押しをしたことは言うまでもない。律令制の導入によって国家の中央集権体制に組み込まれていく前の，在地の有力者層を中心とした，大規模な集落に発展していったことが，これまでの調査・報告によって検証されてきたが，それらを補完するものとなった。

今回の調査区域の竪穴建物跡を中心に出土した須恵器をもとに，若干の考察を加えたが，他地域産の須恵器が少量ではあるが，流入していることがわかっている。これらの須恵器について，保有者の詳細や生産地の特定までは言及することが出来なかった。中には，他地域産とはいえ，胎土等から近隣の窯で焼かれた可能性のある須恵器が混在していることもわかった。窯跡が見つかり，生産地と消費地との関係や流通経路等が解明できれば，広域にわたる人的・物的な動きという流通の面から，本遺跡を捉えることにつながっていくと考えられる。

註

１）ａ　新井聡外「（仮称）島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集　1997年３月

ｂ　小島敏外「（仮称）島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集　1998年３月

ｃ　吉原作平･原信田正夫「（仮称）島名･福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集　1999年３月

ｄ　矢ノ倉正男・小林孝・川上直登「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　熊の山遺跡」

第 143 図　15 区における古墳時代後期の須恵器出土遺構分布図

『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集　2000年３月

e　藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直登・稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ　熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集　2001年３月

f　稲田義弘「熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集　2002年３月

g　稲田義弘・飯泉達司「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第214集　2004年３月

h　松本直人「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第236集　2005年３月

i　田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集　2006年３月

j　酒井雄一・渡邉浩実・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第280集　2007年３月

k　齋藤真弥・酒井雄一・渡邉浩実・松本直人・齋藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第291集　2008年３月

l　早川麗司「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第322集　2009年３月

m　小澤重雄「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第328集　2010年３月

n　仲村浩一郎・坂本勝彦・江原美奈子「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVIII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第360集　2012年３月

o　清水哲「島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIX」『茨城県教育財団調査報告』第380集　2013年３月

２）池邊彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館　1981年２月

３）註１ｆに同じ

４）註１ｋに同じ

５）註１ｎに同じ

６）註１ｎに同じ

７）中山信名『新編常陸国誌』崙書房（復刻版）　1978年12月

参考文献

・中村浩『須恵器集成図録　第１巻　近畿編Ⅰ』雄山閣　1995年５月

・齋藤孝正・後藤建一『須恵器集成図録　第３巻　東日本編Ⅰ』雄山閣　1995年８月

・中村浩『古墳時代須恵器の編年的研究』柏書房　1993年７月

・贄元洋『須恵器生産の出現から消滅　補遺・論考編』東海土器研究会　2001年11月

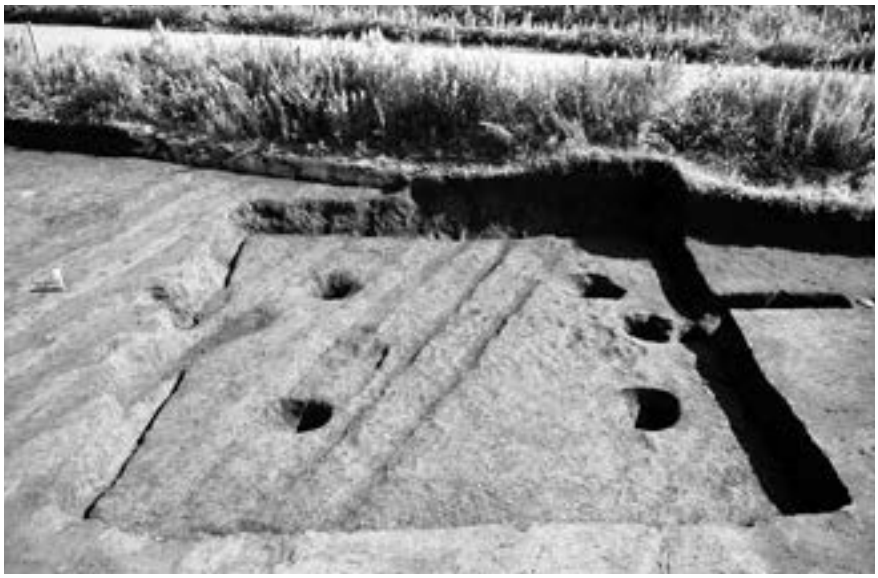
写　真　図　版

竪穴建物跡出土土師器

調査区域北部全景

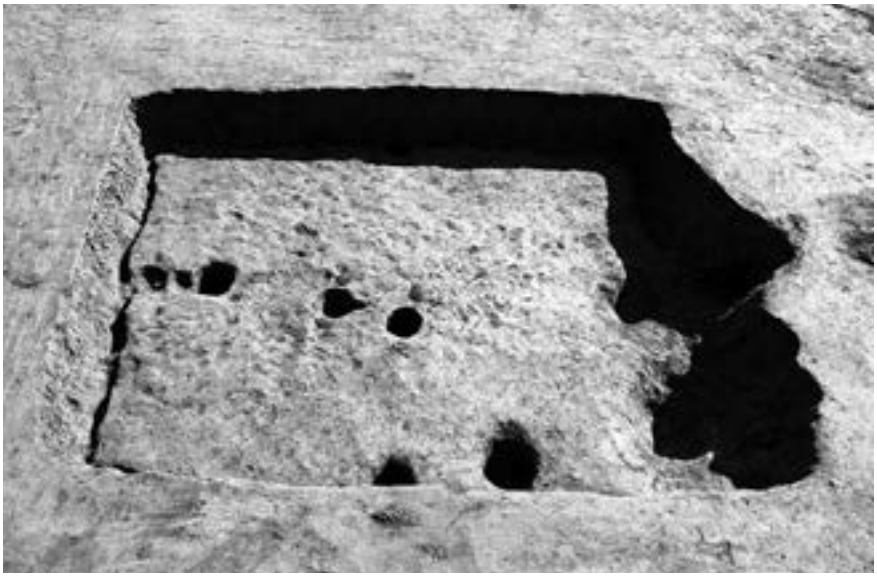
調査区域南部全景

第2320号竪穴建物跡
竈遺物出土状況



第2320号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2321号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第2322号竪穴建物跡
完　掘　状　況

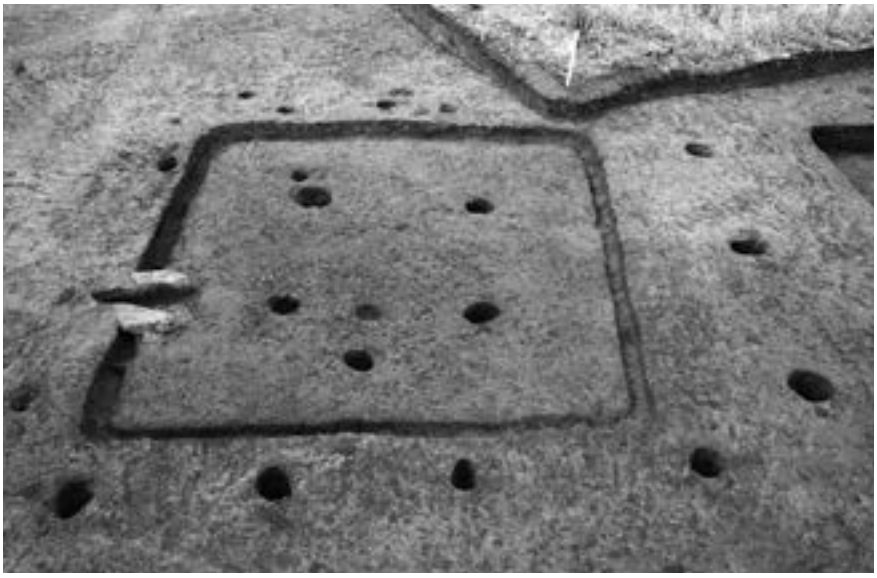
第2322号竪穴建物跡
竈　完　掘　状　況

第2831号竪穴建物跡
遺　物　出　土　状　況

第2831号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2832号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

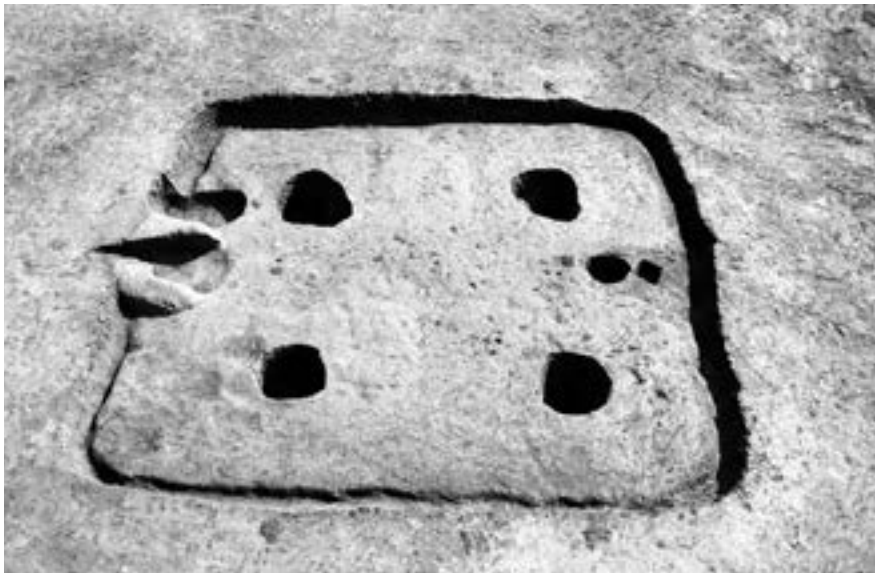
第2832号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第2833号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2833号竪穴建物跡
竈　完　掘　状　況

第2834号竪穴建物跡
遺　物　出　土　状　況



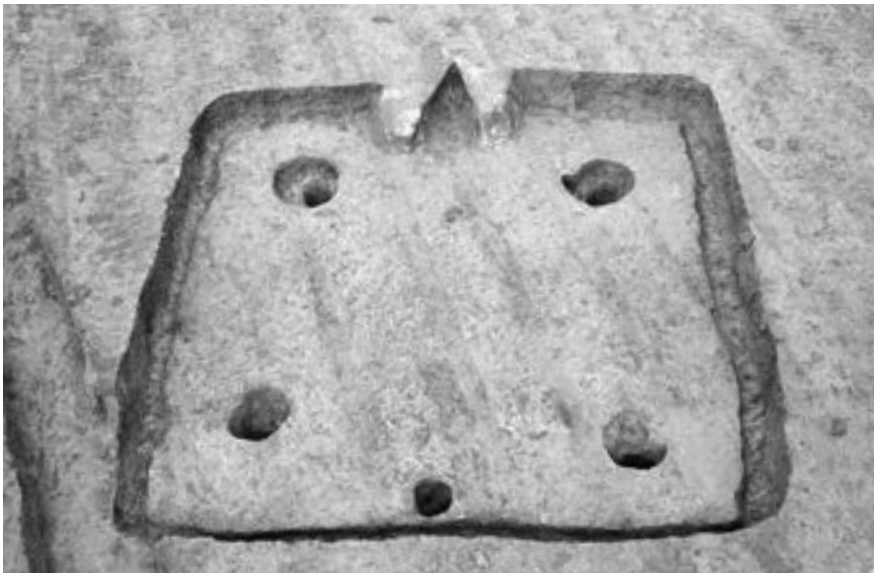
第2834号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2835号竪穴建物跡
遺物出土状況

第2835号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第2835号竪穴建物跡
完　掘　状　況

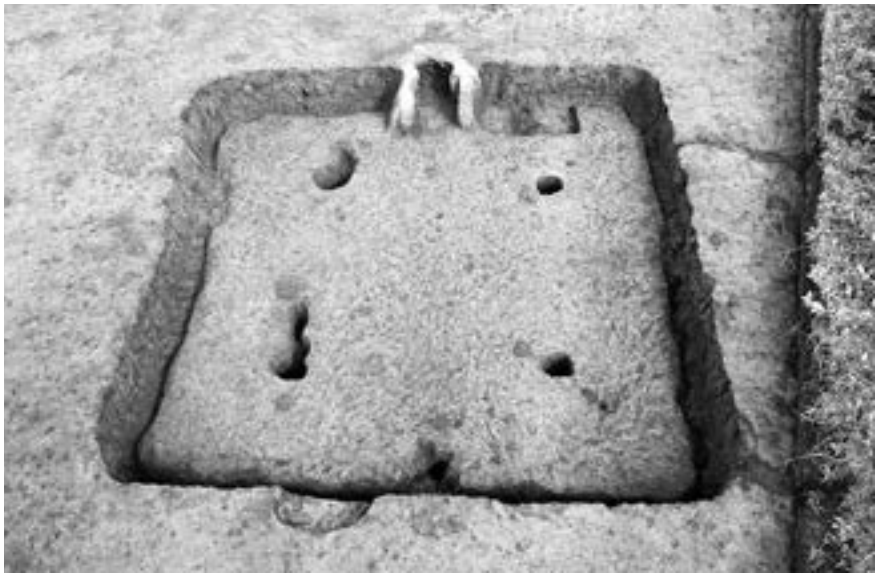
第2836号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第2837号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2838号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

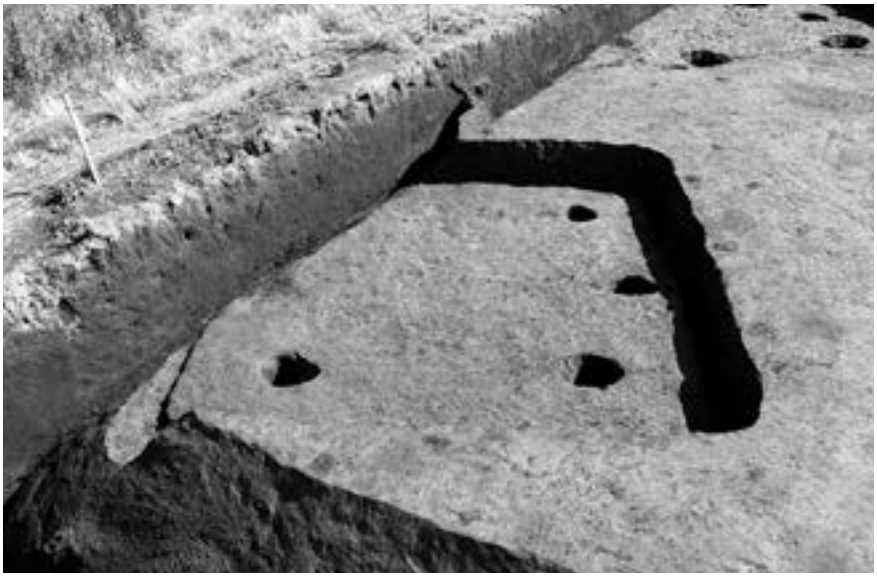
第2838号竪穴建物跡
完 掘 状 況



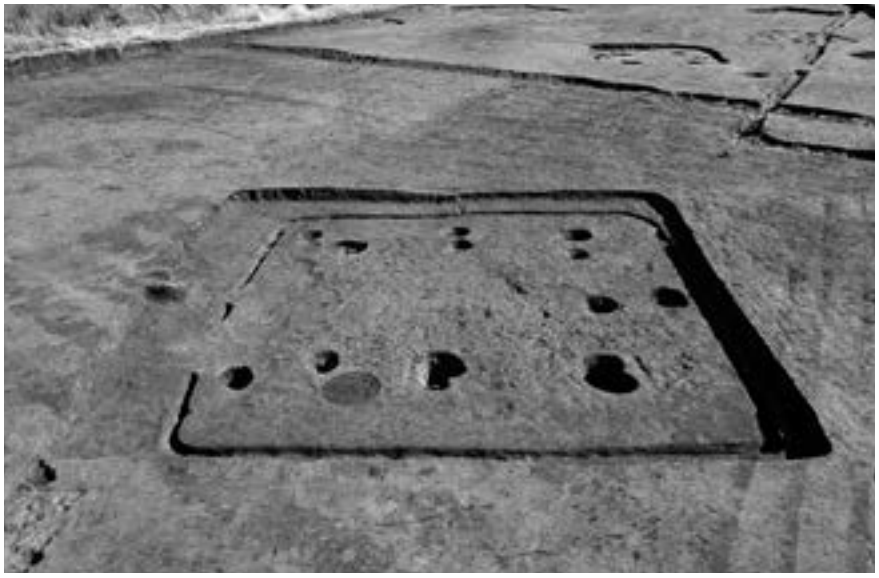
第2839号竪穴建物跡
完 掘 状 況

第2840号竪穴建物跡
完　掘　状　況

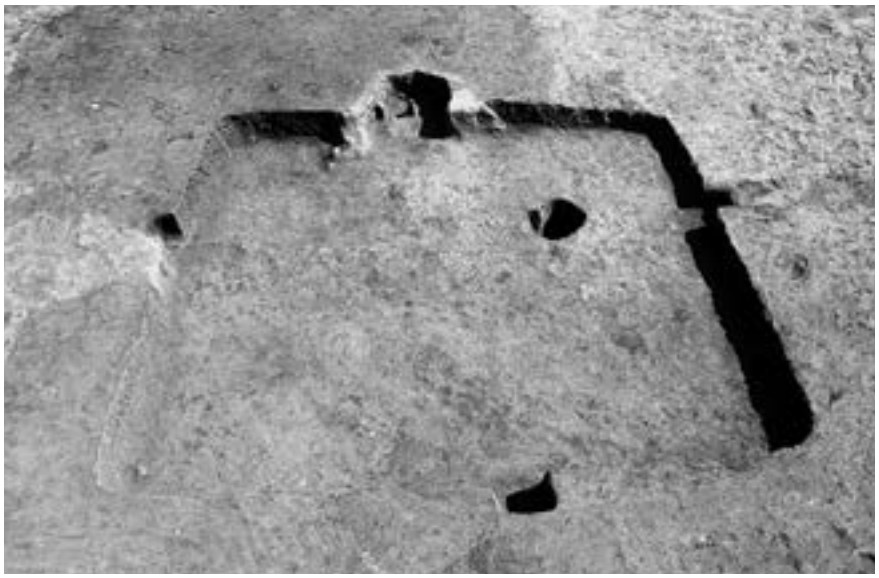
第2841号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第2842号竪穴建物跡
完　掘　状　況



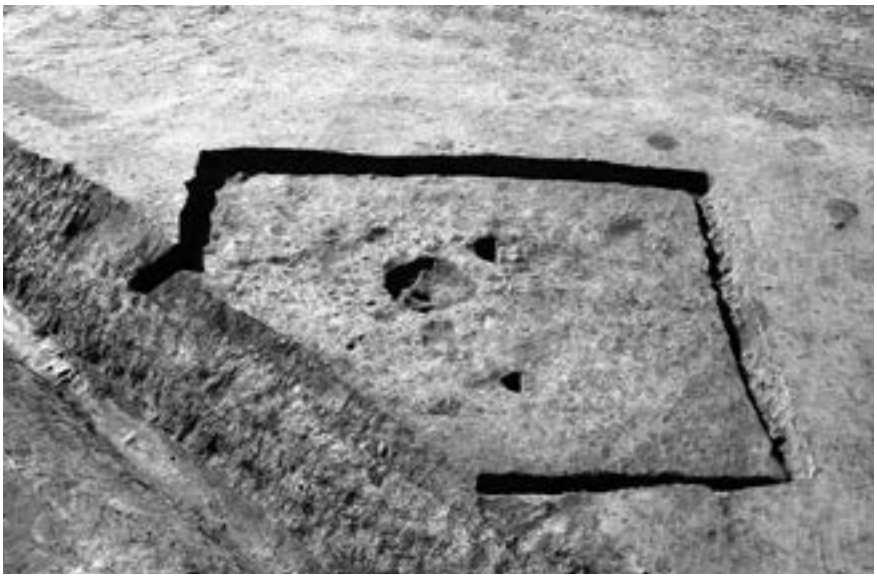
第2843号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第2844号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2847号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2848号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第2849号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2850号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

第2850号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2853号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第2853号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2854号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2854号竪穴建物跡
竈　完　掘　状　況

第2855号竪穴建物跡
遺　物　出　土　状　況

第2855号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第2855号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2857号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第2857号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2858号竪穴建物跡
遺物出土状況

第2858号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第2858号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第2859号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

第2859号竪穴建物跡
完　掘　状　況

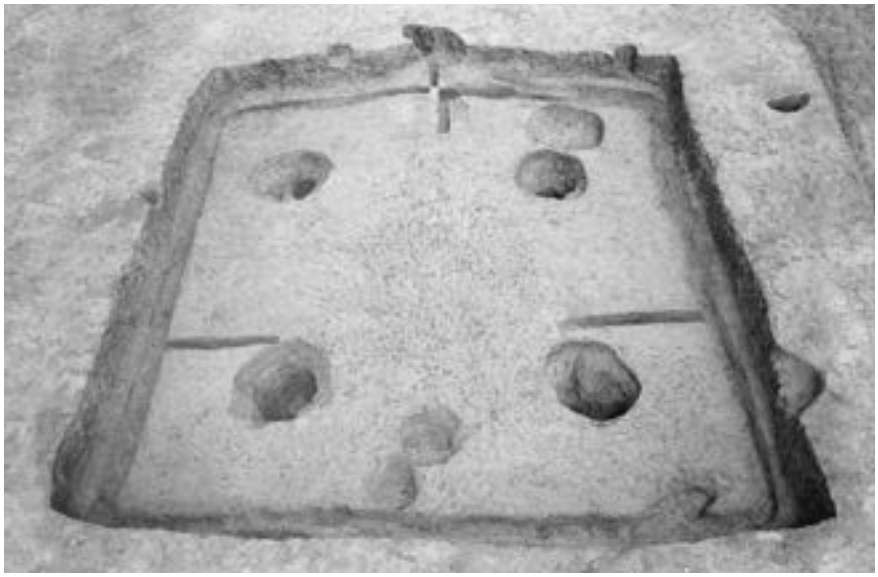
第2860号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第3173号竪穴建物跡
遺物出土状況

第3174号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第3174号竪穴建物跡
完　掘　状　況

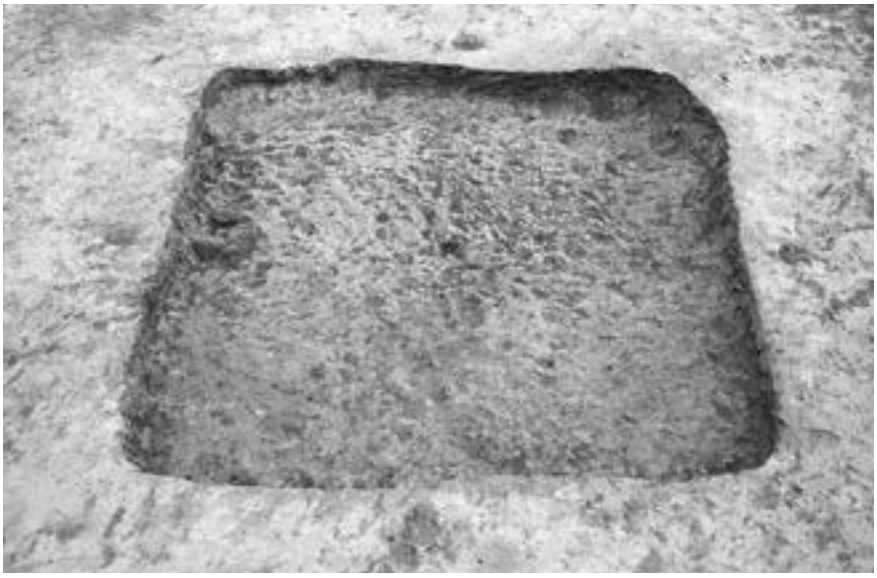
第3175号竪穴建物跡
完　掘　状　況



第3176号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第596号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

第８号竪穴遺構
遺物出土状況

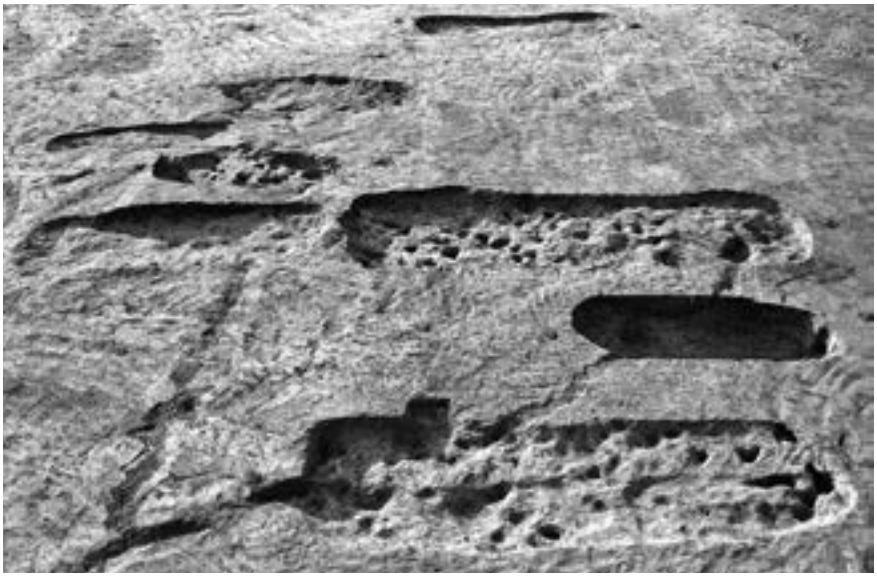


第８号竪穴遺構
完　掘　状　況

第９号竪穴遺構
遺物出土状況

第89号方形竪穴遺構
完掘状況

第81号地下式坑
完掘状況



第5307・5311～5317号
土　　坑
完　掘　状　況

第 31 号 道 路 跡
完　掘　状　況

第220・322号溝跡
完　掘　状　況

第 323 号　溝　跡
完掘状況（平成25年度）

第 220 号　溝　跡
完掘状況（平成17年度）

第510号掘立柱建物跡
完　掘　状　況

SI 2320-3

SI 2830-20

SI 2320-2

SI 2830-19

SI 2320-1

SI 2831-23

SI 2322-13

SI 2831-22

SI 2320-5

SI 2832-28

SI 2832-27

出土土器 (1)

SI 2833-35

SI 2835-49

SI 2835-46

SI 2835-48

SI 2835-45

SI 2835-47

SI 2835-43

SI 2835-55

SI 2832-26

出土土器 (2)

SI 2835-54

SI 2835-56

SI 2835-69

SI 2835-65

SI 2835-67

出土土器 (3)

SI 2837-72

SI 2839-86

SI 2838-75

SI 2838-78

SI 2838-74

SI 2838-84

SI 2838-83

SI 2838-79

SI 2835-62

出土土器 (4)

SI 2840-90

SI 2846-113

SI 2840-89

SI 2846-112

SI 2841-94

SI 2846-111

SI 2846-108

SI 2846-109

SI 2838-82

SI 2846-115

出土土器 (5)

SI 2849-125

SI 2850-133

SI 2847-117

SI 2841-95

SI 2849-128

SI 2849-126

SI 2849-129

出土土器 (6)

SI 2853-143

SI 2855-166

SI 2854-153

SI 2855-165

SI 2853-147

SI 2855-164

SI 2855-163

SI 2853-148

SI 2855-158

SI 2855-157

出土土器 (7)

SI 2855-175

SI 2855-171

SI 2855-174

SI 2855-170

SI 2855-173

SI 2855-178

出土土器 (8)

SI 2856-181

SI 2857-185

SI 2858-189

SI 3173-206

SI 2860-205

SI 2859-197

SI 2859-196

SI 2859-195

SI 3174-214

SI 3174-213

SI 3173-208

出土土器 (9)

SI 3174-222

SI 3174-223

SI 3174-219

SI 3174-230

SI 3174-215

第８号竪穴遺構-241

第８号竪穴遺構-240

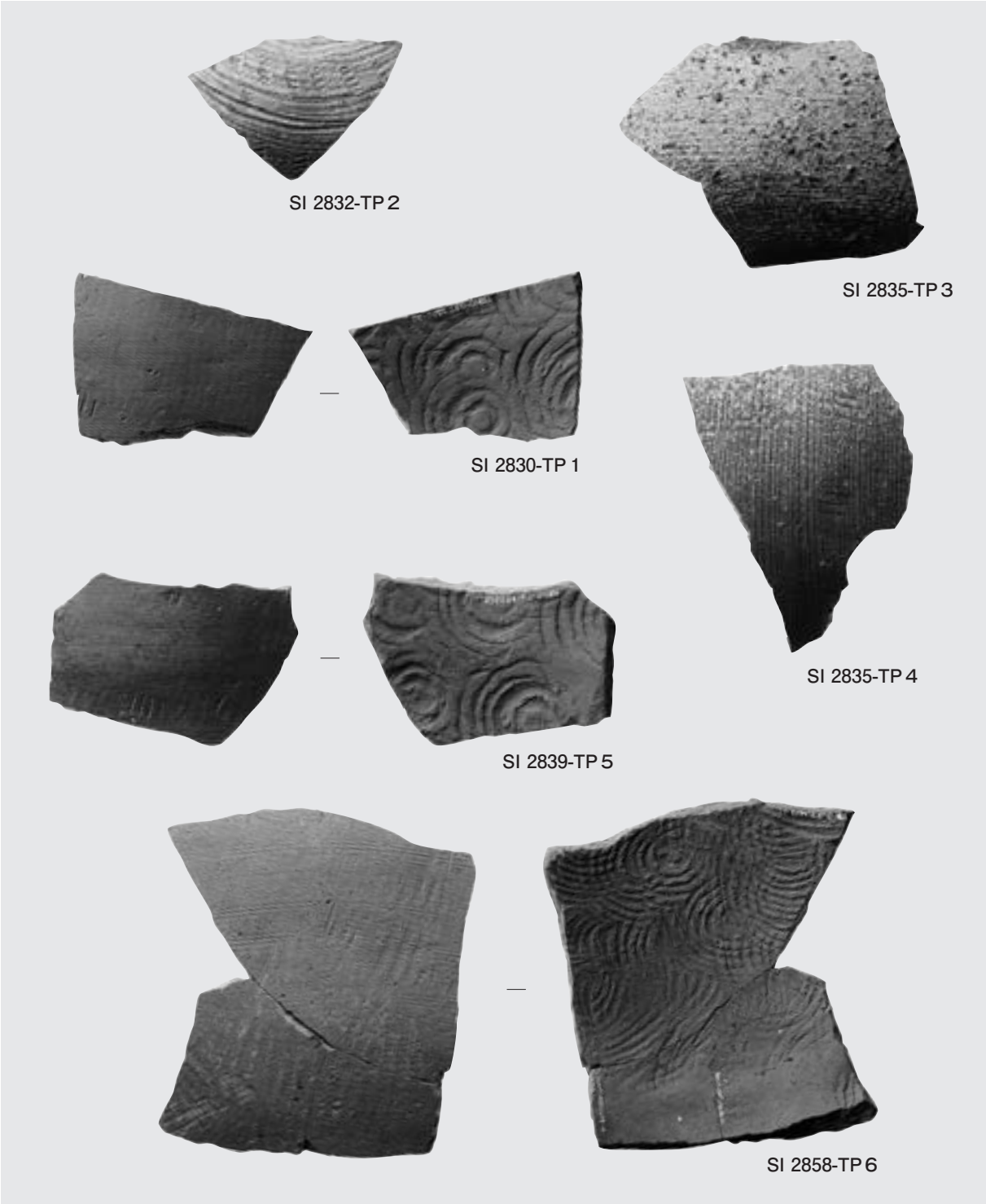
SI 3174-229

SI 3174-224

出土土器 (10)

UP81-248

遺構外-259


SI 2832-TP 2

SI 2835-TP 3

SI 2830-TP 1

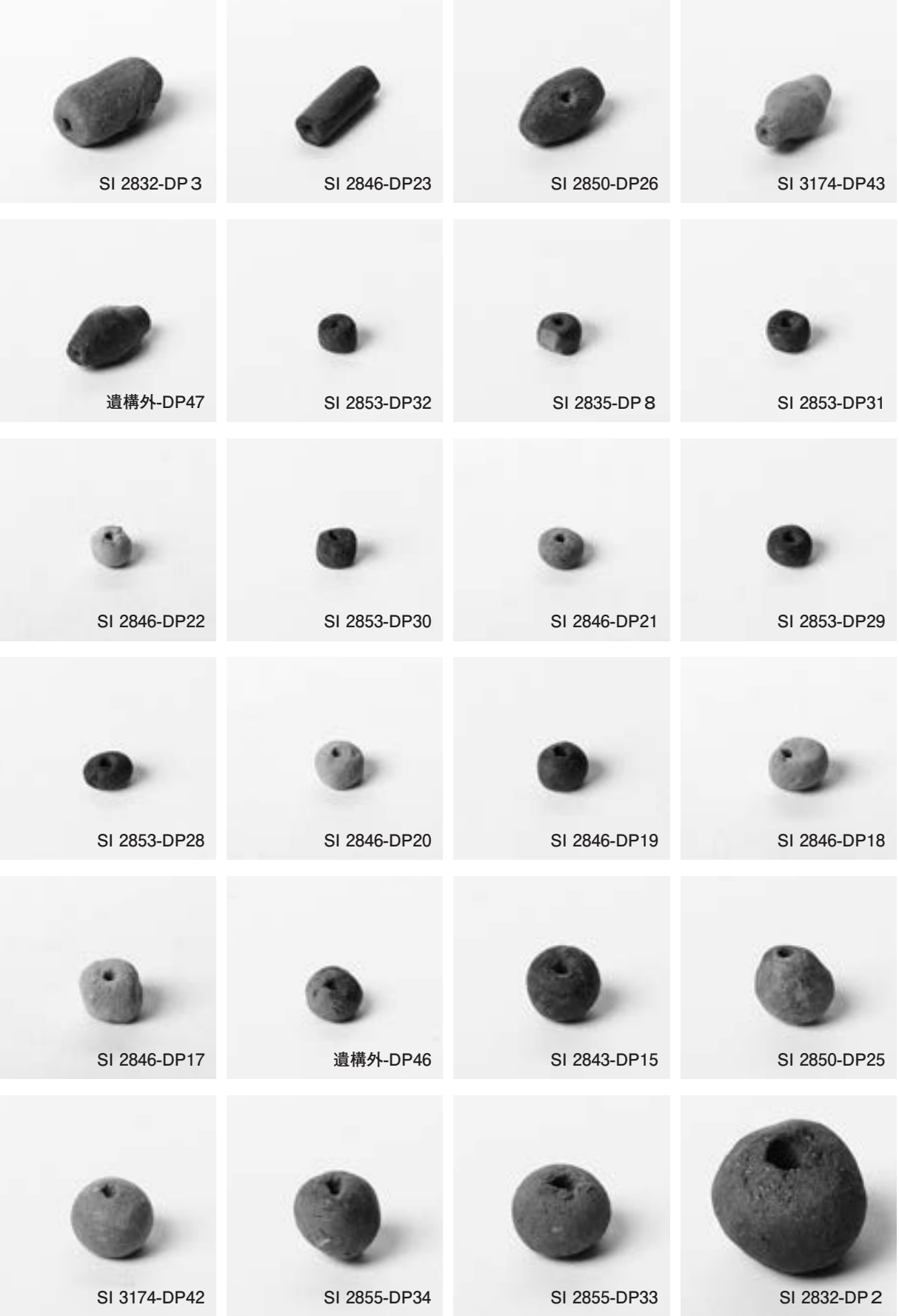
SI 2835-TP 4

SI 2839-TP 5

SI 2858-TP 6

出土土器 (11)

PL34


SI 2832-DP３
SI 2846-DP23
SI 2850-DP26
SI 3174-DP43
遺構外-DP47
SI 2853-DP32
SI 2835-DP８
SI 2853-DP31
SI 2846-DP22
SI 2853-DP30
SI 2846-DP21
SI 2853-DP29
SI 2853-DP28
SI 2846-DP20
SI 2846-DP19
SI 2846-DP18
SI 2846-DP17
遺構外-DP46
SI 2843-DP15
SI 2850-DP25
SI 3174-DP42
SI 2855-DP34
SI 2855-DP33
SI 2832-DP２

出土土製品（1）

SI 2835-DP 5

SI 2835-DP 6

SI 2835-DP 7

SI 2838-DP11

SI 2851-DP27

SI 2856-DP37

SI 2835-DP 9

SI 2835-DP10

SI 3175-DP44

SI 2855-DP36

SI 3173-DP41

SI 2859-DP39

出土土製品 (2)

SI 2832-DP 4

SI 2840-DP13

第８号竪穴遺構-DP45

SI 3173-DP40

SI 2847-DP24

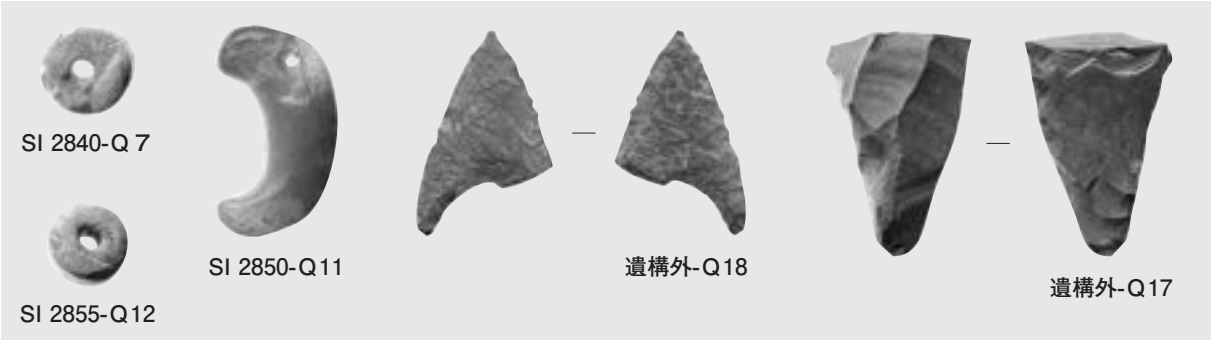
SI 2321-DP 1

SI 2858-DP38

SI 2844-DP16

SI 2855-DP35

出土土製品 (3)



SI 2860-Q15

SI 2835-Q５

SI 2832-Q４

SI 2858-Q13

SI 2832-Q３

SI 2859-Q14

SI 2842-Q８

SI 2846-Q９

SI 2832-Q２

遺構外-Q19

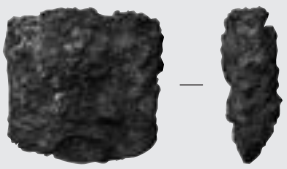
SI 2320-Q１

SD323-Q16

SI 2849-Q10

出土石器・石製品

SI 2833-M 2



SI 2854-M 9

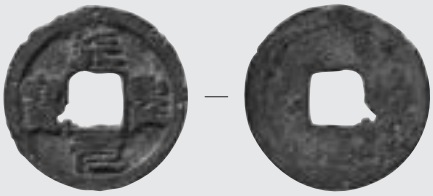
SI 2850-M 7

SI 2853-M 8

SI 2846-M 6

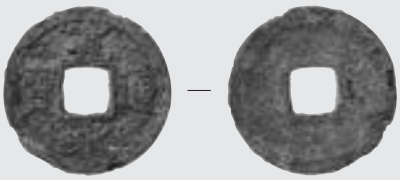
SI 2832-M 1

SI 2836-M 3

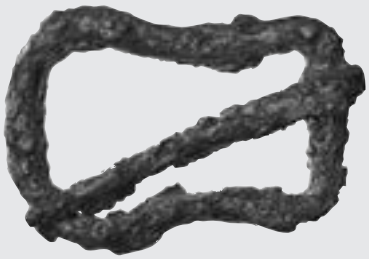


SH89-M10

遺構外-M14



遺構外-M15



SI 2838-M 4

出土鉄製品，銭貨

抄　　録

ふりがな	しまなくまのやまいせき
書　　名	島名熊の山遺跡
副 書 名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XX
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第389集
著 者 名	小林和彦　近江屋成陽
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団
所 在 地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　ＴＥＬ 029－225－6587
発 行 日	2014（平成26）年3月12日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名熊の山遺跡 (平成17年度15区)	茨城県つくば市 島名字本田1162 番地の1ほか	08220 － 214	36度 3分 45秒 (36度 3分 56秒)	140度 3分 35秒 (140度 3分 23秒)	21 ～ 22 m	20050901 ～ 20051231	4,522 ㎡	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査
島名熊の山遺跡 (平成25年度15区)	茨城県つくば市 島名字中台1173 番地	08220 － 214	36度 3分 43秒 (36度 3分 55秒)	140度 3分 37秒 (140度 3分 26秒)	21 ～ 22 m	20130401 ～ 20130531	409 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島名熊の山遺跡	集落跡	古墳	竪穴建物跡　39棟 掘立柱建物跡　1棟 竪穴遺構　3基	土師器，須恵器，土製品（勾玉・土玉・紡錘車・支脚），石器・石製品（砥石・臼玉・紡錘車），鉄器・鉄製品（刀子・鏃・鎌・斧・鉸具・責金具）	
		室町	方形竪穴遺構　1基 地下式坑　1基 土坑　12基 道路跡　1条 溝跡　6条	土師質土器（小皿・内耳鍋・擂鉢），陶器（碗・皿・急須蓋・鉢・甕），銅製品（銭貨）	
		不明	掘立柱建物跡　1棟 井戸跡　1基 土坑　43基 ピット群　1か所	土師器片，須恵器片，土師質土器片，石器（砥石），鉄製品（鎌），銅製品（銭貨）	

要　　約

過去の調査結果を含めると，古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡2386棟，掘立柱建物跡380棟が確認されている県内最大級の集落跡である。今回報告の調査区は，遺跡中央部から西部にかけての台地上で，古墳時代後期の集落跡のほか，室町時代の方形竪穴遺構・地下式坑・道路跡・区画溝等を確認した。

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows ７ Professional
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS6
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	6×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類　EPSON ES－G11000
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第389集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XX

平成26（2014）年　3月10日　印刷
平成26（2014）年　3月12日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社高野高速印刷
〒310－0853　水戸市平須町1822－122
TEL　029－305－5588

付図１　島名熊の山遺跡遺構全体図『茨城県教育財団文化財調査報告』第389集

付図２　島名熊の山遺跡 15 区遺構全体図『茨城県教育財団文化財調査報告』第 389 集